沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書　第22集

後兼久原遺跡

－米軍送油管移設に係る緊急発掘調査報告書－

2004年（平成16）３月

沖縄県立埋蔵文化財センター

序

今回報告します『後兼久原遺跡－米軍送油管移設に係る緊急発掘調査－』は、平成12年度から平成13年度の２ヶ年間にまたがって実施した発掘調査の成果をまとめたものです。

この調査は、平成14年３月のキャンプ桑江北側地区返還計画に伴なって、米軍送油管（パイプ・ライン）を移設することとなったことに端を発します。当該地域は周知の埋蔵文化財である後兼久原遺跡が存在し早急な対応が必要であったため、沖縄県教育委員会文化課が那覇防衛施設局から委託を受け、沖縄県立埋蔵文化財センターが調査を実施したものであります。

今回の調査では、平地住居跡や高床倉庫跡と考えられるピット群、整然と列をなす植栽痕と考えられる畑跡や川跡等が検出されました。このような遺構に伴って、グスク時代初期に九州から搬入されたと考えられている滑石製石鍋の転用品や、それを模倣したと言われているグスク土器、徳之島で焼かれたカムィヤキ、中国産陶磁器等の多様な遺物が出土しました。これにより本遺跡が12世紀頃から15世紀頃と長期間にわたって営まれた集落跡であることが判明しました。

また、当該遺跡は別の場所を平成８年度に北谷町教育委員会が発掘調査を実施しており、平地住居跡や高床倉庫跡、埋葬遺構、鍛冶関連遺構等が検出され、多大な成果をあげた遺跡としてすでに知られています。今回の発掘調査の成果はさらにそれを補強するものとなったと考えられます。

本報告書が、グスク時代初期から15世紀にかけての集落の様子を知る資料として、さらに、琉球・沖縄の歴史と文化の諸相と歩みを調べる手掛かりとして、広く県民をはじめ内外の人々に有効に活用されることを期待します。さらに、本書を通して、文化財の保護と活用についても関心を深めていただければ幸いです。

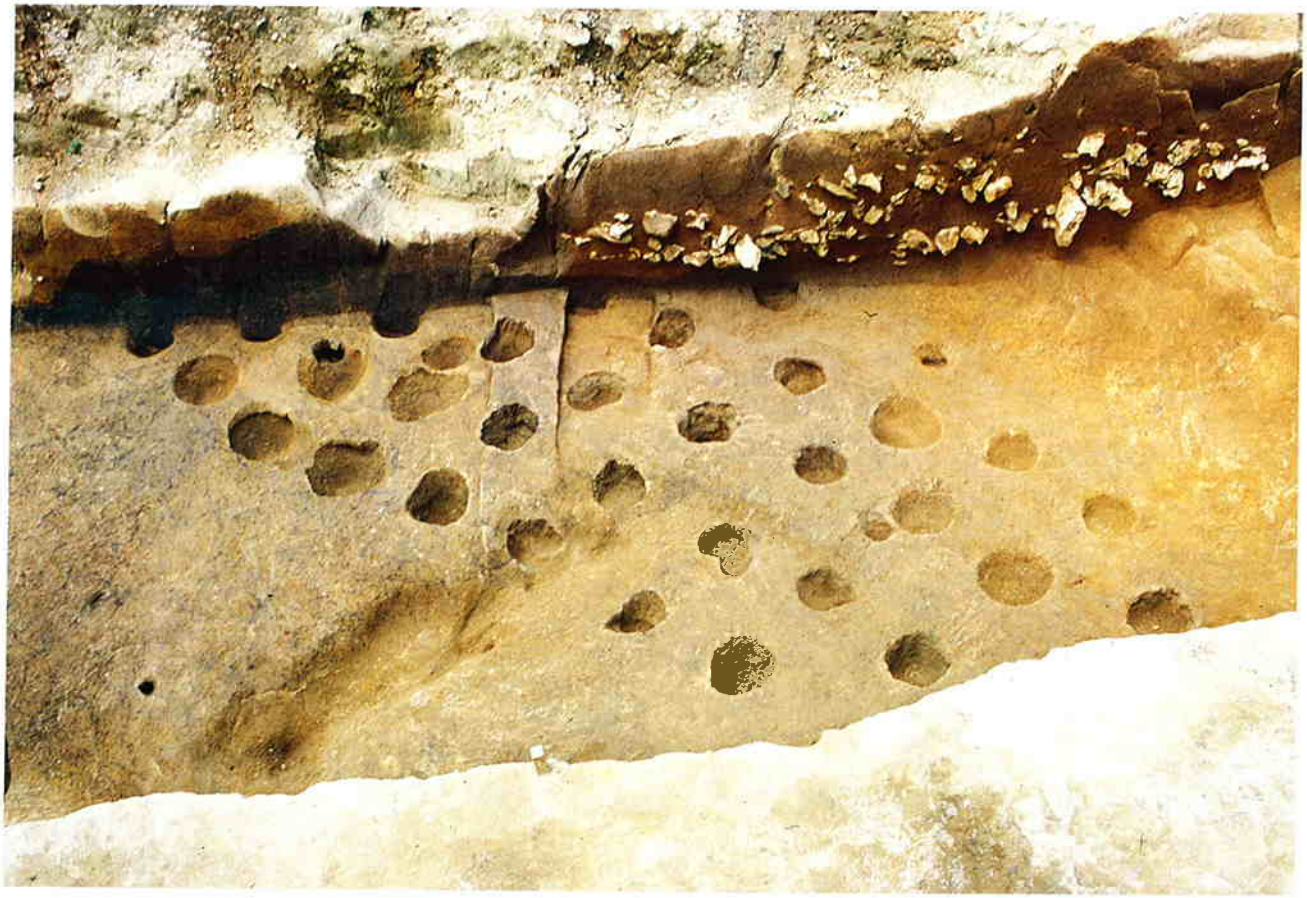
末尾になりましたが、発掘調査から資料整理を経て報告書の刊行に至る間、専門的事項についてご指導・ご助言を賜りました諸先生方、ならびに事業の実施にあたりご協力を賜りました関係各位に深く敬意を表するとともに、厚く御礼申し上げます。

2004年（平成16）３月

沖縄県立埋蔵文化財センター
所長　　安　里　嗣　淳

巻頭図版１　後兼久原遺跡全景（上空より）

巻頭図版２　上：後兼久原遺跡遠景　下：Ｉ地区ピット検出状況



巻頭図版３　上：Ⅰ地区列状ピット群完掘状況　下：Ⅱ地区C－27～32ピット群完掘状況

白磁

土器

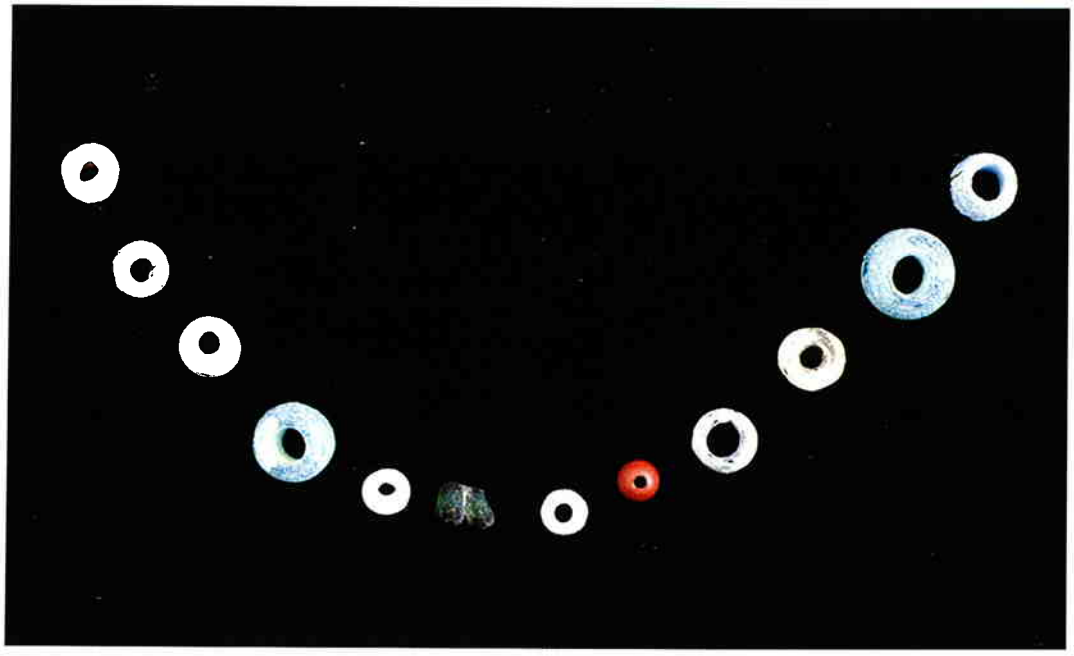
巻頭図版４　出土遺物１

滑石製品

カムィヤキ

巻頭図版５　出土遺物２

本土産陶器



玉

骨製品

巻頭図版６　出土遺物３

目　　次

序
巻頭図版
例　　言
報告書抄録

第１章　調査に至る経緯……1
　第１節　調査に至る経緯……1
　第２節　調査体制……1
　第３節　調査経過……2

第２章　位置と環境……4
　第１節　地理的環境……4
　第２節　歴史的環境……4

第３章　層序と遺構……9
　第１節　Ⅰ地区……9
　第２節　Ⅱ地区……26
　第３節　Ⅲ地区……30

第４章　出土遺物……55
　第１節　青磁……65
　第２節　白磁……85
　第３節　染付……92
　第４節　青磁染付……94
　第５節　天目……94
　第６節　褐釉陶器……94
　第７節　本土産陶器……96
　第８節　土器……97
　第９節　カムィヤキ……114
　第10節　石器・石製品……122
　第11節　滑石製品・転用品……126
　第12節　玉……128
　第13節　銭貨……129
　第14節　鉄製品……131
　第15節　骨製品……132
　第16節　貝類……133
　第17節　脊椎動物遺体……139

第５章　人骨……194

第６章　結語……196

挿　図　目　次

第１図　沖縄本島の位置…… 5
第２図　北谷町内の遺跡分布…… 6
第３図　後兼久原遺跡の位置…… 7
第４図　調査範囲とグリッド設定…… 8
第５図　Ⅰ地区セクション…… 13
第６図　Ⅰ地区セクション２…… 15
第７図　Ⅰ地区セクション３…… 17
第８図　Ⅰ地区セクション４…… 19
第９図　第１検出面土坑遺構（３ｂ層）…… 20
第10図　第２検出面検出状況１…… 20
第11図　列状ピット群（第２検出面検出状況２）…… 21
第12図　第３検出面ピット検出状況(13・14・15層)及び第13層ピット断面…… 23
第13図　第14層・15層ピット断面…… 25
第14図　Ⅱ地区セクション１…… 31
第15図　Ⅱ地区セクション２…… 33
第16図　Ⅱ地区セクション３…… 35
第17図　Ⅱ地区セクション４…… 37
第18図　Ⅱ地区セクション５…… 39
第19図　第１検出面検出状況（平面・断面）…… 41
第20図　第２検出面検出状況（平面）及び炉跡断面…… 43
第21図　第２検出面ピット断面…… 44
第22図　第３検出面検出状況（平面１）…… 45
第23図　第３検出面検出状況（平面２・断面１）…… 47
第24図　第３検出面検出状況（断面２）…… 49
第25図　第３検出面検出状況（断面３）…… 50
第26図　第３検出面検出状況（断面４）…… 51
第27図　第３検出面検出状況（断面５）…… 52
第28図　第３検出面検出状況（断面６）…… 53
第29図　第３検出面検出状況（断面７）…… 54
第30図　Ⅰ地区検出面別出土遺物…… 56
第31図　Ⅱ地区検出面別出土遺物１…… 59
第32図　Ⅱ地区検出面別出土遺物２…… 61
第33図　Ⅱ地区検出面別出土遺物３…… 63
第34図　青磁１…… 76
第35図　青磁２…… 77
第36図　青磁３…… 78
第37図　青磁４…… 79
第38図　青磁５…… 80
第39図　青磁６…… 81
第40図　青磁７…… 82
第41図　青磁８…… 83
第42図　青磁９…… 84
第43図　白磁１…… 90
第44図　白磁２…… 91
第45図　染付…… 93
第46図　青磁染付…… 94
第47図　天目…… 94
第48図　本土産陶器…… 96
第49図　褐釉陶器…… 97
第50図　土器１…… 104
第51図　土器２…… 105
第52図　土器３…… 106
第53図　土器４…… 107
第54図　カムィヤキ１…… 119
第55図　カムィヤキ２…… 120
第56図　カムィヤキ３…… 121
第57図　石器１…… 124
第58図　石器２…… 125
第59図　滑石製品・転用品…… 127
第60図　玉…… 128
第61図　銭貨…… 130
第62図　鉄製品…… 132
第63図　骨製品…… 132

図　版　目　次

巻頭図版１　後兼久原遺跡全景（上空より）
巻頭図版２　上：後兼久原遺跡遠景
　　下：Ⅰ地区ピット検出状況
巻頭図版３　上：Ⅰ地区列状ピット群完掘状況
　　下：Ⅱ地区Ｃ－27～32ピット群
　　完掘状況
巻頭図版４　出土遺物１
巻頭図版５　出土遺物２
巻頭図版６　出土遺物３

図版１　調査状況１…… 147
図版２　調査状況２…… 148
図版３　調査状況３…… 149
図版４　調査状況４…… 150
図版５　調査状況５…… 151
図版６　調査状況６…… 152
図版７　調査状況７…… 153
図版８　調査状況８…… 154
図版９　調査状況９…… 155
図版10　調査状況10 …… 156
図版11　調査状況11 …… 157
図版12　調査状況12 …… 158
図版13　調査状況13 …… 159
図版14　調査状況14 …… 160
図版15　調査状況15 …… 161
図版16　調査状況16 …… 162
図版17　青磁１……163
図版18　青磁２……164
図版19　青磁３……165
図版20　青磁４……166
図版21　青磁５……167
図版22　青磁６……168
図版23　青磁７……169
図版24　青磁８……170
図版25　青磁９……171
図版26　白磁１……172
図版27　白磁２……173
図版28　上：染付　下：褐釉陶器……174
図版29　青磁染付…… 94
図版30　天目…… 94
図版31　本土産陶器…… 96
図版32　土器１……175
図版33　土器２……176
図版34　土器３……177
図版35　土器４……178
図版36　カムィヤキ１……179
図版37　カムィヤキ２……180
図版38　カムィヤキ３……181
図版39　石器１……182
図版40　石器２・石製品……183
図版41　滑石製品・転用品……184
図版42　玉……128
図版43　銭貨……185
図版44　鉄製品……132
図版45　骨製品……132
図版46　貝類１……186
図版47　貝類２……187
図版48　貝類３……188
図版49　脊椎動物遺体１……189
図版50　脊椎動物遺体２……190
図版51　脊椎動物遺体３……191
図版52　脊椎動物遺体４……192
図版53　脊椎動物遺体５……193
図版54　人骨……195

挿 表 目 次

第１表　青磁出土状況（Ⅰ地区）…… 67
第２表　青磁出土状況（Ⅱ地区）…… 68
第３表　青磁出土状況（Ⅲ地区）…… 67
第４表　青磁観察一覧…… 71
第５表　白磁出土状況（Ⅰ地区）…… 86
第６表　白磁出土状況（Ⅱ地区）…… 87
第７表　白磁出土状況（Ⅲ地区・地区不明）…… 86
第８表　白磁観察一覧…… 88
第９表　染付出土状況（Ⅰ地区）…… 92
第10表　染付出土状況（Ⅱ地区）…… 92
第11表　染付出土一覧（Ⅲ地区）…… 92
第12表　染付観察一覧 …… 93
第13表　褐釉陶器出土状況（Ⅰ地区）…… 95
第14表　褐釉陶器出土状況（Ⅱ地区）…… 95
第15表　褐釉陶器出土一覧（Ⅲ地区）…… 94
第16表　褐釉陶器観察一覧…… 96
第17表　土器観察一覧……100
第18表　土器出土状況（Ⅰ地区）……108
第19表　土器出土状況（Ⅱ地区）……111
第20表　土器出土状況（Ⅲ地区・地区不明）…103
第21表　カムィヤキ出土状況（Ⅰ地区）……116
第22表　カムィヤキ出土状況（Ⅱ地区）……115
第23表　カムィヤキ出土状況（Ⅲ地区・地区不明）
……115
第24表　カムィヤキ観察一覧……117
第25表　石器・石製品出土状況（Ⅰ地区）……123
第26表　石器・石製品出土状況（Ⅱ地区）……123
第27表　石器・石製品出土一覧（Ⅲ地区）……123
第28表　石器・石製品観察一覧……123
第29表　滑石製品出土状況（Ⅰ地区）……126
第30表　滑石製品出土状況（Ⅱ地区）……126
第31表　玉出土状況（Ⅱ地区）……128
第32表　玉観察一覧……128
第33表　銭貨出土一覧（Ⅰ地区）……129
第34表　銭貨出土状況（Ⅱ地区）……129
第35表　銭貨出土一覧（Ⅲ地区・地区不明）…129
第36表　銭貨観察一覧……129
第37表　鉄製品出土一覧（Ⅰ地区）……131
第38表　鉄製品出土状況（Ⅱ地区）……131
第39表　鉄製品出土一覧（Ⅲ地区）……131
第40表　貝類出土状況（巻貝）……133
第41表　貝類出土状況（二枚貝）……137
第42表　魚骨出土一覧（Ⅰ地区）……142
第43表　ウマ出土一覧（Ⅰ地区）……142
第44表　ブタ出土一覧（Ⅰ地区）……142
第45表　ウシ歯出土一覧（Ⅰ地区）……142
第46表　ウシ出土一覧（Ⅰ地区）……142
第47表　メジロザメ出土一覧（Ⅱ地区）……142
第48表　魚骨出土一覧（Ⅱ地区）……142
第49表　トリ出土一覧（Ⅱ地区）……143
第50表　ネズミ出土一覧（Ⅱ地区）……143
第51表　イヌ出土一覧（Ⅱ地区）……143
第52表　ネコ出土一覧（Ⅱ地区）……143
第53表　ウマ出土一覧（Ⅱ地区）……143
第54表　ブタ出土一覧（Ⅱ地区）……143
第55表　ヤギ出土一覧（Ⅱ地区）……143
第56表　イノシシ出土一覧（Ⅱ地区）……143
第57表　イノシシ・ブタ出土一覧（Ⅱ地区）…143
第58表　ウシ歯出土一覧（Ⅱ地区）……143
第59表　ウシ出土状況（Ⅱ地区）……144
第60表　ウシ・ウマ出土一覧（Ⅱ地区）……143
第61表　ニワトリ出土一覧（Ⅲ地区）……144
第62表　ウマ出土一覧（Ⅲ地区）……144
第63表　イノシシ出土一覧（Ⅲ地区）……144
第64表　ウシ出土一覧（Ⅲ地区）……144
第65表　ウシ計測一覧（Ⅱ地区）……144
第66表　後兼久原遺跡出土人骨……194

例　　言

1　本報告書は、那覇防衛施設局からの受託事業として、平成12年度～平成13年度にかけて沖縄県立埋蔵文化財センターが実施した後兼久原遺跡の送油管移設に伴う緊急発掘調査の成果を、平成15年度にまとめたものである。

2　本報告書で使用した地図の一部は那覇防衛施設局及び北谷町教育委員会から提供していただいた。

3　出土遺物鑑定、調査協力は次の皆様によるものであります（職名等は当時）。記して深謝いたします。

陶磁器鑑定　・・・・・家田　淳一（佐賀県立九州陶磁文化館）
〃　・・・・・吉岡　康暢（国立歴史民俗博物館名誉教授）
動物遺体鑑定　・・・・金子　浩昌（東京国立博物館特別研究員）
貝類遺体鑑定　・・・・名和　　純（潟の生態史研究会）
人骨調査　・・・・・・土肥　直美（琉球大学医学部助教授）

4　本報告書は片桐千亜紀を中心として編集し、又吉純子ほかが携わった。各節の執筆は次のとおりである。

片桐千亜紀　・・・第１章第２節、第２章、第４章第１節・第３～７節
中山　　晋　・・・第１章第１・３節
崎原　恒寿　・・・第４章第２節・第８～10節
天久　朝海　・・・第３章、第４章第11節、第６章
久貝　弥嗣　・・・第４章第12～15節
金子　浩昌　・・・第４章第17節
土肥　直美　・・・第５章

5　第４章第15節は金子浩昌先生より、第５章は土肥直美先生より玉稿を賜った。記して感謝申し上げます。

6　本書に掲載された出土遺物の撮影及び現像・焼付は光嶋香・後藤典子が行った。

7　貝類は県立埋蔵文化財センター保管のサンプルを照合した。

8　発掘調査で出土した遺物及び実測図・写真等の記録は、沖縄県立埋蔵文化財センターにおいて保管している。

9　引用・参考文献は末尾に一括して記載した。

報 告 書 抄 録

ふりがな	くしかねくばるいせき
書名	後兼久原遺跡
副書名	米軍送油管移設に伴う緊急発掘調査
巻次	―
シリーズ名	沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第22集
編著者名	片桐千亜紀、天久朝海、崎原恒寿、久貝弥嗣、中山晋、土肥直美、金子浩昌
発行機関	沖縄県立埋蔵文化財センター
所在地	〒903-0125　沖縄県中頭郡西原町字上原193番地の7
発行年月日	2004年3月26日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
後兼久原遺跡（くしかねくばるいせき）	沖縄県（おきなわけん）　北谷町（ちゃたんちょう） 字桑江後兼久原（あざくわえくしかねくばる） 225番地（ばんち）ほか	47326 北谷町		29° 19′ 0″	129° 45′ 60″	2000.1.12 ～ 2001.2.25	1080㎡	送油管移設

所収遺跡名	種類	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
後兼久原遺跡	集落	グスク時代	掘立柱住居跡 高床倉庫跡 炉跡 植栽痕 溝状遺構 土坑	青磁、白磁、染付、青磁染付、天目、褐釉陶器、本土産陶器、土器、カムィヤキ、石器、滑石製品・転用品、玉、銭貨、鉄製品、骨製品、貝類、脊椎動物遺体、人骨	

第１章　調査に至る経緯

第１節　調査に至る経緯

平成11年8月12日、那覇防衛施設局は、キャンプ桑江北側地区返還に伴う建設工事に先だち、キャンプ瑞慶覧ほか3施設における埋蔵文化財の有無について北谷町教育委員会に照会した。これを受け、北谷町教育委員会は平成11年8月と平成12年2月に試掘調査を実施した。平成11年8月の試掘調査において、送油管建設箇所に17基の古墓群（大作原古墓群）が発見された。平成12年2月の試掘調査では送油管移設及びそれに伴う管理用道路建設箇所に周知の埋蔵文化財である後兼久原遺跡が存在することが改めて確認された。

キャンプ桑江の北側地区返還へ向けて早急な対応が必要であったため、遺跡の取り扱いについて那覇防衛施設局、北谷町、及び県の3者で調整した結果、北谷町教育委員会と県が互いに協力し、大作原古墓群は北谷町教育委員会が、後兼久原遺跡は沖縄県立埋蔵文化財センターが実施することとなった。

第２節　調査体制

発掘調査および資料整理に係る業務は、平成12年度～平成13年度・15年度にかけて沖縄県立埋蔵文化財センターが実施した。調査体制は次のとおりである。

調査主体者
　沖縄県教育委員会（平成12年度～平成13年度・平成15年度）
　　教育長　　翁長　良盛（平成12年度）
　　〃　　津嘉山朝祥（平成13年度）
　　〃　　山内　　彰（平成15年度）
調査所管
　沖縄県立埋蔵文化財センター（平成12年度～平成13年度・平成15年度）
　　所　長　　知念　　勇（平成12年度～平成13年度）
　　〃　　安里　嗣淳（平成15年度）
　　副所長　　知念　廣義（平成12年度～平成13年度）
　　〃　　安冨祖英紀（平成15年度）
調査事務
　沖縄県立埋蔵文化財センター（平成12年度～平成13年度・平成15年度）
　　庶務課長　　知念　廣義（平成12年度～平成13年度）
　　〃　　安冨祖英紀（平成15年度）
調査総括
　沖縄県立埋蔵文化財センター（平成12年度～平成13年度・平成15年度）
　　調査課長　　島袋　洋（平成12年度～平成13年度）
　　盛本　勲（平成15年度）
調査担当
　沖縄県立埋蔵文化財センター（平成12年度～平成13年度・平成15年度）
　　指導主事　　鶴元　寿充（平成12年度）
　　専門員　　中山　　晋（平成12年度～平成13年度）
　　〃　　森田　直哉（平成13年度）
　　〃　　喜多　亮輔（平成13年度）
　　〃　　片桐千亜紀（平成15年度）
　　調査補助員　嘱託員　　天久　朝海（平成13年度）
　　〃　　〃　　増　　泰隆（平成13年度）
　　〃　　〃　　田里　一寿（平成13年度）
　　〃　　〃　　仲間　留美（平成13年度）
　　〃　　〃　　伊集ゆきの（平成13年度）

〃　　〃　　岸本　竹美（平成13年度）
〃　　〃　　又吉　純子（平成13年度）
〃　　〃　　地主園　亮（平成13年度）
〃　　〃　　吉川　由紀（平成13年度）
〃　　〃　　知念　政樹（平成13年度）

調査作業員

平成12年度

新垣良子、新崎盛輝、石原シゲ子、松本義光、上間チエ、儀間三枝子、金城京子、小浜信子、下地宏美、城間かおり、城間幸子、城間盛安、高江洲朝三、知念勝子、桃原隆信、徳里キミ子、吉岡育子、仲地トヨ子、真志喜千代子、塩部行宏、仲宗根健、新川睦、岩谷良久、照屋高之、金城麻紀、花城清哉、花田健治、知念将光、野甫あや子、山畑キミ

平成13年度

天久朝海、新崎盛輝、岩谷良久、儀間三枝子、金城京子、金城麻紀、下地宏美、城間かおり、城間盛安、知念勝子、徳里キミ子、仲宗根健、野甫あや子、花城清哉、山畑キミ、照屋高之、花田健治、知念将光、伊波静江、上間清美、小橋川恵子、呉屋光子、伊禮利香、久保田有美玉那覇綾乃、城間俊雄、友利盛徳、本村成子、友利美佐江、伊禮ヒロ子、与那城好子、金城順子宇根美智子、喜納米子、前田和枝、祖納元愁子、金城洋、富原一郎、安里昌明、城間明、外間朝健棚原潤也、宮良康圭、野國昌太、小坂祥範、上間寿、加島匡哉、野國昌雪、米須あさみ、上地正祥山田真也、知念良真、富山勇、喜納初子、新川菊江、真栄城千枝子、小波津ヨシ子、比嘉祥子川上益子、浦崎京子、大城輝子、島仲恵子、金城さとみ、安谷屋義永、屋嘉正行、仲宗根春美、赤嶺広毅、大江眞、石原シゲ子、上間チエ、小浜信子、城間幸子、仲地トヨ子、眞志喜千代子松本義光、嘉陽美弥子、友利久美子、城間正昌、呉屋史彦、城間圧司

資料整理作業員

平成12年度

池保子、荻堂美香

平成13年度

比嘉優子、又吉純子、崎原美智子、比嘉孝子、比嘉登美子、新垣利津代、我那覇悠子、大村由美子比嘉なおみ、上原園子、岡村綾子、外間瞳、城間千鶴子、照屋利子、仲宗根三枝子、大城勝江玉寄智恵子、国場のりえ、當山実、金武綾子、井上美里

報告書編集等協力者

又吉純子、崎原美智子、比嘉孝子、平良貴子、比嘉登美子、新垣利津代、我那覇悠子、大村由美子、金城敬子、上原美穂子、国場のりえ、久保田有美、荻堂さやか、譜久村泰子

調査や資料整理の実施にあたっては、調査の便宜や周辺の状況、地図の提供など北谷町教育委員会の中村愿氏、東門研治氏、山城安生氏から多大なご協力をいただいた。遺物の分類や整理などでは、琉球大学法文学部教授の池田榮史氏、当埋蔵文化財センターの新垣力氏に多大なご教授を賜った。また、基地内の調整等では在沖米軍環境保全課のエリック・ウィリアム氏、與那覇政之氏から便宜を図っていただいた。記して感謝申し上げます。

第３節　調査経過

本発掘調査の期間は平成12年度から平成13年度にまたがり、約13ヶ月間に及んだ。発掘調査を実施するにあたり、調査区を便宜的にⅠ～Ⅲ地区に分けた。平成12年度にはⅠ地区の作業工程の約６割程を終了し、平成13年度にはⅠ地区の作業工程の残りとⅡ地区、Ⅲ地区を終了させ、平成14年2月に現場における発掘調査を完了した。下記に年度別の調査経過を記す。

平成12年度

平成12年度は、事前に現場周辺の測量等を実施した後、平成13年1月から重機によるⅠ地区の表土掘削を行った。重機による掘削の表土掘削の際、地下埋設物、不発弾等の確認の為、1mごとに磁気探査を入れな

がらの作業となった。調査区は南西側の埋設された高圧線と北東側の排水路に挟まれた危険な範囲であったため、慎重に掘削を行った。掘削中、適宜平面、断面の確認をしながらグスク時代と思われる包含層まで掘り下げた。平成13年２月からは発掘調査作業員による発掘調査を開始し、同年3月までの２ヶ月間、わずか３ｍの幅で包含層の掘削を行った。発掘作業開始早々にＩ地区の南側で畑跡と思われる列状ピット群が検出された。

平成13年度

当初キャンプ桑江の北側地区返還は平成14年3月であった為、米側の協力（立入許可等）も得て4月から作業にとりかかった。平成12年度から引き続いて、包含層の掘削、遺構の検出等の作業を行ったが、雨のため思うように進まなかった。さらに追い討ちをかけるかのごとく、5月14日には台風１号が接近した。その後もたびたび大雨に襲われたが、Ｉ地区は調査区に沿って走る排水溝が大雨のたびに氾濫し、調査区を水没させた。調査担当者が雨合羽を羽織って濁流と化した排水溝を眺める光景も少なくはなかった。5月にはⅢ地区の重機による表土掘削を磁気探査と並行しながら進める。7月には、次の調査区であるⅡ地区に設置されていたフェンスの移設工事が那覇防衛施設局によって行われた。フェンス撤去箇所に火の神が隣接していることから、工事関係者、発掘調査関係者同席のもと、お払いが行われたが、撤去工事後しばらくして、地主の方が病気になったとの連絡が入る。原因は調査区に隣接しているフェンスの撤去工事や、発掘調査の際の残土を置いている箇所が悪いとのことで、残土を早急に移動。8月からはＩ地区の記録作業を進めながら、Ⅲ地区の発掘調査を開始した。8月前半にはＩ地区での作業を終え、Ⅲ地区に全作業力を投入したが、遺物の出土が極端に少なく、調査区全体を発掘する前に調査区のグリッドに沿ってトレンチを設定し、先に下層の状況を確認した。その結果、遺物は若干検出できるものの、明確な包含層や遺構が見つからなかった為、壁面の記録をとって11月頭にはⅢ地区における作業を終了した。それと前後して8月からはⅡ地区の表土掘削を開始、9月からはキャンプ瑞慶覧内の新城下原第2遺跡の発掘調査も開始した。そのようなあわただしい中、9月7日には台風第16号が上陸、沖縄近海でループを描いたあと9月11日には再接近し、それと重なるように米軍同時多発テロが発生した。同テロの影響で、全ての基地が厳戒体制に入ったが、1週間後の9月19日には発掘調査が再開された。発掘調査メンバーの安全確保の為、現場の周囲や、新聞等の報道には以前にもまして気を配った。台風第16号や、その後の大雨の影響で水没した現場の復旧作業には２週間以上の期間を費やしたが、10月半ばにはⅡ地区の表土掘削が終了し、Ⅲ地区での作業と並行して発掘調査を開始することができた。Ⅱ地区は北谷町の試掘調査の結果から文化層が2枚あると考えられていたため、調査には時間がかかることが予測されていた。平面を清掃した段階で包含層にピットが多量に検出されたため、調査は当初の予測通り困難を極めた。さらに、その後も天候には恵まれず、降雨によって現場がたびたび水没し、発掘作業も中断せざるをえない状況であった。Ⅱ地区は隣接する排水溝の崩壊の危険性が高かった為、Ｉ地区よりも狭い2.5ｍの幅で調査を行った。米軍の造成した土によってパックされていたため、Ｉ地区と同様遺構の保存状態はよかったが、調査区の幅が狭かった為、プランの確認は困難であった。そのため、遺構の検出・プラン確認の際には、Ｉ地区同様北谷町教育委員会の方々に来ていただいて様々な助言をいただいた。現場終了間際の2月26日には地主さんが「ここは先祖の通る道なので、今日中に埋め戻してくれ」との要望があったため、Ⅱ地区の北側を優先的に記録を取ったあと、発掘調査のために契約した業者の埋戻作業に追われるように南側へと実測作業を進めていった。2月は今までの天候が嘘であったかように晴れたため、雨で作業が中断する事もなく、2月25日、期間内に無事発掘調査を終了する事ができた。3月にはプレハブの撤去等の作業を行い、3月11日には現場におけるすべての業務を完了した。

第２章　位置と環境

第１節　地理的環境

後兼久原遺跡の在する北谷町は沖縄本島の中部に位置する。町の総面積は13.62ｋ㎡で、南北約６km、東西約4.3kmと長方形である。東側は標高100mの石灰岩台地で沖縄市に隣接し、北側は国頭礫層と隆起石灰岩が露胎する標高10～20mの微高地がつづき、嘉手納町へ至る。西側の海岸線は海生沖積土層からなる低地であり、洋上は東シナ海に面している。

遺跡は米軍基地キャンプ桑江内（キャンプ桑江北側半分は平成13年に返還された。）のほぼ中央の山手側に位置する。地番北谷町字桑江後兼久原と小掘原にあたる。範囲は北東の丘陵部が一段低くなった標高15mの南東側から標高４～５mの平坦部に至る、石灰岩台地が階段状に形成された洪積世層の切れ目から、沖積地層の平地に移行する場所とされる（1997年北谷町教育委員会）。

遺跡の南東側は標高30mの石灰岩台地となっており現在では新興住宅が拡がっている。南側は小さな切れ目があり、小川が流れていたと推測できる。遺跡の北西側にはナル川があり、米軍が工業用水として吸水するほどの水量をもつ水系が上流域に拡がっている。

今回発掘調査を実施した地域は北谷町庁舎の裏手丘陵側であり、丘陵と平坦部のほぼ境目にあたる。そのため、層序は傾斜をもっており丘陵側からの二次的堆積層や石灰岩盤も確認された。

第２節　歴史的環境

北谷町は西側沖積地を中心に多数の遺跡の存在が確認されている。先史時代の遺跡ではクマヤー洞穴を先駆けとして伊礼原Ｂ・Ｃ遺跡などがある。クマヤー洞穴は貝塚時代前期前半に位置づけられる条痕文土器かグスク時代に至る遺物が確認されており、特に宇座浜式期の改装人骨が多数検出されたことは注目される。伊礼原Ｂ・Ｃ遺跡は後兼久原遺跡北方の沖積低地に位置し、特に近年の伊礼原Ｃ遺跡の調査では爪形文土器をはじめ貝塚時代後期に至る多数の形式の土器が出土したことは記憶に新しい。

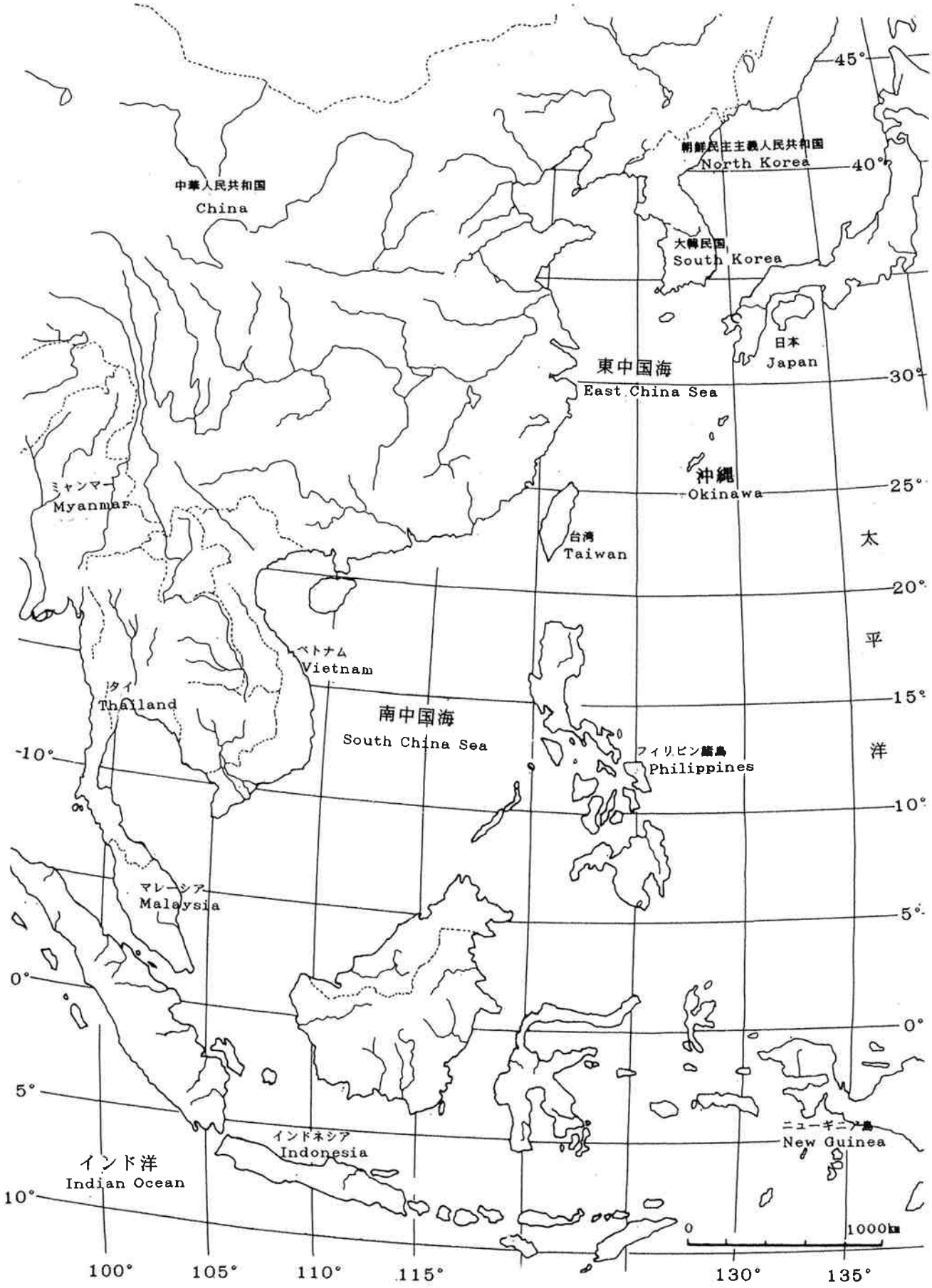
グスク時代初期からの遺跡である後兼久原遺跡は、北谷町教育委員会による北谷町庁舎建設に伴う緊急発掘調査によって性格が明らかとなった遺跡で、平地住居・高床式倉庫・畠・鍛冶操業の痕跡・埋蔵人骨などが検出され多大な成果を挙げている。

今回の埋蔵文化財センターによる発掘調査は北谷町庁舎の裏手丘陵側で、北谷町教育委員会が実施した調査区の南東側にあたり、さらに遺跡の性格を明らかにできたと考えられる。遺跡周辺はセジ高い地域として伝承が残っており、調査区の丘陵側脇には屋号メーマシの「火の神の祠」があり、現在も厚い信仰の対象となっている。今回の発掘調査でも御神酒を供え、安全な調査をと祈りを捧げた。

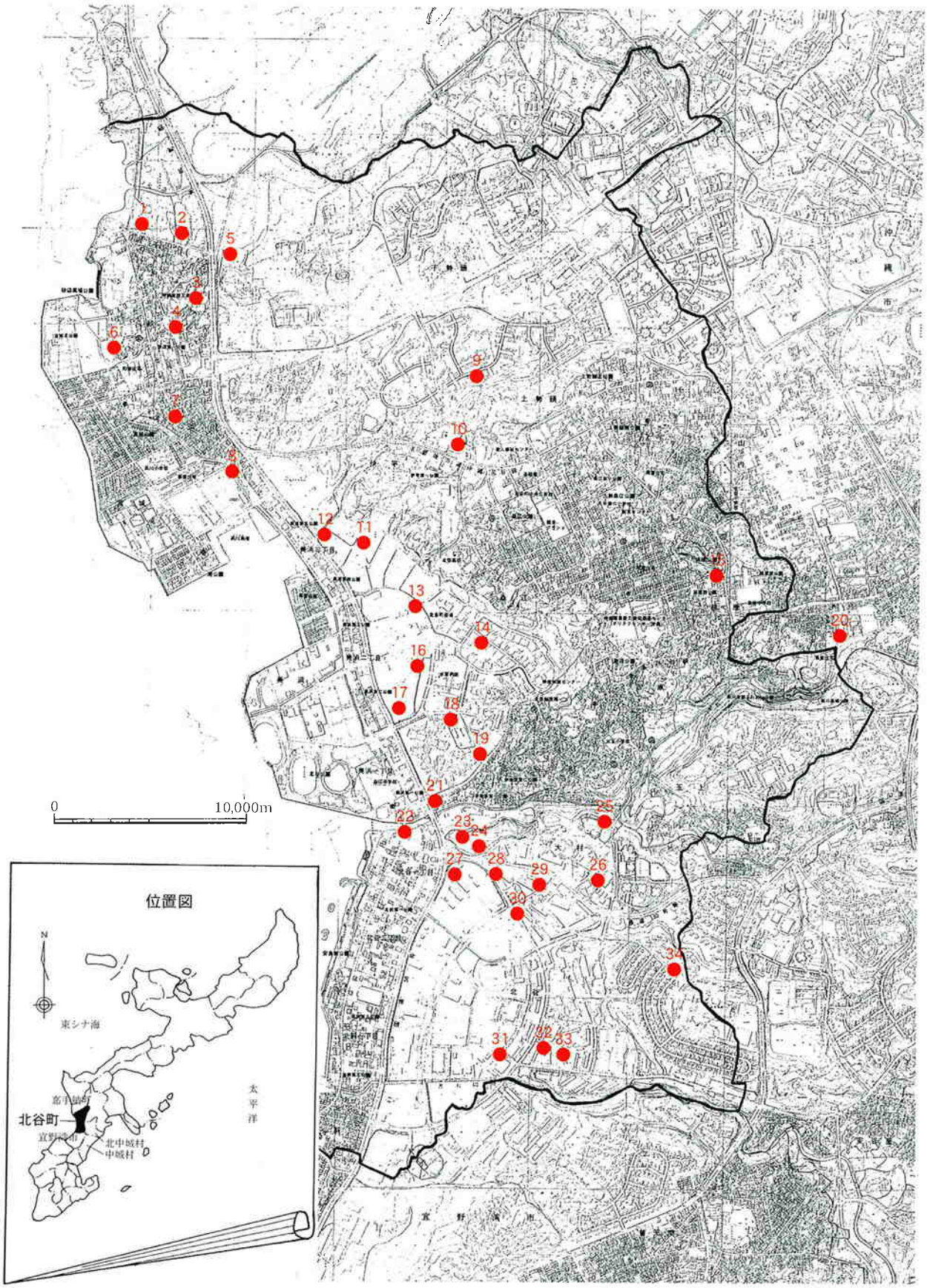
遺跡の南方には北谷グスクが存在する。グスク時代初期と考えられているフェンサ下層式土器が出土することからグスク時代開始期から存在し、14世紀～15世紀に盛行期をむかえたと考えられている。時期的に共存する北谷グスクとやや離れた場所に位置する後兼久原遺跡の関係等は今後の課題となろう。

近世になると後兼久原遺跡の南西側に前原古島Ａ・Ｂ遺跡が営まれる。また、北谷町のリーフでは英国東インド会社のインディアン・オーク号が座礁した地として知られており、海底遺跡の調査が実施された。

戦後、桑江一帯は米軍基地キャンプ桑江となり後兼久原遺跡も米軍基地の造成土に守られることとなったが、平成13年のキャンプ桑江北側地区返還による北谷町庁舎建設と米軍基地送油管移設に伴う緊急発掘調査によって、記録保存の対象となった。


中華人民共和国
China
朝鮮民主主義人民共和国
North Korea
大韓民国
South Korea
日本
Japan
東中国海
East China Sea
沖縄
Okinawa
台湾
Taiwan
ミャンマー
Myanmar
ベトナム
Vietnam
タイ
Thailand
南中国海
South China Sea
フィリピン諸島
Philippines
マレーシア
Malaysia
インドネシア
Indonesia
ニューギニア島
New Guinea
インド洋
Indian Ocean
太
平
洋
45°
40°
30°
25°
20°
15°
10°
5°
0°
5°
10°
100°
105°
110°
115°
130°
135°
0
1000km

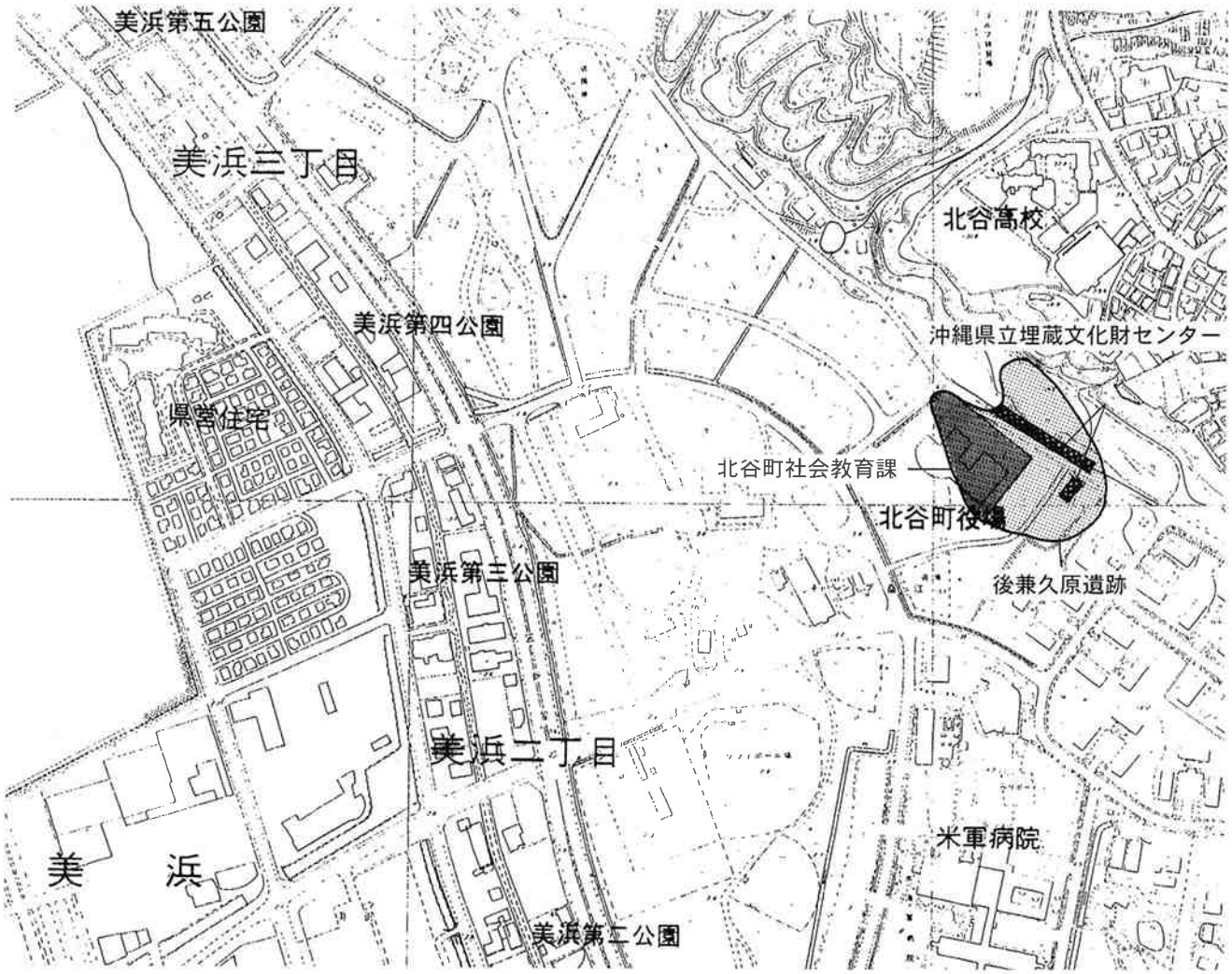
第１図　沖縄本島の位置



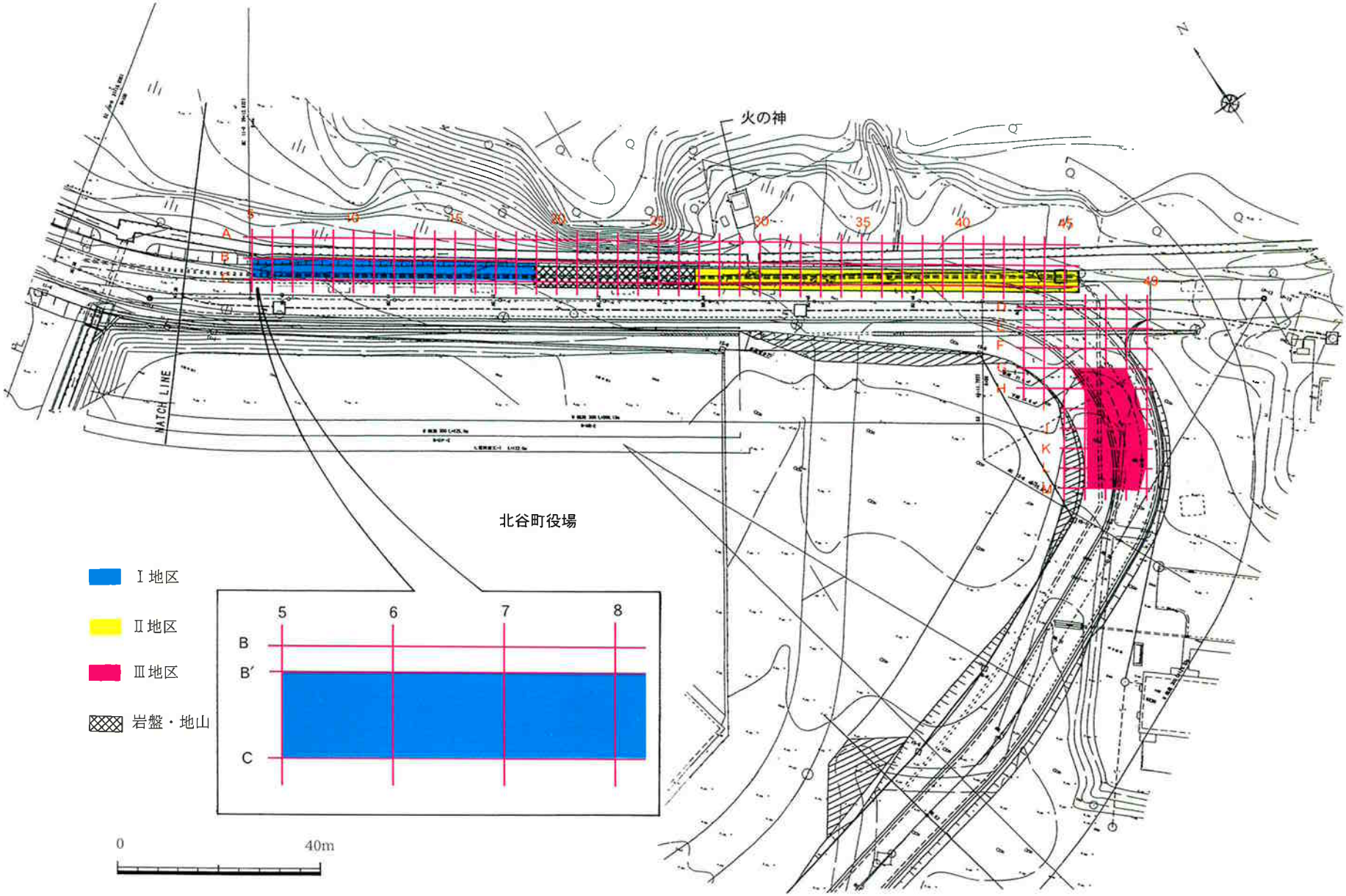
第２図　北谷町内の遺跡分布

遺跡分布の凡例

1. 砂辺サーク原貝塚
2. 砂辺サーク原遺跡
3. 砂辺貝塚
4. 砂辺ウガン遺跡
5. カーシーノボントン遺物散布地
6. クマヤー洞穴
7. 浜川千原岩山遺物散布地
8. 浜川ウガン遺跡
9. 上・下勢頭古墓群
10. 伊礼伊森原遺跡
11. 伊礼原A遺跡
12. 伊礼原B遺跡
13. 桑江ノ殿遺物散布地
14. 後兼久原遺跡
15. 鹿化石出土地
16. 前原古島A遺跡
17. 前原古島B遺跡
18. 伊地差久原古墓
19. 前原古墓群
20. 桃原洞穴遺跡
21. 池グスク
22. 白比川河口遺物散布地
23. 北谷城遺跡群
    北谷城
24. 北谷城第７遺跡
25. 山川原古墓群
26. 後原遺跡
27. 北谷番所址
28. 塩川原遺跡
29. 玉代勢原遺跡
30. 長老山遺物散布地
31. 稲千原遺跡
32. 大道原A遺跡
33. 大道原B遺跡
34. 横嵩原遺跡



第３図　後兼久原遺跡の位置



第４図　調査範囲とグリッド設定

第３章　層序と遺構

今回の発掘調査区は、米軍基地の一部として利用されていた場所であり、その際の造成工事に伴う客土が全体を覆っていた。表土層である客土を重機により除去した結果、グスク時代の遺物を主体とする遺物包含層から、近世及び米軍に土地摂取される直前までの層が確認された。今回の発掘調査では、造成土及び近世の層を断面及び平面で確認した後、グスク時代の包含層からの発掘調査を開始した。層序は、手掘りによる発掘調査開始面から第１層として以下記録していった。

グリッド設定では、送油管（パイプライン）建設予定の直線部分に平行するラインにアルファベットの名称、それに垂直となるラインには算用数字の名称を付した。アルファベット・ラインと算用数字ラインが交差することにより生じるグリッド・ラインの一辺の長さは４ｍに設定し、各グリットの名称はそのグリッドの北西側で交差するアルファベット・ラインと算用数字ラインの名称を並記するものとした。たとえば、北側でＣラインと5ラインが交差する右側のグリッドの名称は「Ｃ－５グリッド」となる。

今回の調査地域を３地区に分け、以下で各地区の層序及び遺構について述べる。Ｃ－５～19グリッドまでをＩ地区、Ｃ－26～45までをⅡ地区、Ｇ・Ｈ・Ｉ・Ｊ・Ｋ・Ｌ・Ｍ－43～48までをⅢ地区とする。

また、送油管（パイプライン）建設予定部分のみの調査範囲のため、グリッド・ラインは直線部分であるＩ・Ⅱ地区に平行するようにあわせ、今回の調査では、セクションを便宜的に、北西側を北側セクション、北東側を東側セクション、南西側を西側セクションとした。

しかし、今回の調査範囲では直線部分の東西の幅が2.5～３ｍと短く、直線部分の各グリッドはＣ－５～19までは４×３ｍ、Ｃ－26～45までは４×2.5mの長方形になり、西側セクションはＣラインにのっているが、東側セクションはラインにのっていない。そのため、直線部分の各グリッドの東側セクションを便宜的にＢ’ラインとした。

遺物は各グリッドで取り上げたが、北側セクション図は２グリッドおき（８ｍ間隔）に記録した。また、遺構及びピットは全グリッドで通し番号を付した。

今回の調査で使用したアルファベット・ラインの名称はＣ・Ｇ・Ｈ・Ｉ・Ｊ・Ｋ・Ｌ・Ｍの８つのラインで、算用数字は５～19、26～48まである。

第１節　Ｉ地区

１　層　序（第５～８図）

第１層　オリーブ色混砂土（5Ｙ5/3）。戦前以降の旧耕作土。砲弾が埋められていた攪乱跡、溝状遺構が確認された。

第２層　暗灰黄色土(2.5YR5/6)。流水や土砂崩れ等の流れ込みの層で砂利、貝（ｶﾜﾆﾅ）がまじる。遺物包含層。

第３層　黒褐色土(2.5YR4/2)。流水や土砂崩れ等の流れ込みで堆積した層。遺物包含層として捉えた。グスク時代の遺物が新旧入り混じった状況で出土しており、西側にある丘陵に今回調査した範囲よりも古い時期の層があると思われる。３a、３b層と２枚にわけたが、掘り下げ時は層の判別が困難であったため遺物は３層として一括で取り上げた。３b層上面では土坑が検出された。

第４層　明黄褐色粒混暗褐色土（10YR3/3）。10～40cm程の石灰岩を多く含んだ状況で東南側から西側に向かって薄くなって堆積している。南側に岩盤、地山があることから、その周辺からの流れこみの層だと思われる。

第５層　黒褐色土(10YR3/3)。遺物包含層。

第６層　にぶい黄褐色混砂土(10YR5/4)。

第７層　灰オリーブ色粘質土(5Y5/3)。直上で青磁片等の遺物や拳大ほどの石が散らばっており、土抗や溝状遺構が検出され遺構面として捉えた。

第８層　オリーブ褐色土(2.5Y4/4)。

第９層　黄褐色土層(10YR5/6)。北から南に向かって傾斜していく。ピット１基が検出された。第７層の堆積していない部分の上面は、第７層の遺構面と同時期であったと思われる。

第10層　にぶい黄色砂質土(2.5Y6/4)。締まっていて北から南に向かって下に傾斜していく。

第11層　　にぶい黄褐色土(10YR6/4)。非常に固く締まっている層で、第12層とともにマウンドを形成している。第12層とほとんど同じ層だが、第12層よりも全体的に黒くくすんでおり、固く締まっていることから、第12層とは区別した。上面で列状ピット群が検出している。

第12層　　にぶい黄褐色土(10YR6/4)。第11層とともにマウンドを形成している。

第13層　　暗オリーブ色砂質土(7.5Y4/3)。細砂質で雨などの影響ですぐに削れてしまうぐらい軟らかい層。遺構面。柱穴・土抗が検出され、直上では滑石製品、土器、類須恵器などが出土した。

第14層　　暗オリーブ色砂質土層に浅黄色砂質粒が混じっている。柱穴と考えられるピットが検出したので、遺構面として捉え第13層とわけた。第14層はいわゆる巻き上げ現象にみられ、当時の人が生活していたことによりできた層だと思われる。しかし、平面では第13層との区別がはっきりとしなかったため、遺物は第13層として一括して取り上げた。

第15層　　浅黄色砂(2.5Y7/4)。発掘調査終了面。第14層が推積していない場所でピットが検出されており、第14層と同時期の遺構面だと思われる。

第16層　　明褐色土(7.5YR5/8)。地山。

2　遺　構

Ⅰ地区ではグスク時代に相当するとみられる遺構が3期に分かれて検出された。第３ｂ層上面を第１検出面、第７層・第９層・第11層・第12層上面を第２検出面、第13～15層上面を第３検出面とした。今回、発掘期間の都合により、全ての遺構の完掘状況を記録することが困難だと判断し、下場を記録していない遺構が多数ある。そのため今回の遺構の報告では、平面は記録した全ての遺構の下場を割愛し検出状況のみを記載した。

以下、各検出面の遺構の概要について述べる。

第１検出面（第３b層上面検出の土坑）

第９図の土坑は、Ｃ－10グリッドで検出された。遺構内は上面部分が茶褐色土、その下はオリーブ黒色混砂粘質土が推積していた。長軸は南北方向にあり、長辺約117cm、短辺約90cm、深さ約126cmで、検出レベルは標高5.56～5.54mを測る。

第１検出面は、この土抗１基のみの検出であった。第３層中の検出であり、検出面、包含層を分けることが困難であったため、第１検出面及びそれに伴う包含層は第３層のみと捉えた。第３層はグスク時代の遺物が新旧混在した状況で出土しており、東側にある丘陵からの攪乱をうけた流れ込みの堆積層の可能性が高い。遺物は、青磁、白磁、染付・類須恵器、鍋・壺・鉢・浅鉢形土器などが出土しており、第１検出面は15世紀頃を中心とした遺構面だと考えられる（第30図）。

第２検出面（第７・９・11・12上面検出遺構）

第７層上面検出の土坑、溝状遺構、第９層上面検出の詳細不明ピット、第11・12層上面検出の列状ピット群がある。第７層はＣ－５～14グリッドに推積している層で上面には青磁片や拳大の石が散らばっており、土坑、溝状遺構2も検出されていることから遺構面として捉えた。第11・12層はＣ－14～17グリッドでマウンド状に堆積しており、その上面で列状ピット群が検出された。そして、第3b層を除去した段階で、第７層が推積していない部分には第９・10層が推積しており、検討した結果、第７・９・10・11・12層を第７層当時の生活面として捉えた。

以下、それぞれの各遺構について述べる。

① 土　抗（第10図）

Ｃ－７グリッド、第４層上面で検出された。遺構内は灰オリーブ色粘質土が推積していた。今回の調査対象範囲外にも続いていたため全形は窺えなかったが、楕円形状の土坑であったと思われる。深さ約90cmで検出レベルは標高5.32～5.28mを測る。

② 溝状遺構２（第５・６・10図）

Ｃ－８～11グリッドにおいて、西壁沿いで東西に走る溝状遺構が検出された（第10図）。第４層上面検出。遺構内は第3層の黒褐色土が推積していた。全長約11.86m、深さ４～12cm。検出レベルは標高5.40～5.34mを測る。断面はセクションを参照されたい（第５・６図）。

③ 詳細不明ピット（第10図）

Ｃ－10グリッド、第９層上面で検出された。確認されたピットはこの一基のみで、周辺にはこのピットと

関連するような遺構は見当たらず性格は判然としない。北壁にかかっていて全形は窺えないが円形状のピットであったと思われる。深さ36cm。検出レベルは標高5.54mを測る。

④　列状ピット群（第11図）

Ｃ－14～17グリッドで11・12層がマウンド状に形成されており、Ｃ－16・17グリッドの第11・12層上面、Ｃ－18グリッドの第16層（地山）上面でほぼ円形のピットが54余、列になって検出された。このような列状ピット群は植栽痕とも称され、名護市茂佐古島遺跡（名護市史編纂委員会・1998）や那覇市シーマ御嶽遺跡（那覇市教育委員会・1997）、宜野湾市伊佐前原第1遺跡（沖縄県立埋蔵文化財センター・2001）などでも報告例があり、掘り棒による耕作痕だと考えられている。

本遺跡で検出された列状ピット群は、直径約30cmのほぼ円形のピットが等間隔で並び、間隔は約30cmで、東西方向に11列、南北方向に４列確認できた。しかし、検出範囲が３グリッド（12×３m）と幅が狭かったため、列状ピット群の全体の繋がりは不明瞭であった。

ピット内の覆土は基本的に黒っぽい暗褐色を呈している。ピットの深さは10～16cm程度のものが多く、浅いものでは６cm、深いものは21cmを測る。

⑤　溝状遺構３（第11図）

Ｃ－16・17グリッドで列状ピット群の真ん中を走る溝状遺構が検出された。東西方向に走っており、西から東に行くにつれて深くなっていく。西側はマウンドの傾斜部分でなくなるが、東側は次第に浅くなり状況は判然としなくなる。溝状遺構は列状ピット群のピットをきっており、列状ピット群より後に形成されたことが窺える。

列状ピット群は、フラット面より一段高い地山からの斜めに堆積した層に形成されており、意図的にその地形を選んで形成し、利用したようにみられる。第７・９層で検出したピットや溝状遺構はフラットな面にあり、ピットは第９層で丘陵（東）側にしか検出せず、また、Ｃ－10グリッドのみで検出されたことから、範囲はＣ－10グリッドから丘陵（東）側に延びていると思われる。第２検出面からは、青磁がほとんど出土せず、白磁、類須恵器、鍋・壺形土器などが出土しており、第１検出面より古手の様相を示していることから、おおよそ１３～１４世紀頃の時期の遺構面だと考えられる（第30図）。

第３検出面（第13・14・15層上面検出遺構）

第13・14・15層の各層上面で柱穴と思われるピットが34基、土抗と思われるピットが４基検出された。それぞれ各層ごとに検出し記録していったが、第13層と第14層の境目が検出時ははっきりせず、遺物を一括して取り上げたところもあり、また、13層、14層が堆積していないところの15層上面でピットが確認されたことから、これらは第3検出面として同時期の遺構と捉えた。

以下、それぞれの各遺構について述べる。

①　土　抗（pit50・51・64・65）（第12・13図）

第13層で２基、第14層で２基の合計４基の土抗と考えられる遺構が検出された。土抗1（pit50）はＣ－11グリッド、第13層で検出された。東壁にかかっており全形は窺えなかったが、隅丸方形状を呈すると思われる。大きさは直径約80cm。遺構内覆土の厚さは約68cmを測る。遺構検出面では明黄褐色砂に焼土、炭が混じっており、遺構内では中央部分がへこんでいた。その下の土抗内では炭が混じった明黄褐色砂粒混暗オリーブ砂、その下に炭のはいっていない明黄褐色砂粒混暗オリーブ砂が入っていた。

土抗２（pit51）はＣ－11グリッド、第13層で検出された。形状はほぼ円形状で、大きさは長径約78cm、短径約67cm、遺構内覆土の厚さは約70cmを測る。遺構検出面では明黄褐色砂に焼土、炭が混じって検出された。その下の土抗内では炭が混じった明黄褐色砂粒混暗オリーブ砂、その下に暗オリーブ砂が入っていた。

土抗３（pit 64）はＣ－10グリッド、第14層で検出された。形状はほぼ円形状で、大きさは長径約63cm、短径約56cm、遺構内覆土の厚さは約52cmを測る。遺構検出面では明黄褐色砂粒混暗オリーブ砂に焼土、炭が混じっており、その下の土抗内では明黄褐色砂粒混暗オリーブ砂が入っていた。

土抗４（pit65）はＣ－10グリッド、第14層で検出された。形状はほぼ隅丸方形状で、大きさは長径約96cm、短径約57cm、遺構内覆土の厚さは約74cmを測る。遺構検出面では暗オリーブ砂粒混明黄褐色砂に焼土、炭が混じって検出された。その下の土抗内では炭が混じった明黄褐色砂粒混暗オリーブ砂がみられ、さらにその下には炭のはいらない明黄褐色砂粒混暗オリーブ砂、暗オリーブ砂、明黄褐色砂、暗オリーブ砂

とつづいた。

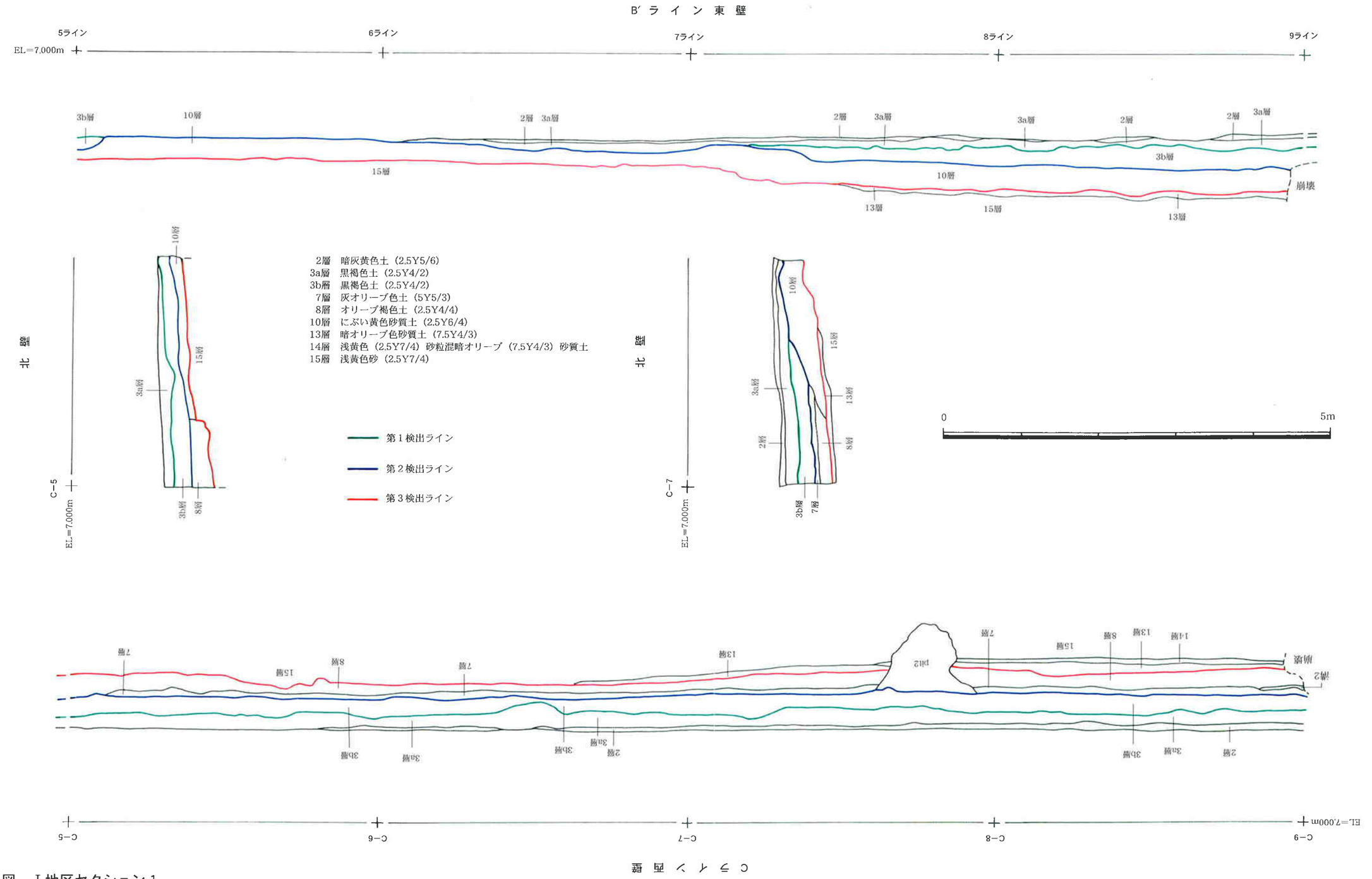
土抗４基とも、深さが50～75cmと深く、遺構内覆土の最下層には炭、焼土があまりみられず、土抗周辺や土抗内の側面に火をうけたような痕跡ははっきりと確認できなかったが、土抗内の側面が固く締まっていたこと、底に若干炭が付着しているのが確認できたことなどもあり、炉の可能性もある。

② ピット群（第12・13図）

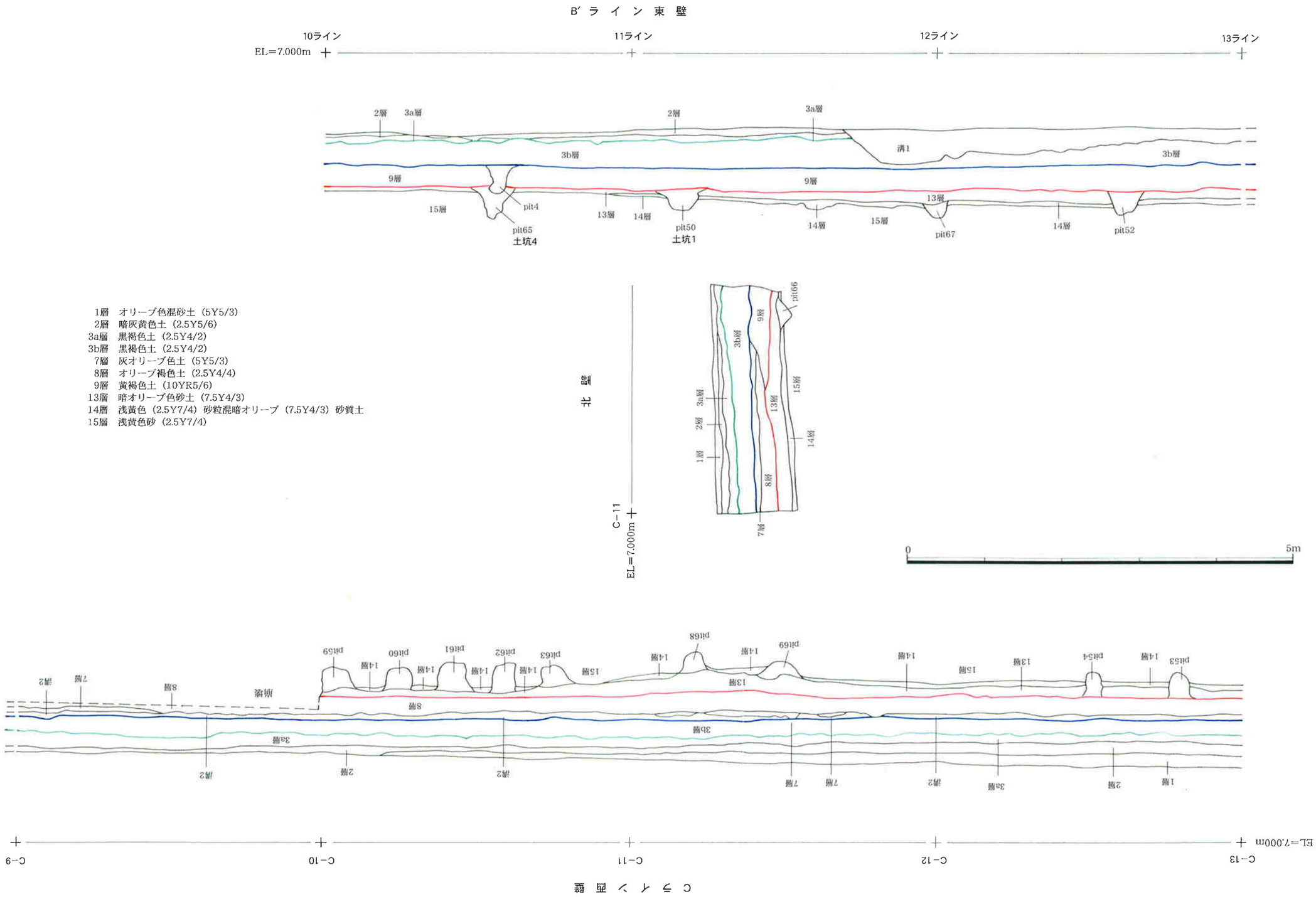
第13層で11基、第13層で14基、第15層で９基の総数34基のピット群が確認された。ピットは直径約40cm前後の円形状のものが多く、深さは約30～40cm前後のものが主体をなす。なかには、直径約40～50cm、深さ約40～60cmの比較的大きいものや、直径約20cm、深さ約20cmと小さいものもあった。
ピットの覆土はそれぞれ各層の上層の土が呈されており、なかには分層できるピットもあり柱痕と思われるものもあった。

検出範囲はＣ－10～17で検出状況から堀立柱建物跡であることが想定できるが、発掘範囲の幅が狭く、明確な堀立柱建物跡プランを確認することは出来なかった。同時期の遺跡である宜野湾市伊佐前原第一遺跡（沖縄県立埋蔵文化財センター・2001）、読谷村楚辺タシーモー北方遺跡（読谷村教育委員会・2002）、読谷村吹出原遺跡（読谷村教育委員会・1990）、北谷町後兼久原遺跡（北谷町教育委員会・1997）等で良好な形で堀立柱建物跡が確認されており、特に北谷町教育委員会が調査を行った後兼久原遺跡と今回の調査は同遺跡内であることから、同様な堀立柱建物跡プランであると思われる。

これらの土抗やピット群はＣ－10～17グリッドの範囲で検出し、北側のＣ－５～９グリッドでは検出されなかった。このことから、当時の遺跡の範囲はＣ－10～17グリッド周辺で、特に遺構の配列から西側に中心があった可能性が高い。第13・14層検出のピット群は連続した掘建柱建物跡の配列の一部分だが、第15層検出のピット群は不規則な位置にあるようにみうけられ、他の建物跡や別の遺構の可能性もある。第３検出面からは遺物の量が少なく、陶磁器は白磁が数点出土したのみであった。全体としては類須恵器、滑石製品が主体を占めることや、滑石製品の一つに付着していた炭化物をAMS法に分析したところ、900±40BPという値が得られたことから、12世紀中頃から13世紀頃の遺構面だと考えられる（第30図）。

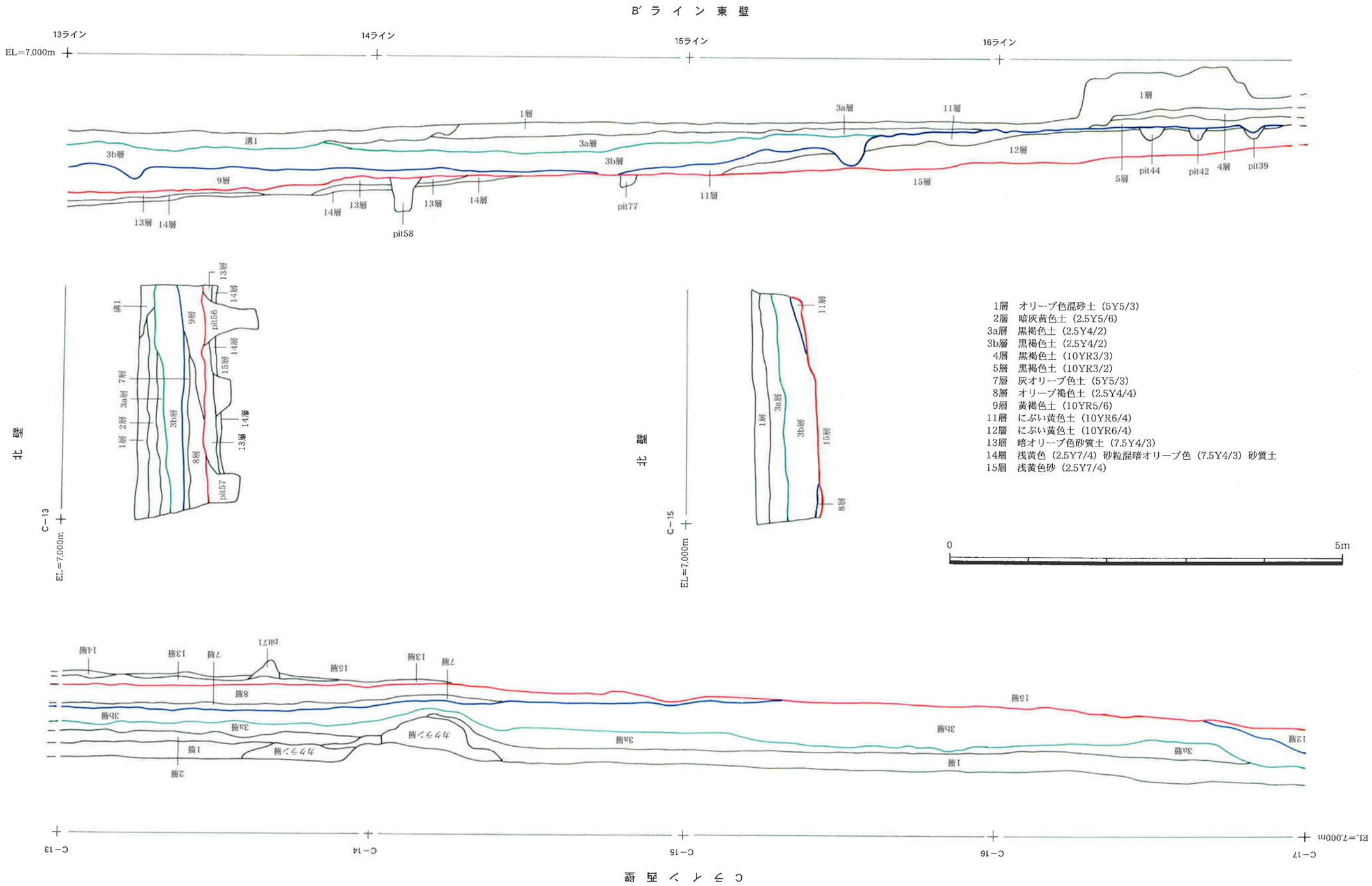


第５図　Ｉ地区セクション１



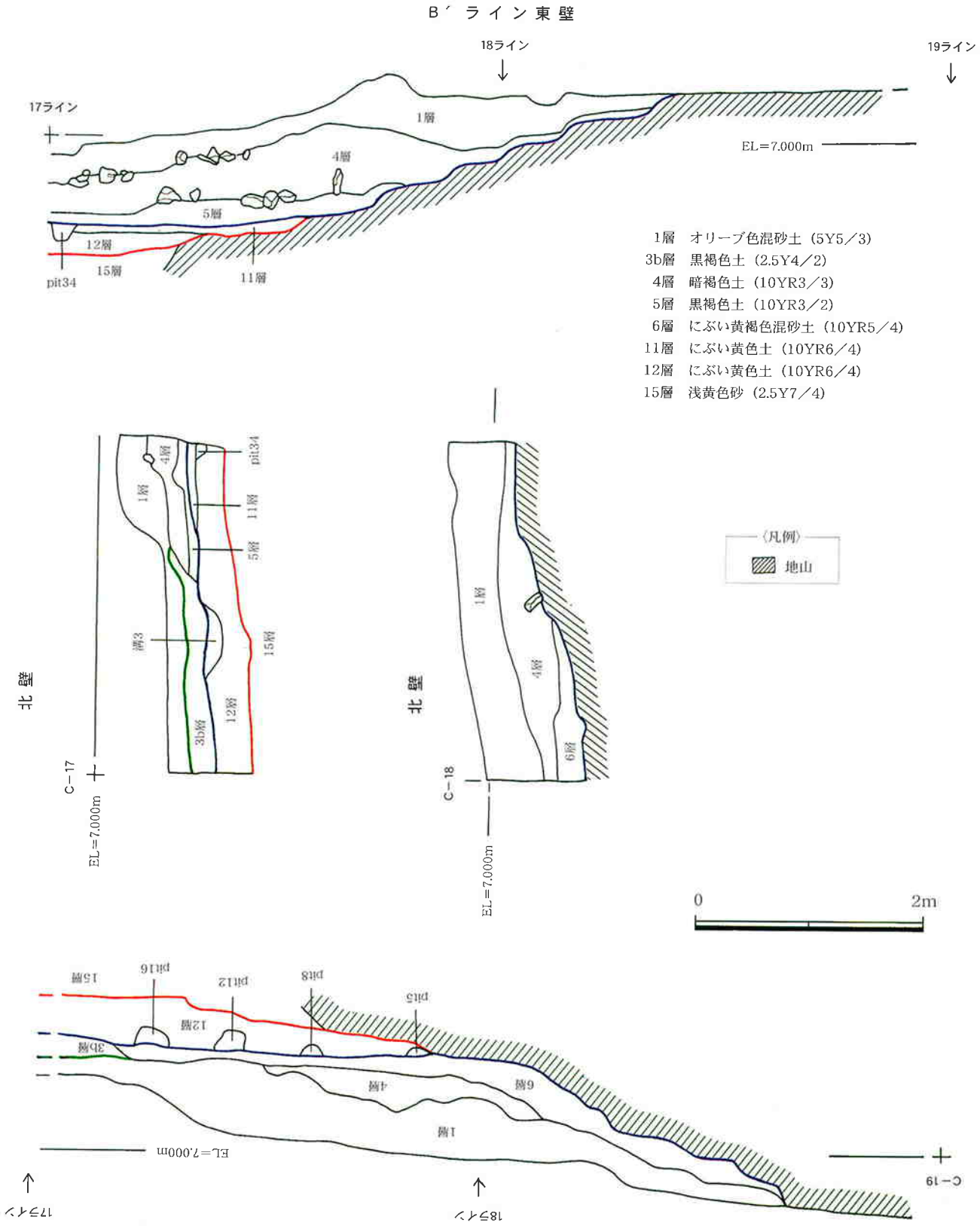
1層　オリーブ色混砂土（5Y5/3）
2層　暗灰黄色土（2.5Y5/6）
3a層　黒褐色土（2.5Y4/2）
3b層　黒褐色土（2.5Y4/2）
7層　灰オリーブ色土（5Y5/3）
8層　オリーブ褐色土（2.5Y4/4）
9層　黄褐色土（10YR5/6）
13層　暗オリーブ色砂土（7.5Y4/3）
14層　浅黄色（2.5Y7/4）砂粒混暗オリーブ（7.5Y4/3）砂質土
15層　浅黄色砂（2.5Y7/4）

第６図　Ⅰ地区セクション２

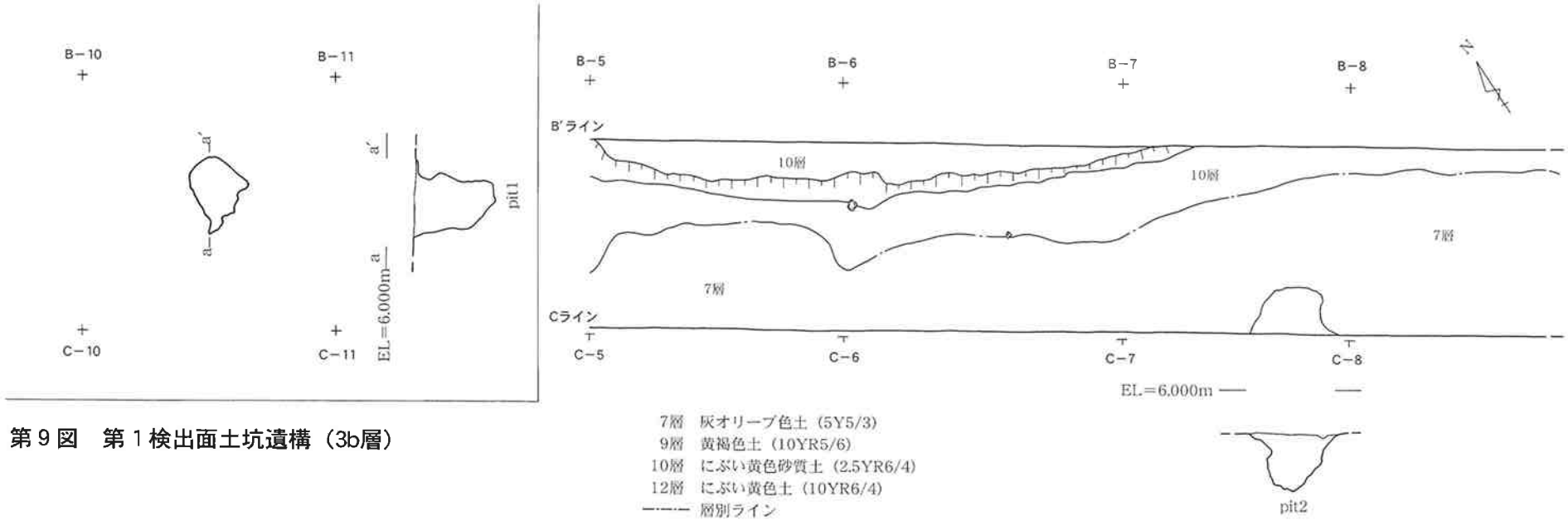


1層　オリーブ色混砂土（5Y5/3）
2層　暗灰黄色土（2.5Y5/6）
3a層　黒褐色土（2.5Y4/2）
3b層　黒褐色土（2.5Y4/2）
4層　黒褐色土（10YR3/3）
5層　黒褐色土（10YR3/2）
7層　灰オリーブ色土（5Y5/3）
8層　オリーブ褐色土（2.5Y4/4）
9層　黄褐色土（10YR5/6）
11層　にぶい黄色土（10YR6/4）
12層　にぶい黄色土（10YR6/4）
13層　暗オリーブ色砂質土（7.5Y4/3）
14層　浅黄色（2.5Y7/4）砂粒混暗オリーブ色（7.5Y4/3）砂質土
15層　浅黄色砂（2.5Y7/4）

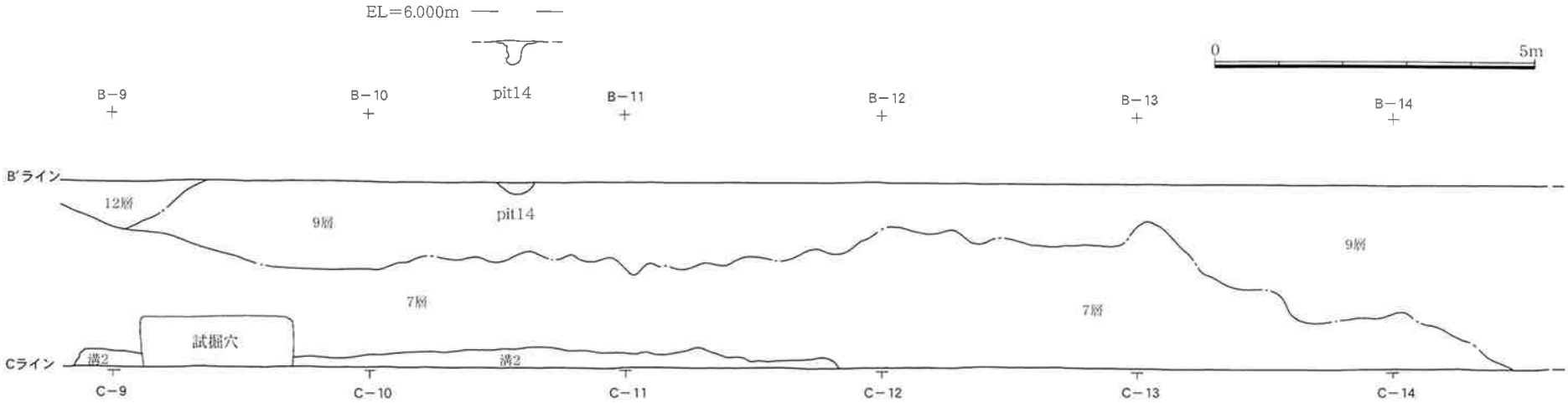
第７図　Ⅰ地区セクション３



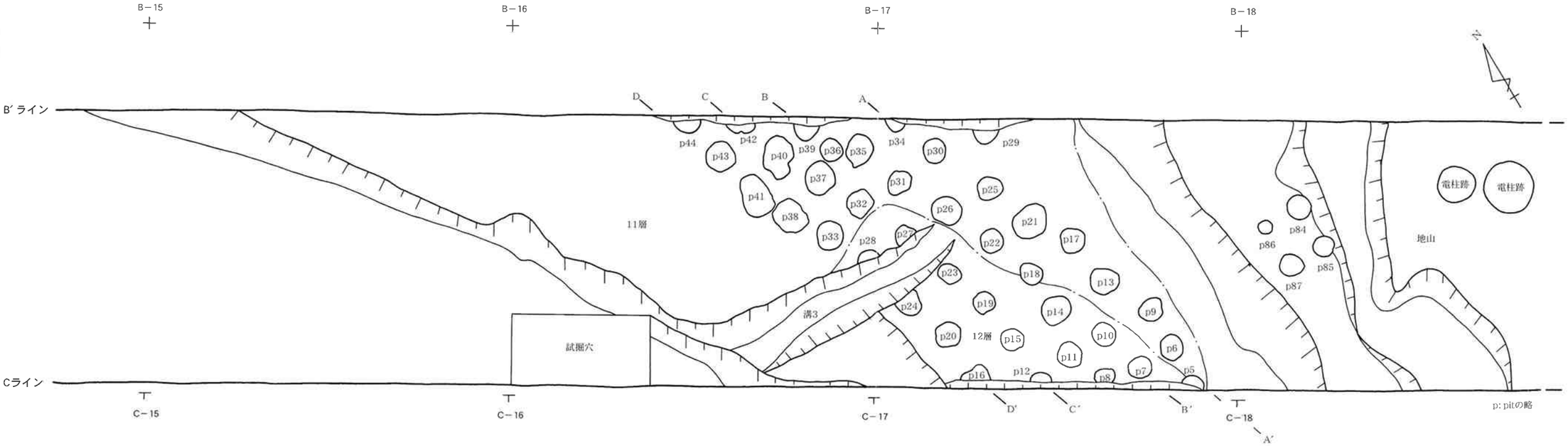
第８図　Ⅰ地区セクション４

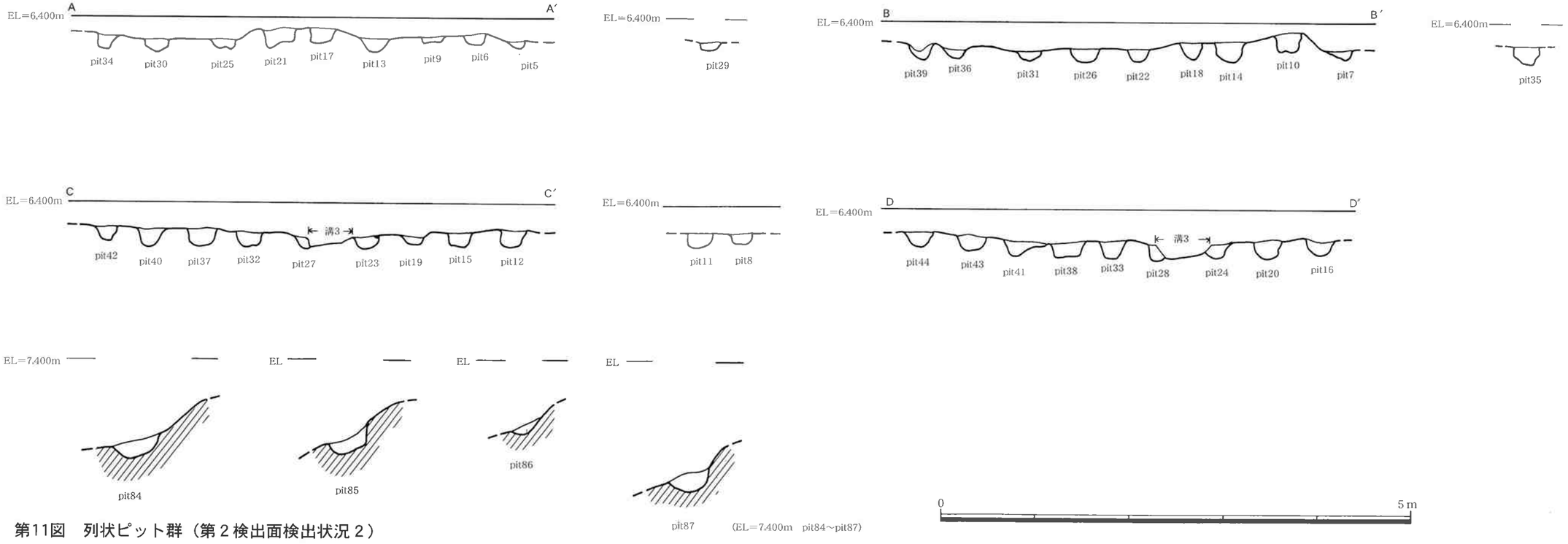


第９図　第１検出面土坑遺構（3b層）



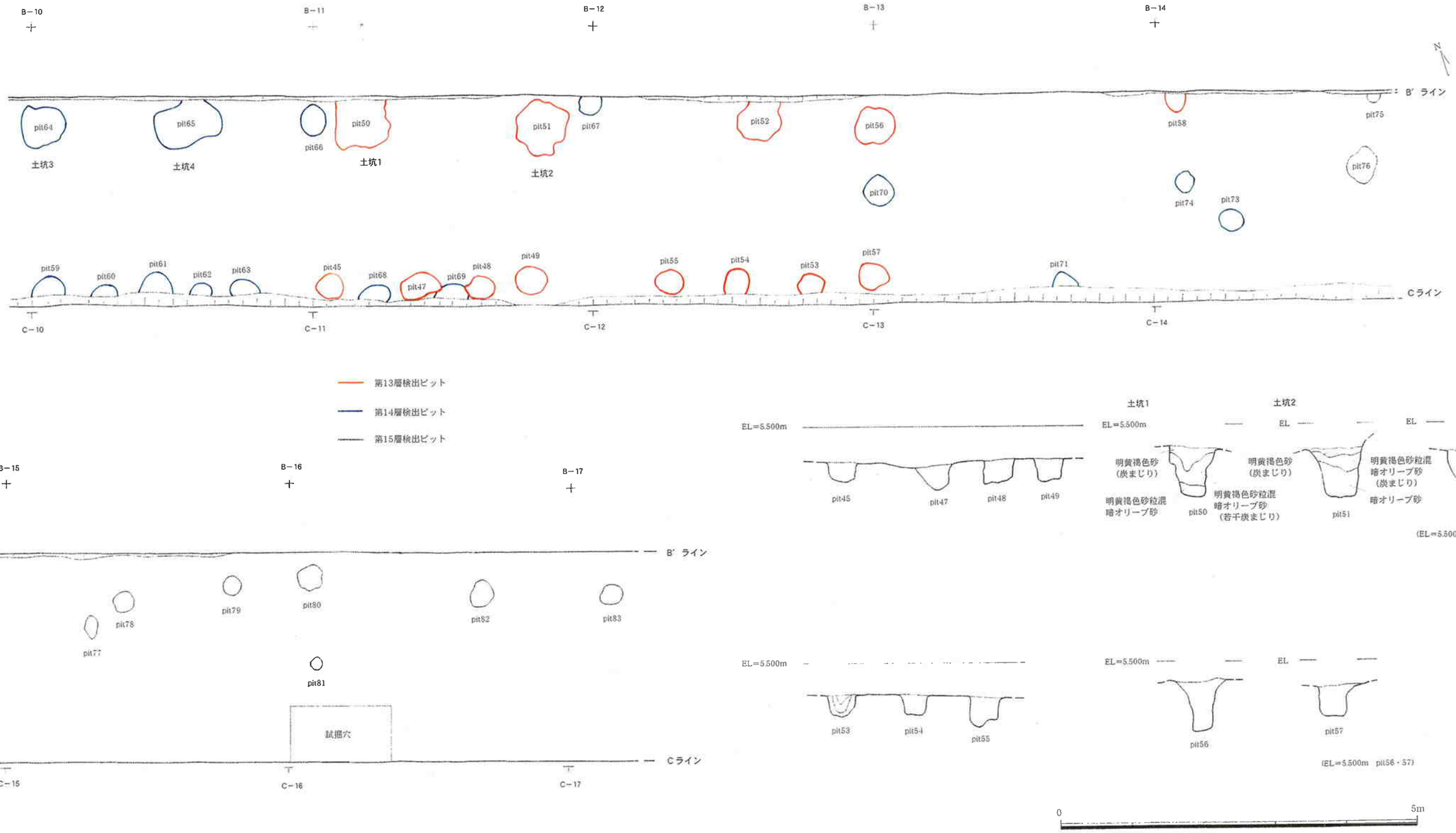
第10図　第２検出面検出状況１



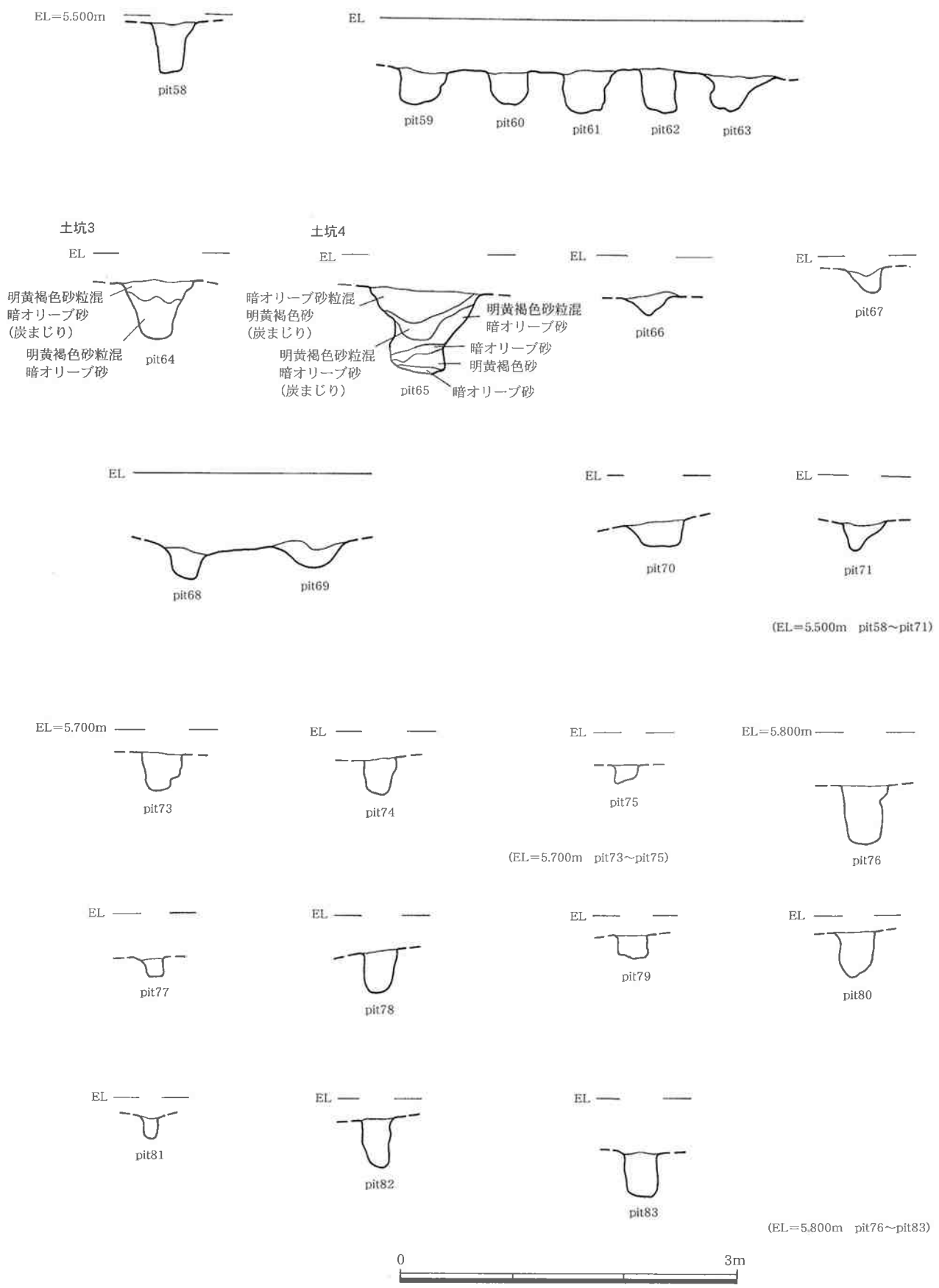


11層　にぶい黄色土（10YR6/4）
12層　にぶい黄色土（10YR6/4）
—·—·—　層別ライン

第11図　列状ピット群（第２検出面検出状況２）



第12図　第３検出面ピット検出状況（13・14・15層）及び第13層断面



第13図　第14層・15層ピット断面

第２節　Ⅱ地区

１　層　序（第14～18図）

第１層　オリーブ褐色混砂土（2.5Y4/6）。戦前以降の旧耕作土。Ⅰ地区の第１層と同じ層。

第２層　黒褐色粘質土（7.5YR3/1）。遺物の量はそれほど多くなかったが、第２検出面の14層上面検出ピット内の覆土となっており、遺物包含層として捉えた。天目茶碗の底部片等が出土。

第３層　オリーブ褐色土（2.5Y4/3）。Ｃ－42～44では10cm以上の石灰岩が多く含まれおり、層全体をとおしても礫や石灰岩等が多く混じっていて、流水や土砂崩れ等の流れ込みの層として捉えた。遺物もそれほど多くはないが青磁や貝殻などが出土した。

第４層　褐色土（10YR4/4）。６層上面とともに溝２－１検出。遺物包含層。

第５層　暗オリーブ褐色土（2.5Y3/3）。地山から緩やかに傾斜して堆積している。第１検出面である第７層上面検出のピット内の覆土になっており遺物包含層として捉えた。層の南側の端は溝２－１できられていた。

第６層　黒褐色混砂土（2.5Y31）。Ｃ－33～36グリッドで、第２検出面である第18・21層上面検出のピット内の覆土になっており遺物包含層として捉えた。溝２－１検出。

第７層　暗褐色土（10YR4/3）。地山から緩やかに傾斜して堆積している。柱穴跡だと思われるピット群、土抗が検出した。層の端は溝２－１できられる。

第８層　暗青灰混砂土（5PB3/1）。第１検出面である第７層上面検出のピット内の覆土になっており遺物包含層として捉えた。青磁、土器、古銭、玉、鉄製品など多数出土。

第９層　赤褐色粘質土（5YR7/6）。第10・11・15層とともに、上面で５cm以内の礫群が散らばっており、青磁や貝などの遺物が出土していた。この礫群を取り除くと、植栽痕と思われる列状ピット群が検出された。

第10層　暗灰黄色混砂土（2.5Y4/2）。やや粘性があり、しまりはそれほどない。４本柱高床式倉庫跡、炉跡と思われる遺構が検出された。

第11層　暗オリーブ色土（2.5Y4/3）。10層とともに四本柱高床式倉庫跡のピット、第９・15層とともに列状ピット群が検出された。

第12層　黄褐色土（2.5Y5/4）。

第13層　オリーブ褐色粘質土（2.5Y4/4）。

第14層　黄褐色粘質土（2.5Y5/4）。遺構面。マウンドの上を形成している上の層で、上面からピット群が検出している。直上では天目茶碗が出土しており14～15世紀頃の層だと想定した。

第15層　黄褐色土（2.5Y5/6）。第９・11層とともに植栽痕と思われる列状ピット群が検出された。

第16層　暗オリーブ色粘質土（5Y4/3）。

第17層　オリーブ黒色粘質土（5Y3/2）。

第18層　暗オリーブ色粘質土（7.5Y4/3）。溝３跡の上に堆積しており粘性がありしまりは弱い。上面でピット群が検出されており、第21層検出のピットとつながっているようにみえることから、第21層と同時期の遺構面であると捉えた。

第19層　暗オリーブ色粘質土（5Y4/4）。溝４、ピット群が確認された。

第20層　褐色砂質土（7.5YR4/4）。しまりの強い層で、柱穴跡と思われるピット群が検出された。遺物は土器が多く出土。第20層下の第21層ではピットがみられなかったことから、第21層と同一のピット群と捉えた。

第21層　明黄褐色砂（10YR5/8）。柱穴跡だと思われるピット群が検出された。特にＣ－29～32では集中してピットが検出された。白磁玉縁碗の口縁部出土。溝２－４、溝３が検出。溝３では類須恵器、グスク土器、人骨が出土しており、また第21層と同時期と考えられる第18層の下にあることから南地区の中では一番古い遺物を含んでいると考えられる。発掘調査終了面。

第22層　明黄褐色土（2.5Y6/6）。

第23層　にぶい黄橙色砂（10YR7/4）。しまりがとても強い。

第24層　明褐色土（7.5YR5/8）。地山。

2　遺　構

Ⅱ地区でもグスク時代に相当すると思われる遺構が３期に分かれて検出された。第７層・第23層上面を第１検出面、第９層・第10層・第11層・第14層・第15層上面を第2検出面、第18～21層上面を第３検出面とした。Ⅱ地区もⅠ地区と同様に、発掘期間の都合により、全ての遺構の完掘状況を記録することが困難だと判断し、下場を記録していない遺構が多数あるため、遺構の報告では、平面は記録した全ての遺構の下場を割愛し検出状況のみを記載した。

以下、各検出面の遺構の概要について述べる。

第1検出面（第７・23層上面検出遺構）

①　ピット群（第19図）

第７・23層の上面で柱穴と思われるピット群が検出され、第７層と第23層の層の境目でピットが検出されていることから第７層と同時期の遺構として捉えた。ピットは直径約30～40cm前後で、深さは約40～50cm前後のものが主体をなすが、なかには直径60cm以上で、深さよりも直径が大きいピットもあった(pit24・33)。ピットの覆土はほとんど上層の土（第５層）であり、なかには分層できるものもあった(pit40)。堀立柱建物跡であることが想定できるが、発掘範囲の幅が狭く、明確な堀立柱建物跡プランを確認することは出来なかった。また、明赤褐色の土（pit13）や灰色の土（pit30・34）が覆土であるものもあり、それらは柱穴ではないとも考えられる。ピットの中に遺物はなく、遺構を想定できる並びなどは見られず、詳細は不明である。

②　土　抗（第15・19図）

西側セクションにかかり、溝２－３・４をきって土抗が検出された。掘り下げの段階では溝２の覆土の一つだと思い、検出面に気づくことができなかった。そのため記録時には溝２－２・土抗と記した。幸いにも西側セクションにかかっており、また溝２よりも深かったため、底の形態を確認することができた。それにより記録は、立面はセクション図（第15図）と、平面は上の方は残ってないが完掘状況ということで記載した（第19図)。

一辺が約1.3m、深さは約1.4mで、形状は方形状であったと思われる。遺構内覆土は、溝２に覆土として入っている層がラミナ状になって堆積していた。詳細は不明であるが、溝２の一部分を切っており、溝２が調査区の北東側に続いているようにみえ、当時の川跡と想定できることから、川に関連した遺構ではないかと推察した。

第１検出面はＣ－27～31（20m）の範囲で検出されており、北側はすぐに地山、岩盤となり、南側には川（溝2-1）が当時は流れていると思われ、東側はしばらくフラットな面の後、丘陵になる。また、Ｃ－30・31グリッドではピットが減少することから、第１検出面の遺跡の範囲は、西側の丘陵部分から調査区のＣ－27～29グリッドを中心に通って東側へ展開していたと推察される。遺物は青磁、白磁、染付、古銭などが出土しており、土器がほとんど出土しないことから、時期は15～16世紀頃と考えられる（第33図)。

第２検出面（第９・10・11・14・15層上面検出遺構）

第1～3層を除去した段階で、Ｃ－39～45グリッドの範囲で5cm程度の小石、礫が密集して検出された。厚さは１cm程度で、青磁片や貝が直上で出土した。この小石、礫だまりの層を取り除くと、炉跡、４本柱掘立柱建物跡、植栽痕が検出された。これと、マウンド状を形成している第14層の上面で検出しているピット群を同時期として、第２検出面とした。

以下、それぞれ各遺構について述べる。

①　ピット群（第20・21図）

Ｃ－37・38グリッドで第14層上面から８基のピットが検出された。第14層は北東側から南西側に向けて傾斜したマウンドの層の頂上部分を形成する層であり、西壁側には堆積していない。ピットは円形状で直径約20cm前後、深さは約20～25cmのものと、円形状で直径約40～50cm前後、深さは約25～40cmのものと２種類確認された。ピット内覆土は上層の土（第２層）であった。

Ｃ－44・45グリッドでは、第９・10・11・15層上面から43基のピットが検出された。ピットは大きく２種類に大別して、直径約20～30cm、深さ約8～25cmのほぼ円形のピットと、直径約40～50cm、深さ約10～20cmの楕円形のピットが確認できた。ピット内の覆土はオリーブ褐色土であった。

明確な配列は確認できなかったが、北東から南西に向けて列状になっているようにもみられた。また、ピ

ットが円形で深さが浅いことから、これらのピット群は植栽痕であると思われる。

② 炉 跡（第20図）

Ｃ－42グリッド、第10層上面で炉跡が検出された。形状は円形で、大きさは長径約60cm、短径約52cm深さは約23cmを計る。遺構内覆土はオリーブ褐色粘質土で焼土、炭は入っていない。しかし、遺構内を掘り下げていくと、火をうけた跡の残る石が検出され、遺構内の側面には焼土が確認された。さらに掘り下げると、最下で全面に炭が堆積していた。

③ 4本柱掘立柱建物跡（pit63・64・65・66）（第20・21図）

Ｃ－44グリッドで第9・10・11層にまたがって、上面から4本柱掘立柱建物跡と想定されるプランが１棟確認できた。プランの規模は約２ｍ×約2.3mのほぼ正方形を呈し、プランの長辺は南北に面している。ピットの直径は約30～50cmで平均値約37.5cm。深さは25～50cmで平均値約40cmである。柱痕は確認できなかった。ピット63では10～15cm大の石灰岩礫が、ピットの下部に数個詰められていたのが確認できた。

北谷町教育委員会が調査した後兼久原遺跡では、４本柱掘立柱建物跡と想定されるプランの規模は縦約1.5m×横約３ｍで長方形を呈し、深さは人の腕が届かないほど深い（北谷町教育委員会・1997）と報告されており、今回の調査で検出したプランとは若干の違いがみられる。６本柱掘立柱建物跡と想定されるプランの場合は、規模は縦約2.5m×横約4.6mと報告されており、今回の調査では調査範囲が幅2.5mと狭く、全体の遺構の検出とした点では不十分であり、或いは南北どちらかに伸びた東西に長辺をもつ６本柱掘立柱建物跡の可能性も考えられる。

第２検出面はC－37～45グリッドの範囲で検出し、特にＣ－42～44グリッドで、炉跡、4本柱掘立柱建物跡などの住居跡が確認され、その南西側であるⅢ地区では遺構が検出されなかったことから、本遺跡南東側の端の遺構であると思われる。これは、後兼久原遺跡の範囲の端にあたる。全体の遺構の配列等はみられず、当時の様相は想定できなかったが、Ｃ－42～44グリッドを中心に北東側に生活空間が展開していたと思われる。遺物は青磁、白磁、染付、類須恵器などが出土しており、土器がほとんど出土しないことから、１５世紀頃と考えられる。（第32図）

第３検出面（18～21・溝3上面検出遺構）

Ｃ－27～43グリッドで第18・19・20・21・溝３上面で総数約300基のピット群が検出された。遺構としては土坑、掘立柱建物跡等が考えられたが、ピットの大きさ、深さと様々で、また調査範囲の幅が2.5mと狭いことから、明確なプランは確認できなかった。ピット内の覆土は基本的に上層の土が堆積しており、それに各ピットの検出層の土が１cm以下の粒として入って、分層できるピットも確認された。

以下、土坑、ピット群として、各遺構について述べる。

① 土 抗（第22・23・25・28・29図）

ピット271・298・480・521・535は方形状や不規則な形をしており、断面はピットの平面に比べて浅く規則性が見られず、土抗として捉えた。ピット271は方形状で長径約170cm、短径約90cm、深さは約50cmを測る。遺構内覆土は大きく3層に分かれ、約20～30cm大の石が数個入っていた。白磁玉縁碗片、褐釉陶器茶壺片が出土。ピット298は調査範囲より北側に伸びており全体は窺えないが不定形で、深さは25cm。遺構内直下に約20～30cm大の石が数個確認された。

② ピット群（第22～29図）

約300基余のピット群が検出された。特にＣ－29～32グリッドはピットが集中しており、重複しているピットも多い。これらのピット群は、Ｃ－27グリッドからＣ－42グリッドに向かい（北西→南東）、ピットの密集率が減っていくようにみられる。これは当時の遺跡の中心がC－27～34グリッドの範囲で、それより南東側は遺跡の端にあたり、ピット群が減少するのではないかと考えられる。今回の調査では、ピットの密集度や形態からＣ－27～34グリッド、Ｃ－34～37グリッド、Ｃ－38～42グリッドと大きく3つの範囲で捉えた。以下、順をおって述べる。

Ｃ－27～34グリッドでは、円形状で断面は柱穴の跡と思われる形状をしており、大小様々なパターンのピットが確認された。覆土の分層で柱痕と推察できるピット（pit290・316）や、柱を支えるために入れられたと思われる10～20cm大の石灰岩礫が検出されたピット（pit213・256・277・287・345・347・358・368・376・377）が確認できた。これらのピット群は掘立柱建物跡と考えられ、幾度かの建て替えや別の建物跡が重なったものと思われる。しかし、36m×2.5mと幅の狭い範囲からかなりの数のピットが

検出され、また後世に出来た溝2の影響で、ピットがみられなかった場所もあり、掘立柱建物跡の明確なプランは確認することができなかった。

Ｃ－34～37グリッドでもピットが切り合って検出された。円形状で直径約30cm前後、深さ約20cm前後の底が方形状のピットと、深さ約30cm前後の底が丸・方形状のピットの2パターンが主体で確認された。ピット149では柱痕と推察できる分層が確認でき、幅は約6cm前後で、その柱痕の下から柱として当時使用されたと思われる木片が検出された。今回、この柱材と考えられる木材を樹種同定した。その結果、木材はマツ属複維管束亜属と同定され、その中でもリュウキュゥマツかイヌマキであろうとのことである。これらのピット群も掘立柱建物跡や柵列状ピット群等を想定したが、明確なプラン・ラインは確認することができなかった。

Ｃ－38～42グリッドでは、直径約10～20cm、深さ約20cm前後で断面の底が丸・方形状の2パターンが主体でみられた。中には、断面が深く、掘立柱建物跡のピットと思われるものもあったが（pit171・173・174・514・516・517・520・522・528・533)、明確なプランは確認することができなかった。

第３検出面は、Ｃ－27～43グリッドと長い距離であり、またピットの形態が若干違うことなどから、時期に差がある、もしくは違う建物や位置をずらしての幾度かの建て替えがあったと思われる。その中でも、Ｃ－27～34グリッドはピットの密集が顕著で、切り合い関係の見られるピットが多数確認できたことから、当時の遺跡の中心、或いはその近辺であっただろうと思われる。遺物は青磁、白磁、染付、類須恵器、鍋・壺・浅鉢形土器などが出土しており、第２検出面よりは古いと思われるが、おおよそ１５世紀頃の遺構面だと考えられる（第31・32図)。

溝状遺構

Ⅱ地区では、川跡と思われる溝状遺構が大きく４つ検出された。全ての溝状遺構が、調査区の南北を通って検出されており、北側が丘陵状の地形をしていることから、北側から南側に向かって流れていた川だと思われる。以下、各溝状遺構について述べる。尚、検出面ではない層を切っている溝状遺構もあり、それらはセクション図のみで記載した。

溝　１（第14図）

Ｃ－26・27グリッドでコンクリート及び表土を剥いですぐ地山が検出し、その地山を切って溝１が検出した。溝の位置や分層で３つに分けたが、流れ込みの影響で遺物はグスク土器から近世陶磁器と入り混じって出し、近世以降の遺構だと思われる。

溝　２（第15図）

Ｃ－32・33グリッドで大きく４層に分け、その中の溝２－２は他の遺構と解釈し、よって溝２は大きく３時期の川跡として検出された（溝２－１・３・４)。溝２－１は第4層と第6層を切って検出。北側にある丘陵上から、水の流れとともに流れ込んだ約30cm大の石灰岩が溝の底周辺に多数散らばって検出された(第31図)。遺物が溝２の中では、一番多く出土しており、おおよそ15世紀頃だと思われる。溝２－３は溝２－２に切られていたが、おそらく第７層を切っての検出と思われる。溝２-４は第21層を切って検出。北側にある丘陵上から、水の流れとともに流れ込んだ約30cm大の石灰岩が多数散らばって検出された。

溝　３（第16図）

Ｃ－34～36グリッドで第３検出面より下から検出。遺物もグスク土器、類須恵器を主体に出土し、陶磁器がほとんど出土しなかったことから、Ⅱ地区では一番古い時期の川跡と思われる（第31図)。遺物は他の出土状況に比べ、残りがよく、形状の解る大きな破片で出土していた。溝の上部約20cmのところで人骨が出土。しかし、川跡の中での出土であり、埋葬遺構とは違い規則性がなく、散らばった状態で出土した。人骨についての詳細は第Ⅴ章に譲る。

溝　４（第16・17図）

Ｃ－37～40グリッドで第3検出面より下から検出。遺物がほとんど出土しなかったため、時期は不明である。しかし、西北西から東南東に流れていたと思われることから、或いは調査区よりも北側で溝３と合流する支流の川跡で、同時期の可能性もある。

第３節　Ⅲ 地区

Ⅲ地区もⅠ・Ⅱ地区同様に、造成土及び近世の層を断面及び平面で確認した後、包含層と思われる層から発掘調査を開始し、層序は手掘りによる発掘調査開始面を第１層とした。

しかし、Ⅲ地区は調査の結果、遺構は検出されず、２つの溝跡が確認されたのみである。遺物は近世からグスク時代にかけてのものが第１層、溝跡から混在した状況で出土していて、近世以降の流れ込みの堆積層と判明した。

Ⅲ地区セクション図、平面図を割愛し、セクションの注記のみを記載する。

層　序

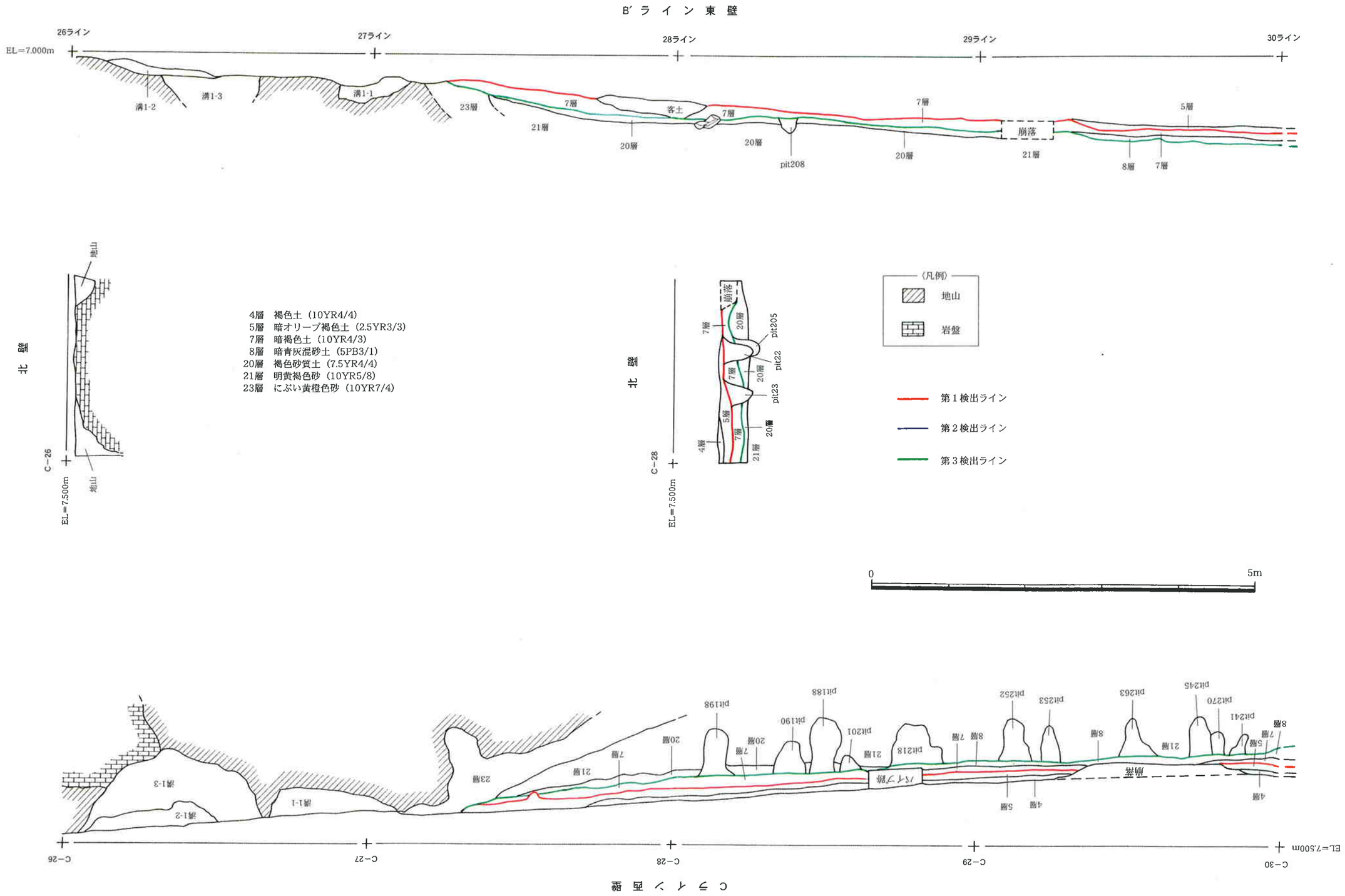
第１層　オリーブ黒色土（5Y3／2）。溝１・２が検出された。陶磁器などが出土したが、グスク時代から近世と時代に統一性がなく、近世以降の流れ込みなどの撹乱層と思われる。溝１・２は当時の川跡と思われる。

第２層　オリーブ褐色土（2.5Y4／6）。

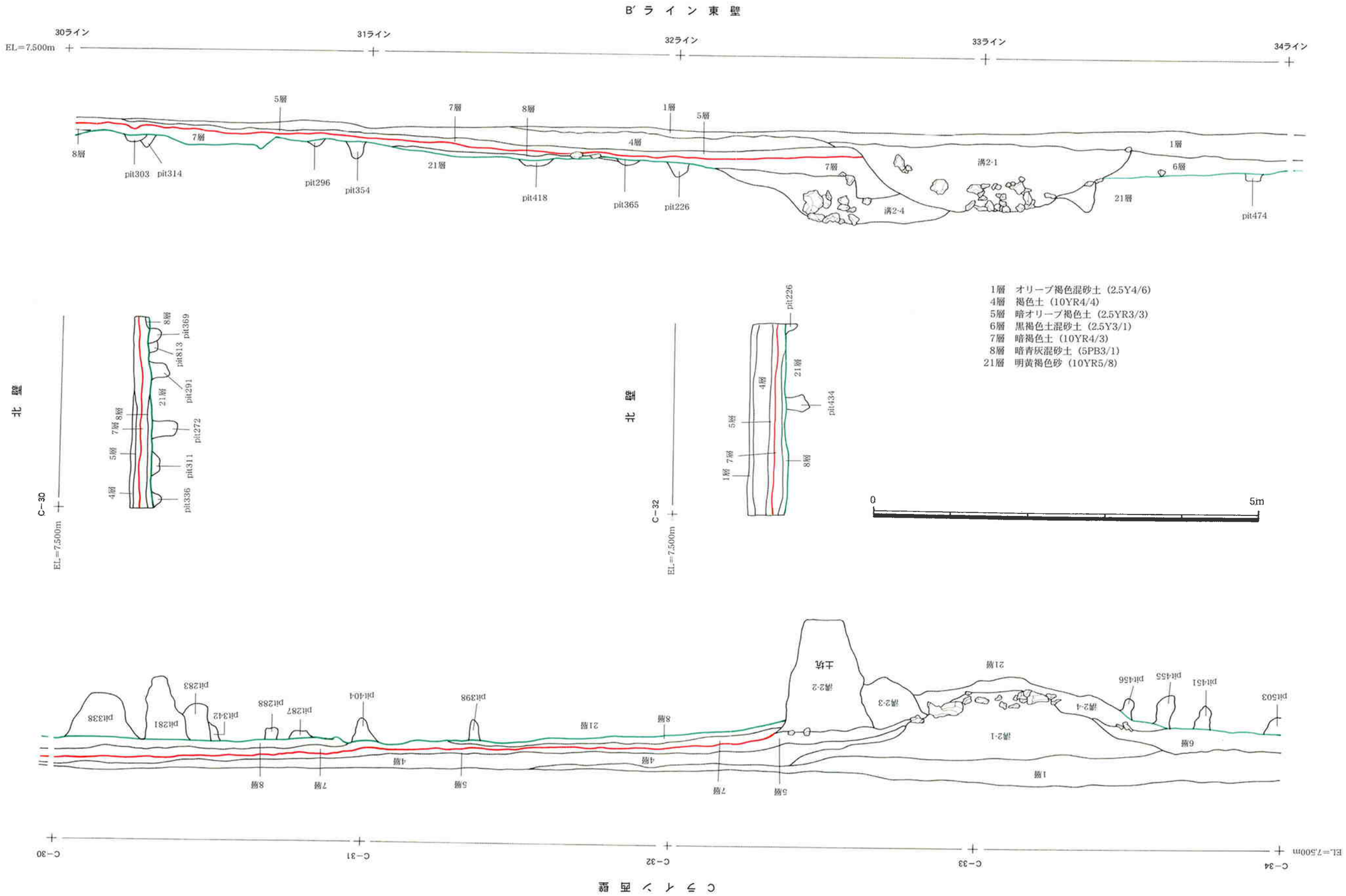
第３層　黄褐色土（2.5Y5／4）。

第４層　緑灰色砂（10Y6／1）。

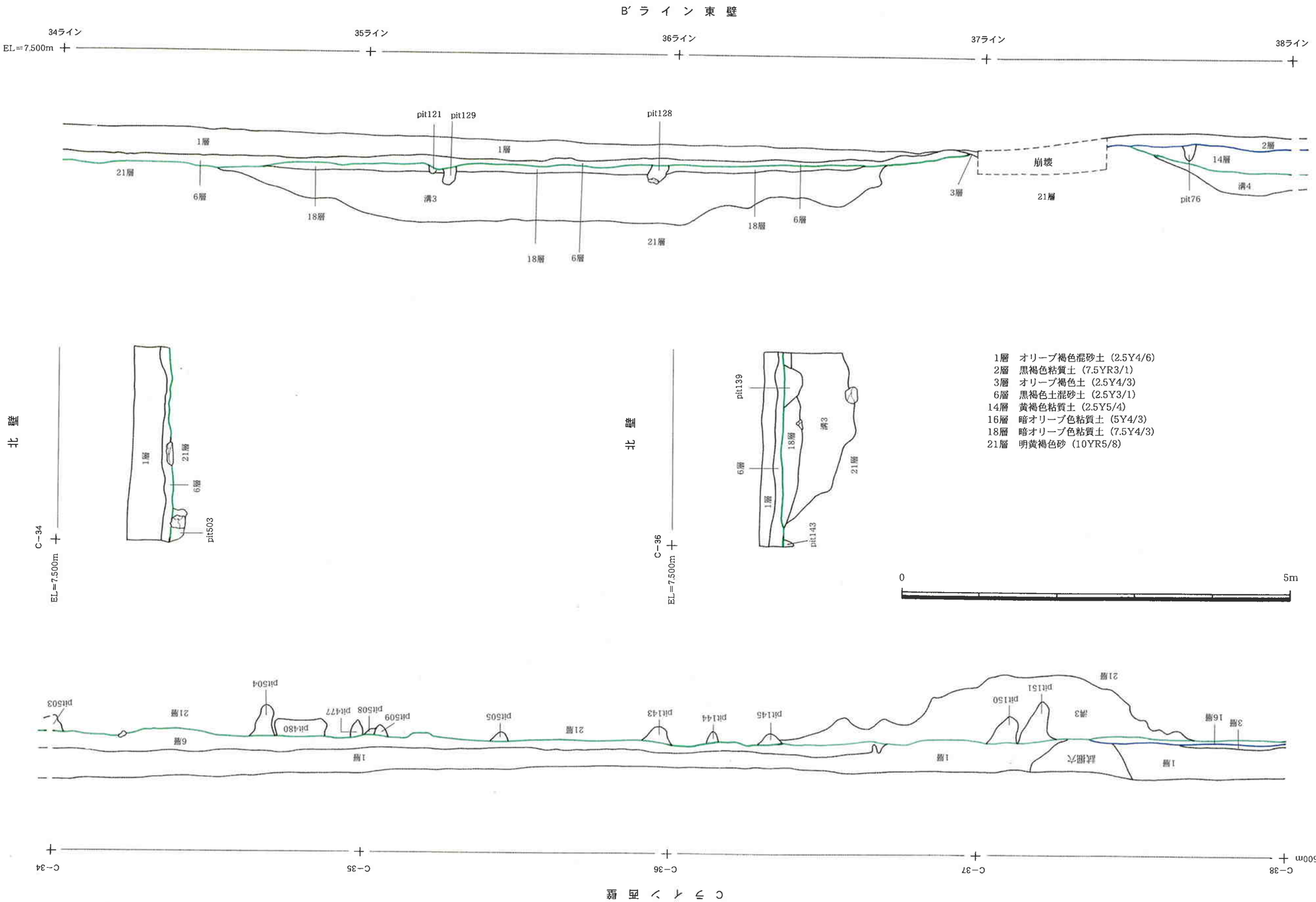
第５層　青灰色粘質土（10BG6／1）。



第14図　Ⅱ地区セクション１

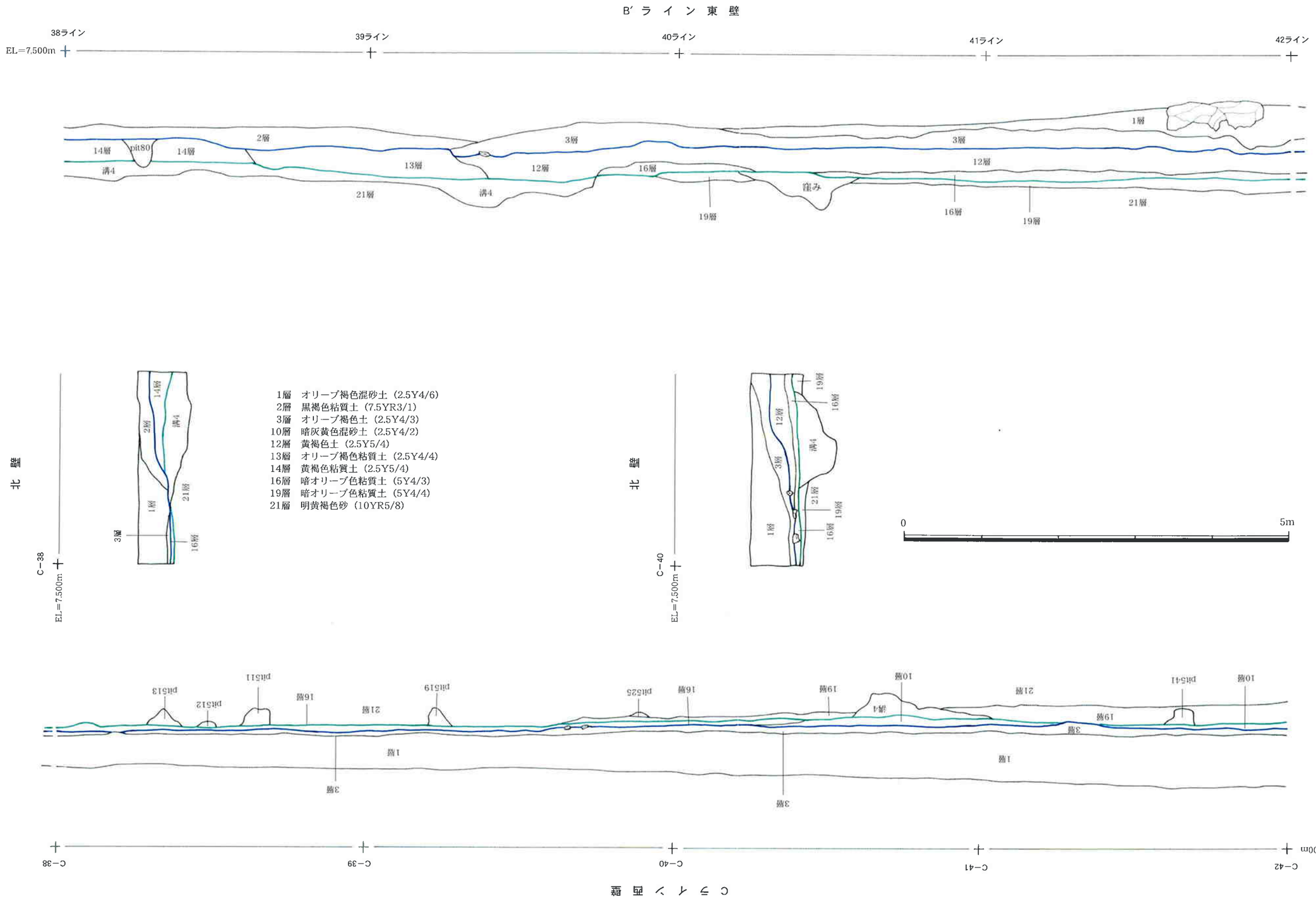


第15図　Ⅱ地区セクション2



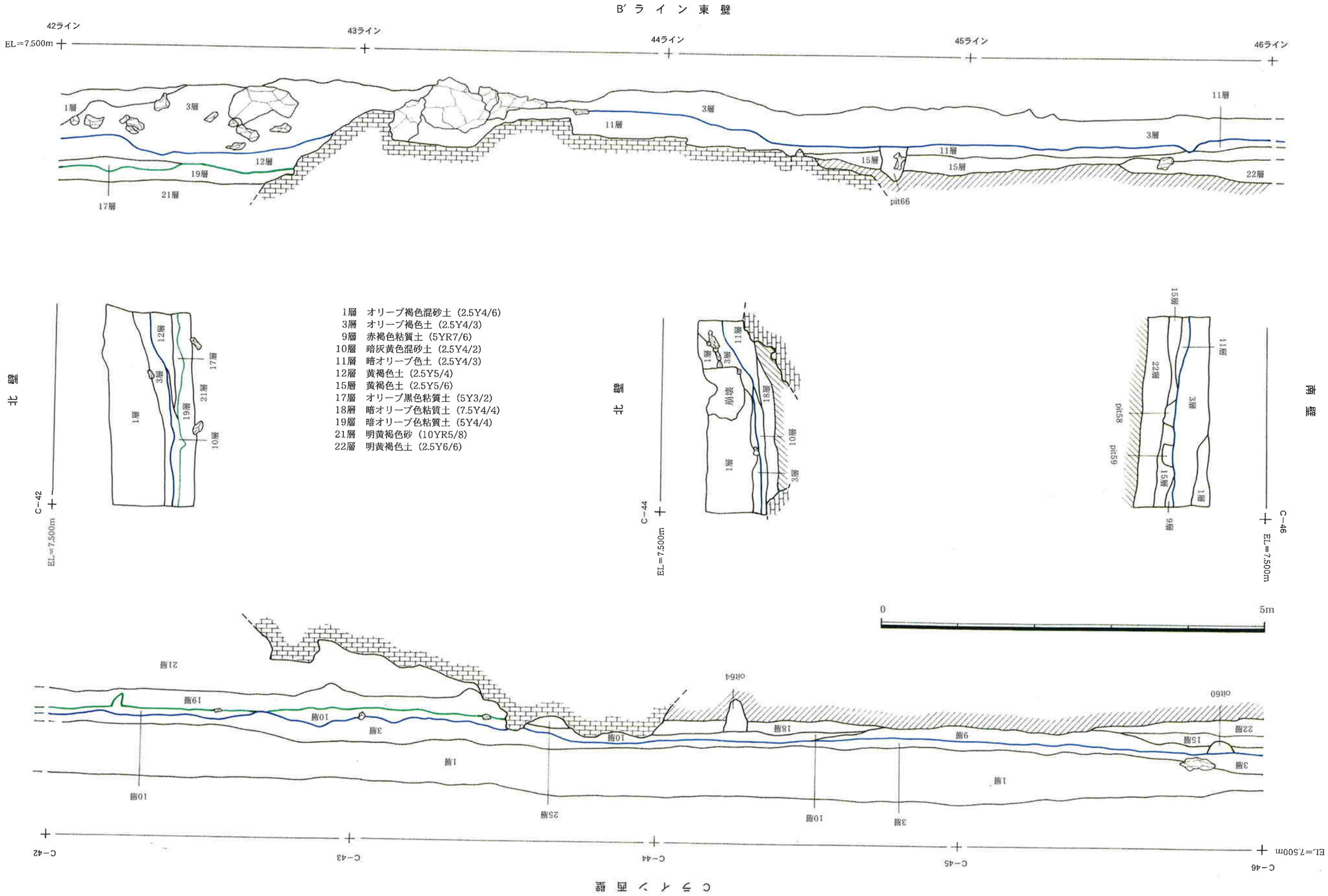
1層　オリーブ褐色混砂土（2.5Y4/6）
2層　黒褐色粘質土（7.5YR3/1）
3層　オリーブ褐色土（2.5Y4/3）
6層　黒褐色土混砂土（2.5Y3/1）
14層　黄褐色粘質土（2.5Y5/4）
16層　暗オリーブ色粘質土（5Y4/3）
18層　暗オリーブ色粘質土（7.5Y4/3）
21層　明黄褐色砂（10YR5/8）

第16図　Ⅱ地区セクション３



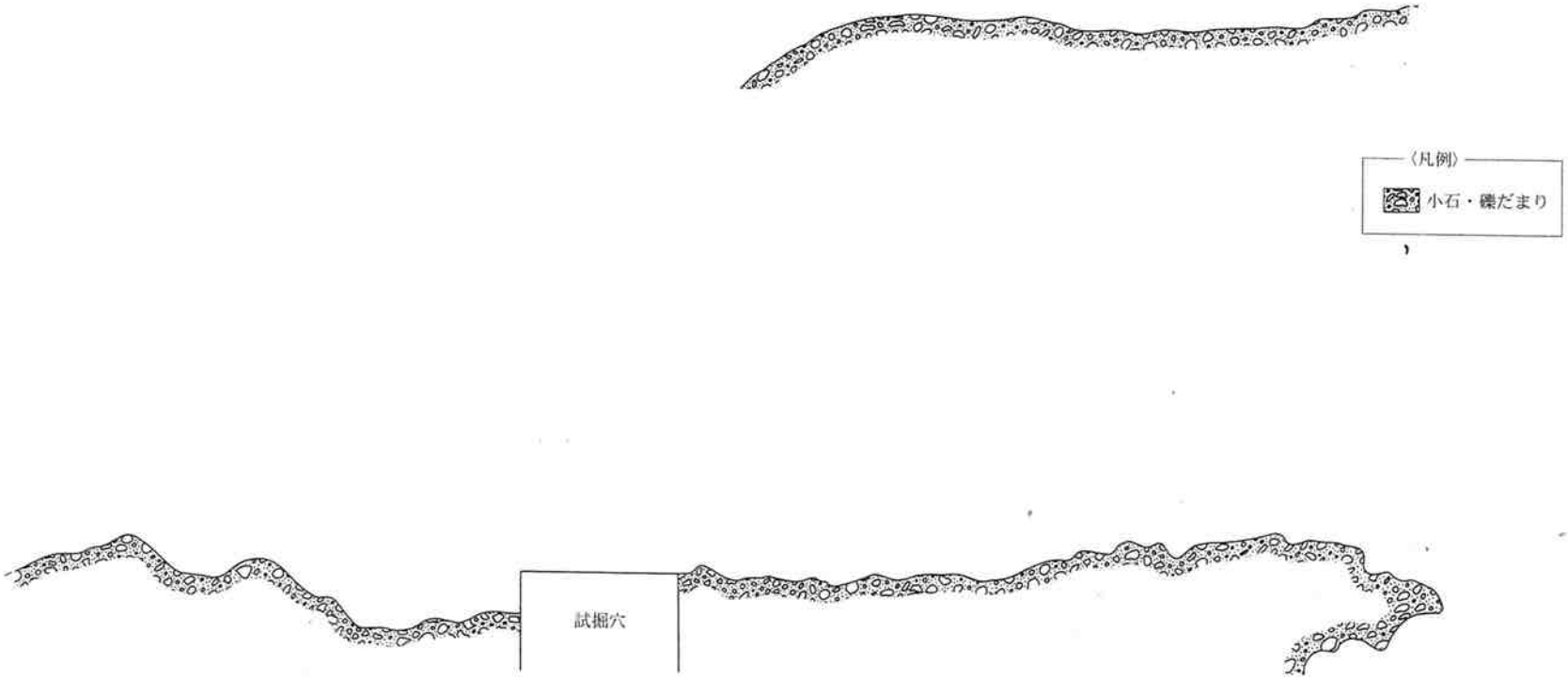
1層　オリーブ褐色混砂土（2.5Y4/6）
2層　黒褐色粘質土（7.5YR3/1）
3層　オリーブ褐色土（2.5Y4/3）
10層　暗灰黄色混砂土（2.5Y4/2）
12層　黄褐色土（2.5Y5/4）
13層　オリーブ褐色粘質土（2.5Y4/4）
14層　黄褐色粘質土（2.5Y5/4）
16層　暗オリーブ色粘質土（5Y4/3）
19層　暗オリーブ色粘質土（5Y4/4）
21層　明黄褐色砂（10YR5/8）

第17図　Ⅱ地区セクション４

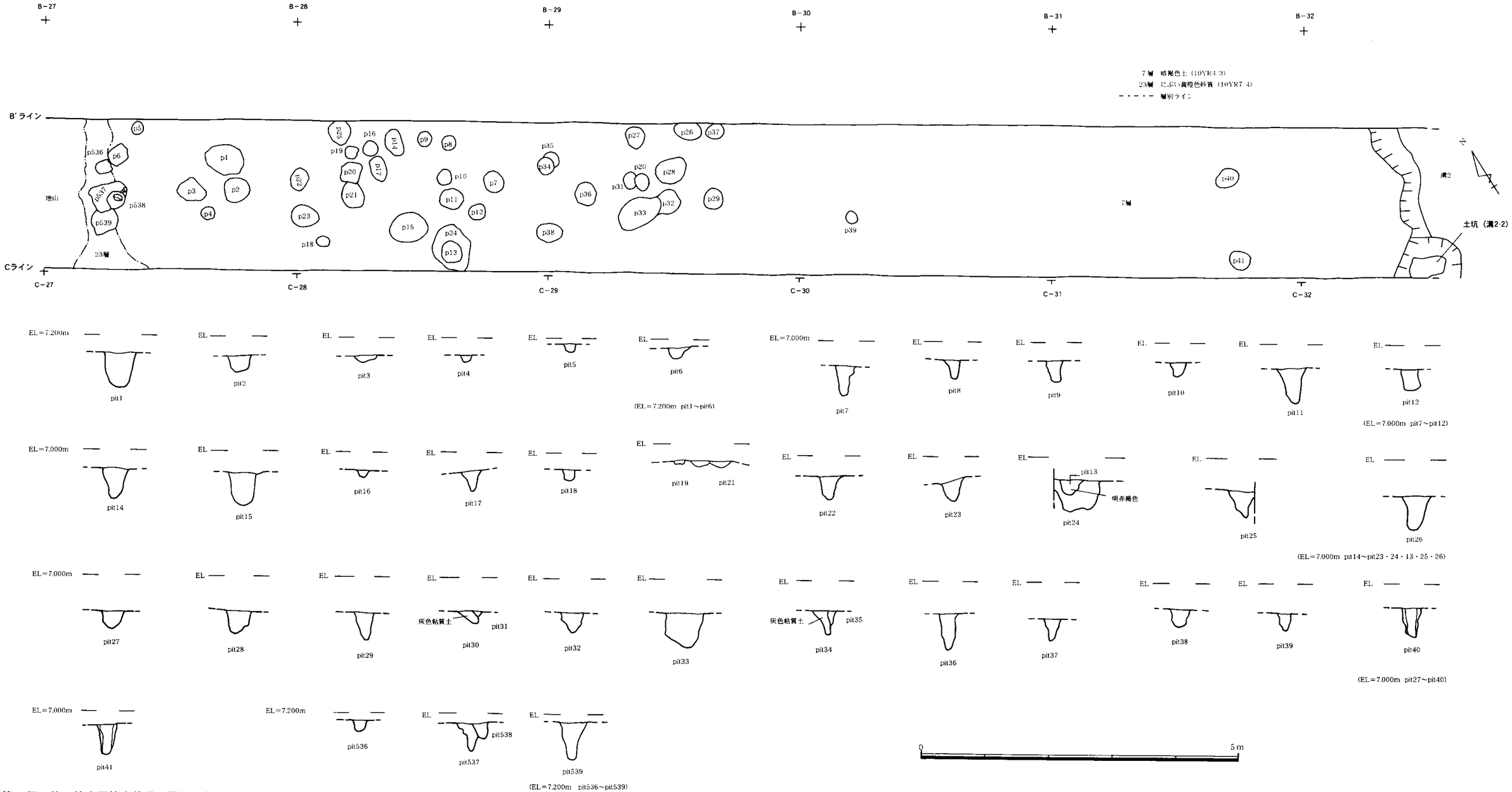


1層　オリーブ褐色混砂土（2.5Y4/6）
3層　オリーブ褐色土（2.5Y4/3）
9層　赤褐色粘質土（5YR7/6）
10層　暗灰黄色混砂土（2.5Y4/2）
11層　暗オリーブ色土（2.5Y4/3）
12層　黄褐色土（2.5Y5/4）
15層　黄褐色土（2.5Y5/6）
17層　オリーブ黒色粘質土（5Y3/2）
18層　暗オリーブ色粘質土（7.5Y4/4）
19層　暗オリーブ色粘質土（5Y4/4）
21層　明黄褐色砂（10YR5/8）
22層　明黄褐色土（2.5Y6/6）

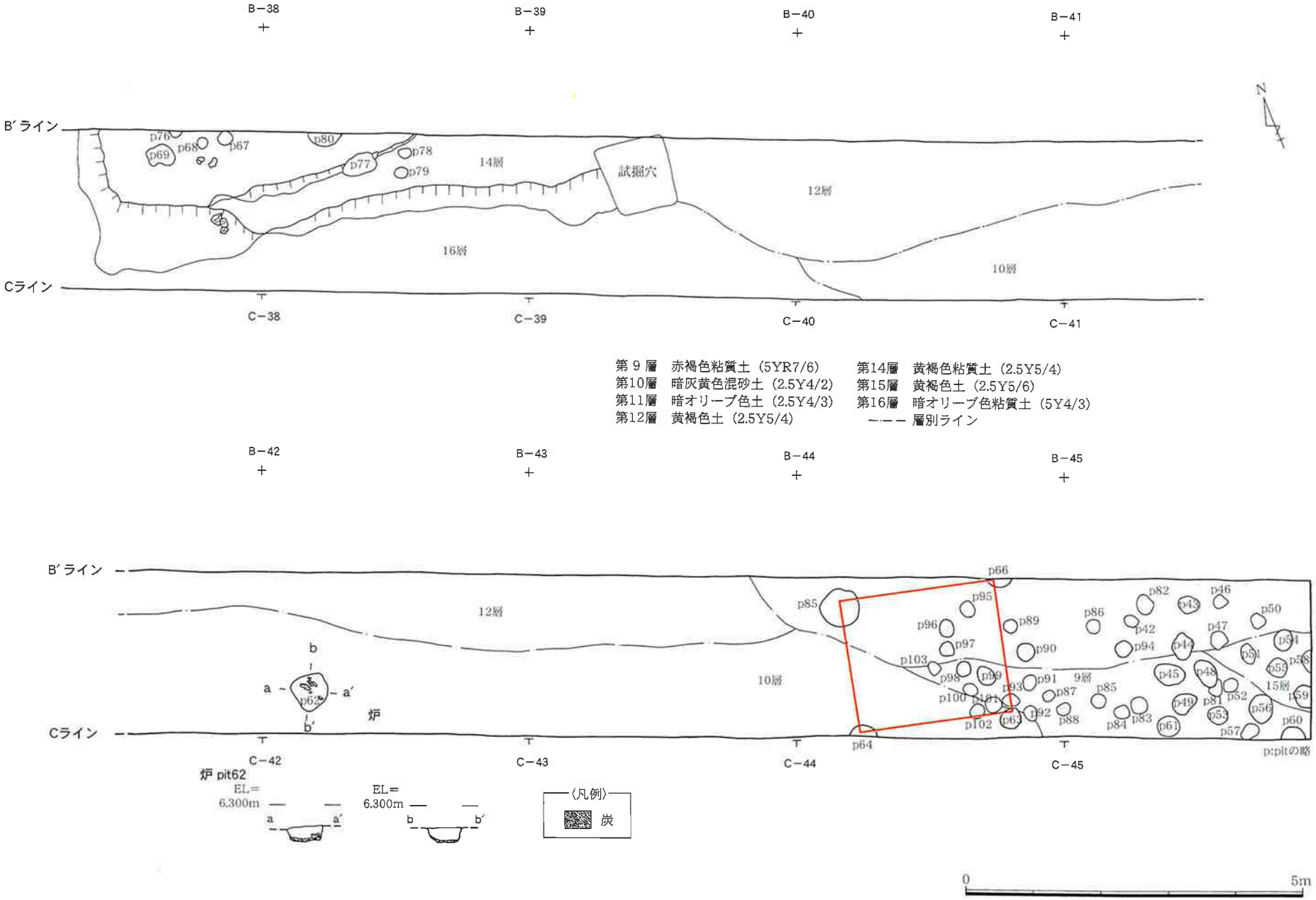
第18図　Ⅱ地区セクション5



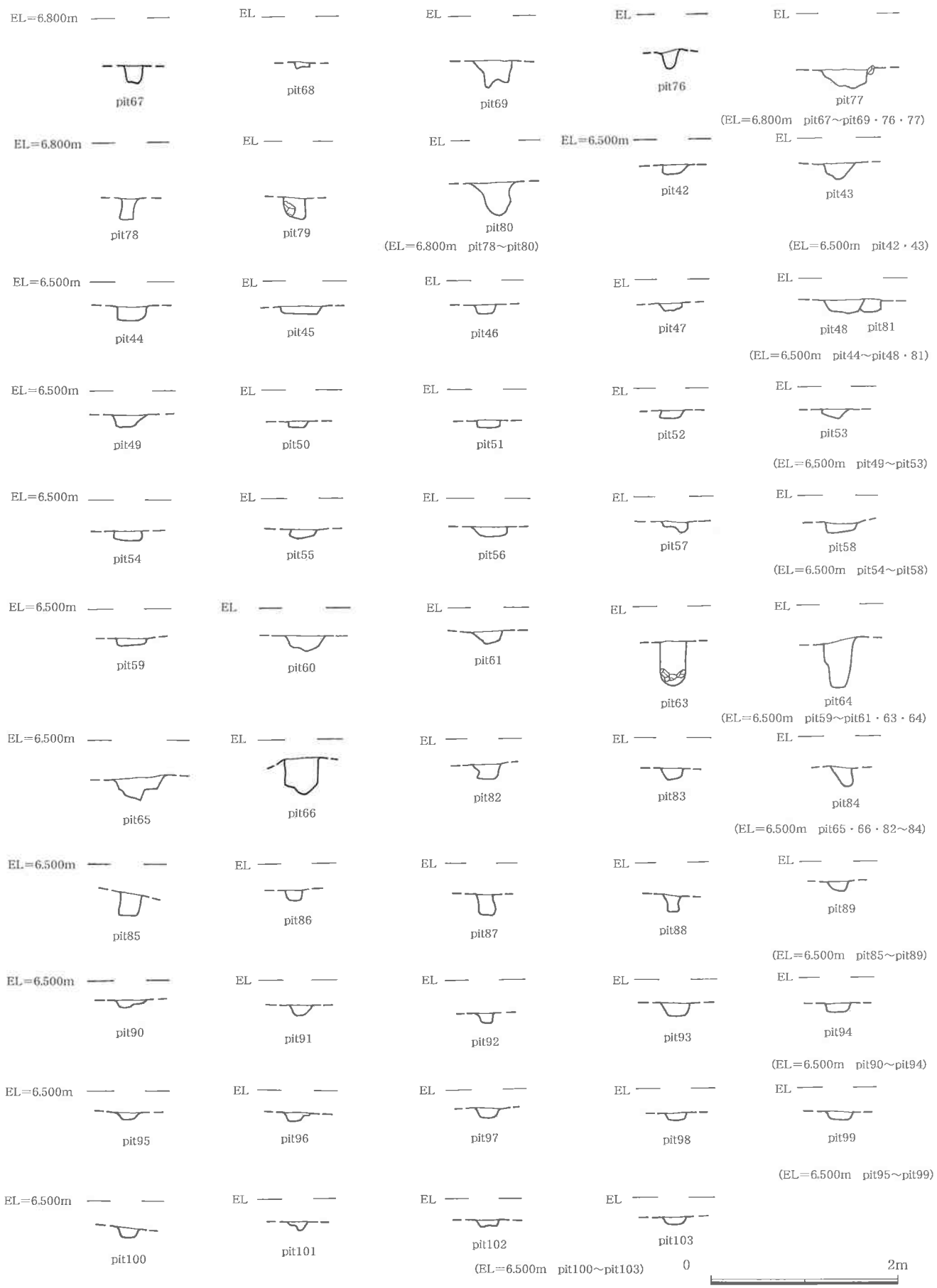
第２検出面検出前



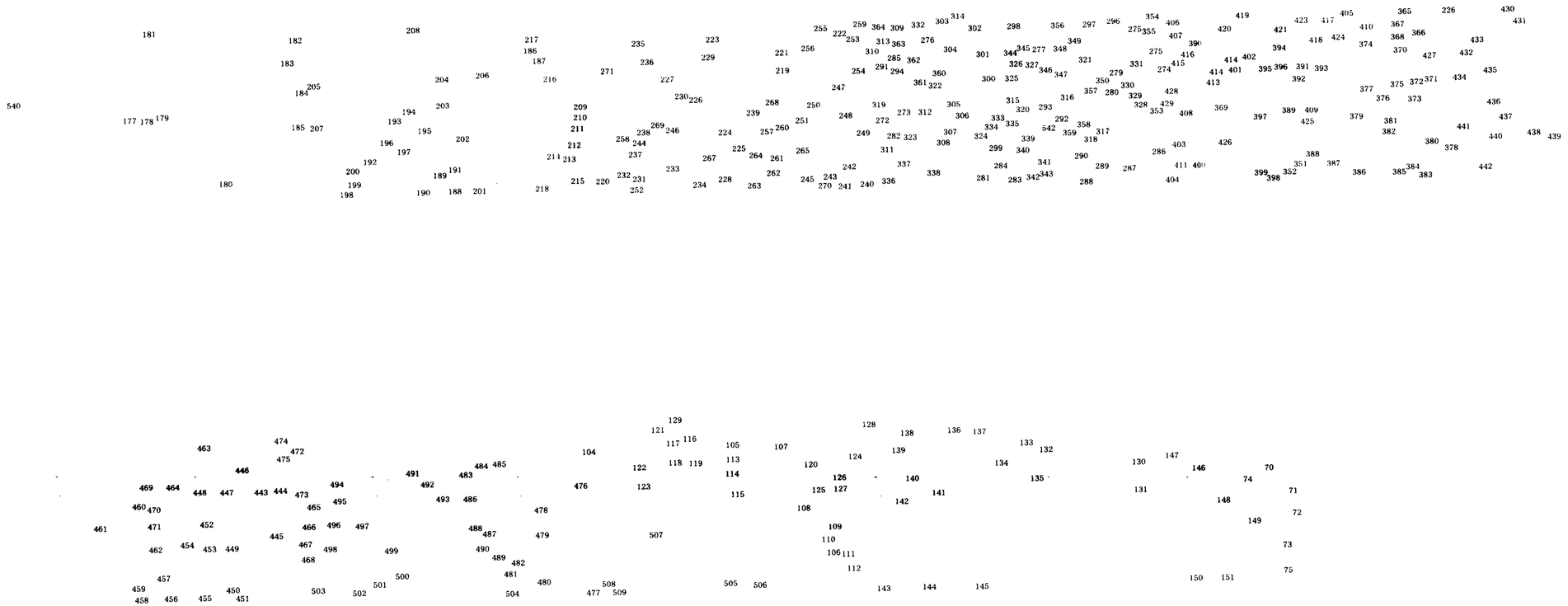
第19図　第１検出面検出状況（平面・断面）

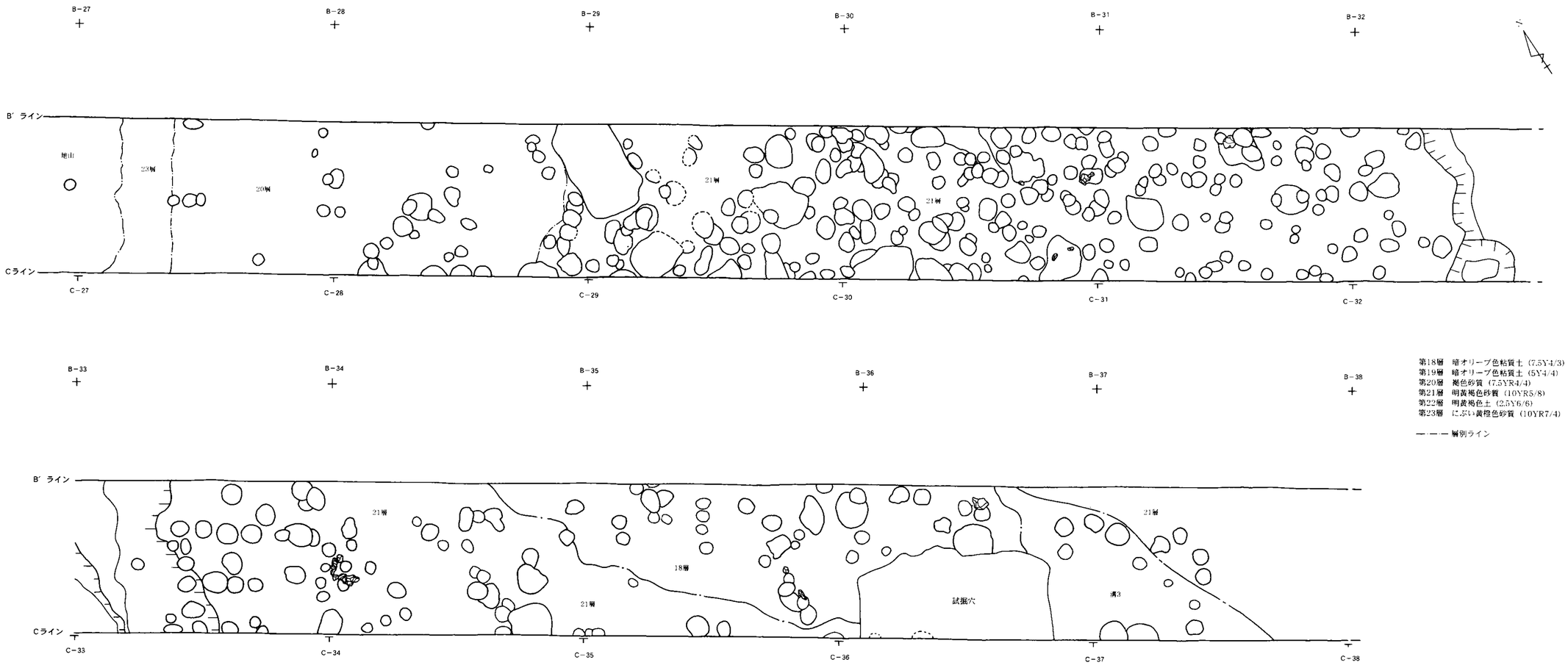


第20図　第２検出面検出状況（平面）及び炉跡断面



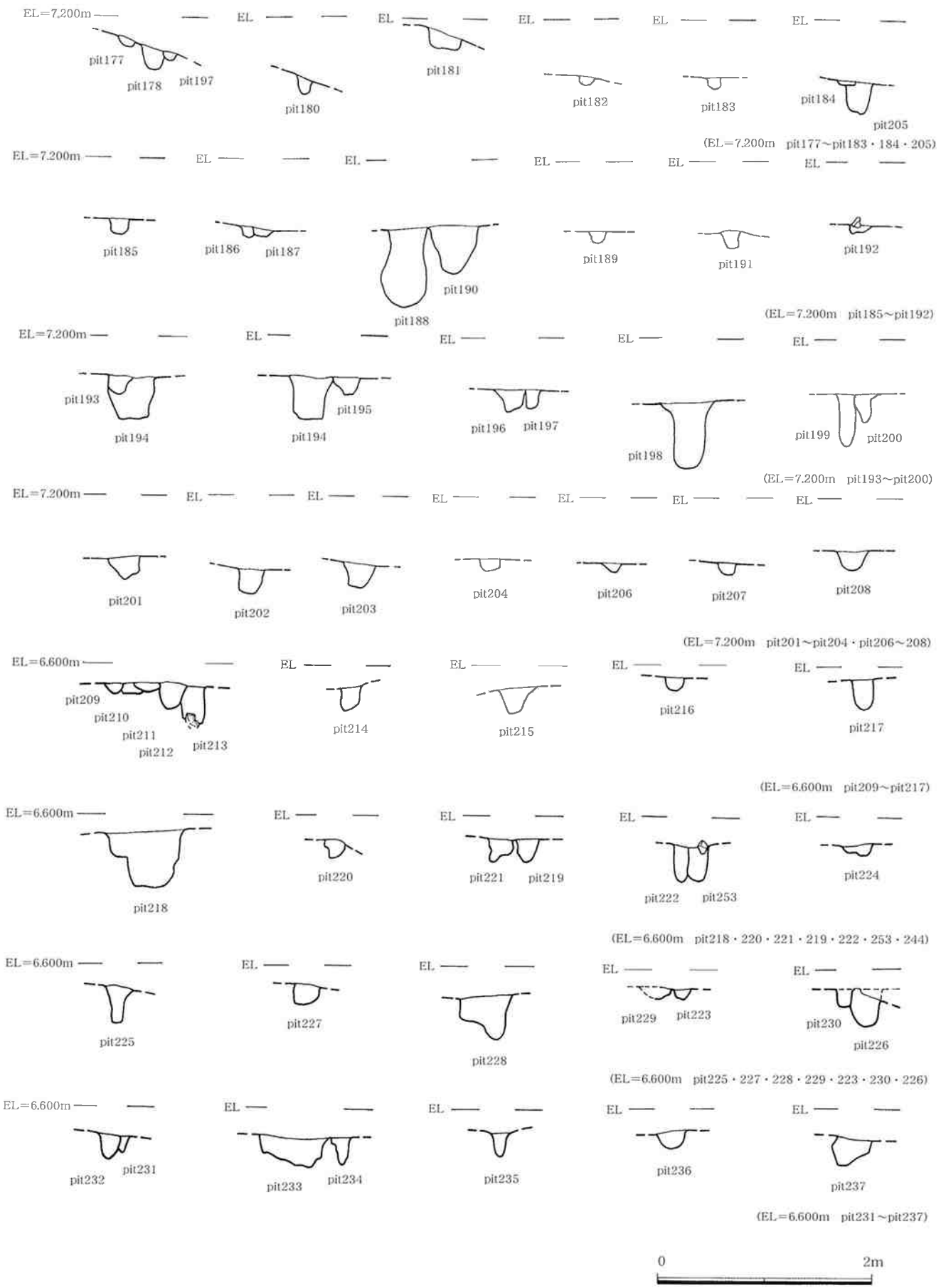
第21図　第２検出面検出ピット断面



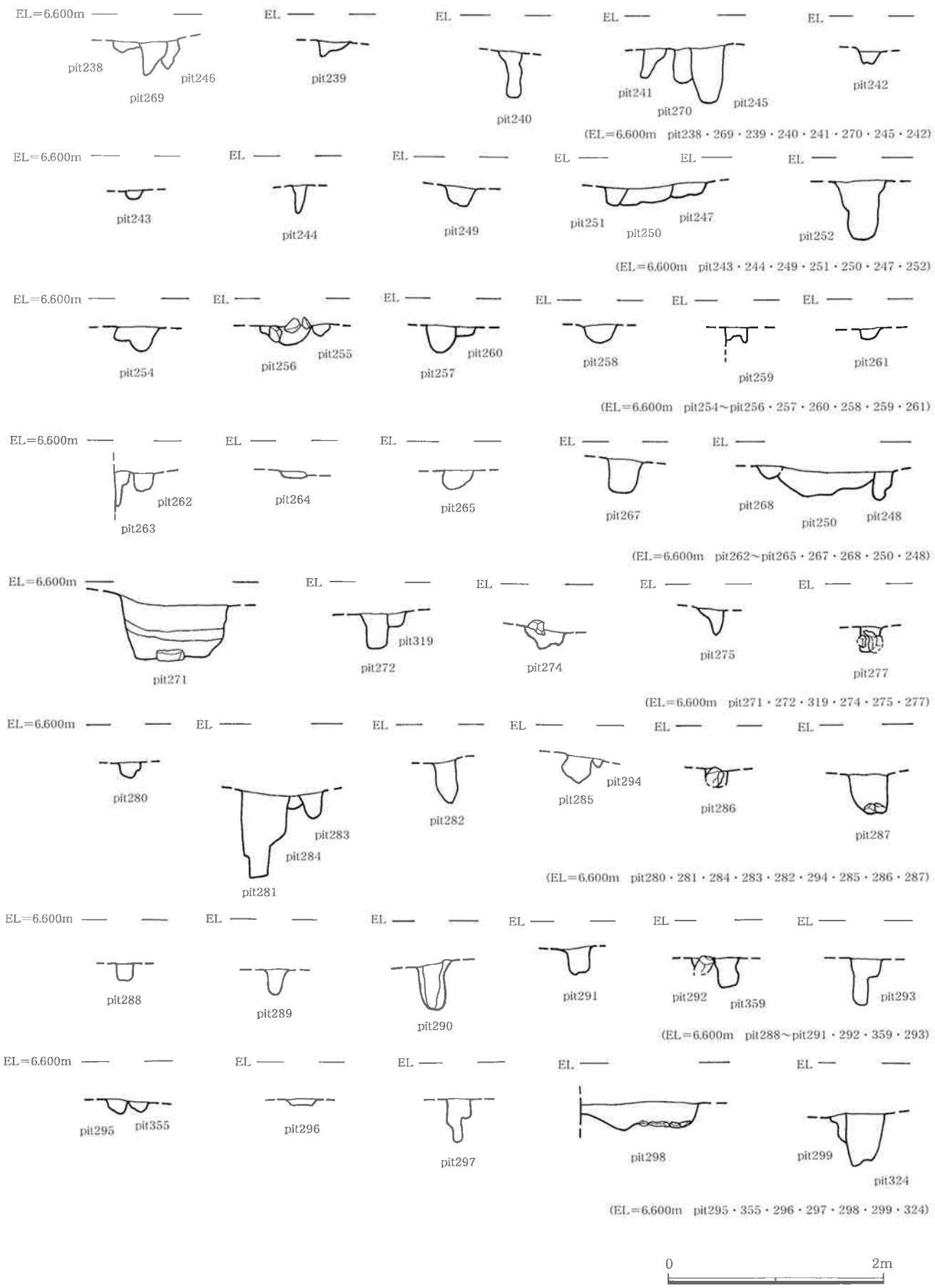


第22図　第３検出面検出状況（平面１）

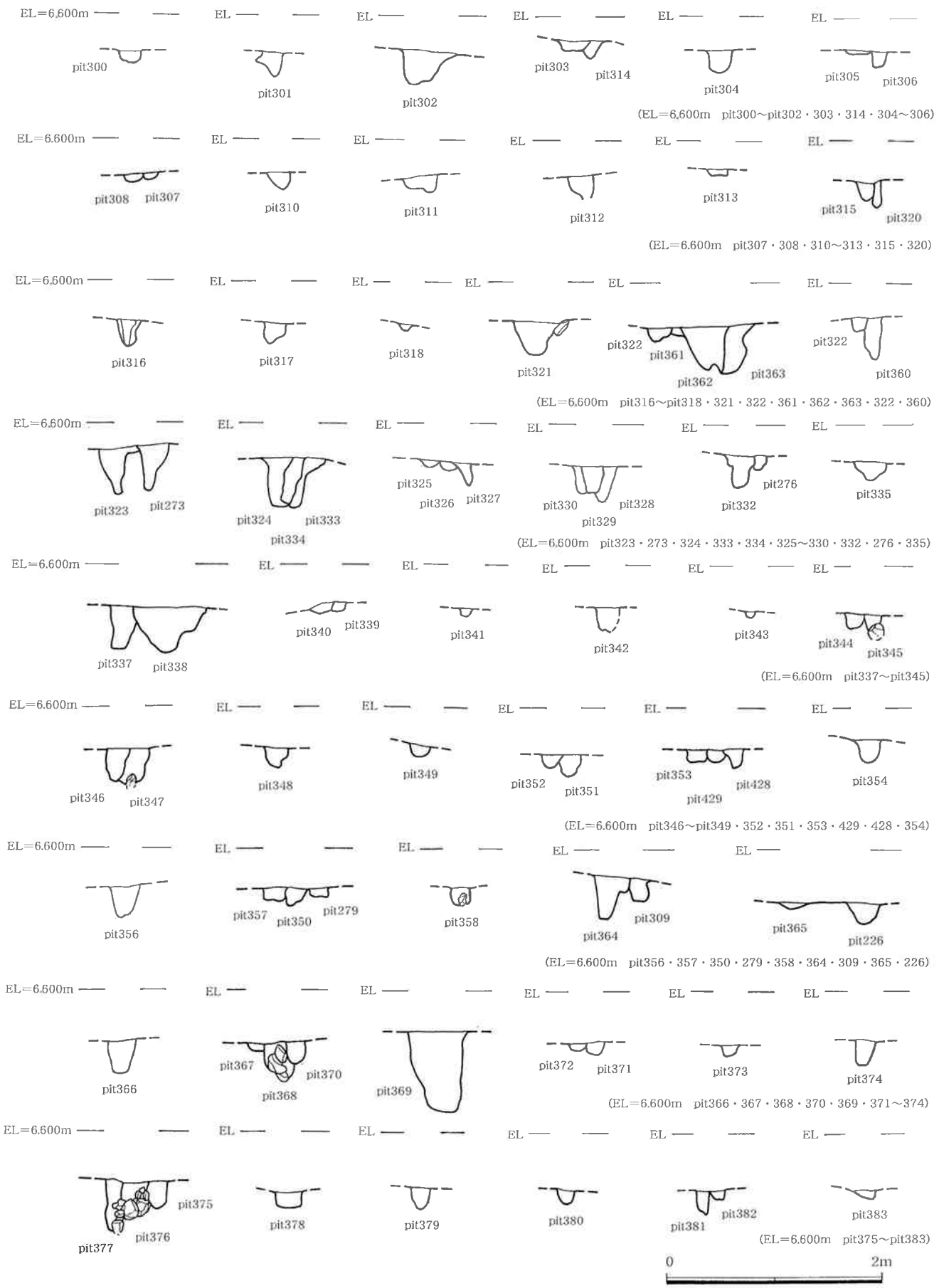
第23図　第３検出面検出状況（平面２・断面１）



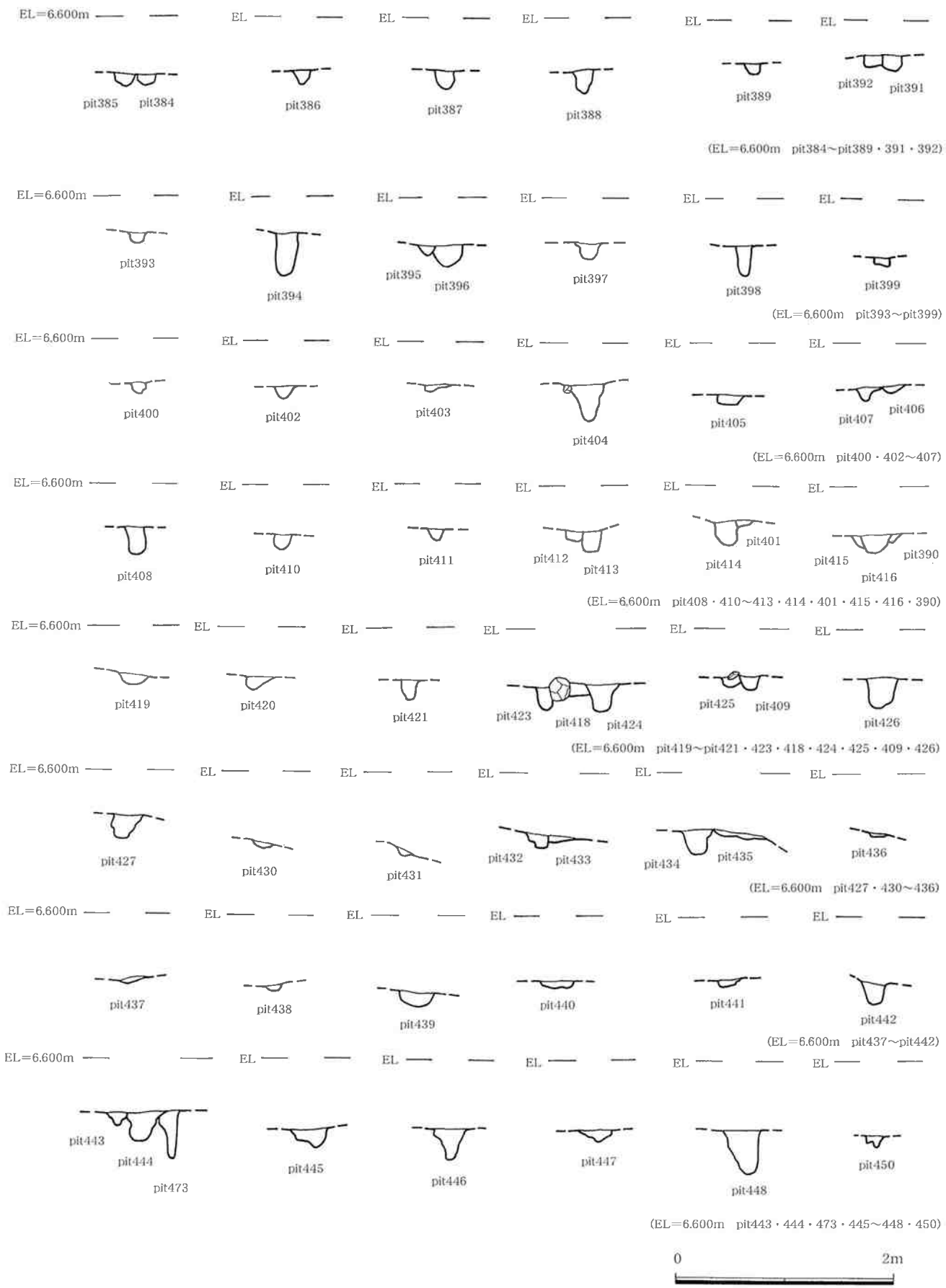
第24図　第３検出面検出状況（断面２）



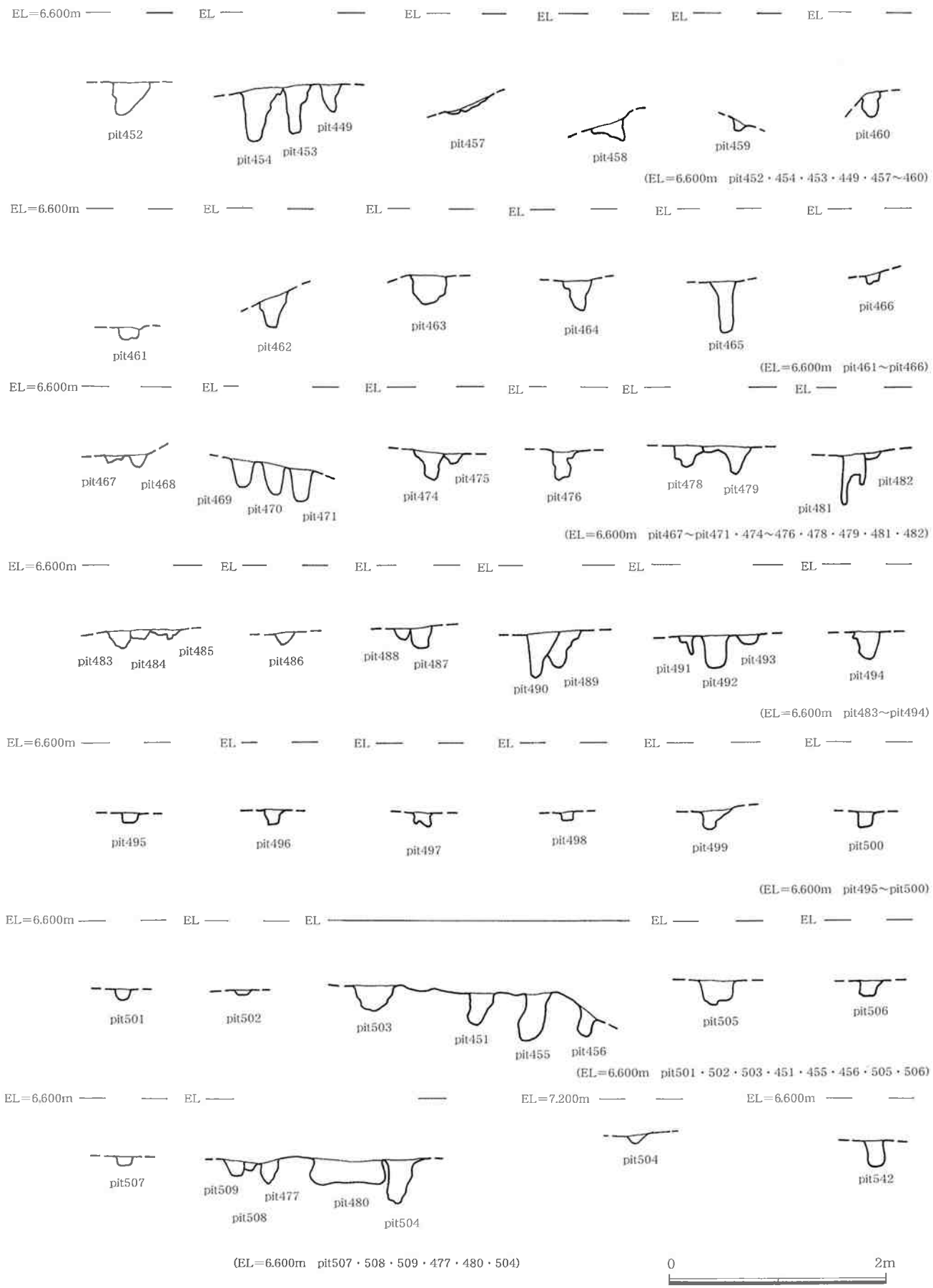
第25図　第３検出面検出状況（断面３）



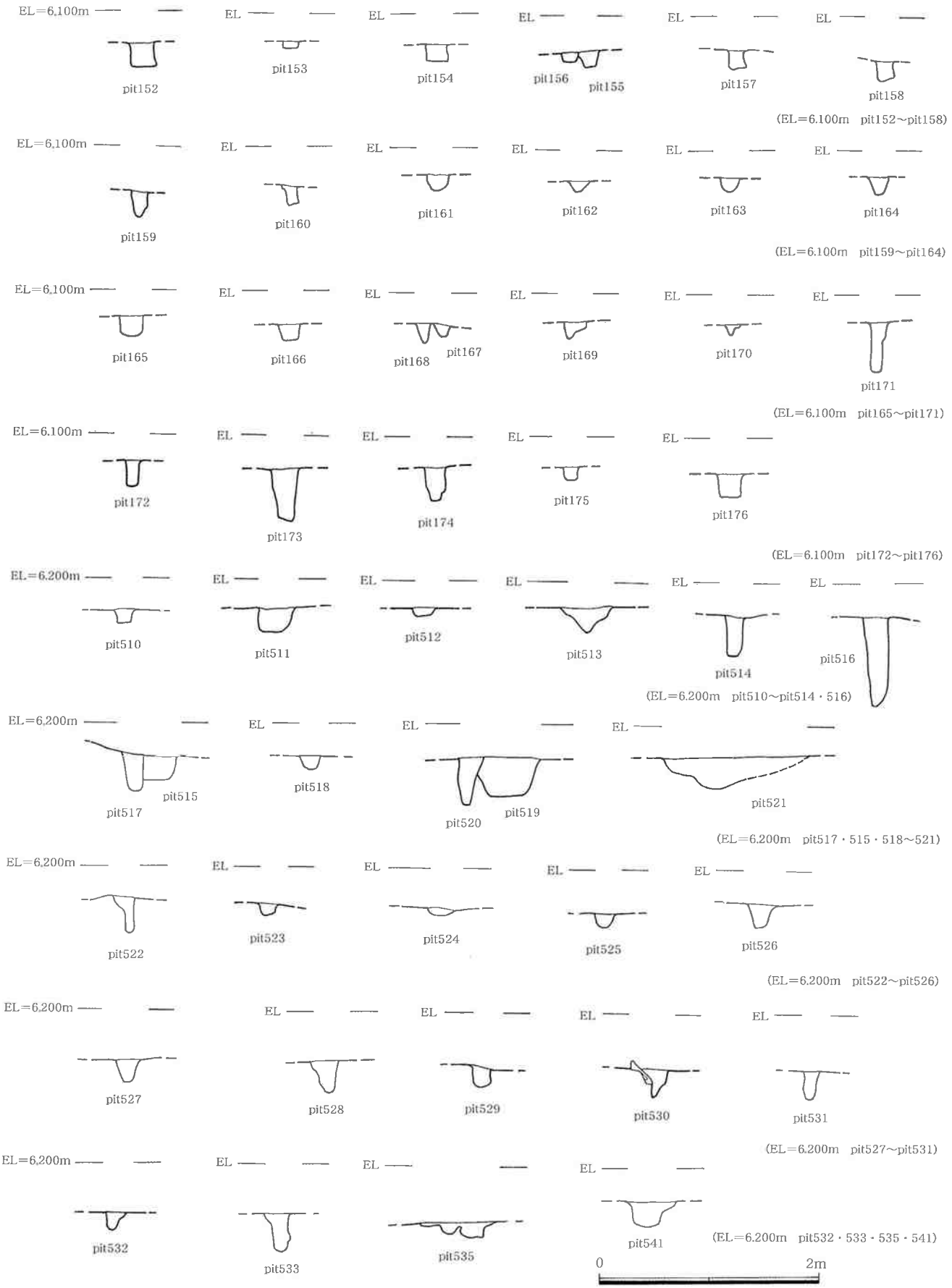
第26図　第３検出面検出状況（断面４）



第27図　第３検出面検出状況（断面５）



第28図　第３検出面検出状況（断面６）



第29図　第３検出面検出状況（断面７）

第4章　出　土　遺　物

遺物は青磁、白磁、染付、天目、褐釉陶器、本土産陶器、土器、カムィヤキ、石器、滑石製品・転用品、玉、銭貨、鉄製品、骨製品、貝類、脊椎動物遺体、人骨が出土した。層位に注意した調査を実施したため各遺物の層位が明確であり、下層から上層にいくにしたがって、古い遺物から新しい遺物が出土する傾向が認められ、検出遺構とあわせて考慮することで、およそ３時期に及ぶことがわかった。

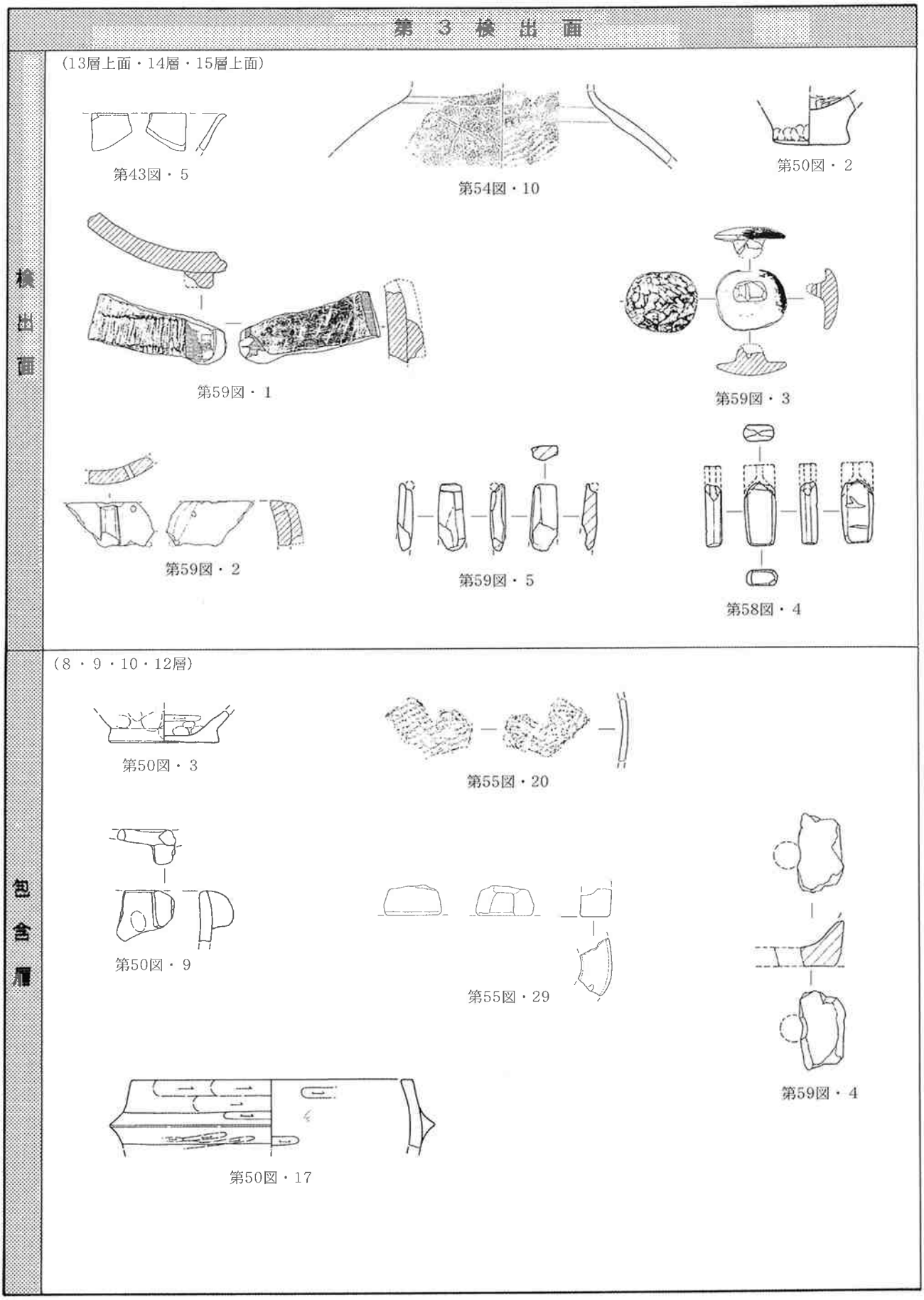
第30図から第33図は各地区とその遺構面・遺物包含層から出土した主な遺物をまとめたものである。層位や検出面は各地区毎に異なることは注意してほしい。

Ⅰ地区は第１検出面から第３検出面まである。第１検出面は３ｂ層上面が検出面であり、３ａ層がそれに伴う遺物包含層であるが、調査では３層を一括として遺物をとりあげた。第２検出面は７・９・11層上面で確認され、５層がそれに伴う遺物包含層である。第３検出面は今回の調査で最も古い時期で、13層～15層上面で検出され、８～12層がそれに伴う遺物包含層である。

Ⅱ地区も第１検出面から第３検出面まであるが、Ⅰ地区とは別の時期からなる。第１検出面は今回の調査で最も新しい時期に属し、７層上面で検出され、５層がそれに伴う遺物包含層である。第２検出面は10・11・14・15層上面が検出面で、２・３層がそれに伴う遺物包含層である。第３検出面は18層～21層上面で検出され、６・７・８・10・12・14・16層がそれに伴う遺物包含層である。

Ⅰ地区で最も新しいと考えられる第１検出面と、Ⅱ地区で最も古いと考えられる第３検出面は遺構と遺物の様相から同時期のものと考えられる。Ⅲ地区では遺構は確認されず遺物も若干程度であったため、当該遺跡がⅢ地区まで展開していないことがわかった。

第34図～第63図は遺物を種類毎にまとめたもので、Ⅰ地区の出土遺物を前半に図示し、Ⅱ地区の出土遺物を後半に図示した。分類概念及び記述はⅠ地区・Ⅱ地区ともに統一している。Ⅲ地区の遺物については特徴的なものを除き、図化や文章での記述については割愛した。



第30図　Ⅰ地区検出面別出土遺物

第2検出面

(7・9・11・12層上面)

第34図・9
第43図・8
第50図・16

(3・5層)

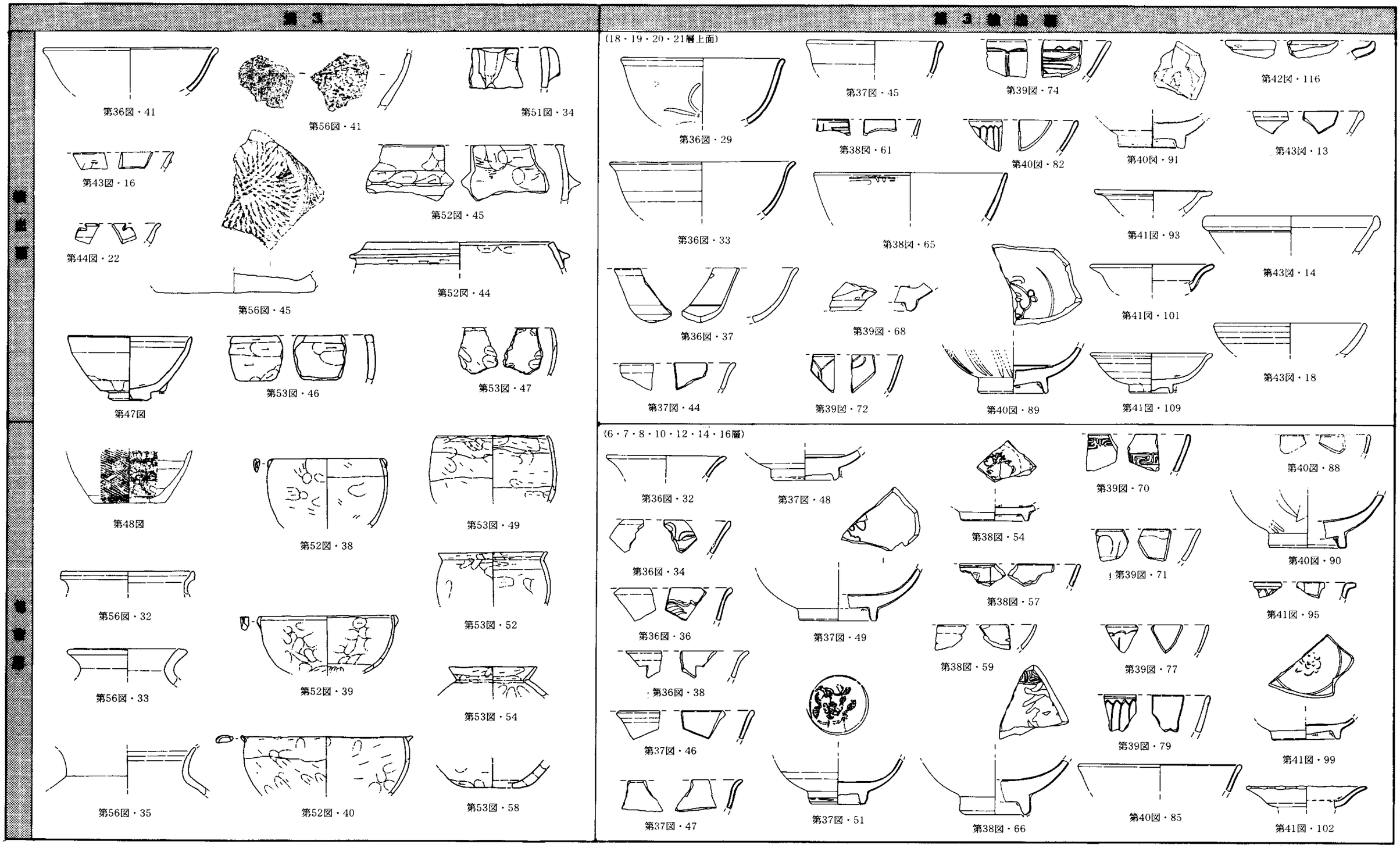
第34図・2
第54図・2
第54図・11
第50図・8

第1検出面（3層）

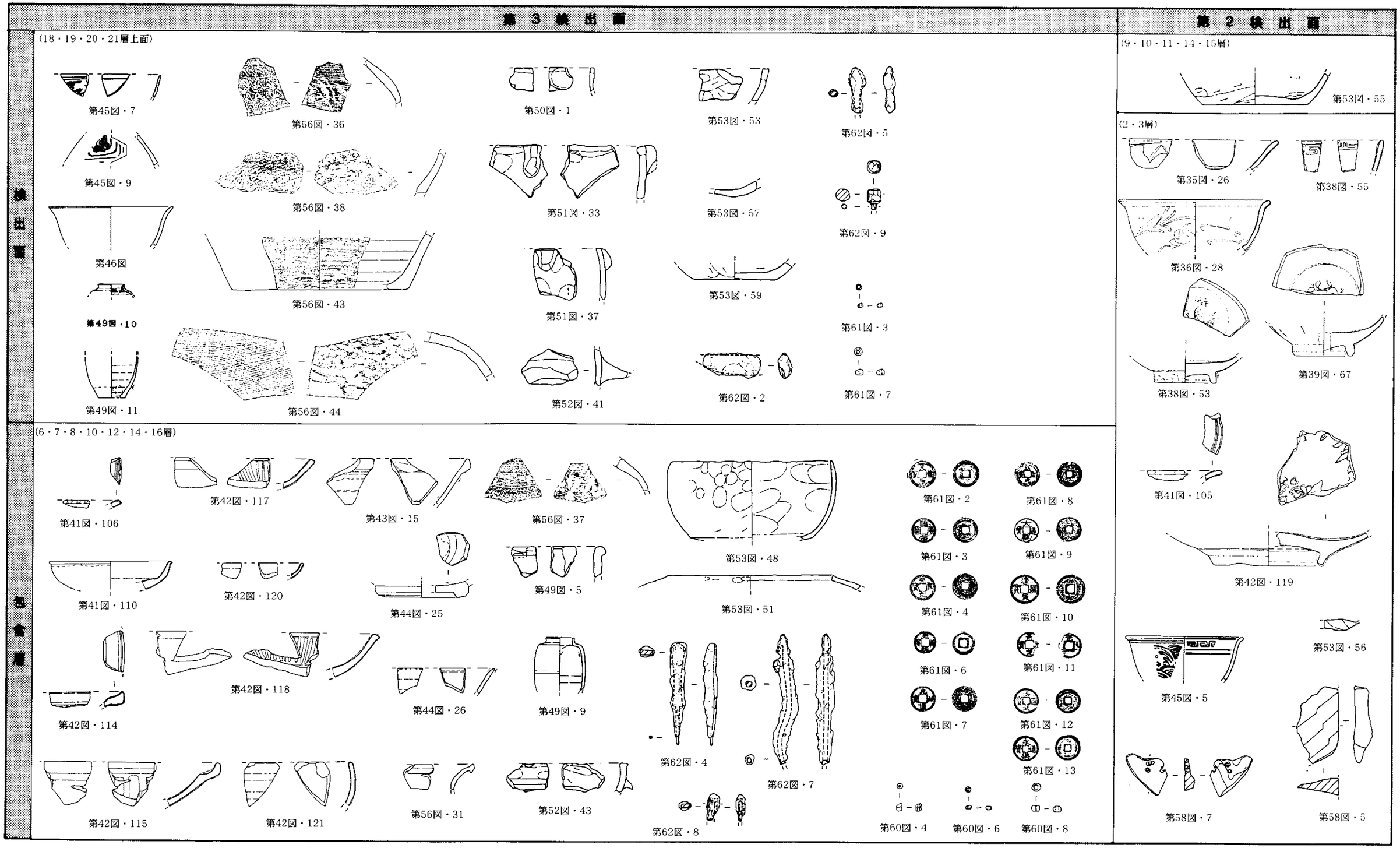
第34図・1
第34図・6
第34図・7
第34図・8
第34図・10
第35図・12
第35図・13
第35図・14
第43図
第35図・16
第35図・17
第35図・20
第35図・21
第43図・1
第43図・2
第43図・7
第43図・9
第43図・11
第45図・1
第45図・2
第45図・3
第50図・4
第50図・7
第50図・11
第50図・15
第50図・18
第50図・20
第51図・21
第51図・28
第51図・29
第51図・31
第51図・32
第51図・23
第54図・1
第54図・4
第54図・8
第54図・9
第54図・12
第54図・14
第55図・16
第55図・19
第55図・21
第55図・22
第55図・23
第55図・25
第55図・26
第55図・27

2層

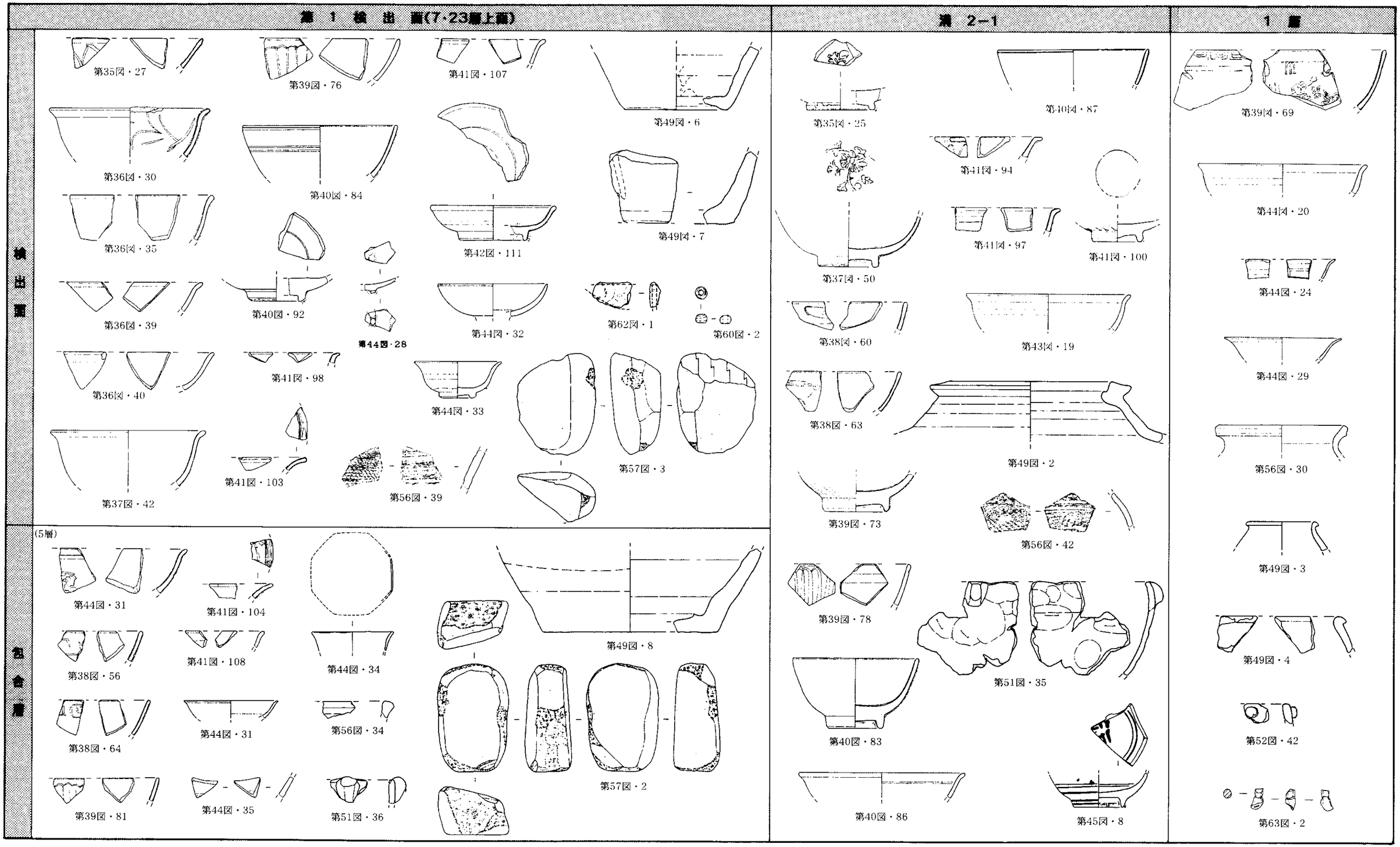
第43図・12
第54図・6
第34図・3
第54図・7
第55図・15
第34図・4
第55図・17
第34図・5
第55図・18
第35図・18
第35図・19
第55図・24
第35図・23
第43図・4
第50図・6
第50図・12
第43図・6
第50図・19
第43図・10
第51図・25



第31図　Ⅱ地区検出面別出土遺物 1



第32図　Ⅱ地区検出面別出土遺物2



第33図　Ⅱ地区検出面別出土遺物3

第１節　青磁（第34～42図）

青磁は多数出土したが、小破片が多く全形が把握できる資料は極めて少なかった。器種は碗・鉢・盤・皿・坏がある。分類は器種を中心にそれぞれ器形を考慮した。以下分類体系を明記し、個々の遺物については観察表で明記した。

碗

０類：同安窯系の櫛描文碗（１）

Ⅰ地区３層で１点のみ出土したが、３層は15世紀を中心とした層と考えているため、下層からの攪乱か伝世品の可能性が高い。

Ⅰ類：劃花文碗（２・24・25）

３点出土した。Ⅰ地区５層（第２検出面直上の包含層）、Ⅱ地区４層（第１検出面の上層）及び溝２－１（４層を切る遺構）で確認されたため、下層からの攪乱か伝世品の可能性が高い。

Ⅱ類：鎬連弁文碗（４・26・27）

Ⅰ地区では３層（第１検出面）を中心に14点出土し、Ⅱ地区では４点出土した。Ⅰ地区Ⅱ地区ともに最も新しいと考えられる時期の層から出土しているため、下層からの攪乱か伝世品の可能性が高い。

Ⅲ類：外反口縁碗

ａ　有文（５・28～30・34・36）

外面や内面に草花文などが描かれる。口縁部が玉縁状を呈するものもこれに含める。Ⅰ地区では２層、Ⅱ地区では３層・５層・21層直上・溝２－１にかけて出土した。

ｂ　無文（６・７・31・33・35・37～53・86）

圏線及び見込のスタンプは無文に含めた。Ⅰ地区では３層、Ⅱ地区では第１検出面と近い層位を中心に出土したが、最下層の21層でも出土している。

Ⅳ類：直口口縁碗

ａ１手画きによる雷文帯碗（８・56・57・60～65・67・68）

ラマ式連弁文碗もこれに含める。Ⅰ地区第１検出面及びその上層に多く出土した。Ⅱ地区では第３検出面及びその包含層に多く出土した。

ａ２スタンプによる雷文帯碗（55・58・69・70）

Ⅰ地区では第１検出面及びその上層で出土したのみ。Ⅱ地区では第３検出面及びその包含層に多く出土した。ａ１と比して出土量は少ない。

ｂ　連弁文碗（９・10・73・89・90）

Ⅰ地区では第１検出面及びその上層で出土したのみ。Ⅱ地区では第３検出面から１層に至るまで出土し増減の傾向はうかがえない。

ｃ　細連弁文碗（３・11・12・71・72・74～82）

Ⅰ地区では第１検出面及びその包含層から出土したのみ。Ⅱ地区では第３検出面から１層に至るまで出土し増減の傾向はうかがえない。

ｄ　無文碗（13・14・83～85・87・88）

圏線は無文に含めた。Ⅰ地区では第１検出面及びその包含層から出土したのみ。Ⅱ地区では第３検出面から１層に至るまで出土し増減の傾向はうかがえない。

Ⅴ類：泉窯系碗（59）

Ⅱ地区第３検出面に伴う包含層である７層から２点出土した。

皿

Ⅰ類：同安窯系の櫛描文皿（17・18）

３点出土した。Ⅰ地区では第１検出面とそれに伴う包含層から出土し、Ⅱ地区では溝２－１から出土したが、下層からの攪乱か伝世品の可能性が高い。

Ⅱ類：口折れ皿

ａ　口折れ部が明瞭な稜をもつもの（93～95・97・98）

Ⅰ地区では第１検出面で出土した。Ⅱ地区では第Ⅲ検出面の基盤層である８層から出土した。

b　口折れ部の稜が不鮮明なもの（96）

Ⅰ地区では第２検出面の基盤層である11層で出土した。Ⅱ地区では１層、４層、第１検出面、第Ⅲ検出面で出土した。

Ⅲ類：外反口縁皿

a　厚手のもの（21・32・101）

Ⅰ地区では第１検出面で出土した。Ⅱ地区では第３検出面から１層に至るまで出土し増減の傾向はうかがえない。

b　稜花皿（22・102～106）

Ⅰ地区では第１検出面及びそれに伴う包含層から出土した。Ⅱ地区では第１検出面・第３検出面を中心に出土している。

c　その他（107～110）

Ⅰ地区では出土しなかった。Ⅱ地区では第３検出面から１層に至るまで出土し増減の傾向はうかがえない。

Ⅳ類：直口口縁皿

a　腰が張り口縁部が玉縁状となるもの（111）

Ⅰ地区では出土しなかった。Ⅱ地区では第３検出面Pit内と溝２－１で出土した。

b　口唇部が舌状で小型なもの（112）

Ⅰ地区では第１検出面で１点出土した。Ⅱ地区では１層、４層、６層より出土した。

盤

Ⅰ類：鍔縁口縁（15・16・113～116）

Ⅰ地区では第１検出面で出土したのみ。Ⅱ地区では第Ⅲ検出面に伴う包含層より出土した。

Ⅱ類：直口口縁（117・118）

Ⅰ地区では出土していない。Ⅱ地区では第３検出面に伴う包含層及び４層・７層（接合）で出土した。

鉢

鉢はⅡ地区第２検出面で２点出土した。（121）

坏

坏はⅡ地区第３検出面に伴う包含層である６層で１点出土した。（120）

以上、青磁の分類概念とその出土状況を概観した。その結果から、Ⅰ地区第１検出面は15世紀頃を中心とした遺構面で、第２・３検出面は青磁がほとんど出土しないことから、古手の様相を呈していると考えられる。Ⅱ地区は第３検出面から第１検出面とそれにともなう包含層にかけて青磁が安定して出土するため、時期差をとらえることは難しい。

Ⅰ地区とⅡ地区では出土状況に差があり、Ⅰ地区第１検出面とⅡ地区第３検出面の時期が並行すると考えられる。

第１表　青磁出土状況（Ｉ地区）

器種・分類		碗																								皿								盤			袋物	器種不明	合計
		0類	I類	I or II類	II類			III類					IV類												不明		I類	II類		III類		IV類	不明		1類		不明			
								a		b			a					b			c		d					a	b	a	b	b								
													1			2																								
出土地		胴	口	底	口	胴	底	口	胴	口	底	底	口	胴	底	口	胴	口	胴	底	口	底	口	底	胴	底	口	口	口	口	口	口	胴	底	口	胴	底	胴	胴	
1層	C−10																								1															1
	C−11																																1							1
	C−13																				1		1																	2
	C−14																								1															1
	C−15																1		1																					2
2層直上	C−11												1																											1
	C−15												1												1								1							3
2層	C−7						1		1															1	1															4
	C−9																								1															1
	C−10							1																	2										1					4
	C−11																										1				1									2
	C−12																2				1				1								1							5
	C−13											1													1									1						3
	C−15																					1			2															3
3層直上	C−13					1																			2										1				1	5
	C−14												1		1			1	1				2		3						1	1		1						12
	C−15												2												1			1												4
3層	C−5					1																	1		1															3
	C−6																						1																	1
	C−7											1													1															2
	C−10					1							2	1			2																							6
	C−11					1													1		1				1															4
	C−12				1					4													4		3		1													13
	C−13									1		1									1				2	1									1					7
	C−14	1			1	1				2	1		1			1		1			1				2	1				1						1				15
	C−15				1	2				1			1	2							1		1		4									1	1	1	1			17
	C−16					1				2			2																											5
	C−17					1																																		1
	C−18												1																											1
4層	C−17																																		1					1
5層	C−17		1																						1															2
7層直上	C−6																			1					1															2
	C−8												1												1													2		4
	C−10																								1															1
7層	C−13																								1															1
8層	C−14			1																																				1
11層	C−17																												1											1
21層P369	C−31									1																														1
層序不明	C−14																																		1					1
	C−16									1																														1
合　計		1	1	1	3	9	1	1	1	12	1	3	13	3	1	1	5	2	3	1	6	1	10	1	36	2	2	1	1	1	2	1	3	3	6	2	1	2	1	145

注「P」はピットの意。

第３表　青磁出土状況（Ⅲ地区）

器種		碗				皿			合計
		IV c							
出土地		口	口	胴	底	口	胴	底	
1層	H−45				1				1
	H−47			2					2
	I−46		3						3
	J−48							1	1
	K−46					1	1		2
	L−47		1	1					2
	M−46		1						1
	M−47		1						1
	M−48		1						1
	グリッド不明		2	2					4
2層	H−47			1					1
	グリッド不明				1				1
溝I	H−46	1							1
	H−47			1					1
合　計		1	9	7	2	1	1	1	22

第２表　青磁出土状況（Ⅱ地区）a

出土地	器種・分類	碗																													皿													坏	盤					鉢			器種不明	合計
		Ⅰ類	Ⅰ or Ⅱ類	Ⅱ類		Ⅲ類					Ⅳ類																Ⅴ類	不明			Ⅰ類	Ⅱ類				Ⅲ類				Ⅳ類		不明			Ⅰ類		Ⅱ類	不明						
						a		b			a							b			c			d								a	b		−	a	b	c		a	b													
											1			2																																								
		底	底	口	胴	口	胴	口	底	底	口	胴	底	口	胴	底	底	口	胴	底	口	胴	底	口～底	口	底	口	口	胴	底	口	口	口	胴	底	口	口	口～底	口	口～底	口	胴	底	口	口	胴	口	胴	底	口	胴	底	胴	
1層	C－31																												2																									2
	C－32		1											3																											1													5
	C－33																								1					1																								2
	C－34																								1																												3	4
	C－36										1																		1																								1	3
	C－37							1	1																				4								2		1															9
	C－38											1				1													1								1					1												5
	C－41																	1																																				1
	C－43																																	1																				1
	C－44																												1																									1
	C－45										1	1						1				1							2																									6
2層	C－32																																			1																		1
	C－37							2	1													1							4													1												9
	C－38							1																					4							1						1												7
	C－39																												1																									1
3層	C－42					1			1																				3																				1	1				7
	C－42・43												1	1															1																				1		1			5
	C－43			1																																																		1
	C－44											1	1					1			1								3													1												8
	C－45										1																		1																									2
4層	C－27																												1																									1
	C－28							1										1											1				1									1												5
	C－29							2				2										2			1				3								1		1			1			1									14
	C－30										2											3			1				11							1						1											2	21
	C－31							2				2						1			4				2				20								1				1				2								2	37
	C－32	1										1									2				1				10																	1								16
	C－38																												1													1											1	3
5層	C－28							2							2			1	1										6																									12
	C－29																												1																									1
	C－30							2			2								1		1	3							7										1			1												18
	C－31																		1			2							6								1		1			1											2	14
	C－32											1									2	2							1																									6
	C－33																												2																									2
	グリッド不明										1											3			2				3																									9
6層直上	C－33										1											2			1				2																									6
	C－34							1																					9																									10
6層	C－33					1						1													1				4	2												1	1										1	12
	C－34										1	2			2														14	1							1				1	2		1	1	1			1				2	30
	C－35					1		1			2	2									1	2			1				8	1					1	3						3	1											27
	C－36										1	1																	3										1															6
	C－37										1														1				1																									3
7層直上	C－30			1				1				1													1				5																			1						10
	C－31							3			2								1						1				4																									11
	C－32							1			1											1			1				10	1				1			1		1															18

第２表　青磁出土状況（Ⅱ地区）b

出土地	器種・分類	碗																													皿													坏	盤					鉢			器種不明	合計
		Ⅰ類	Ⅰ or Ⅱ類	Ⅱ類		Ⅲ類					Ⅳ類																Ⅴ類	不明			Ⅰ類	Ⅱ類				Ⅲ類				Ⅳ類		不明			Ⅰ類		Ⅱ類	不明						
						a		b			a							b			c			d								a	b		－	a	b	c		a	b													
											1			2																																								
		底	底	口	胴	口	胴	口	底	底	口	胴	底	口	胴	底	底	口	胴	底	口	胴	底	口～底	口	底	口	口	胴	底	口	口	口	胴	底	口	口	口～底	口	口～底	口	胴	底	口	口	胴	口	胴	底	口	胴	底	胴	
7層	C－29																										1		3																									4
	C－30							2			2			1								3			2				4								1																	15
	C－31				1	1		5				3		1					1								1		10										1								1							25
	C－30・31							2				1													1				3																									7
	C－32								1		2				2										2	1			11																									19
7層P1	C－27							1																																														1
7層P19	C－28													2																		1																						3
8層直上	C－32								1											1	1								1																									4
8層	C－29							1																					6																		1							8
	C－30							1	2												2								3																					1				9
	C－32							4														1							7	1															1									14
	C－33																		1										1			1				1																		4
	グリッド不明								1																																													1
18層直上	C－34																												1																									1
	C－35												1																2																									3
18層	C－35																	1			1								1																1									4
	C－37																	1																											1									2
	C－38																					1																																1
18層P109	C－35																												2																									2
18層P116	C－35											1																																										1
18層P125	C－35							1													1																																	2
19層	C－42													1																																								1
	C－45													1	2														3																									6
20層直上	C－28							1																																														1
20層P181	C－27																												1																									1
20層P196	C－28																												1																									1
20層P199	C－28																																										1											1
20層P201	C－28							1																					2																									3
20層P207	C－28							1																																														1
21層直上	C－31																			1									2																									3
	C－33							1							2						1							1	2										1															8
	C－34							2	1		4	2		1					1		2	1			1				6																									21
	C－35							1																																														1
	C－38											1	1																1																									3
	C－40																												1																									1
21層P224	C－29																												2																									2
21層P228	C－29																												5																									5
21層P244	C－29																												1																									1
21層P247	C－29																															1																						1
21層P249	C－29																												1																									1
21層P253	C－29																												1																									1

第２表　青磁出土状況（Ⅱ地区）c

器種・分類		碗																												皿													坏	盤					鉢			器種不明	合計
		Ⅰ類	Ⅰ or Ⅱ類	Ⅱ類		Ⅲ類					Ⅳ類															Ⅴ類	不明			Ⅰ類	Ⅱ類				Ⅲ類				Ⅳ類		不明			Ⅰ類		Ⅱ類	不明						
						a		b			a							b			c			d							a	b		−	a	b	c		a	b													
											1			2																																							
出土地		底	底	口	胴	口	胴	口	底	底	口	胴	底	口	胴	底	底	口	胴	底	口	胴	底	口～底	口	底	口	口	胴	底	口	口	口	胴	底	口	口	口～底	口	口～底	口	胴	底	口	口	胴	口	胴	底	口	胴	底	胴	
21層P258	C－29																												1																									1
21層P265	C－29																												1							1																		2
21層P268	C－29							1																																														1
21層P271	C－29							1													1								3									1																6
21層P273	C－30																												1																									1
21層P281	C－30																												1																									1
21層P287	C－30																												1																									1
21層P290	C－30																													1																								1
21層P302	C－30																												1																									1
21層P306	C－30																								1																													1
21層P324	C－30																												2																									2
21層P334	C－30																				1				1											1																		3
21層P338	C－30							2																																														2
21層P356	C－30																												1																									1
21層P359	C－30																												2	1						2																		5
21層P369	C－31							1																																														1
21層P414	C－31					1																																																1
21層P479	C－34																				1								2																									3
21層P480	C－34										1																		5										1															7
21層P489	C－34																												2																									2
21層P490	C－34														2														1																									3
21層P505	C－35																				1																																	1
溝1－1	C－26							1				1																	2																									4
溝2－1	C－32・33	1			1			4	1	4	4	2			4						6	1	3	1	2				22		1	1				1			1				1							1	1			63
	C－33																																1																					1
溝2－2	C－32・33					1	1	3	1	1		1								1	1																		1	1						1							2	15
溝3	C－34																													1																								1
	C－36											1																	3																									4
	C－37																												1																			1						2
溝3P146	C－37																												1																									1
客土	C－26																									1			2																									3
	C－31																												2																								2	4
	グリッド不明								1			1					1												1																									4
層序不明	C－38																												2			1																						3
	C－40								1																				2																									3
	グリッド不明										1							1											2																									4
合計		2	1	2	2	6	1	57	13	5	31	30	4	11	16	1	1	9	7	3	29	30	3	1	26	2	2	1	309	10	1	5	2	2	1	12	9	1	11	1	3	16	4	1	7	3	2	1	4	2	2	1	18	724

注　「P」はピットの意。

第４表　青磁観察一覧ａ

単位：cm

図番号		器種	分類	部位	口径	器高	底径	観　察　事　項	出土地
第34図・図版17	1	碗	0	胴	－	－	－	内外面に櫛画文。外面は灰色の釉を腰部まで、内面は全面施釉。胎土は灰色で細粒子。	Ⅰ地区 C-14 3層
	2	碗	Ⅰ	口	－	－	－	外面口縁直下に圏線。内面に劃花文。灰オリーブ色の釉。胎土は灰色で細粒子。	Ⅰ地区 C-17 5層
	3	碗	Ⅳc	底	－	－	4.4	外面に細連弁文。見込に花文。高台は断面方形で、畳付は外面を斜めに薄く削る。緑灰色の釉。胎土は灰白色で細粒子。	Ⅰ地区 C-15 2層
	4	碗	Ⅱ	底	－	－	5.0	鎬連弁文。見込に花文。高台は低く、畳付は両サイドから削りをいれる。淡青緑色の釉で、高台外側面まで施釉。胎土は灰色で微粒子。	Ⅰ地区 C-7 2層
	5	碗	Ⅲa	口	－	－	－	口縁部が外反し、外体面・内対面に草花文。釉は薄く淡灰緑色。胎土は白灰色で微粒子。	Ⅰ地区 C-10 2層
	6	碗	Ⅲb	口	15.0	－	－	口縁部が外反し、無文。釉は薄く淡灰白色。胎土は灰色で微粒子。	Ⅰ地区 C-13 3層
	7	碗	Ⅲb	底	－	－	5.2	畳付外縁を粗く削る。見込に印花文。釉は薄く淡灰色、高台側面まで施釉。胎土は灰色で微粒子。	Ⅰ地区 C-14 3層
	8	碗	Ⅳa1	口	16.4	－	－	直口口縁で口縁部直下に雷文。体部は草花文を描く。釉は厚く、濃緑色。胎土は灰色で微粒子。	Ⅰ地区 C-15 3層
	9	碗	Ⅳb	底	－	－	6.0	連弁文碗。見込に圏線が２条で、中央に印花文。釉は厚く、明緑色。全面施釉をし、畳付と外底面を釉剥する。胎土は灰色で微粒子。	Ⅰ地区 C-6 7層直上
	10	碗	Ⅳb	口	－	－	－	連弁文碗。釉は薄く、淡青緑色。胎土は灰色で微粒子。	Ⅰ地区 C-14 3層
	11	碗	Ⅳc	口	13.7	－	－	細連弁文碗。直口口縁で口縁外直下に１条の圏線。釉は厚く、濃緑色。胎土は灰色で微粒子。	Ⅰ地区 C-12 2層
第35図・図版18	12	碗	Ⅳc	口	－	－	－	細連弁文碗。直口口縁。連弁はやや崩れる。釉は厚く、淡青灰色。胎土は灰色で粗粒子。	Ⅰ地区 C-13 3層
	13	碗	Ⅳd	口	13.2	－	－	直口口縁で、口縁外直下に１条の圏線。釉は厚く、濃黄緑色。胎土は白灰色で微粒子。	Ⅰ地区 C-12 3層
	14	碗	Ⅳd	口	－	－	－	直口口縁で口唇部を平坦に仕上げる。釉は薄く、淡青灰色。胎土は白灰色で微粒子。	Ⅰ地区 C-5 3層
	15	盤	Ⅰ	口	－	－	－	端縁口縁。内体部に櫛状の工具による連弁文。淡黄緑色の釉。胎土は灰白色で微粒子。	Ⅰ地区 C-17 4層
	16	盤	Ⅰ	口	－	－	－	端縁口縁。内体部に櫛状の工具による連弁文を部分的に施す。淡灰緑色の釉。胎土は灰白色で微粒子。	Ⅰ地区 C-13 3層
	17	皿	Ⅰ	口	－	－	－	体部中央を厚く仕上げ、口唇部は尖る。釉は薄く、淡灰色。胎土は灰色で微粒子。	Ⅰ地区 C-12 3層
	18	皿	Ⅰ	口	－	－	－	体部中央を厚く仕上げ、口唇部は尖る。内底面に櫛描文。釉は薄く、淡黄緑色。胎土は灰色で細粒子。	Ⅰ地区 C-11 2層
	19	皿	不明	底	－	－	－	腰折皿。畳付は丸みをもつ。全面施釉をし、外底面は釉剥。釉は厚く、淡明緑色。胎土は灰色で微粒子。	Ⅰ地区 C-13 2層
	20	皿	不明	底	－	－	4.8	畳付は内外縁を微妙に削る。見込に印花文。釉は厚く、淡青灰色で、畳付まで施釉し、畳付を釉剥。胎土は灰色で細粒子。	Ⅰ地区 C-15 3層
	21	皿	Ⅲa	口	12.0	－	－	外反口縁で腰折。釉は厚く、灰緑色。胎土は灰色で微粒子。	Ⅰ地区 C-14 3層
	22	皿	Ⅲb	口	－	－	－	稜花皿で腰折。内面口縁直下に雷文？等。釉は薄く淡青灰色。胎土は灰色で微粒子。	Ⅰ地区 C-14 3層直上
	23	皿	不明	底	－	－	5.3	腰折皿。畳付は丸みをもつ。全面施釉をし、見込は蛇目状に釉剥、外底面は釉剥。釉は厚く、淡灰緑色。胎土は灰色で細粒子。	Ⅰ地区 C-14 2層
	24	碗	Ⅰ	底	－	－	5.3	劃花文碗。高台は低く畳付を平坦に仕上げる。釉は薄く、淡灰緑色で、高台側面まで施釉。胎土は灰色で細粒子。	Ⅱ地区 C-32 4層
	25	碗	Ⅰ	底	－	－	6.6	劃花文碗。高台は低く畳付を平坦に仕上げる。釉は薄く、淡灰緑色で、高台側面まで施釉。胎土は灰色で細粒子、黒色鉱物を含む。	Ⅱ地区 C-32・33 溝2-1
	26	碗	Ⅱ	口	－	－	－	鎬連弁文。釉は厚く濃灰緑色。胎土は黒灰色で微粒子。	Ⅱ地区 C-30 7層直上
	27	碗	Ⅱ	口	－	－	－	鎬連弁文碗。釉は薄く淡青緑色。胎土は白灰色で微粒子。	Ⅱ地区 C-43 3層

第４表　青磁観察一覧b

単位：cm

図番号		器種	分類	部位	口径	器高	底径	観　察　事　項	出土地
第36図・図版19	28	碗	Ⅲa	口	14.6	－	－	外反口縁で腰が張る。内外体面に片切り彫りによる草花文。釉は厚く、緑灰色。胎土は白灰色で微粒子。	Ⅱ地区 C-42 3層
	29	碗	Ⅲa	口	16.0	－	－	外反口縁で腰が張る。外体面に片切り彫りによる草花文。釉は厚く、淡青灰色で貫入が目立つ。胎土は灰色で細粒子。	Ⅱ地区 C-31 21層Pit414
	30	碗	Ⅲa	口	15.7	－	－	外反口縁で腰が張る。内外体面に片切り彫りによる草花文。釉は厚く、緑灰色。胎土は白灰色で微粒子。	Ⅱ地区 C-32・33 溝2-2
	31	碗	Ⅲb	口	－	－	－	外反口縁。口縁直下に１状の圏線。釉は薄く、淡灰緑色で、貫入が目立つ。胎土は灰色で微粒子。	Ⅱ地区 C-28 5層
	32	Ⅲ	Ⅲa	口	11.6	－	－	外反口縁。釉は薄く淡青緑色。胎土は灰白色で微粒子。	Ⅱ地区 C-31 7層
	33	碗	Ⅲb	口	18.0	－	－	外反口縁。口縁直下に１条の圏線。釉は薄く淡青灰色だが透明に近い、細かい貫入が目立つ。胎土は灰色で細粒子。	Ⅱ地区 C-31 21層Pit369
	34	碗	Ⅲa	口	－	－	－	口縁部が玉縁状を呈す直口口縁。内面に文様。釉は薄く、濃緑色で細かい貫入が入る。胎土は灰色で細粒子、黒色鉱物を含む。	Ⅱ地区 C-35 6層
	35	碗	Ⅲb	口	－	－	－	外反口縁。釉は淡灰緑色でやや透明、細かい貫入が目立つ。胎土は灰色で細粒子。	Ⅱ地区 C-27 7層Pit1
	36	碗	Ⅲa	口	－	－	－	外反口縁。内体面は草花文？釉は厚く、淡青緑色で細かい貫入が入る。胎土は灰色で細粒子。	Ⅱ地区 C-33 6層
	37	碗	Ⅲb	口	－	－	－	外反口縁。釉は厚く、濃黄緑色。胎土は灰色で微粒子。	Ⅱ地区 C-35 18層Pit125
	38	碗	Ⅲb	口	－	－	－	外反口縁。口縁直下に１条の圏線。釉は薄く淡青灰色だが透明に近い、細かい貫入が目立つ。胎土は灰色で細粒子。	Ⅱ地区 C-30・31 7層
	39	碗	Ⅲb	口	－	－	－	外反口縁。釉は薄く淡青灰色だが透明に近い。胎土は灰色で細粒子。	Ⅱ地区 C-32 7層直上
	40	碗	Ⅲb	口	－	－	－	外反口縁。釉は薄く淡青灰色だが透明に近い、細かい貫入が目立つ。胎土は白灰色で微粒子。	Ⅱ地区 C-30 7層直上
	41	碗	Ⅲb	口	17.0	－	－	玉縁状の口縁。釉は厚く濃黄緑色。胎土は灰白色で微粒子。	Ⅱ地区 C-37 2層
第37図・図版20	42	碗	Ⅲb	口	15.0	－	－	外反口縁。釉は厚く、灰緑色。胎土は灰色で微粒子。	Ⅱ地区 C-31 7層直上
	43	碗	Ⅲb	口	15.4	－	－	外反口縁。口唇部を平坦に仕上げる。釉は厚く、淡灰緑色。胎土は灰色で微粒子。	Ⅱ地区 C-29 4層
	44	碗	Ⅲb	口	－	－	－	外反口縁。口縁直下は微弱に段をもつ。釉は薄く、淡青灰色で、細かい貫入が入る。胎土は灰色細粒子。	Ⅱ地区 C-28 20層Pit201
	45	碗	Ⅲb	口	13.2	－	－	玉縁状の口縁。釉は厚く濃黄緑色。胎土は灰白色で細粒子、黒色粒子を含む。	Ⅱ地区 C-33 21層直上
	46	碗	Ⅲb	口	－	－	－	玉縁状の口縁。釉は厚く濃黄緑色。胎土は灰色で微粒子。	Ⅱ地区 C-30 8層
	47	碗	Ⅲb	口	－	－	－	外反口縁。釉は厚く灰緑色。胎土は灰色で微粒子。	Ⅱ地区 C-32 8層
	48	碗	Ⅲb	底	－	－	6.0	高台は低く、厚い。畳付外縁を丁寧に削り、接地面を細く仕上げる。釉は薄く、灰緑色で高台側面まで施釉する。細かい貫入が入る。胎土は灰色で細粒子。	Ⅱ地区 C-30 8層
	49	碗	Ⅲb	底	－	－	7.4	高台は高く、畳付は丸みをもつ。見込に印花文。釉は厚く、灰緑色で、外底面及び畳付は釉剥。胎土は白灰色で微粒子。	Ⅱ地区 C-32 7層
	50	碗	Ⅲb	底	－	－	5.5	高台は方形状で畳付の仕上げは粗い。見込に印花文。釉は厚く、淡青緑色で外底面から畳付まで釉剥。胎土は白灰色で、微粒子。	Ⅱ地区 C-32・33 溝2-1
	51	碗	Ⅲb	底	－	－	5.0	高台の仕上げが粗い。見込は１条の圏線と中央に印花文。釉は厚く、淡黄緑色で、高台内側面・外底面及び畳付は釉剥。胎土は灰色で微粒子。	Ⅱ地区 C-32 8層直上
	52	碗	Ⅲb	底	－	－	6.0	高台の仕上げが粗い。見込は渦巻状に轆轤痕が明瞭に残る。釉は厚く、オリーブ色で外底面から高台内側面まで釉剥。胎土は白灰色で微粒子。	Ⅱ地区 C-32・33 溝2-2

第４表　青磁観察一覧c

単位：cm

図番号		器種	分類	部位	口径	器高	底径	観　察　事　項	出土地
第38図・図版21	53	碗	Ⅲｂ	底	－	－	6.0	高台は高く方形状で薄い。見込に印花文。釉は薄く、淡青灰色で外底面から畳付は釉剥。胎土は灰色で細粒子。	Ⅱ地区 C-37 2層
	54	碗	不明	底	－	－	6.3	高台は低く薄い。畳付は丸みを帯びる。見込に印花文。釉は薄く灰緑色で、外底面は蛇目状に釉剥。見込も印花文部分以外は釉剥。胎土は灰色微粒子。	Ⅱ地区 C-34 6層
	55	碗	Ⅳａ２	口	－	－	－	口縁直下内外面にスタンプによる雷文。釉は厚く淡青緑色。胎土は白灰色で微粒子。	Ⅱ地区 C-42・43 3層
	56	碗	Ⅳａ１	口	－	－	－	口縁外面直下に雷文。釉は厚く淡灰緑色、粗い貫入が入る。胎土は灰色で微粒子。	Ⅱ地区 C-30 5層
	57	碗	Ⅳａ１	口	－	－	－	口縁外面直下に雷文。釉は厚く淡灰緑色、粗い貫入が入る。胎土は白灰色で微粒子。	Ⅱ地区 C-36 6層
	58	碗	Ⅳａ２	口	－	－	－	口縁外面直下に雷文。内体面は草花文？釉は厚く淡灰緑色、貫入が入る。胎土は白灰色で微粒子。	Ⅱ地区 C-45 19層
	59	碗	Ⅴ	口	－	－	－	泉州窯系青磁。釉は灰色で、内面及び口縁外面１cm程まで施釉。胎土は灰色で細粒子、黒色鉱物が目立つ。	Ⅱ地区 C-29 7層
	60	碗	Ⅳａ１	口	－	－	－	口縁外面直下に雷文。釉は薄く淡青緑色、細かい貫入が目立つ。胎土は白灰色で微粒子。	Ⅱ地区 C-32・33 溝2-1
	61	碗	Ⅳａ１	口	－	－	－	口縁外面直下に雷文。釉は薄く淡青緑色。胎土は白灰色で微粒子。	Ⅱ地区 C-34 21層直上
	62	碗	Ⅳａ１	口	－	－	－	口縁外面直下に雷文、外体部にラマ式連弁文。釉は厚く淡灰緑色で、貫入が入る。胎土は灰白色で微粒子。	Ⅱ地区 C-33 6層直上
	63	碗	Ⅳａ１	口	－	－	－	外体面にかなりくずれた雷文？釉は厚く、淡青緑色。胎土は白灰色で微粒子。	Ⅱ地区 C-32・33 溝2-1
	64	碗	Ⅳａ１	口	－	－	－	口縁外面直下に雷文。釉は厚くオリーブ黄色。胎土は灰色で細粒子。	Ⅱ地区 C-30 7層
	65	碗	Ⅳａ１	口	18.8	－	－	口縁外面直下に雷文。釉は厚く青緑色。胎土は灰色で微粒子。	Ⅱ地区 C-35 21層Pit505
	66	碗	不明	底	－	－	5.8	底径は小さいが厚手で高く、ややハの字に開く。高台側面を斜めに削り畳付を細く仕上げる。釉は厚く、灰緑色で外底面・畳付を釉剥。胎土は灰色で微粒子。	Ⅱ地区 C-33 6層
第39図・図版22	67	碗	Ⅳａ１	底	－	－	5.6	高台はややハの字に開く。高台側面を斜めに削り畳付を細く仕上げる、丁寧な作りである。見込に印花文。ラマ式連弁文？釉は厚く、灰緑色で外底面を蛇目状に釉剥、貫入が目立つ。胎土は白灰色で微粒子。	Ⅱ地区 C-42・43 3層
	68	碗	Ⅳａ１	底	－	－	－	高台は低い。高台側面を斜めに削り畳付を細く仕上げる、丁寧な作りである。ラマ式連弁文？釉は厚く、灰緑色で外底面を釉剥。胎土は灰色で微粒子。	Ⅱ地区 C-35 18層直上
	69	碗	Ⅳａ２	口	－	－	－	直口口縁でやや玉縁状。口縁外面直下にスタンプによる雷文、その下に２条の圏線。内面は型作りによって雷文と仙人等を描く。釉は厚く、淡灰緑色。胎土は白灰色で微粒子。	Ⅱ地区 C-38 1層
	70	碗	Ⅳａ２	口	－	－	－	直口口縁。口縁外面直下はスタンプによる雷文。内面は型作りによる雷文。釉は厚く、濃緑色。胎土は灰色で微粒子。	Ⅱ地区 C-31 7層
	71	碗	Ⅳｃ	口	－	－	－	細連弁文碗。釉は薄く淡青灰色。胎土は灰色で微粒子。	Ⅱ地区 C-32 8層直上
	72	碗	Ⅳｃ	口	－	－	－	細連弁文碗。内面に文様が描かれるが、構成は不明。釉は厚く緑灰色。胎土は灰白色で微粒子。	Ⅱ地区 C-34 21層直上
	73	碗	Ⅳｂ	底	－	－	5.9	連弁文碗。高台側面は斜めに削りを入れて畳付を細く仕上げる。釉は厚く、灰緑色で外底面を蛇目状に釉剥。胎土は白灰色で微粒子。	Ⅱ地区 C-32・33 溝2-1
	74	碗	Ⅳｃ	口	－	－	－	細連弁文碗。内面に文様が描かれるが、構成は不明。釉は厚く緑灰色。胎土は灰白色で微粒子。	Ⅱ地区 C-33 21層直上
	75	碗	Ⅳｃ	口	14.2	－	－	細連弁文碗。連弁はかなりくずれており、直線と曲線はかみ合わない。釉は薄く淡青灰色。胎土は白灰色で微粒子。	Ⅲ地区 H-46 溝1

第４表　青磁観察一覧d

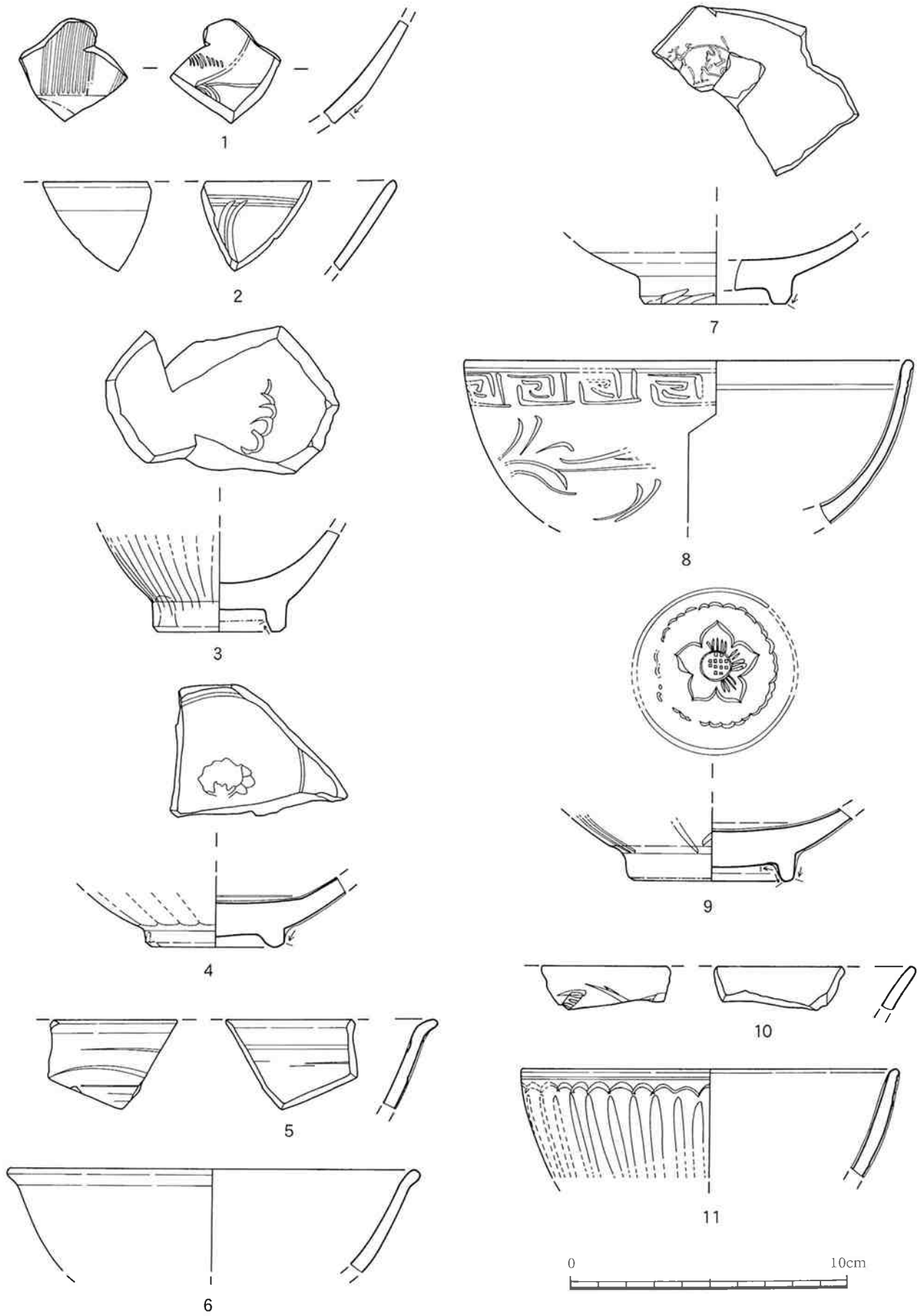
単位：cm

図番号		器種	分類	部位	口径	器高	底径	観　察　事　項	出土地
第39図・図版22	76	碗	Ⅳc	口	－	－	－	細連弁文碗。釉は薄く、オリーブ色で細かい貫入が目立つ。胎土は灰白色で細粒子。	Ⅱ地区 C-32・33 溝2-2
	77	碗	Ⅳc	口	－	－	－	細連弁文碗。釉は薄く、淡青灰色。胎土は灰色で細粒子。	Ⅱ地区 C-30 8層
	78	碗	Ⅳc	口	－	－	－	連弁文碗。連弁は片切り彫りによる。釉は薄く、灰オリーブ色で細かい貫入が目立つ。胎土は会食で細粒子。	Ⅱ地区 C-32・33 溝2-1
	79	碗	Ⅳc	口	－	－	－	細連弁文碗。口縁外面直下に１条の圏線。釉は厚く灰緑色で細かい貫入が入る。胎土は白灰色で微粒子。	Ⅱ地区 C-35 6層
	80	碗	Ⅳc	口	－	－	－	細連弁文碗。連弁は片切り彫りによる。釉は厚く灰緑色で貫入が入る。胎土は灰色で微粒子。	Ⅱ地区 C-31 4層
	81	碗	Ⅳc	口	－	－	－	細連弁文碗。口縁外面直下に１条の圏線。釉は厚く淡灰色で細かい貫入が入る。胎土は灰色で微粒子。	Ⅱ地区 C-30 5層
第40図・図版23	82	碗	Ⅳc	口	－	－	－	細連弁文碗。釉は厚く暗オリーブ色。胎土は暗橙灰色で細粒子。	Ⅱ地区 C-30 8層
	83	碗	Ⅳd	口～底	12.2	6.7	5.2	直口口縁。高台の作りは丁寧。釉は厚く、黄緑色で外底面を蛇目状に釉剥、細かい貫入が入る。胎土は白灰色で微粒子。	Ⅱ地区 C-32・33 溝2-1
	84	碗	Ⅳd	口	15.0	－	－	直口口縁。外体部に２条の圏線。釉は厚く、灰緑色で細かい貫入が入る。胎土は白灰色で微粒子。	Ⅱ地区 C-32　7層直上
	85	碗	Ⅳd	口	15.9	－	－	直口口縁で微弱に玉縁状。釉は厚く淡灰緑色。胎土は白灰色で微粒子。	Ⅱ地区 C-30 7層
	86	碗	Ⅲb	口	16.1	－	－	外反口縁。釉は薄く、暗オリーブ色。胎土は灰白色で微粒子。	Ⅱ地区 C-32・33 溝2-1
	87	碗	Ⅳd	口	14.6	－	－	直口口縁。口縁外面直下に１条の圏線。釉は厚く、濃灰緑色。胎土は灰色で微粒子。	Ⅱ地区 C-32・33 溝2-1
	88	碗	Ⅳd	口	－	－	－	直口口縁。釉は厚く、濃灰緑色。胎土は灰色で微粒子。	Ⅱ地区 C-34 6層
	89	碗	Ⅳb	底	－	－	6.4	連弁文碗。連弁は片切り彫りによる。高台は細く高い、作りは丁寧。見込に１条の圏線と印花文。釉は薄く、淡黄緑色で外底面を蛇目状に釉剥。胎土は白灰色で細粒子。	Ⅱ地区 C-31 21層直上
	90	碗	Ⅳb	底	－	－	7.2	連弁文碗。連弁は片切り彫りによる。高台の作りは丁寧。釉は厚く、濃緑色で外底面を蛇目状に釉剥。胎土は白灰色で微粒子。	Ⅱ地区 C-32 8層直上
	91	碗	不明	底	－	－	6.4	高台は短く、方形状に丁寧に仕上げる。見込に１条の圏線と印花文。釉は厚く、濃灰緑色で外底面を蛇目状に釉剥。胎土は灰白色で微粒子。	Ⅱ地区 C-30 21層Pit359
	92	碗	不明	底	－	－	4.8	高台外側面を斜めに削り畳付を細く仕上げる。作りは丁寧である。見込に１条の圏線。釉は薄く、暗オリーブ色で外底面から畳付まで釉剥。胎土は灰色で微粒子。	Ⅱ地区 C-32 7層直上
第41図・図版24	93	Ⅲ	Ⅱa	口	11.4	－	－	口折皿。釉は薄く、淡青緑色。胎土は灰色で微粒子。	Ⅱ地区 C-29 21層P247
	94	Ⅲ	Ⅱa	口	－	－	－	口折皿。外体面に片切り掘りによる連弁文。釉は厚く、青緑色。胎土は白灰色で微粒子。	Ⅱ地区 C-33 溝2-1
	95	Ⅲ	Ⅱa	口	－	－	－	口折皿。外体面に片切り掘りによる連弁文。釉は厚く、濃灰緑色。胎土は灰色で微粒子。	Ⅱ地区 C-33 8層
	96	Ⅲ	Ⅱb	口	12.0	－	－	口折皿。外体面に片切り掘りによる連弁文。釉は厚く、濃緑色。胎土は灰色で微粒子。	Ⅱ地区 C-28 4層
	97	Ⅲ	Ⅱa	口	－	－	－	口折皿。外体面に文様を描くが構成不明。釉は厚く、淡青緑色。胎土は白灰色で微粒子。	Ⅱ地区 C-32・33 溝2-1
	98	Ⅲ	Ⅱa	口	－	－	－	口折皿。釉は厚く、淡黄緑色。胎土は灰色で微粒子。	Ⅱ地区 C-28 7層Pit19
	99	Ⅲ	不明	底	－	－	6.4	高台脚は方形状に仕上げ、作りは丁寧。見込は１条の圏線を浮き彫りによって表現し、中央に印花文。釉は厚く、淡黄緑色で外底面を蛇目状に釉剥する。	Ⅱ地区 C-35 6層

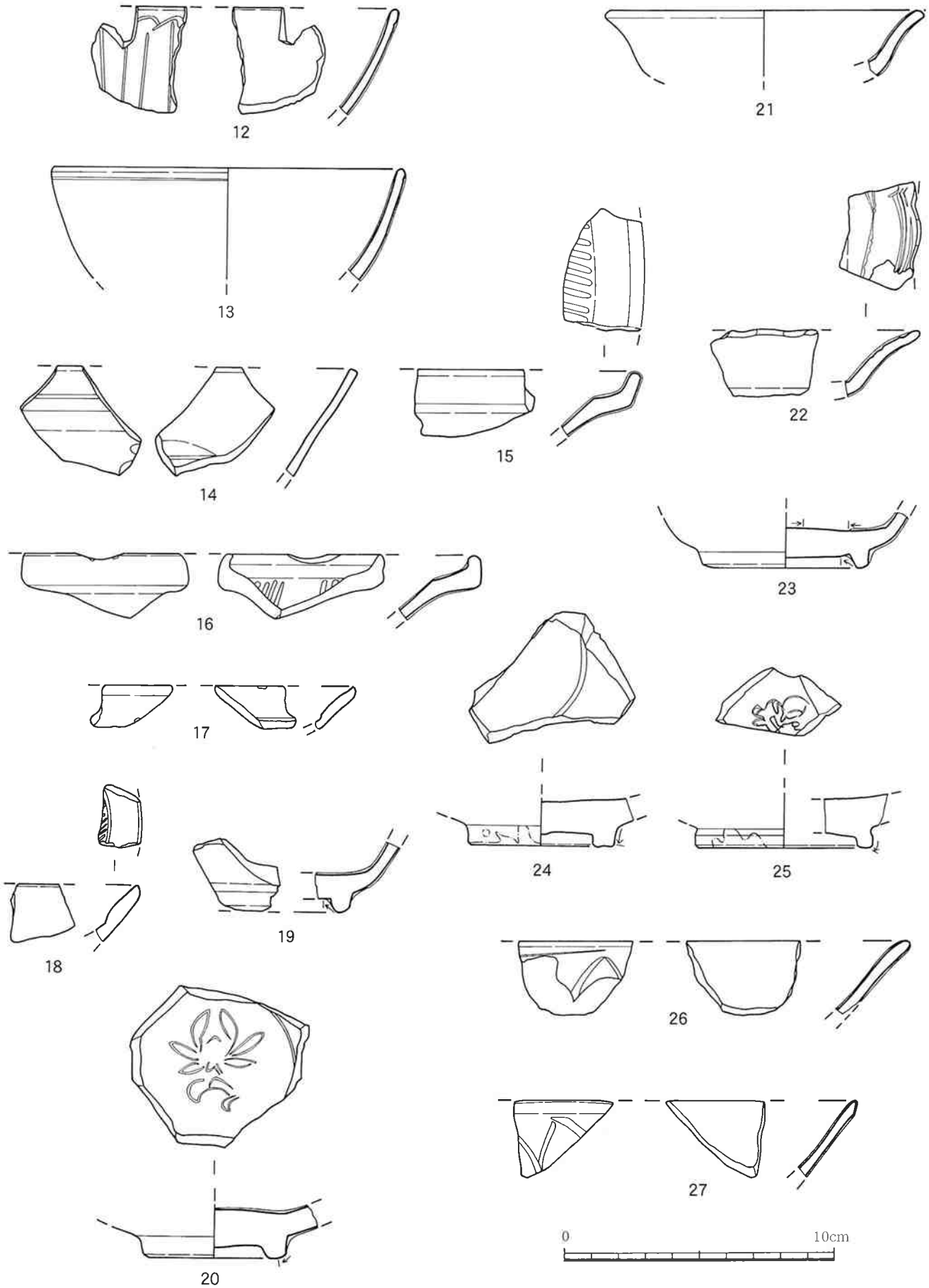
第４表　青磁観察一覧e

単位：cm

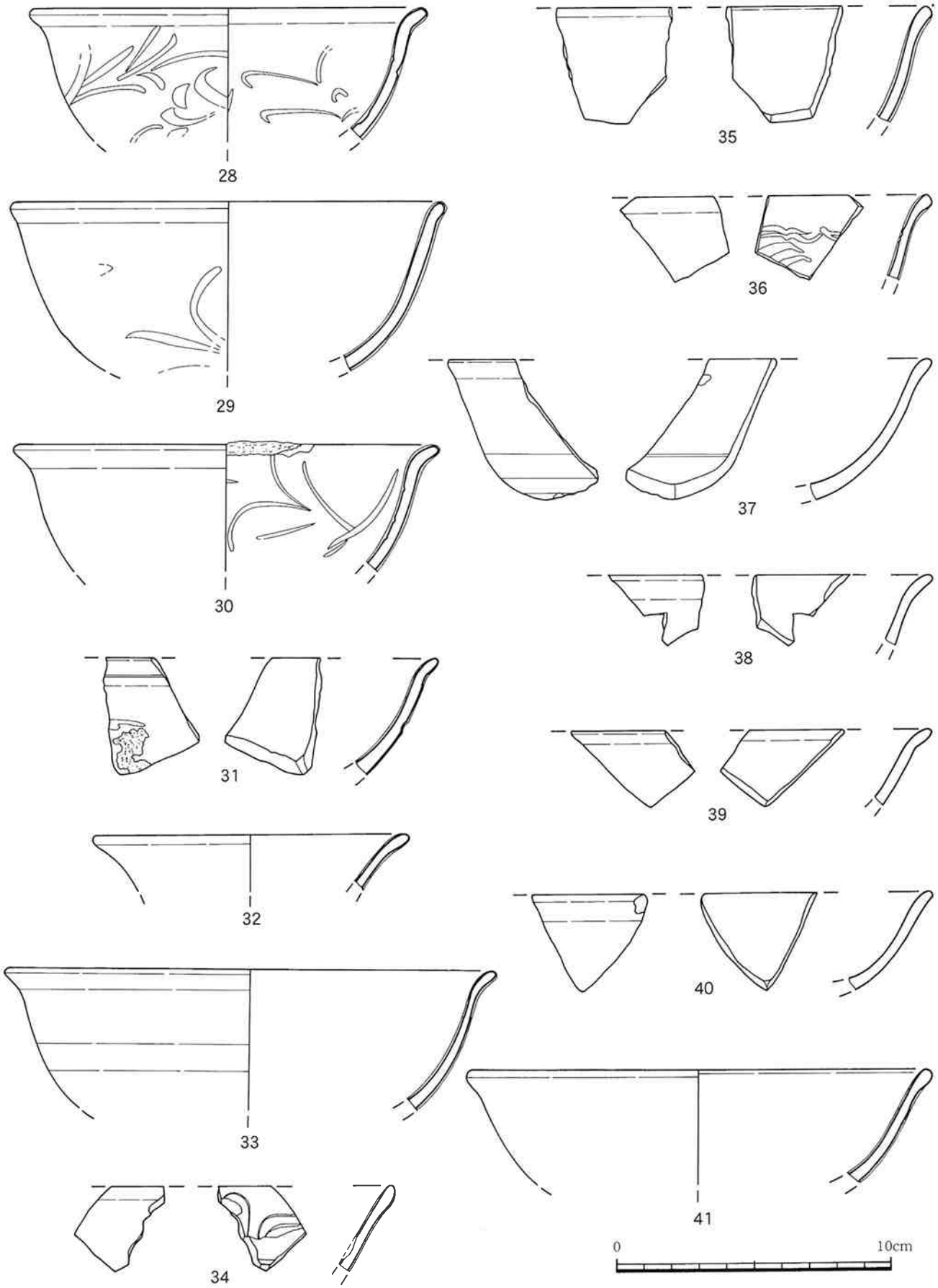
図番号		器種	分類	部位	口径	器高	底径	観　察　事　項	出土地
第41図・図版24	100	皿	不明	底	－	－	4.6	高台外側面は斜めに削り畳付を細く仕上げるが、幅にムラがある。外体面は先線刻による細連弁文。見込に１条の圏線。釉は薄く、淡青灰色で外底面から畳付まで釉剥。胎土は白灰色で微粒子。	Ⅱ地区 C-32・33 溝2-1
	101	皿	Ⅲa	口	12.0	－	－	外反口縁。釉は厚く、青緑色。胎土は白灰色で微粒子。	Ⅱ地区 C-30 21層Pit359
	102	皿	Ⅲb	口	11.6	－	－	稜花皿で腰折。内外面無文。釉は薄く、青灰色で見込を釉剥。胎土は灰色で微粒子。	Ⅱ地区 C-34 6層
	103	皿	Ⅲb	口	－	－	－	稜花皿。内面に文様を描くが構成不明。釉は薄く、淡灰緑色。胎土は灰色で微粒子。	Ⅱ地区 C-32 7層直上
	104	皿	Ⅲb	口	－	－	－	稜花皿。内面に文様を描くが構成不明。釉は薄く、淡灰緑色。胎土は灰色で微粒子。	Ⅱ地区 C-31 5層
	105	皿	Ⅲb	口	－	－	－	稜花皿。内面に文様を描くが構成不明。釉は厚く、青緑色。胎土は灰色で細粒子。	Ⅱ地区 C-29 4層
	106	皿	Ⅲb	口	－	－	－	細かな稜花皿。内面に文様を描くが構成不明。釉は厚く、灰緑色。胎土は灰色で微粒子。	Ⅱ地区 C-30 7層
	107	皿	Ⅲc	口	－	－	－	薄手の外反口縁皿。釉は薄く、青灰色で細かい貫入が入る。胎土は白灰色で微粒子。	Ⅱ地区 C-32 7層直上
	108	皿	Ⅲc	口	－	－	－	薄手の外反口縁皿。釉は薄く、オリーブ色。胎土は白灰色で微粒子。	Ⅱ地区 C-30 5層
	109	皿	Ⅲc	口～底	11.9	3.8	4.1	外反口縁皿。高台外側面を斜めに削り畳付を細く仕上げる。全体的に作りは丁寧である。釉は薄く明オリーブ色で、見込と外底面から畳付まで釉剥。胎土は白灰色で微粒子。	Ⅱ地区 C-29 21層Pit271
	110	皿	Ⅲc	口	11.9	－	－	玉縁状の口縁。釉は厚く、青灰色だか光沢がない。胎土は灰白色で微粒子。	Ⅱ地区 C-30 6層
第42図・図版25	111	皿	Ⅳa	口～底	12.2	3.3	6.4	玉縁状の口縁。高台の作りは丁寧。見込は浮彫りによる１条の圏線。釉は厚く淡緑色で、見込と外底面から高台内側面まで釉剥。胎土は白灰色で微粒子。	Ⅱ地区 C-32・33 溝2-2
	112	皿	Ⅳb	口	－	－	－	直口口縁。内面に箆削りによる連弁文。釉は薄く、灰緑色。胎土は灰色で微粒子。	Ⅱ地区 C-31 4層
	113	盤	Ⅰ	口	26.6	－	－	鍔縁状の口縁。内面に箆削りによる連弁文。釉は厚く濃緑色。胎土は灰色で微粒子。	Ⅱ地区 C-29 4層
	114	盤	Ⅰ	口	－	－	－	鍔縁状の口縁。釉は厚く淡緑色。胎土は灰色で微粒子。	Ⅱ地区 C-34 6層
	115	盤	Ⅰ	口	－	－	－	鍔縁状の口縁。内面に箆削りによる連弁文。釉は厚く濃緑色。胎土は灰色で微粒子。	Ⅱ地区 C-32 8層
	116	盤	Ⅰ	口	－	－	－	鍔縁状の口縁。釉は厚く明オリーブ色。胎土は明橙色で微粒子。	Ⅱ地区 C-37 18層
	117	盤	Ⅰ	口	－	－	－	直口口縁で口唇部を平坦に仕上げる。内面に箆削りによる連弁文。釉は厚く、淡緑色。胎土は灰白色で微粒子。	Ⅱ地区 C-29 8層
	118	盤	Ⅰ	口	－	－	－	玉縁状の直口口縁。内面に箆削りによる連弁文。胎土は白灰色で微粒子。	Ⅱ地区 C-31 7層
	119	盤	不明	底	－	－	10.4	高台脚は方形状でやや内傾する。内面に草花文、見込に印花文。釉は厚く濃緑色で、外底面を釉剥する。胎土は白色で微粒子。	Ⅱ地区 C-42 3層
	120	坏	－	口	－	－	－	玉縁状の直口口縁。釉は厚く淡黄緑色。胎土は灰白色で微粒子。	Ⅱ地区 C-34 6層
	121	鉢	－	口	－	－	－	直口口縁で体部は丸みをもつ。釉は薄く、淡灰緑色。胎土は灰色で微粒子。	Ⅱ地区 C-30 8層



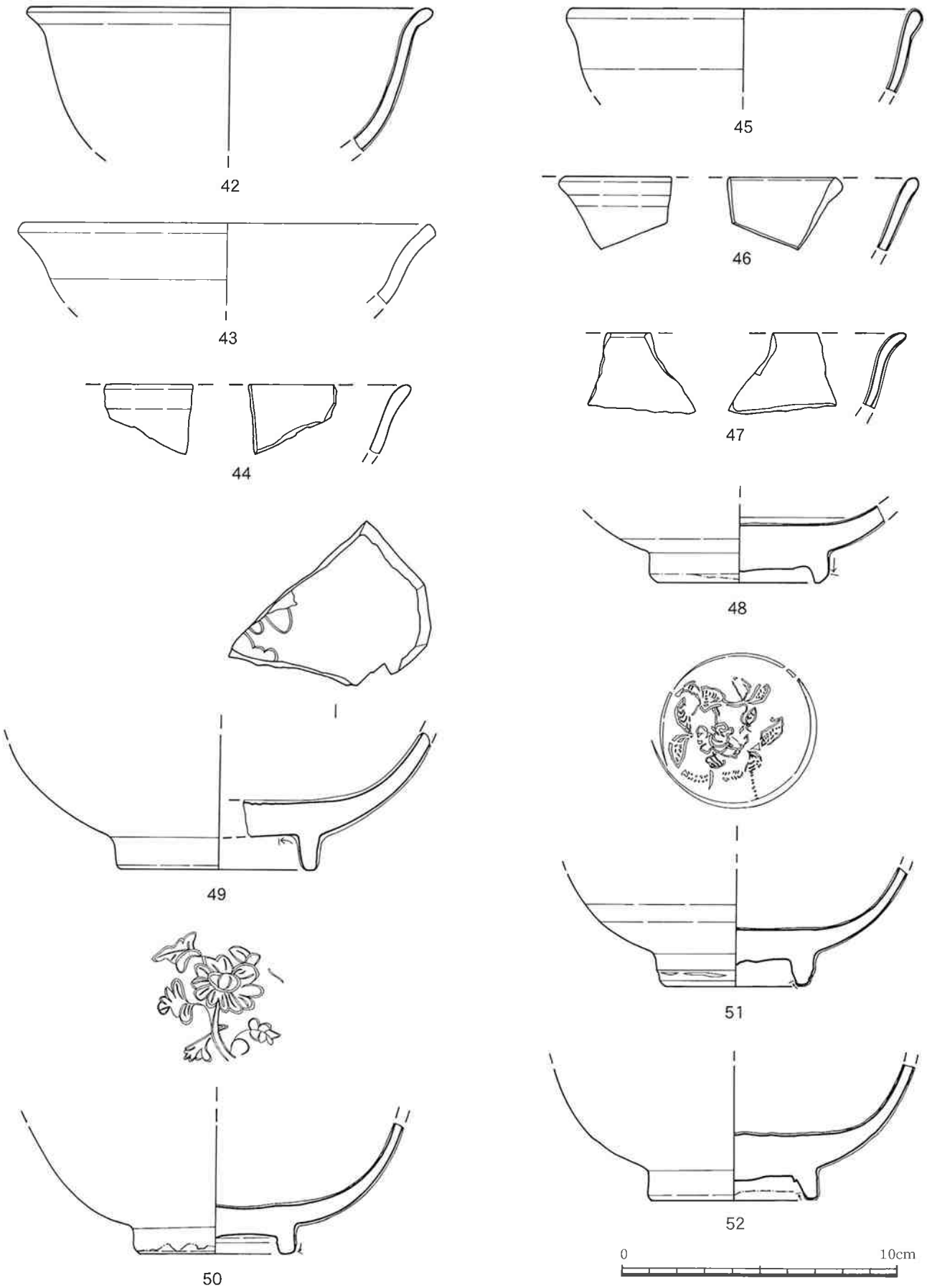
第34図　青磁１　Ⅰ地区　碗



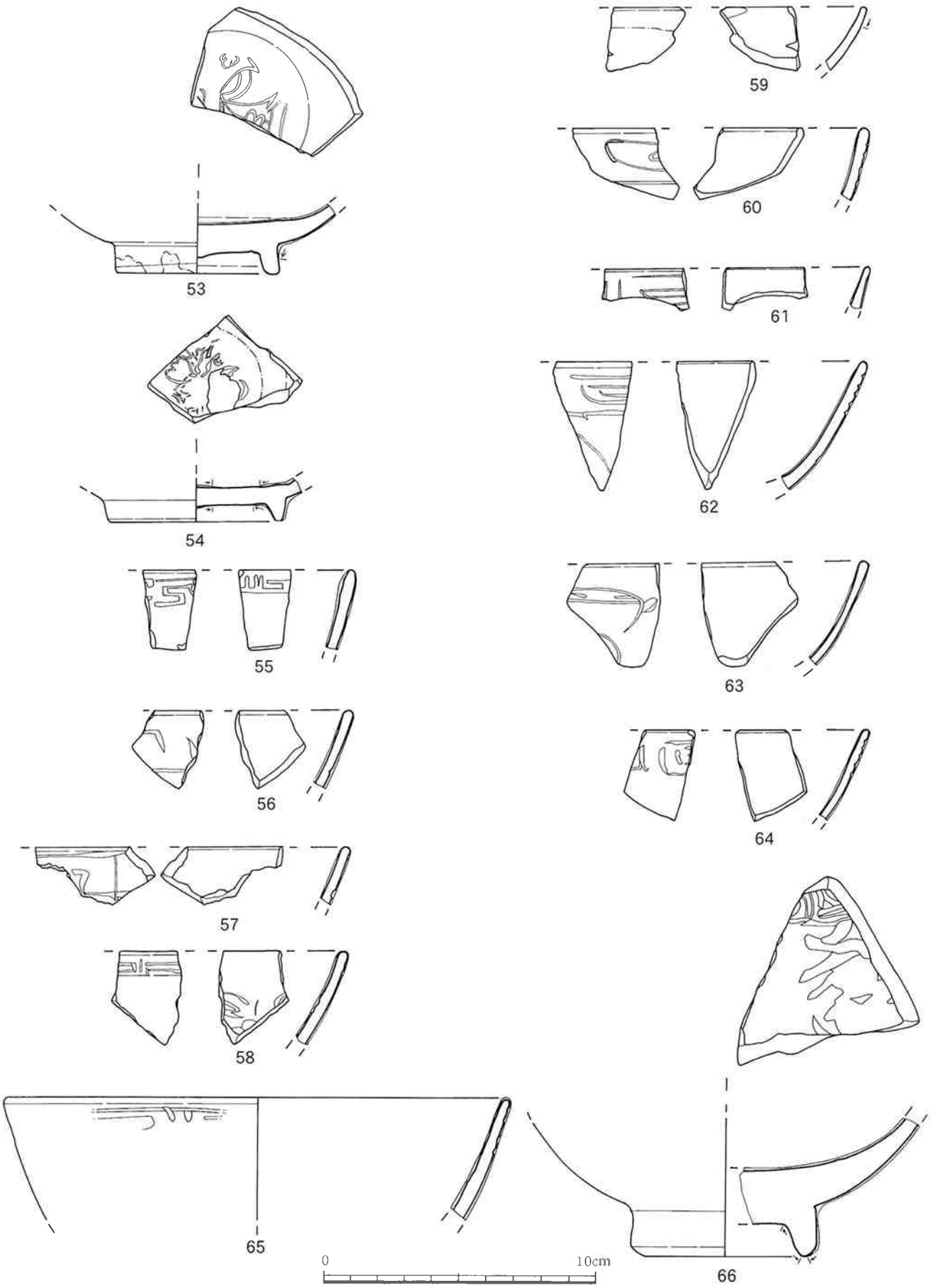
第35図　青磁２　Ⅰ地区　碗（12～14）、皿（17～23）、盤（15・16）　**Ⅱ地区**　碗（24～27）



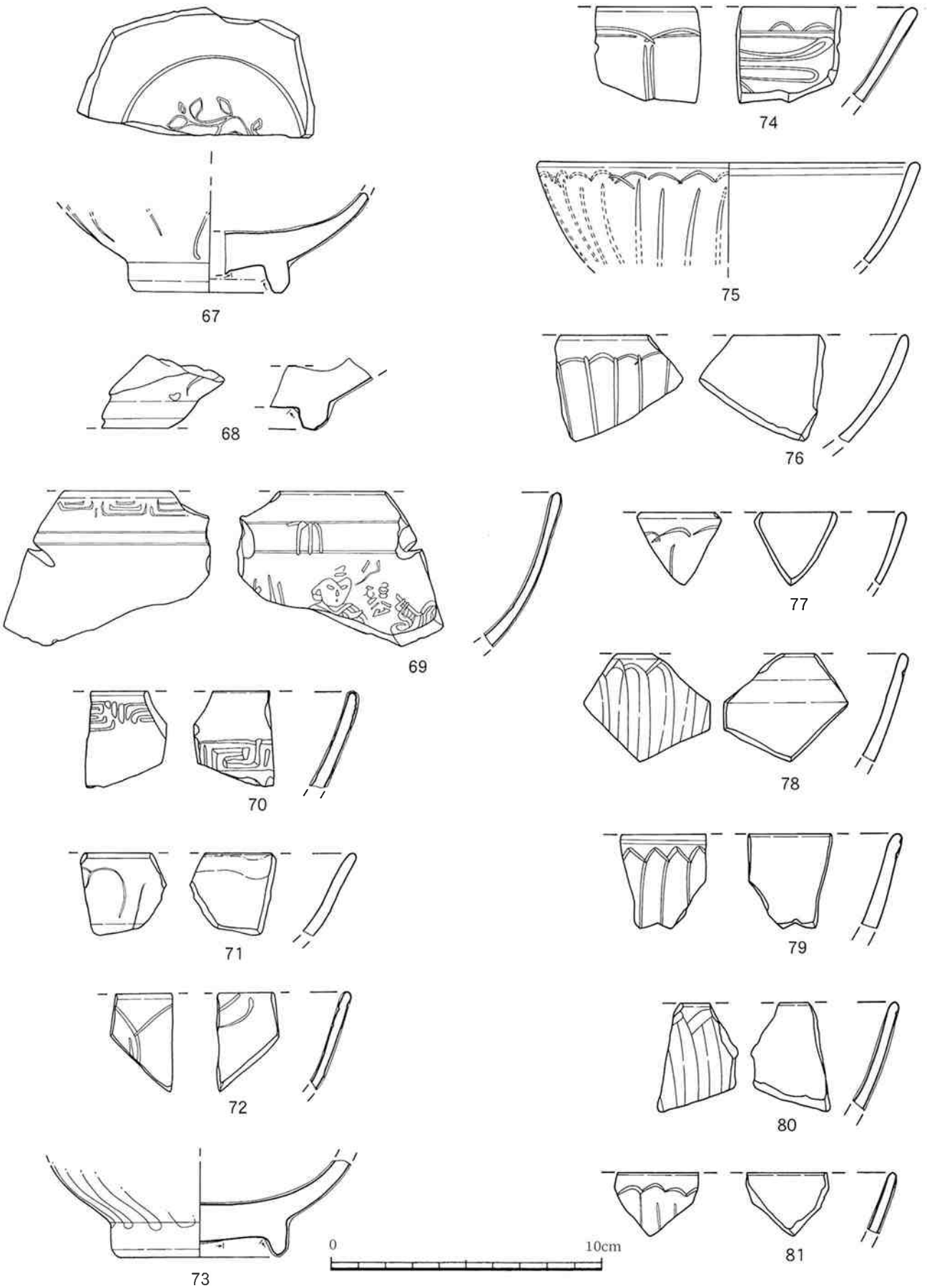
第36図　青磁３　Ⅱ地区　碗（28～31・33～41）、皿（32）



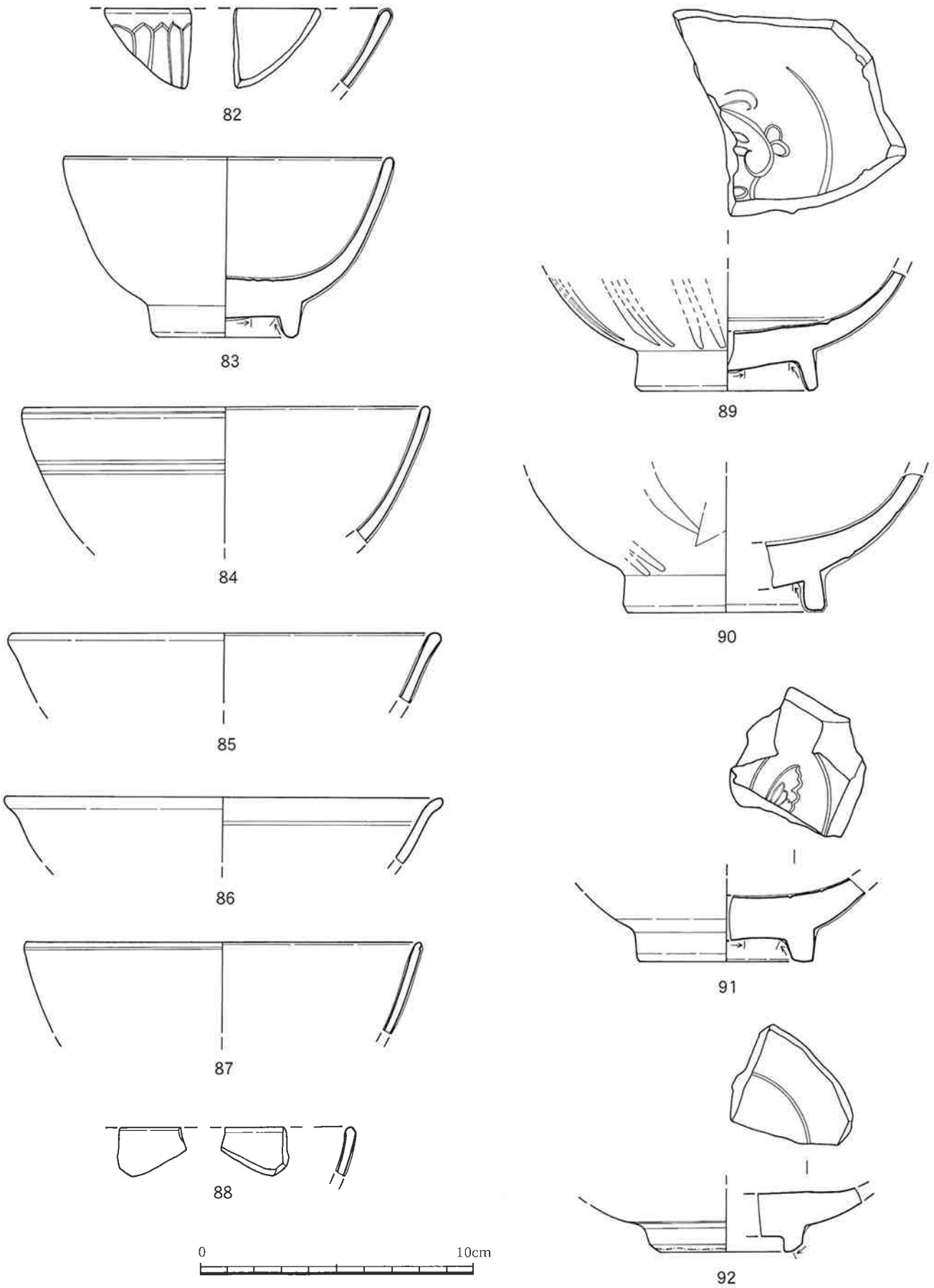
第37図　青磁４　Ⅱ地区　碗



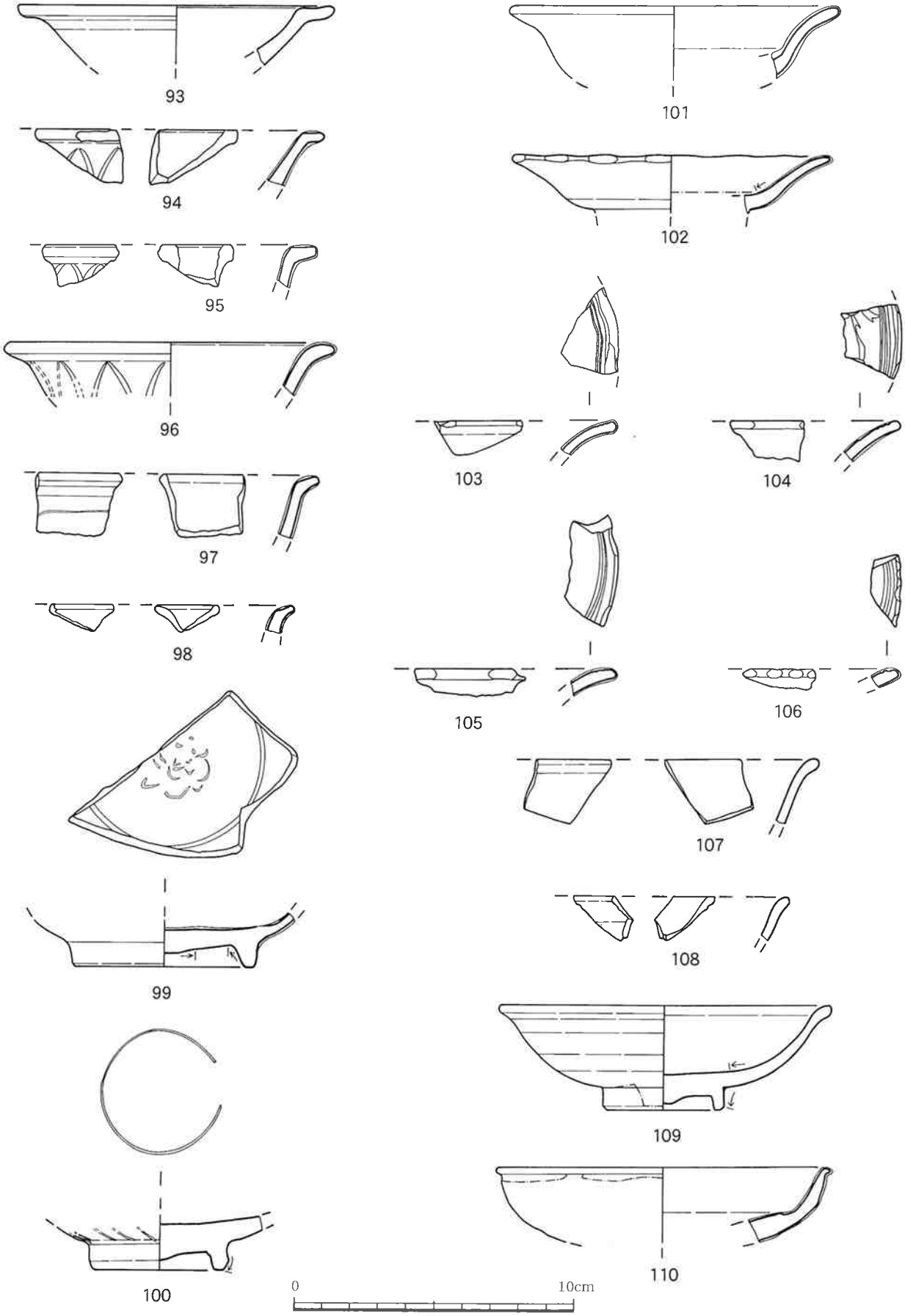
第38図　青磁５　Ⅱ地区　碗



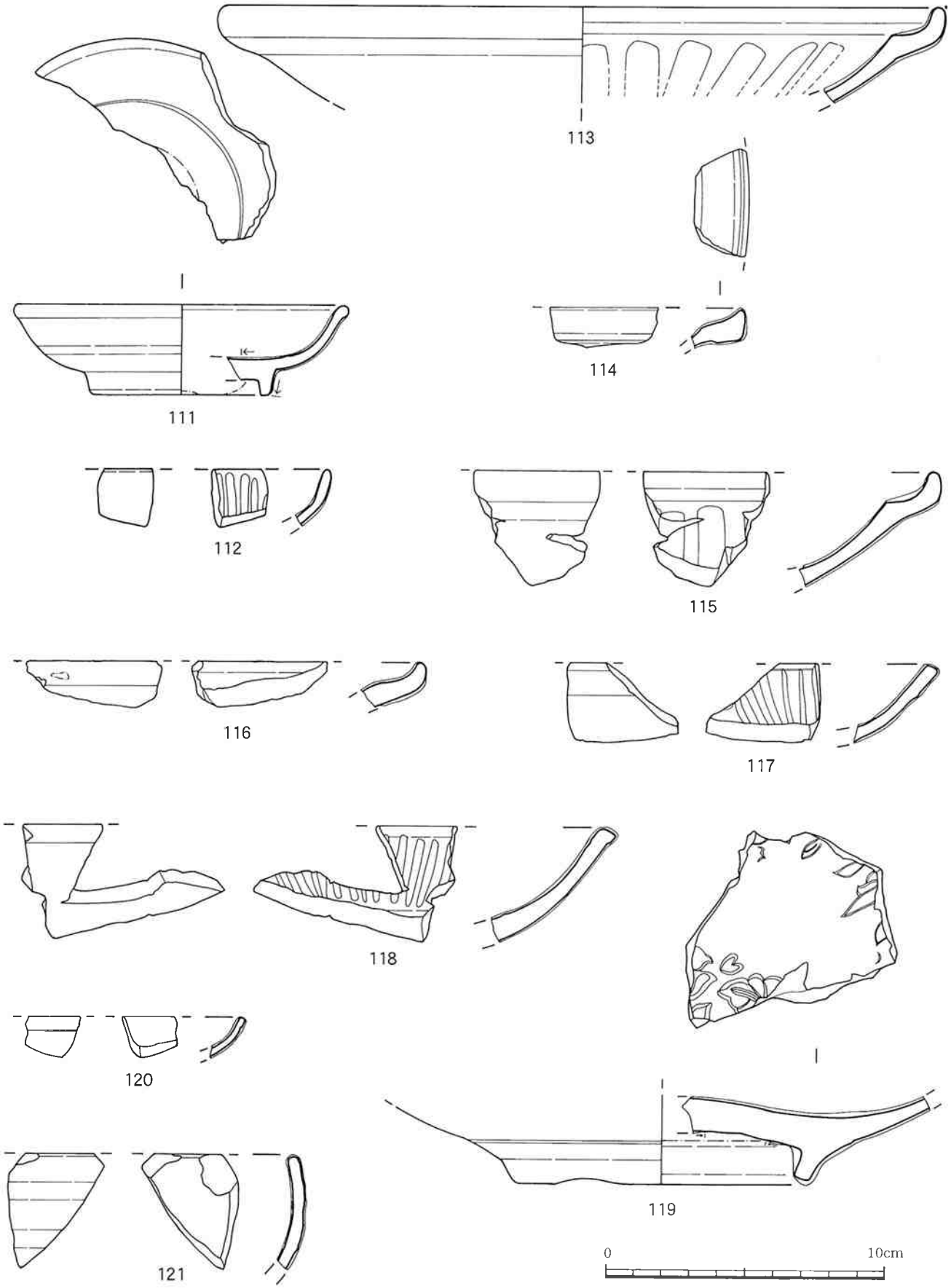
第39図　青磁6　Ⅱ地区　碗（67～74・76～81）　Ⅲ地区　碗（75）



第40図　青磁７　Ⅱ地区　碗



第41図　青磁８　Ⅱ地区　Ⅲ



第42図　青磁９　Ⅱ地区　皿（111・112）、盤（113～119）、坏（120）、鉢（121）

第２節　白磁（第43・44図）

中国産とみられる白磁は、総数123点出土した（第５～７表）。本調査で得られた資料を器種別にみると、碗、小碗（杯）、皿、瓶の４種が確認できた。その内、碗が76点と量的に主勢を占めており、次いで皿が23点出土している。青白磁はⅠ地区で胴部小破片１点出土している。以下、器種ごとに記述する。個々の遺物は観察表に明記した。

１．碗

１類　玉縁口縁碗（１・２・６・13～15・37）

口縁端側部を玉縁状に肥厚させるタイプで、一般に玉縁口縁碗と呼ばれるグループである。口縁部の肥厚形態（玉縁部分）および器体の膨らみ具合などから、下記のａ～ｂ類に細分類を行った。Ⅰ地区第１検出面及びその上層から出土している。Ⅱ地区第３検出面及びその上層より出土している。

ａ　器形は直線的で逆「ハ」字状に開き、器厚は薄手。玉縁肥厚部が５～６㎜程度の小さな作り。（１・13）

ｂ　器形はａ類に類似し、玉縁肥厚部が９㎜とａ類に比べ大きい。玉縁部形状の断面観は、丸みを持ち三角形を呈する。（２・14・15・37）

２類　白磁端反碗。口縁部は外反し、高台は高い。外面上部に若干曲線を帯びた縦の線描文が施文される。Ⅱ地区第２検出面に伴う層と、それより上層から出土している。(16)

３類　白磁櫛描碗。口縁部は外反し、器高・高台ともに高くない。器厚は薄手で内面に櫛描文と箆描文が施文される。Ⅰ地区第２・４層から１点ずつ出土。（３・４）

４類　口縁部は短く外側に折れ、口縁部を「く」の字状にし、口唇部に平坦面を持つ。Ⅰ地区第13層から１点だけ出土している。（５）

５類　器厚は厚手で口縁部が丸みを呈するもの。Ⅰ地区では第２層から出土。Ⅱ地区では第１検出面に伴う層から出土している。

ａ　口縁部は胴部から外に開くように外反する。器厚は厚手で口縁部は丸みを帯びる。(17)

ｂ　胴部から口縁部にかけて丸みを帯び、若干内湾する。器厚は厚手で口縁部は丸みを帯びる。(18)

６類　胴上部から口縁部にかけて若干すぼまり外反する。口縁下部に稜を呈する。器厚は薄手。Ⅰ地区では未検出である。Ⅱ地区の第２検出面に伴う層と第３検出面とそれに伴う層から出土している。(19～23)

７類　胴部から口縁部にかけて直線的な器形で口縁部は外反する。器厚は薄手である。Ⅰ地区の第１検出面に伴う層から１点、Ⅱ地区の第１層から１点出土している。(24)

８類　口縁部は外反し、器厚は厚手で施釉が底部まで施されない。Ⅱ地区８層から底部１点出土。(25)

器種不明　器種が不明なものを取り扱った。底部１点と胴部１点を図化した。(35・37)

２．小碗

小碗（杯）は２点しか出土しておらず、Ⅱ地区の第１検出面とそれに伴う層から出土している。

１類　口縁部が外反するもの。胴下半部まで施釉される。Ⅱ地区の第２検出面から1点出土。(33)

２類　八角杯。腰折れの杯で、腰部から口縁部まで八角に仕上げられている。高台は抉入高台になっている。(34)

３．皿

１類　口唇部を露胎する口禿皿。口縁部が外反し、底部は平底を呈す。Ⅰ地区では第２検出面で１点と上層から３点出土している。Ⅱ地区の第３検出面で１点と上層から１点得られている。（７～９・26）

２類　口縁部は直口し、高台が抉入高台になっている。Ⅰ・Ⅱ地区の第１検出面より上層から出土。(10・27・28)

３類　口縁部は外反し、高台の接地面が露胎している。Ⅰ・Ⅱ地区の第１検出面より上層から出土。(11・29～31)

４類　ビロースクタイプ皿。内彎する器形で口縁部は丸みを持つもの。(32)

５類　口縁部は外反し、口縁内部に２ヶ所を削り、段差を持つもの。胴下半部まで施釉される。(12)

４．瓶

瓶の胴部片が１点得られている。しかし、とても小破片のため記載だけにとどめた。

以上、白磁の分類概念と出土状況について概観した。その結果、Ⅰ地区第１検出面が15世紀頃で第２検出面が13～14世紀頃の遺構面と考えられる。第３検出面では、白磁がほとんど出土しないことから古手の様相を呈していると考えられる。Ⅱ地区においては、第１検出面が15～16世紀、第２・３検出面では器種が混在して出土しており、検出面ごとに明確な時間差は見られない。第２～３検出面で、概ね14世紀後半から15世紀と考えられる。

第５表　白磁出土状況（Ⅰ地区）

器種・分類 / 出土地		碗										Ⅲ							瓶	器種不明	合計
		１類			３類	４類	５類		７類	分類不明		１類		２類	３類		５類	分類不明	胴	口	
		a 口	b 口	胴	胴	口	胴	底	口	口	胴	口	底	口～底	胴	底	口	口			
１層	C－１０			1														1		1	3
	C－１７																		1		1
２層	C－７	1																			1
	C－８																1				1
	C－１０							1													1
	C－１３						1														1
	C－１４				1									1							2
	C－１５			1			1														2
３層直上	C－１４														1						1
３層	C－５												1								1
	C－９										1										1
	C－１３															1					1
	C－１４			1					1		4										6
	C－１５		2								1	1								1	5
	C－１７									1	1										2
４層	C－１７												1								1
	C－１８				1																1
７層直上	C－１０												1								1
１１層	C－１７										1										1
１３層	C－１４					1					1										2
溝１	C－１４										2										2
層序不明	C－１３			1																	1
合　計		1	2	4	2	1	2	1	1	1	11	1	3	1	1	1	1	1	1	2	38

第７表　白磁出土状況（Ⅲ地区・地区不明）

器種・分類 / 出土地			碗					合　計
			１類		６類	分類不明		
			b 底	不明 胴	口	胴	底	
Ⅲ地区	１層	H－４５				1		1
		H－４７	1					1
		I－４６				1		1
		J－４７					1	1
		K－４６				1		1
		M－４７			1			1
		グリッド不明				1		1
	２層	L－４６		1				1
地区・グリッド・層序不明						1		1
合　計			1	1	1	5	1	9

第６表　白磁出土状況（Ⅱ地区）

出土地	器種・分類	碗														小碗		皿						器種不明			合計
		1類			2類		5類			6類			7類	8類		1類	2類	1類	2類		3類	4類					
		a 口	b 口	胴	口	胴	a 口	b 口	胴	口	胴	底	口	底	胴	口～底	口	口	口～底	底	口	口	胴	口	胴	底	
1層	C－33														1						1						2
	C－37												1												1		2
	C－38														1												1
	C－40																						1				1
	C－43																								1		1
	C－45		1																								1
3層	C－43									1															1		2
	C－44			2	1					1														1	2		7
4層	C－31									1					1						1		1				4
	C－32					1			1																		2
5層	C－28														2										1		3
	C－29																				1						1
	C－31																1										1
	C－32								1																1		2
	グリット不明						1																				1
6層直上	C－33																		1								1
6層	C－33														1										1		2
	C－34																						1				1
	C－35										1				1												2
7層直上	C－27															1											1
	C－32																			1					1		2
7層	C－29		1																								1
	C－30											1															1
	C－31								1																		1
	C－30・31																								1		1
7層P12	C－28					1																					1
7層P19	C－28																					1					1
8層	C－29													1								1					2
	C－30									1					3												4
	C－32										1																1
12層	C－40																	1									1
14層P67	C－37														1												1
18層直上	C－35																	1									1
20層直上	C－28										1																1
21層直上	C－29	1																									1
	C－38										1																1
21層P233	C－29							2	1																		3
21層P240	C－29																						1				1
21層P271	C－29		1																				1				2
21層P281	C－30														1												1
21層P334	C－30														1												1
21層P480	C－34														1												1
溝2－1	C－32・33									1	2				1												4
溝3	C－34				1																						1
	C－36									1																	1
層序・グリッド不明									1						1												2
合計		1	3	2	2	2	1	2	5	6	6	1	1	1	16	1	1	2	1	1	3	2	5	1	9	1	76

注　「P」はピットの意。

第８表　白磁観察一覧a

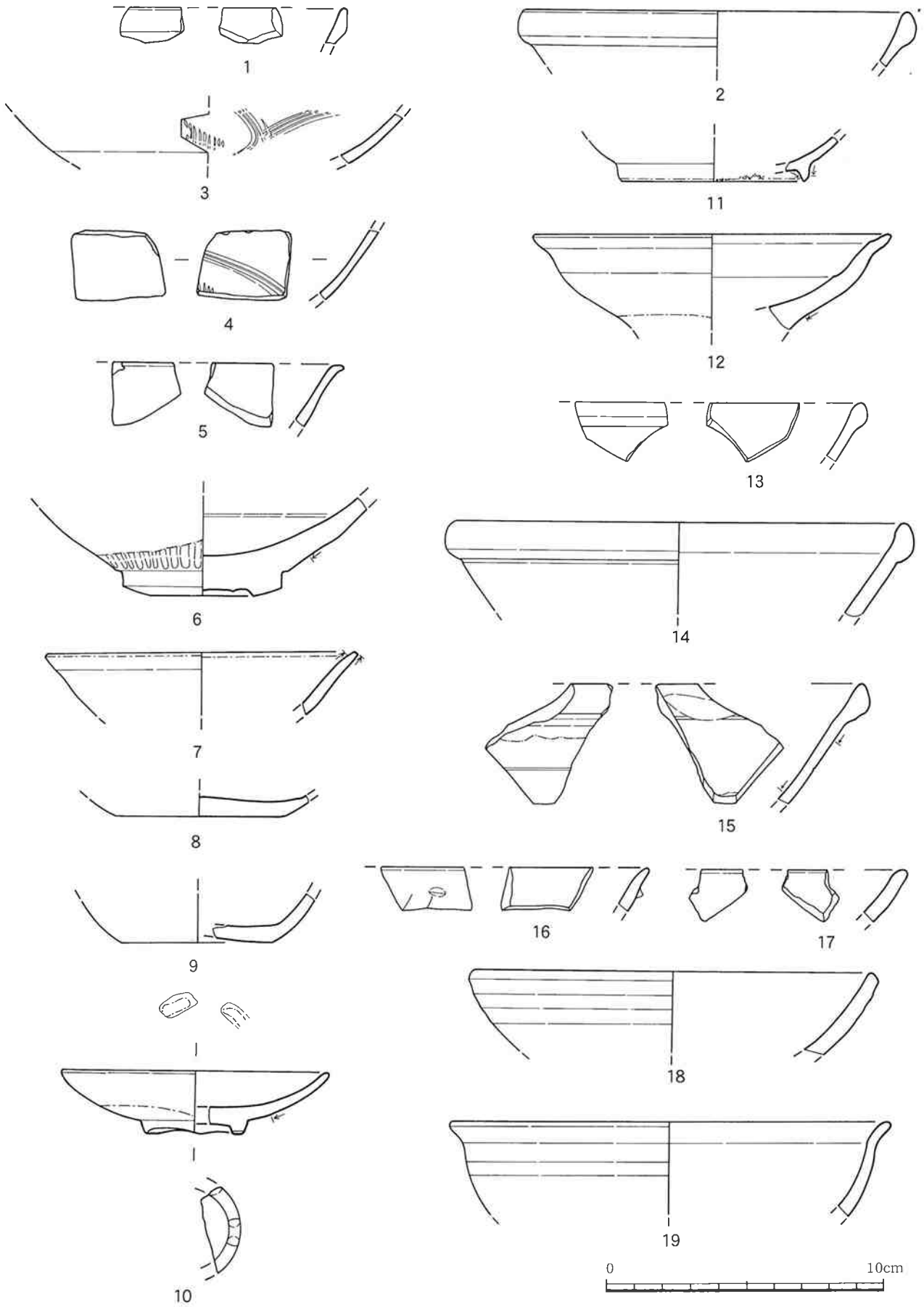
単位：cm

図番号		器種	分類	残存部位	法量(cm)	器形態・成形技法・文様等の特徴	素地	釉色・施釉状況・貫入等	出土地点
第43図・図版26	1	碗	1-a	口縁	－	逆「ハ」字に開く器形。器厚は薄く、玉縁肥厚部は小さい。	淡灰白色で黒色鉱物粒を少量含む。	内・外面に透明釉が厚さ0.5mmほど施釉される。貫入なし。	Ⅰ地区 C-15 3層
	2		1-b	口縁	口径 14.0	逆「ハ」字に開く器形。器厚は薄く、玉縁肥厚部が広い。玉縁肥厚部下にヘラ削り痕がみられる。	淡灰白色で黒色鉱物粒を少量含む。	内・外面に透明釉が厚さ0.5mmほど施釉される。貫入なし。	Ⅰ地区 C-15 3層
	3		3	胴部	－	器厚は薄く、内面に櫛描文が施文される。	淡灰白色で気泡痕がみられる。	内・外面に淡青灰色の釉が厚さ0.5mmほど施釉される。貫入なし。	Ⅰ地区 C-14 2層
	4		3	胴部	－	器厚は薄く、内面に櫛描文が施文される。	淡灰白色で気泡痕がみられる。	内・外面に淡青灰色の釉が厚さ0.5mmほど施釉される。貫入なし。	Ⅰ地区 C-18 7層
	5		4	口縁	－	逆「ハ」字に開く器形。器厚は薄く、口縁部を「く」の字状に屈曲させている。	灰白色で黒色鉱物粒と気泡痕がみられる。	内・外面に透明釉が厚さ0.5mmほど施釉される。貫入なし。	Ⅰ地区 C-14 13層
	6		1	底部	底径 5.8	高台の内刳が浅く、畳付け内端だけが畳みにつく。高台上部に削りが入り、底部から胴部に向かい削りの調整がみられる。	淡灰白色で黒色鉱物粒を含む。気泡痕が若干みられる。	高台より上部から内底まで透明釉を厚さ0.3mmほど施釉される。貫入なし。	Ⅰ地区 不明
	7	皿	1	口縁	口径 11.4	口禿皿。口縁部がやや直口気味に若干外反する。	淡灰白色で黒色鉱物粒を含む。	薄い透明釉を全面施釉し、口唇部の釉を削り取っている。貫入なし。	Ⅰ地区 C-15 3層
	8		1	底部	底径 6.0	口禿皿。胴部に向かい直線的に立ち上がり、平底を呈する。内面立ち上がり部分に削りが廻らされている。	灰白色で黒色鉱物粒と気泡痕がみられる。	薄い透明釉が内面から底部まで施釉される。底面は露胎している。貫入なし。	Ⅰ地区 C-10 4層直上
	9		1	底部	底径 5.4	口禿皿。胴部は丸みを帯び、平底を呈する。内面立ち上がり部分に削りがみられる。	灰白色で黒色鉱物粒と気泡痕がみられる。	薄い青白色釉を全面に施釉される。貫入あり。	Ⅰ地区 C-5 3層
	10		2	口縁～底部	口径 9.8 底径 3.6 器高 2.3	口縁部は内湾気味になり、高台は抉入高台を呈する。	淡灰白色で黒色鉱物粒を含む。	薄い透明釉を高台脇まで施釉される。内面に重ね焼きの痕跡がみられる。貫入なし。	Ⅰ地区 C-14 2層
	11		3	底部	底径 7.0	器厚は薄手で丸みを帯びた高台を持つ。底部接地面に砂が付着している。	灰白色。	薄い透明釉を施す。底部接地面は露胎している。貫入なし。	Ⅰ地区 C-13 3層
	12		5	口縁	口径 12.1	丸みを帯びた立ち上がりで、口縁部は外反する。内面に削りが廻らされている。	乳白色で黒色鉱物粒を含む。	薄い青白色釉を底部脇まで施釉する。貫入あり。	Ⅰ地区 C-8 2層
	13	碗	1-a	口縁	－	逆「ハ」字状に開く器形。玉縁が小さく、丸みを帯びている。	淡灰白色で黒色鉱物粒を含む。	薄い青白色釉を施釉する。貫入なし。	Ⅱ地区 C-29 21層直上
	14		1-b	口縁	口径 17.0	逆「ハ」字状に開く器形。玉縁が大きく、肥厚部が広い。	乳白色で黒色鉱物粒と気泡痕を含む。	薄い灰白色釉を施釉する。貫入なし。	Ⅱ地区 C-29 21層pit63
	15		1-b	口縁	－	逆「ハ」字状に開く器形。玉縁が大きく、肥厚部が広い。	灰白色で黒色鉱物粒を含む。	薄い青灰色釉を玉縁口縁下まで施釉する。貫入なし。	Ⅱ地区 C-29 7層
	16		2	口縁	－	口縁部は外反し、外面に縦の線描文が施文される。	灰白色で黒色鉱物粒を含む。	薄い青白色釉を施釉する。貫入なし。	Ⅱ地区 C-34 溝3直上
	17		5-a	口縁	－	口縁部は外反し、器厚は厚手で口縁端部は丸みを帯びる。	灰白色で黒色鉱物粒を含む。	青灰色釉を施釉する。貫入なし。	Ⅱ地区 5層
	18		5-b	口縁	口径 14.8	口縁部は内湾し、器厚は厚手で丸みを帯びる器形。	淡灰白色で黒色鉱物粒を含む。	青灰色釉を施釉する。貫入なし。	Ⅱ地区 C-29 21層pit22
	19		6	口縁	口径 16.0	口縁部は外反し、口縁下部に稜を呈し、腰部が張る器形。	灰白色で黒色鉱物粒を含む。	淡青灰色釉を施釉する。貫入なし。	Ⅱ地区 溝2-1

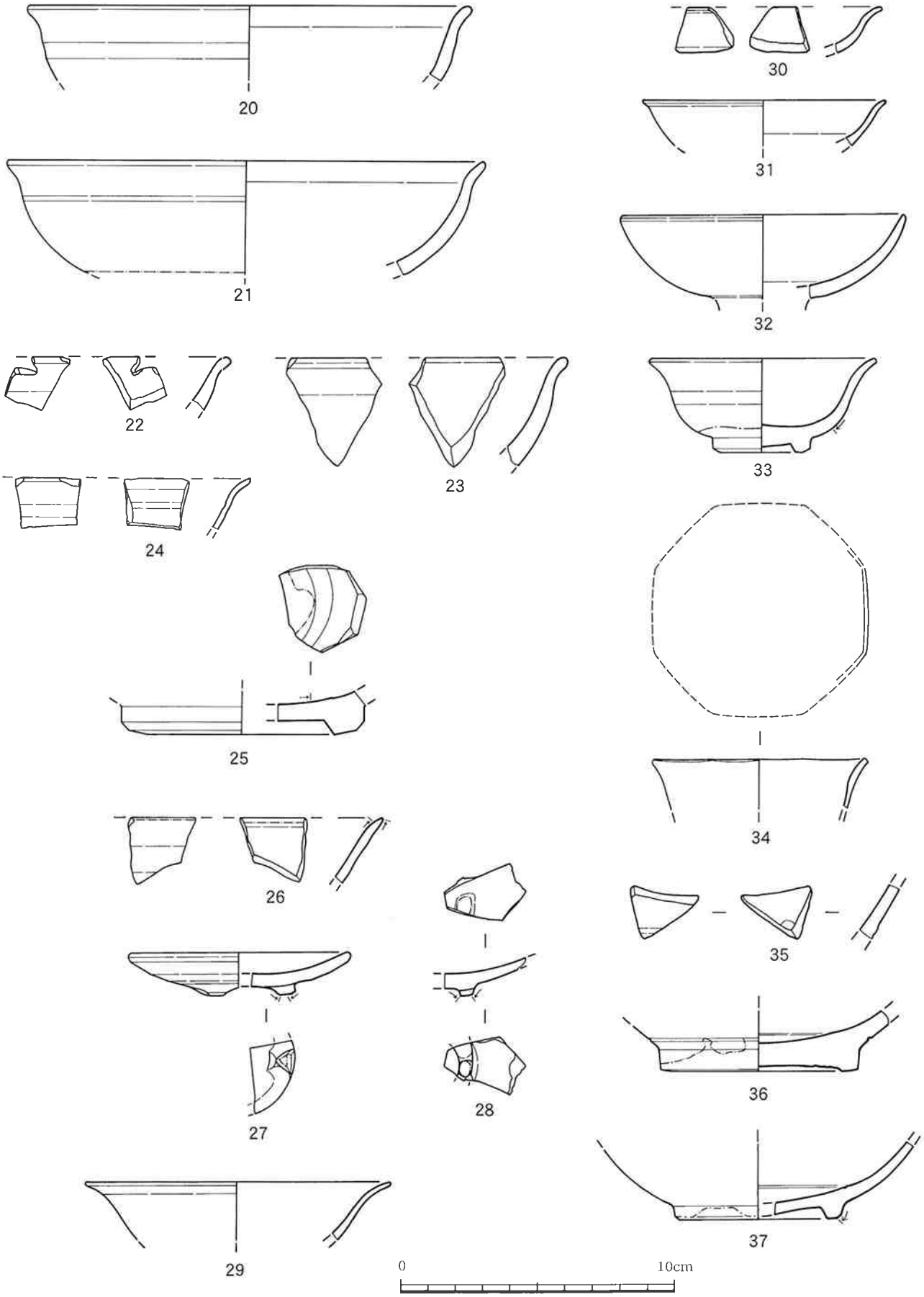
第８表　白磁観察一覧ｂ

単位：cm

図番号		器種	分類	残存部位	法量(cm)	器形態・成形技法・文様等の特徴	素地	釉色・施釉状況・貫入等	出土地点
第44図・図版27	20	碗	6	口縁	口径 16.4	口縁部は外反し、口縁下部に稜を呈し、腰部が張る器形。	灰白色で微粒子と気泡痕を含む。	淡青灰色釉を施釉する。貫入なし。	Ⅱ地区 C-30 8層
	21		6	口縁	口径 17.6	口縁部は外反し、口縁下部に稜を呈し、腰部が張る器形。	灰白色で黒色鉱物粒を含む。	青灰色釉を施釉する。貫入なし。	Ⅱ地区 C-43 3層
	22		6	口縁	－	口縁部は外反し、口縁下部に稜を呈し、腰部が張る器形。	乳白色で黒色鉱物粒を含む。	淡黄白色釉を施釉する。貫入あり。	Ⅱ地区 C-36 溝3上
	23		6	口縁	－	口縁部は外反し、口縁下部に稜を呈し、腰部が張る器形。器厚が７ｍｍで若干厚い。	灰白色で微粒子と気泡痕を含む。	淡青灰色釉を施釉する。貫入なし。	Ⅱ地区 C-31 4層
	24		7	口縁	－	口縁部は「く」の字状に外反し、器厚は２mmと薄手である。	乳白色で黒色鉱物粒を含む。	薄い淡灰白色を施釉する。貫入なし。	Ⅱ地区 C-37 1層
	25		8	底部	底径 6.8	厚みのある高台で削りにより角張った作りとなっている。	灰白色で黒色鉱物粒と気泡痕を含む。	薄い黄白色釉を施釉する。底部は露胎しており、内底を蛇の目状に掻き取っている。	Ⅱ地区 C-29 8層
	26	皿	1	口縁	－	口禿皿。口縁部が若干外反する。	灰白色で黒色鉱物粒と気泡痕を含む。	薄い青白色釉を全面施釉し、口唇部の釉を削り取っている。貫入なし。	Ⅱ地区 C-40 12層
	27		2	口縁～底部	口径 8.2 底径 3.3 器高 1.6	口縁部は内湾気味になり、高台は抉入高台を呈する。	黄白色で黒色鉱物粒を含む。	薄い透明釉を全面施釉される。内面に重ね焼きの痕跡がみられる。貫入なし。	Ⅱ地区 C-38 6層直上
	28		2	底部	－	高台は抉入高台を呈する。	灰白色で黒色鉱物粒を含む。	青白色釉を施釉する。底部接地面だけ露胎している。内面に重ね焼きの痕跡がみられる。外面に貫入あり。	Ⅱ地区 C-32 7層直上
	29		3	口縁	－	口縁部は外反し、腰部は丸みを帯びる。器厚は約２mmと薄い。	灰白色で黒色鉱物粒を含む。	透明釉を施釉する。貫入なし。	Ⅱ地区 C-33 1層
	30		3	口縁	－	口縁部は外反し、腰部は丸みを帯びる。器厚は約２mmと薄い。	灰白色で黒色鉱物粒を含む。	透明釉を施釉する。貫入なし。	Ⅱ地区 C-31 4層
	31		3	口縁	口径 9.0	口縁部は外反し、腰部は丸みを帯びる。器厚は約３mmと薄い。	白色で微粒子を含む。	透明釉を施釉する。貫入なし。	Ⅱ地区 C-29 5層
	32		4	口縁	口径 10.6	ビロースクタイプ皿。口縁部は内湾し、胴部は丸みを持つ。器厚は５mmで厚手である。内底面に削りを廻している。	灰白色で黒色鉱物粒と気泡痕を含む。	濃い青白色釉を施釉する。貫入あり。	Ⅱ地区 C-28 7層Pit26
	33	小碗	1	口縁～底部	口径 8.4 底径 3.0 器高 3.5	口縁部が外反し、腰部は丸みを帯びる。	白色で黒色鉱物粒を含む。	透明釉を胴下半部まで施釉する。貫入あり。	Ⅱ地区 C-27 7層直上
	34		2	口縁	口径 7.9	八角杯。上面観が八角形を呈する。口縁部は外反する。器厚は約２mmと薄手である。	灰白色で黒色鉱物粒を含む。	透明釉を施釉する。 外面に貫入あり。	Ⅱ地区 C-31 5層
	35	器種不明	－	胴部	－	器種不明。胴下半部片と思われる。下部に張り出しがみられる。	灰白色で黒色鉱物粒と気泡痕を含む。	透明釉を施釉する。貫入なし。	Ⅱ地区 C-32 5層
	36	碗	1-b	底部	底径 7.2	玉縁口縁碗の底部。底部は厚手で高台は低く、幅広に成形されている。	淡灰白色で黒色鉱物粒を含む。	薄い青白色釉を底部脇まで施釉する。貫入なし。	Ⅲ地区 H-47 1層
	37	器種不明	－	底部	底径 6.0	腰部は緩やかな丸みを持ち立ち上がる。内面に削りが廻らされている。	灰白色で黒色鉱物粒を含む。	青灰色釉を底部脇まで施釉する。底部は露胎している。	Ⅲ地区 J-47 1層



第43図　白磁１　Ⅰ地区　碗（1～6）、皿（7～12）　**Ⅱ地区**　碗（13～19）



第44図　白磁２　Ⅱ地区　碗（20～25）、小碗（33・34）、皿（26～32）、器種不明（35）
Ⅲ地区　碗（36）、器種不明（37）

第３節　染付（第45図）

染付は総数55点出土した。器種は碗・小碗・皿・小坏・瓶があり、碗が大半を占める。すべて小破片で全形をうかがえるものはない。

碗については簡単な分類をおこなったが、碗の７・８については判別できなかったため不明とし、その他の器種についても出土数が極めて少ないため、分類を割愛し、詳細は観察表にて記述する。

碗

碗はⅠ地区では第１検出面に伴って比較的多く確認された。第３検出面に伴う包含層より近世のものが確認されたが、混入と思われる。Ⅱ地区では第１検出面から第３検出面にかけてまばらに見られる。

Ⅰ類：外反口縁となるもの。（５）
　　雷文や渦巻文などが描かれ、綿密に文様が描かれている。

Ⅱ類：直口口縁となるもの。
　　蓮子、アラベスク文、波濤文などが描かれる。図示できるものはなかった。

Ⅲ類：直口口縁で腰が張りまっすぐたちあがるもの。（１・６）
　　アラベスク文や波濤文などが描かれる。

皿

皿は４点出土し、Ⅰ地区の第１検出面、Ⅱ地区の第３検出面で僅かに確認された。小碗はⅡ地区で２点出土した。小坏は１点のみⅠ地区の第１検出面に伴う層から出土した。瓶も１点のみⅡ地区の第３検出面より出土した。

Ⅰ地区とⅡ地区を比較するとⅡ地区からの出土が大半を占めることから、Ⅱ地区はやや新しい時期に属するものと考えられる。

第９表　染付出土状況（Ⅰ地区）

出土地＼器種・分類		碗 Ⅰ類 口	碗 Ⅰ類 胴	碗 Ⅱ類 口	碗 Ⅱ類 胴	碗 類不明 胴	碗 近世 胴	碗 近世 底	皿 底	小坏 口	合計
1層	C－16							1			1
2層直上	C－11		1								1
	C－13			1							1
3層直上	C－14					1					1
	C－15								1		1
3層	C－5						1				1
	C－7							1			1
	C－12		1								1
	C－13		1			2				1	4
	C－14					1					1
	C－15								1		1
4層	C－17	1									1
9層	C－9							1			1
16層	C－13						1				1
グリッド・層序不明					1						1
合　計		1	3	1	1	4	2	3	2	1	18

第11表　染付出土一覧（Ⅲ地区）

器種	分類	部位	出土地	個数
碗	Ⅰ類	口縁部	1層・J－46	1
	Ⅱ類	底部		1

第10表　染付出土状況（Ⅱ地区）

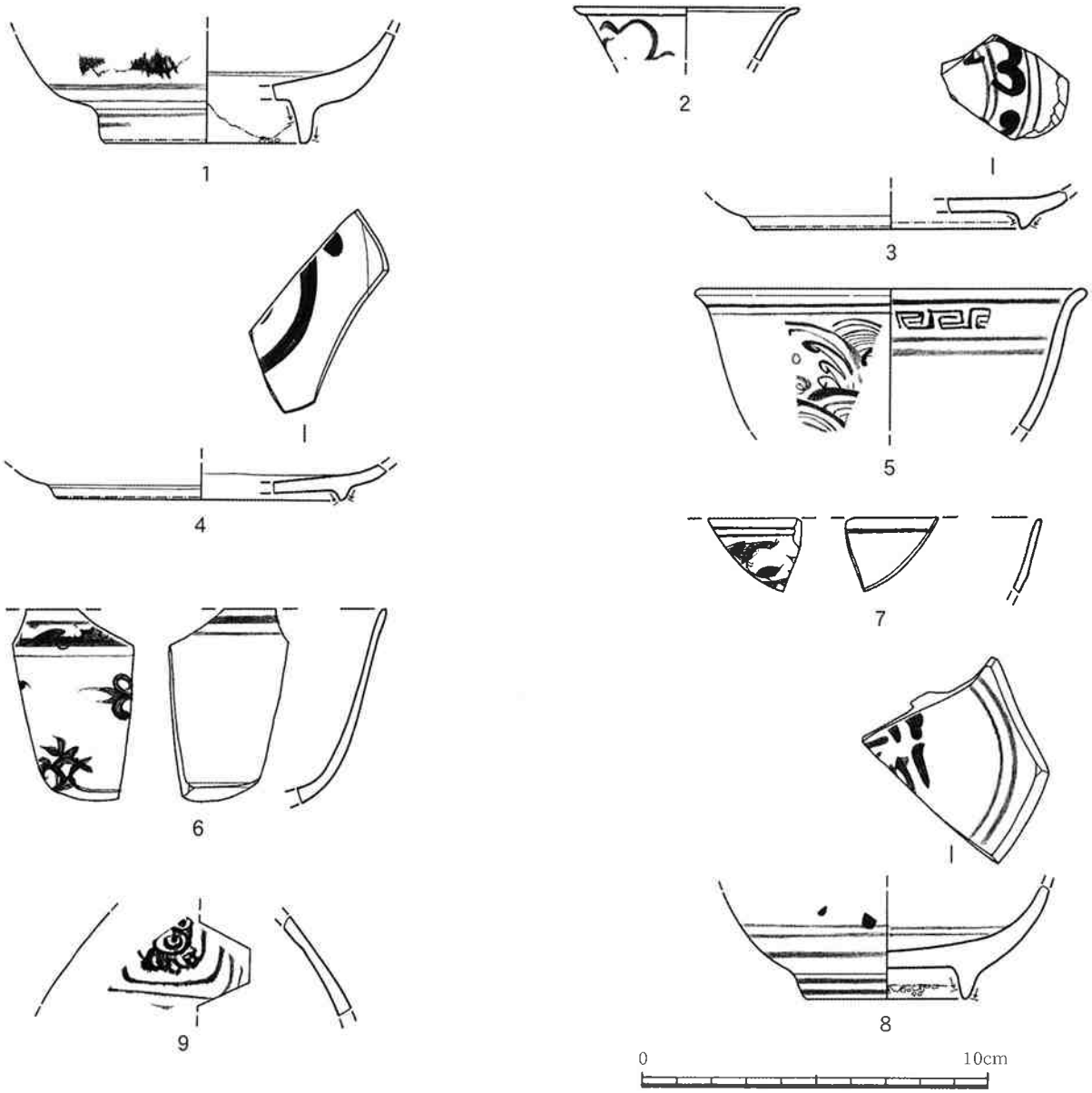
出土地＼器種・分類		碗 Ⅰ類 口	碗 Ⅰ類 胴	碗 Ⅰ類 底	碗 Ⅱ類 口	碗 Ⅱ類 胴	碗 Ⅲ類 口	碗 Ⅲ類 胴	碗 類不明 口	碗 類不明 胴	碗 近世 胴	小碗 口	皿 口	皿 胴	瓶？ 胴	合計
1層	C－37										1					1
	C－41										1					1
	C－42		1													1
	C－43	1														1
	C－45				1					1						2
2層直上	C－35		1													1
2層	C－34		1													1
	C－38		1													1
3層	C－44	1														1
4層	C－31		1													1
	C－32							1								1
5層	C－28								1	1						2
	C－32		2													2
6層直上	C－33						1									1
6層	C－33		1													1
	C－34											1				1
7層直上	C－32	1														1
7層	C－29		1													1
	C－31	1												1		2
7層P41	C－31					1										1
18層直上	C－36														1	1
18層P125	C－35											1				1
20層直上	C－28		1													1
溝２－１	C－32・33	1	1	2												4
客土	C－26										2					2
	グリッド不明									1						1
層序・グリッド不明													1			1
合　計		5	11	2	1	1	1	1	1	3	4	2	1	1	1	35

注　「P」はピットの意。

第12表　染付観察一覧

単位：cm

図番号		器種	分類	部位	法量	観察事項	出土地
第45図・図版28	1	碗	Ⅲ	底	底径6.2	高台が細く高い。高台内側面に砂が付着。見込に2条、外面腰部に3条、高台側面に2条の圏線。文様はかなり崩れたアラベスク文と思われる。呉須の発色は良くコバルト色。青白色の釉で、畳付を釉剥。胎土は白色微粒子。	Ⅰ地区 C-7 3層
	2	坏		口	口径6.6	口縁部が外反し、大きく開いた器形。内外の口縁直下に1状の圏線。文様構成は不明。呉須の発色は良くコバルト色。淡青白色の釉。胎土は白色で微粒子。	Ⅰ地区 C-13 3層
	3	皿		底	底径7.9	高台脚は小さく三角形状を呈する。見込に2重の圏線が2条。文様構成は不明。呉須の発色は鈍く、暗藍色。乳白色の釉で細かい貫入がみられる。畳付と高台内側面の半分までは釉剥。胎土は白色で微粒子。	Ⅰ地区 C-15 3層
	4	皿		底	底径8.4	高台脚は小さく三角形状を呈する。見込と高台脇に1条の圏線。見込の文様構成は不明。呉須の発色は良くコバルト色。淡灰白色の釉で、畳付は釉剥。胎土は白色で微粒子。	Ⅰ地区 C-15 3層直上
	5	碗	Ⅰ	口	口径11.4	外反口縁碗。外面は口縁直下に2条の圏線で体部は波濤文。内面は口縁直下に1条の圏線、雷文を描き、その下に2条の圏線。呉須の発色は鈍く、暗藍色。淡灰白色の釉で、細かい貫入がみられる。胎土は白色で微粒子。	Ⅱ地区 C-44 3層
	6	碗	Ⅲ	口	－	直口口縁碗で、腰が張る器形。外面は口縁直下に波濤を描く帯文で、体部はアラベスク文。内面は口縁直下と見込に2条の圏線。呉須の発色は良くコバルト色。淡青灰色の釉。体部は白色で微粒子。	Ⅱ地区 C-33 6層直上
	7	碗	不	口	－	直口口縁碗。外面は口縁直下に2条の圏線。体部は草花文？。内面は口縁直下に1条の圏線。呉須の発色は良くコバルト色。淡青白色の釉。胎土は白色で微粒子。	Ⅱ地区 C-35 18層P125
	8	碗	不	底	底径4.8	高台脚は細く三角形状。外面は高台側面に2条、腰部に3条の圏線。見込は2条の圏線と中央に「福」の銘款。呉須の発色は鈍く、暗藍色。淡青灰色の釉で、畳付から高台内側面の途中まで釉剥。胎土は白色で微粒子。	Ⅱ地区 C-32・33 溝2-1
	9	瓶		胴	－	ラマ式連弁文。呉須の発色は鈍く暗藍色。淡青灰色の釉。胎土は灰白色で微粒子。	Ⅱ地区 C-36 18層直上

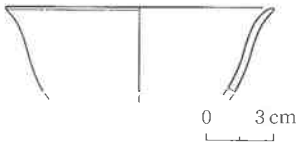


第45図　染付　Ⅰ地区　碗（1）、坏（2）、皿（3・4）　Ⅱ地区　碗（5～8）、瓶（9）

第４節　青磁染付

青磁染付は３点出土した。図下したものはⅡ地区第３検出面である21層Ｃ－29グリットPit232から出土したものである。その他の２点についてはⅡ地区２層Ｃ－37・38グリッドから出土した。

器形は外反口縁を呈する。外面は灰緑色の釉で、内面は淡青白色の釉である。内面口縁直下に１条の圏線が染付けられている。呉須の発色は鈍く、暗コバルト色を呈する。胎土は灰白色で微粒子。口径12cmを計る。



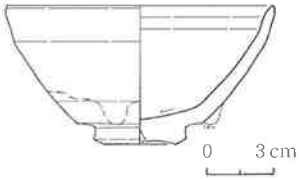
第46図　青磁染付

図版29　青磁染付

第５節　天目

天目は計13点出土した。Ⅱ地区が大半を占め、Ⅰ地区からは２点のみである。図下したものはⅡ地区６層Ｃ－38グリットとＣ－36グリット出土で、接合したものである。

高台は畳付外縁を斜めに削り、高台の内削りは浅い。高台脇を水平に仕上げる。腰部から逆ハの字に大きく開くが、上部では、稜をもって角度を変えて立ち上がる。釉は茶色の混じった黒色で、外体部は下半まで、内面は全面施釉する。外面下半及び見込は釉が厚く溜まる。胎土は灰白色で細粒子、黒色鉱物が若干混じる。口径11.8cm、器高6.15cm、底径3.2cmを計る。



第47図　天目

図版30　天目

第６節　褐釉陶器（第49図）

褐釉陶器は計188点出土した。器種は壺、茶入れ、小型袋物がある。壺が167点、茶入れ４点、小型袋物が１点となっており、壺が圧倒的に多い。小破片が多く胴部が大半を占めており、口縁部や底部といった器形が把握できる資料に乏しい。出土状況はⅡ地区が多く、Ⅰ地区では器形が把握できる資料は小型袋物のみであった。Ⅱ地区でも器形が把握できる資料は１層が大半を占める。壺については分類をおこない、その他の器種については観察表で記述する。

第15表　褐釉出土一覧（Ⅲ地区）

器種	部位	出土地		個数
壺	胴部	１層	Ｈ－47	1
			Ｊ－48	2
			Ｌ－47	2
		溝１	Ｈ－46	1
		溝２	Ｊ－46	1
		層序・グリッド不明		1

壺

Ⅰ類：口縁断面が方形状を呈し、頸部に明瞭な轆轤痕を有する。（２）

Ⅱ類：口縁断面が三角形を呈し、緩やかに胴部が張る。器壁が薄く小型である。（３）

Ⅲ類：口縁部を折り曲げ、先は舌状を呈する、直下に強い削りを入れて成形する。同一系統と思われる底部資料があり、これに含める。（４～８）

第13表　褐釉陶器出土状況（Ⅰ地区）

出土地 ＼ 器種・分類		壺	小型袋物	器種不明	合計
		胴	底	口	
1層	C－12	1			1
	C－15	1			1
	C－16	2			2
	C－18	1			1
2層直上	C－15	2			2
2層	C－6	1			1
	C－7	1			1
	C－10	1			1
	C－12	1			1
	C－13	1			1
	C－15	2			2
	C－16	1			1
	グリッド不明	1			1
3層直上	C－14			1	1
3層	C－12	4			4
	C－13	3			3
	C－14	5			5
	C－15	2			2
4層	C－17	1			1
7層直上	C－7	1			1
7層	C－12	1	1		2
8層	C－7	1			1
層序不明	C－16	1			1
合　計		35	1	1	37

第14表　褐釉陶器出土状況（Ⅱ地区）

出土地 ＼ 器種・分類		壺						茶入れ		合計
		Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ						
		口	口	口	底	胴	耳	口	底	
1層	C－28					2				2
	C－30					1				1
	C－32	1			1	7				9
	C－34		1			1				2
	C－37		1			1				2
	C－38			1	1	3				5
	C－39					2				2
	C－40					1				1
	C－43					1				1
	C－44					2				2
2層	C－38					2				2
3層	C－42					1				1
4層	C－27					1				1
	C－29					1				1
	C－31					1				1
	C－32					2				2
5層	C－28					2				2
	C－29					1				1
	C－30					1				1
	C－31					6				6
	C－32				1	1				2
	C－37					1				1
5層直上	C－33					3				3
6層	C－33					1				1
	C－34					3				3
	C－35			1		7				8
	C－36					1				1
	C－38					2				2
7層直上	C－27					3				3
	C－32				1	16				17
7層	C－28					1				1
	C－30	1				1				2
	C－30・31					2				2
	C－31					1				1
	C－32					1				1
	C－38					1				1
7層P41	C－31					1				1
8層	C－29							1		1
	C－32					1				1
18層直上	C－34					1				1
19層	C－45					1				1
21層直上	C－33					1				1
	C－34					1				1
21層	グリッド不明					1				1
21層P228	C－29					3				3
21層P271	C－29					2		1	1	4
21層P287	C－30				1					1
21層P306	C－30					1				1
21層P311	C－30								1	1
21層P338	C－30					1				1
21層P480	C－34					1				1
溝2-1	C－32・33	1				12				13
	C－33					1				1
溝2-2	C－32・33				1	1				2
溝3	C－35					1				1
客土	C－26				1	1	1			3
	C－31					1				1
	グリッド不明					3				3
層序・グリッド不明						5				5
合　計		3	2	2	7	124	1	2	2	143

注　「P」はピットの底。

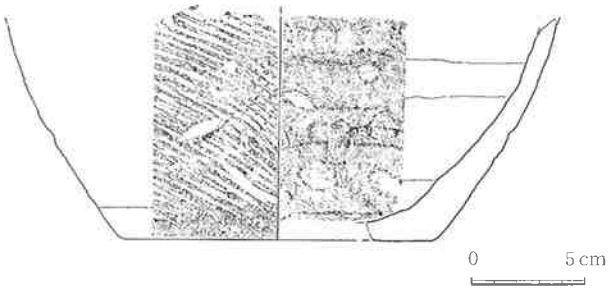
第16表　褐釉陶器観察一覧

単位：cm

図番号		器種	分類	部位	口径	器高	底径	観察事項	出土地
第49図・図版28	1	小型袋物		底	－	－	1.6	底部が僅かに立ち上がり、腰が強く張る。緑褐色の釉が、外面腰部最大径のあたりまで施釉。内面は露胎。胎土は灰色で微粒子、黒色鉱物を僅かに含む。	Ⅰ地区 C-12 7層
	2	壺	Ⅰ	口	19.4	－	－	口縁断面が方形状を呈し、頸部は２条の稜をもつ。釉は内外面に施釉され茶褐色。頸部から肩部は強く屈曲し、肩が張る器形。胎土の色調は内面淡橙色、外面は淡紫灰色となる部分がある。細粒子で大粒の白色鉱物を僅かに、微粒の白色鉱物を多量に含む。	Ⅱ地区 C-32・33 溝2-1
	3	壺	Ⅱ	口	7.0	－	－	口縁断面が三角形で、口縁部から緩やかに胴部が張る器形を呈する。器壁が薄く、小型で丁寧な作りである。釉は淡黄灰色で、内外面に施釉される。胎土は灰色で微粒子。	Ⅱ地区 C-37 1層
	4	壺	Ⅲ	口	－	－	－	口縁を折り曲げ、先は舌状を呈する。直下に強い削りを入れる。頸部はやや内傾し、屈曲して肩が張る器形。釉は赤茶褐色で、内外面に施釉される。胎土は明橙色で泥質細粒子、白色鉱物を僅かに含む。	Ⅱ地区 C-38 1層
	5	壺	Ⅲ	口	－	－	－	口縁を折り曲げ、先は舌状を呈する。直下に強い削りを入れる。頸部は垂直で、屈曲して肩が張る器形。茶褐色の釉が口唇部にのみ見られる。胎土は淡紫色で泥質細粒子、白色鉱物を僅かに含む。	Ⅱ地区 C-35 6層
	6	壺	Ⅲ	底	－	－	10.0	底部がやや上底状を呈する。内面に轆轤痕が見られる。茶褐色の釉が内面に僅かに付着する。胎土は淡紫色で粗粒子、大粒の白色鉱物を多量に含みザラザラする。	Ⅱ地区 C-32 7層直上
	7	壺	Ⅲ	底	－	－	11.2	平底。大粒の白色鉱物を多量に含み外面はザラザラする。内面は轆轤痕が明瞭に残り、よくナデられている。内器面は淡紫色だが、全体的に灰色を呈する。粗粒子。底部付近まで茶褐色の釉が垂れる。	Ⅱ地区 C-32・33 溝2-2
	8	壺	Ⅲ	底	－	－	17.0	平底。内面は轆轤痕が明瞭に残る。胎土は淡橙色を呈すが、断面外面は紫灰色である。大粒の白色鉱物を多量に含み、粗粒子。	Ⅱ地区 C-32 5層
	9	茶入れ		口	2.8	－	－	口唇部を平坦に仕上げ、頸部は垂直で屈曲して肩がほぼ水平に張り、屈曲して胴部は筒状になる。内面は轆轤痕が見られる。黒褐色の釉が、外面と内面頸部まで施釉される。胎土は灰色で微粒子。	Ⅱ地区 C-29 8層
	10	茶入れ		口	2.6	－	－	口唇部を平坦に仕上げ、頸部は垂直で屈曲して肩がほぼ水平に張り、屈曲して胴部が張る。光沢のある黒褐色の釉が、外面と内面頸部まで施釉される。胎土は紫灰色で微粒子。	Ⅱ地区 C-29 21層P271
	11	茶入れ		底	－	－	2.6	平底で緩やかに胴が張る。黒褐色の釉が胴下半まで施釉される。内面は露胎するが、底部付近に釉が垂れている。器面は灰色で、断面は暗紫色。泥質微粒子。	Ⅱ地区 C-30 21層P311

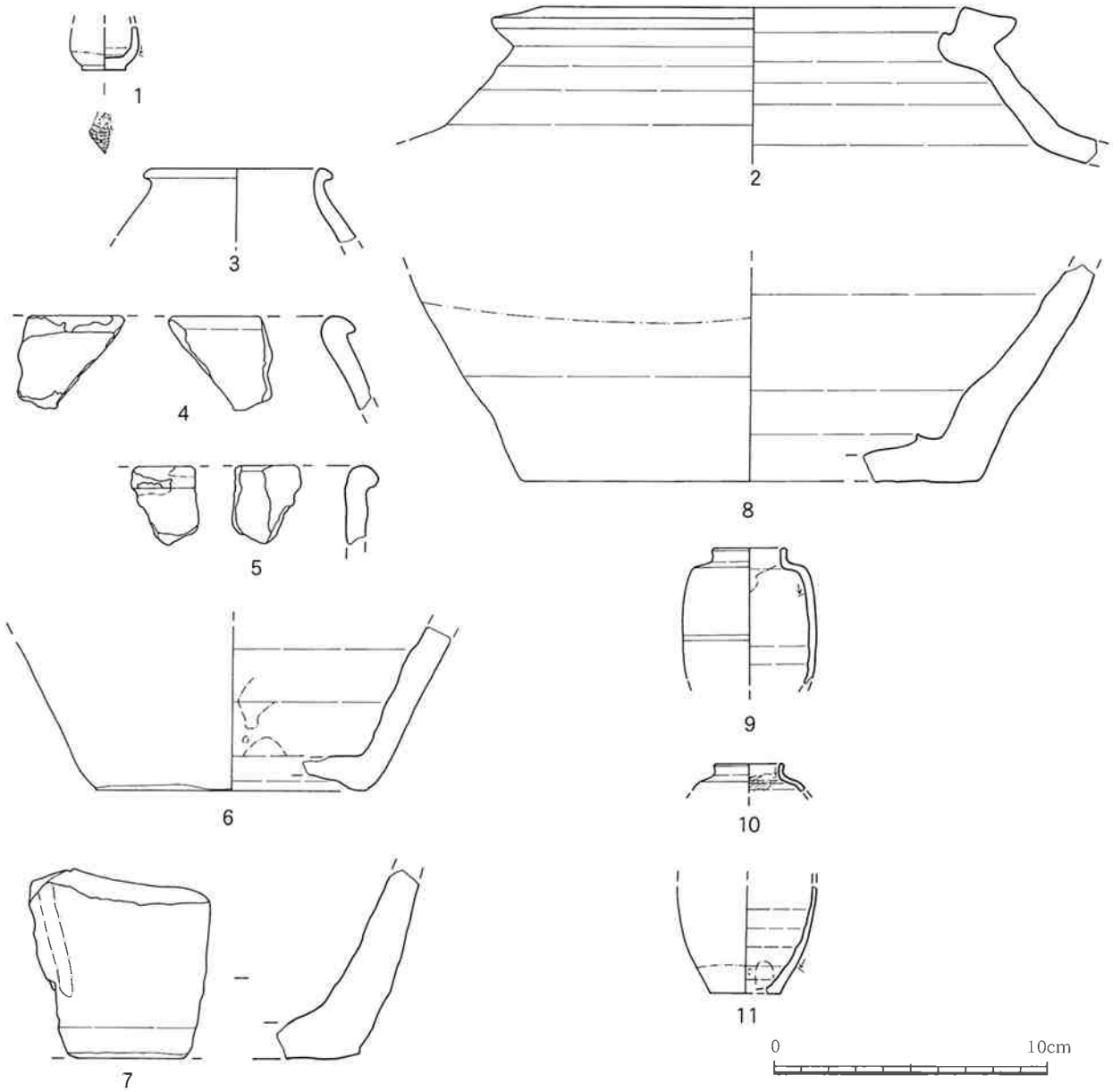
第７節　本土産陶器

本土産陶器は計13点出土した。図化したものはⅡ地区溝状遺構２－１から出土したものである。底部から膨らみをもって立ち上がる、壺形か甕形を呈すると思われる。外体部には斜位の叩目が残るが、一部格子状になるところがある。内面は和積みの跡が明瞭に残り、結合部を指で押さえている。胎土はにぶい黄橙色を呈し、粗粒子で白色鉱物を多量に含む。底径14cmを計る。



第48図　本土産陶器

図版31　本土産陶器



第49図　褐釉陶器　Ⅰ地区　小型袋物（1）　**Ⅱ地区**　壷（2～8）、茶いれ（9～11）

第８節　土器（第50～53図）

今回の調査でⅠ地区2775点、Ⅱ地区676点、Ⅲ地区107点の土器が出土している（第18～20表）。該資料の報告に際し、基本的に２つの土器群に区別した。いわゆる「グスク（系）土器」と称されるグループと、その土器群よりも時間的に遡ると目されるグループに分けられる。本遺跡出土土器の量的主勢を占めるものが前者のグスク（系）土器（第Ⅰ群土器）で、次いで貝塚時代後期相当の土器群（第Ⅱ群土器）が検出された。以下、分類概念を明記し、個々の遺物については観察表に記した（第17表）。

Ⅰ群　グスク（系）土器

概ね12～15世紀頃（グスク時代にほぼ対応）に比定できる土器群である。グスク（系）土器には、器高９cmを境に「普通の大きさのもの」と「小型のもの」の２つに分けることが可能（金城1999）である。本調査では、「普通の大きさのもの」が多く、鍋形、鉢形、浅鉢、壺形が得られている。

１．鍋形

一般に広口、広底を基本形態とし、口縁部に把手状突起もしくは瘤状突起を有する。本種には、滑石の粒子を混入する資料も少量得られており、石鍋との関わりを裏付ける。したがって、モデルとされる滑石製石

鍋の把手（耳）の形態を参考に分類をおこなった。Ⅰ地区で第２～１検出面とそれに伴う層から多量に出土している。Ⅱ地区では、Ⅰ地区より出土点数が少ないが第３検出面とそれに伴う層から多く出土している。

器形態の分類

ａ類　口縁部が直口ないし、やや内湾する傾向をもつ形態。Ⅰ地区では、第1～3検出面に伴う層から出土している。Ⅱ地区では、第1検出面より１点出土している。(10～11)

ｂ類　口縁部が内湾する傾向をもつ形態。Ⅰ地区では第１検出面から１点出土している。ｂ類は第１検出面及びそれより上層から混在して出土している。Ⅱ地区では、第３検出面より上層から出土している。

ⅰ　口縁部が内湾し、口唇部が丸みをもつ形態。(12・13)

ⅱ　口縁部が内湾し、口唇部に箆を用い平担にする形態。(６～９・14・15・17)

ⅲ　口縁部が内湾し、口縁部の屈曲を強調する余り、内面に凹みがみられ、口唇部を箆で平坦にする形態。

ｃ類　口縁部が内湾する傾向を持つ。ｂ類よりも内湾の頻度が強く、横にねる形状で口唇部を平坦にする形態。Ⅰ地区の第１検出面より上層から１点出土。Ⅱ地区では第18層より１点出土。(51)

把手・突起部の分類

①類　方形状把手　正面、上面観が縦に定型的方形または長方形を呈し、重圧感を伴う丁重な成形が特徴である。Ⅰ地区の第２検出面とそれより上層から出土。Ⅱ地区では第18層から２点出土している。(６～８・33・34)

②類　瘤状把手　　正面、上面観が①類の方形状把手よりやや粗雑な成形となり、全体に丸みを帯びる。Ⅰ地区の第２検出面より上層より出土。第11層より１点出土。Ⅱ地区第１検出面に伴う層から２点出土している。(９～11・35～37)

③類　方形状・瘤状小突起　①・②類の把手状突起が矮小化した小突起。Ⅰ地区の第２検出面より上層から出土している。Ⅱ地区では、第18層から２点出土している。(12・13・38・39)

④類　把手状突起　把手の形骸化が②類よりも進行したグループで、形態が円形や横型の長楕円形状を呈す。

ⅰ　横型長楕円形状の把手状突起を口縁部に貼付するもの。Ⅰ地区第１検出面より上層から出土する。Ⅱ地区では、未検出である。(14・40)

ⅱ　横型長楕円形状の把手状突起を胴上部に貼付するもの。Ⅰ地区の第２検出面から１点出土。Ⅱ地区では第18層から１点出土している。(16・41)

ⅲ　円形状の粘土を胴上部に貼付するもの。一点しか出土しておらず、また貼付の状況から意図的に貼付したかは不明である。Ⅱ地区第１層より１点出土している。(42)

⑤類　羽釜・鍔状突帯　胴上部に突帯を廻らせ、鍔状の形態を呈する。滑石製石鍋Ⅲ- a類(木戸1993)模倣土器と思われる。Ⅰ地区の第２検出面より上層から出土している。Ⅱ地区の第３検出面より上層から１点出土している。(17～19・43～45)

滑石粒の胎土混入土器（10・45・58）

今回の資料では、鍋形ｂ類　と底部形態ｂ類に滑石混入がみられた。Ⅰ地区では第３検出面より上層から出土している。Ⅱ地区では、第21層Pit224から１点出土。第３検出面より上層からも数点出土している。

２．鉢形

ａ類　口縁部は外反し、胴部はさほど膨らまず、頸部以下に緩やかな肩を形成する。最大径は口縁部に位置する。Ⅱ地区の溝３層から２点と第１層から１点出土している。(52)

３．浅鉢・皿形

器形は広口で器高が鉢形よりも浅くなるものを浅鉢とし、浅鉢よりも広口で器高が低いものを皿形とした。本遺跡では、浅鉢が６点出土している。Ⅰ地区の第１検出面より上層から出土。Ⅱ地区では、第３検出面より１点出土している。(53)

４．壷形

口縁部は外反、頸部で締まるのを基本形とする。Ⅰ地区では第１～３検出面とそれに関わる層から出

土する。特に第１検出面より上層からまとまって出土している。Ⅱ地区では、ほとんど出土していない。第３検出面より若干出土している。

器形態の分類

ａ類　頸部が長く、角を持ち屈曲もしくは屈折することで口縁部は外反する。胴部が張る器形。Ⅰ地区の第２検出面とそれより上層から出土している。Ⅱ地区では、第19層から１点出土している。(1・23・54)

ｂ類　頸部がａ類より短くなり、丸みを持ち屈曲もしくは屈折し口縁部は外反する。ａ類より外反の頻度は小さい。口縁部から胴部へかけてなだらかな器形。Ⅰ地区の第１検出面より上層から出土する。Ⅱ地区では、第３検出面よりも上層から出土している。(24)

ｃ類　頸部から口縁部にかけて直口するものである。Ⅰ地区の第１～３検出面とそれに伴う層から出土している。その中でも第１検出面と伴う層から多く検出される。Ⅱ地区では溝2－1層と第18層から１点ずつ出土している。

５．底部資料

直接口縁資料と接合しないものを底部資料として取り上げた。２形態に分類した。概ね鍋形と壺形の底部と思われる。ａ類とｂ類ともにⅠ地区では第１～３検出面に伴う層から出土している。Ⅱ地区では、第１検出面より上層からａ類が出土しており、ｂ類は第３検出面とそれより上層から出土している。

ａ類　底部から胴部への立ち上がりが急なもので、立ち上がり際で底面との境に稜をつくるもの。分類可能な資料と比較検討した結果、概ね壺形の底部資料と思われる。(25～29・55・56)

ｂ類　底部から胴部への立ち上がりが緩やかで丸みを持ち、底面との境に明確な稜をつくらないもの。分類可能な資料との比較したところ、概ね鍋形の底部資料と思われる。(30～32・57～59)

Ⅱ群　沖縄新石器時代後期（弥生時代～平安時代初頭併行期）に属するとみられる土器

第Ⅱ群土器（後期系土器）は、第Ⅰ群土器と比較すると圧倒的に少ない。Ⅰ地区で６点、Ⅱ地区で１点、Ⅲ地区で１点出土している。器形は甕形で底部はくびれ平底を呈すると思われる。しかし、底部に伴う口縁部は本調査で検出することができなかった。

底部　くびれ平底様式に属するもの。２種類の資料が得られた。

ａ類ⅰ　平坦面を持ち尖底に似た底部。底面縁部は丸みを持ち若干のくびれがみられ、くびれ部は高い位置にある。器厚が厚い。Ⅰ地区の第13層から１点出土している。Ⅱ地区では検出されなかった。（２）

ａ類ⅱ　底径がａ類より広く、くびれ部が底面に近い位置にある。器厚が薄い。Ⅰ地区の第１～３検出面に伴う層から若干出土している。（３～５）

以上、土器の分類概念とその出土状況について概観した。Ⅲ地区では、ほとんど土器が出土していないためⅠ地区とⅡ地区の遺物の対応関係と時間差について考察を加えたい。Ⅰ地区の第１検出面とそれに伴う包含層は、グスク（系）土器が主体を占めている。その中でも鍋形が多く、次いで壺形が出土する傾向を持つ。その他に浅鉢が共伴し、滑石模倣土器と思われる把手のバリエーションが増え、方形把手や瘤状把手、把手が矮小化したものが共伴する。少数ではあるがⅡ地区の第Ⅲ検出面とそれに伴う包含層に出土遺物の共通性がみられるため、ほぼ同時期と考える。Ⅰ地区の第２検出面とそれと伴う包含層からグスク（系）土器が少数検出されている。鍋形と壺形が若干得られ、鉢形・浅鉢形が出土していないため、第１検出面との若干の時間差があると考えられる。その結果、Ⅰ地区の第１検出面とⅡ地区の第３検出面とがほぼ同時期で、共伴する陶磁器と比較した結果、14～15世紀頃と考える。Ⅰ地区の第２検出面は、13～14世紀頃と考えられる。第３検出面から土器がほとんど出土しない為、時間軸について捉えることは難しい。また、Ⅱ地区の第１～２検出面から出土した土器から時間差を捉えることは難しい。

第17表　土器観察一覧ａ

単位：ｃｍ

図番号		群	器種	分類	残存部位	推定口径 推定底径	形態の特徴	器面調整の状況	胎土混入物	色調 ①外面②内面	出土地点
第50図・図版32	1	第Ⅰ群	壺	ａ類	口縁	－	口縁は「く」の字状に外反する。器厚は薄手である。胴部は張る器形と思われる。	内外面にナデ調整。アバタ状の器面。	泥質／白色粒子	①暗褐色 ②暗褐色	Ⅱ地区 C-42 19層
	2	第Ⅱ群後期系土器	甕	底部 ａ類ⅰ	底部	底径 4.9	底部からの立ち上がりが緩やかで丸みを帯び、くびれ部が高い位置にある。器厚は厚い。	内面に刷毛目状の調整。外面くびれ部に指圧痕。	泥質／黒色粒子	①にぶい橙色 ②暗褐色	Ⅰ地区 C-12 13層
	3		甕	底部 ａ類ⅱ	底部	底径 7.0	くびれ部が低い位置にあり、底部の厚さが薄手である。	内面立ち上がり部に指圧後ナデ調整。外面にくびれ部に指圧痕。アバタ状の器面。	泥質／白色粒子	①にぶい橙色 ②黄褐色	Ⅰ地区 C-15 11層
	4		甕	底部 ａ類ⅱ	底部	底径 8.5	くびれ部が低い位置にあり、底部の厚さが薄手である。	内面立ち上がり部に指圧後ナデ調整。外面にくびれ部に指圧痕。アバタ状の器面。	泥質／白色粒子	①黄褐色 ②にぶい橙色	Ⅰ地区 C-15 3層
	5		甕?	底部 ａ類ⅱ	底部	底径 12.6	くびれ部が低い位置にあり、底部の厚さが若干他の資料より厚手である。グスク土器に類似すると思われる。	内面にナデ調整。外面くびれ部に指圧後刷毛目状の調整。	泥質／石灰質粒子 黒色粒子	①にぶい橙色 ②にぶい橙色	Ⅰ地区 C-18 6層
	6	第Ⅰ群グスク系土器	鍋	ｂ類ⅱ 把手①	口縁	－	口縁部は内湾し、口唇部を平坦にする。平らな面で構成される方形状把手を持つ。	把手を成形後全面にナデ調整が施される。	泥質／白色粒子	①にぶい橙色 ②にぶい橙色	Ⅰ地区 C-13 7層
	7		鍋	ｂ類ⅱ 把手①	口縁	－	口縁部は内湾し、口唇部を平坦にする。方形状の把手で若干丸みを持つ。器厚は厚手である。	内外面に顕著なナデ調整を施す。把手の周りをつまみ成形後、ナデ調整。	泥質／白色粒子	①にぶい橙色 ②にぶい橙色	Ⅰ地区 C-15 3層
	8		鍋	ｂ類ⅱ 把手①	口縁	－	口縁部は内湾し、口唇部を平坦にする。方形状把手で把手の中央部に凹みがみられる。器厚は厚手である。	内外面に顕著なナデ調整を施す。把手の周りをつまみ成形後、ナデ調整。把手中央部に縦に指ナデを行い凹ませている。	泥質／石灰質粒子	①にぶい橙色 ②暗褐色	Ⅰ地区 C-17 5層
	9		鍋	ｂ類ⅱ 把手②	口縁	－	口縁部は直口する。突起部が方形状から丸みを帯びだし、断面観が曲線を描く。	内外面にナデ調整。把手側面は平坦に仕上げ、中央部は丸みを持たせナデ調整。	泥質／石灰質粒子	①にぶい橙色 ②黄褐色	Ⅰ地区 C-17 11層
	10		鍋	ａ類 把手②	口縁	－	口縁部は直口で把手の形状が瘤状を呈する。突起部側面に直径約３mmの有孔がみられる。孔は右側面から棒状のもので穿かれたと思われる。	内外面にナデ調整。ナデ調整で把手に丸みを帯びさせる。	泥質／滑石粒子・石英・白色粒子	①黄褐色 ②にぶい橙色	Ⅰ地区 C-17 4層
	11		鍋	ａ類 把手②	口縁	－	口縁部は直口する。突起部が方形状から丸みを帯びだし、断面観が曲線を描く。№９に類似する。	内外面にナデ調整。把手側面をつまみ成形後ナデ調整で丸みを持たせている。	泥質／石灰質粒子	①にぶい橙色 ②黄褐色	Ⅰ地区 C-15 3層
	12		鍋	ｂ類ⅰ 把手③	口縁	－	口縁部は内湾し、突起部は瘤状突起が矮小化したもの。器厚は把手①類より薄手である。	内外面にナデ調整。突起中央部をナデた後側面をナデ調整している。アバタ状の器面。	泥質／石英・白色粒子	①肌色 ②黄褐色	Ⅰ地区 C-15 2層直上
	13		鍋	ｂ類ⅰ 把手③	口縁	－	口縁部は内湾し、突起部は瘤状突起が矮小化したもの。器厚は把手①類より薄手である。	口縁部を指圧成形で内湾させ、その後ナデ調整。突起部は成形後ナデ調整。	泥質／石英・白色粒子・黒色粒子	①黄褐色 ②黄褐色	Ⅰ地区 C-11 2層
	14		鍋	ｂ類ⅱ 把手 ④－ⅰ	口縁	－	口縁部は内湾し、横長の突起を貼付する。	内外面にナデ調整。アバタ状の器面。口唇部に丁寧なナデ調整。	泥質／白色粒子	①にぶい橙色 ②にぶい橙色	Ⅰ地区 C-9 3層直上
	15		鍋	ｂ類ⅱ 把手②	口縁	－	口縁部は内湾し、突起部が瘤状を呈する。口唇部を平坦にする。突起部中央部に凹みがみられる。	内外面にナデ調整。突起部は指圧成形後丁寧なナデ調整。中央部に指圧で窪ませている。	泥質／白色粒子	①黒褐色 ②暗褐色	Ⅰ地区 C-14 3層
	16		鍋	把手 ④－ⅰ	把手	－	把手上面観は楕円形を呈し、把手は横長に貼付する。器厚は厚手である。	内外面にナデ調整。突起部は貼付され、その後指圧成形しナデ調整。	泥質／貝殻片・石英・白色粒子	①にぶい橙色 ②にぶい橙色	Ⅰ地区 C-10 7層直上
	17		鍋	ｂ類ⅱ 把手⑤	口縁	口径 17.6	口縁部は内湾し、口唇部を平坦にする。胴上部に突帯を鍔状に廻らす。	内外面に丁寧なナデ調整。突帯部にもナデ調整。	泥質／灰色粒子・石灰質粒子	①暗褐色 ②にぶい橙色	Ⅰ地区 C-17 12層
	18		鍋	ａ類 把手⑤	口縁	－	口縁部は直口し、丸みを持っている。胴上部に突帯を鍔状に廻らせる。	内面に指圧痕がある。内外面にナデ調整。	泥質／石英・黒色粒子	①にぶい橙色 ②黄褐色	Ⅰ地区 C-13 3層
	19		鍋	把手⑤	胴部	－	胴上部に突帯を廻らしている。突帯の一部が破損している。	内外面にナデ調整。	泥質／石英・黒色粒子	①にぶい橙色 ②暗灰色	Ⅰ地区 C-12 2層
	20		鍋	ｂ類ⅱ	口縁	－	口縁部は内湾し、口唇部を平坦にする。	内面に指圧後、篦削りがみられる。内外面をナデ調整。	泥質／石英・白色粒子	①にぶい橙色 ②暗褐色	Ⅰ地区 C-15 3層

第17表　土器観察一覧ｂ

単位：ｃｍ

図番号		群	器種	分類	残存部位	推定口径 推定底径	形態の特徴	器面調整の状況	胎土混入物	色調 ①外面②内面	出土地点
第51図・図版33	21	第Ⅰ群グスク系土器	鍋	ｂ類ⅰ	口縁	－	口縁部は内湾し、口唇部は丸みを持つ。器厚は薄手である。	内外面に指圧後ナデ調整。	泥質／石英・雲母・白色粒子	①肌色 ②肌色	Ⅰ地区 C-16 3層
	22		鍋	ｂ類ⅲ	口縁	－	口縁部は内湾し、口唇部を平坦にする。指圧成形で内湾にするため、内面に屈曲がみられる。	内外面にナデ調整。内面屈曲部に指圧痕。口唇部に箆調整。アバタ状の器面。	泥質／白色粒子	①にぶい橙色 ②にぶい橙色	Ⅰ地区 C-13 7層
	23		壺	ａ類	口縁	－	口縁部は「く」の字状に外反し、胴部が張る器形。	内外面を箆削り後ナデ調整。	泥質／石英・白色粒子	①肌色 ②肌色	Ⅰ地区 C-12 3層
	24		壺	ｂ類	口縁	－	口縁部は丸みを持ち外反する。口唇部は丸みを帯びる。器形は、口縁部から胴部にかけてなだらかである。	口縁屈曲部に指圧痕がみられる。その後ナデ調整。	泥質／白色粒子	①にぶい橙色 ②肌色	Ⅰ地区 C-8 7層
	25		－	底部ａ類	底部	－	底部から胴部にかけて急な立ち上がりで、立ち上がり部分に稜をつくる。器厚は厚手である。	立ち上がり部に指圧痕がみられる。内外面にナデ調整。アバタ状の器面。	泥質／黒色粒子	①肌色 ②肌色	Ⅰ地区 C-13 2層
	26		－	底部ａ類	底部	－	底部から胴部にかけて急な立ち上がりで、立ち上がり部分に稜をつくる。底面に白色粒子が付着している。器厚は厚手である。	立ち上がり部分に箆削りがみられる。内面に指圧後ナデ調整。	泥質／白色粒子	①黒褐色 ②肌色	Ⅰ地区 C-13 7層
	27		－	底部ａ類	底部	底径 15.8	底部から胴部にかけて急な立ち上がりで、立ち上がり部分に稜をつくる。器厚は薄手である。	内外面にナデ調整。外面に箆削りがみられる。	泥質／石英・黒色粒子	①灰色 ②にぶい橙色	Ⅰ地区 C-17 4層
	28		－	底部ａ類	底部	底径 9.9	底部から胴部にかけて急な立ち上がりで、立ち上がり部分に稜をつくる。器厚は厚手である。	内外面にナデ調整。内面に指圧痕。外面に箆削りがみられる。	泥質／白色粒子	①黒褐色 ②肌色	Ⅰ地区 C-13 3層
	29		－	底部ａ類	底部	底径 13.0	底部から胴部にかけて急な立ち上がりで、立ち上がり部分に稜をつくる。器厚は厚手である。しかし、底面の器厚は薄手である。	内外面に指圧成形後、ナデ調整。底面はアバタ状の器面。	泥質／白色粒子	①肌色 ②肌色	Ⅰ地区 C-12 3層
	30		－	底部ｂ類	底部	－	底部から胴部にかけて緩やかに丸みを帯び立ち上がる。器厚は厚手である。	内外面にナデ調整。	泥砂質／白色粒子	①黒褐色 ②暗褐色	Ⅰ地区 C-15 2層
	31		－	底部ｂ類	底部	－	底部から胴部にかけて緩やかに丸みを帯び立ち上がる。器厚は厚手である。	内外面にナデ調整。アバタ状の器面。外面立ち上がり部に箆調整。	泥質／白色粒子	①肌色 ②肌色	Ⅰ地区 C-11 3層
	32		－	底部ｂ類	底部	底径 13.4	底部から胴部にかけて緩やかに丸みを帯び立ち上がる。器厚は厚手である。	外面に箆調整を施し、内面は立ち上がり部に指圧後ナデ調整をする。その後ナデ調整で仕上げる。	泥質／石英・白色粒子	①暗褐色 ②肌色	Ⅰ地区 C-15 3層
	33		鍋	ｂ類ⅲ 把手①	口縁	－	口縁部は若干内湾し、口唇部を平坦にする。指圧成形で内湾にするため、内面に屈曲がみられる。突起部が縦長の方形状を呈している。	内外面に丁寧なナデ調整。突起部は、側面を成形後中央部にナデ調整を行い断面観が丸みを持つ。	泥質／白色粒子・黒色粒子	①にぶい橙色 ②黄褐色	Ⅱ地区 C-35 18層
	34		鍋	ａ類 把手①	口縁	－	口縁部は直口ぎみで、口唇部を平坦にする。縦形の方形状把手で把手の中央部に凹みがみられる。器厚は厚手である。	内外面に顕著なナデ調整を施す。把手の周りをつまみ成形後、ナデ調整。把手中央部に縦に指ナデを行い凹ませている。	泥質／白色粒子	①赤褐色 ②赤褐色	Ⅱ地区 C-36 溝3
	35		鍋	ｂ類ⅱ 把手②	口縁	－	口縁部は内湾し、口唇部に平坦面を持つ。方形状把手が横に広がり、丸みを持つ把手が貼付される。	内外面に丁寧なナデ調整。突起部は側面成形後中央部にナデ調整。アバタ状の器面。	泥砂質／白色粒子	①暗褐色 ②にぶい橙色	Ⅱ地区 C-32・33 溝2-1
	36		鍋	ａ類 把手②	口縁	－	口縁部は直口し、口唇部は丸みを持っている。瘤状把手を貼付する。瘤状把手の中央部が一部破損している。	内外面にナデ調整。瘤状把手は成形後、ナデ調整で丸みを持たせている。	泥質／白色粒子	①にぶい橙色 ②肌色	Ⅱ地区 C-28 5層
	37		鍋	ｂ類ⅱ 把手②	口縁	－	口縁部は内湾し、口唇部に平坦面を持つ。瘤状把手を貼付する。	内外面にナデ調整。把手は側面を指圧成形後、ナデ調整を行う。アバタ状の器面。	泥質／白色粒子	①にぶい橙色 ②にぶい橙色	Ⅱ地区 C-36 18層
第52図・図版34	38		鍋	ｂ類ⅰ 把手③	口縁	口径 20.7	口縁部は内湾し、口唇部は丸みを持つ。器厚は薄手である。縦形の小突起が貼付される。	内外面に指圧痕とナデ調整がみられる。アバタ状の器面。	泥砂質／白色粒子	①肌色 ②肌色	Ⅱ地区 C-35 溝3
	39		鍋	ｂ類ⅲ 把手③	口縁	口径 25.5	口縁部は若干内湾し、口唇部を平坦にする。指圧成形で内湾にするため、内面に屈曲がみられる。縦型の小突起が貼付される。	内外面に丁寧なナデ調整。外面は滑らかに仕上げられている。若干アバタ状の器面。	泥質／白色粒子	①暗褐色 ②にぶい橙色	Ⅱ地区 C-37 溝3

第17表　土器観察一覧c

単位：cm

図番号		群	器種	分類	残存部位	推定口径 推定底径	形態の特徴	器面調整の状況	胎土混入物	色調 ①外面②内面	出土地点
第52図・図版34	40	第Ⅰ群グスク系土器	鍋	b類ⅰ 把手 ④－ⅰ	口縁	口径 30.1	口縁部は内湾し、口唇部は丸みを帯びる。口縁部は器厚が薄手となり、胴部の器厚は一定の厚手である。口縁部に横長に把手状突起を貼付している。	内外面にナデ調整。内面に刷毛目状の調整もみられる。アバタ状の器面。	泥砂質／白色粒子	①暗褐色 ②にぶい橙色	Ⅱ地区 C-35 溝3
	41		鍋	把手 ④－ⅱ	把手	－	把手上面観は楕円形を呈し、把手は横長に貼付する。把手の一部が破損。No16と似た資料と思われる。器厚は厚手である。	内外面にナデ調整。アバタ状の器面。	泥質／白色粒子・貝殻片	①にぶい橙色 ②にぶい橙色	Ⅱ地区 C-37 18層
	42		鍋	b類ⅱ 把手 ④－ⅲ	口縁	－	口縁部は若干内湾し、口唇部に平坦面を持つ。口縁下に丸い粘土を貼付している。	内外面に丁寧なナデ調整。突起部に若干のナデ調整と思われるものがみられる。	泥砂／白色粒子・黒色粒子	①にぶい橙色 ②にぶい橙色	Ⅱ地区 C-35 1層
	43		鍋	a類 把手⑤	口縁	－	口縁部は直口し，口唇部に平坦面を持つ。胴上部に突帯を鍔状に廻らせる。	突帯を指圧成形し、横ナデ調整で仕上げ、全体をナデ調整で整えている。	泥砂／石英・白色粒子	①赤褐色 ②にぶい橙色	Ⅱ地区 C-30 7層
	44		鍋	b類ⅱ 把手⑤	口縁	口径 18.0	口縁部は内湾し、口唇部に平坦面を持つ。口縁下に突帯を廻らせ鍔状にする。	突帯を指圧成形し、横ナデ調整で仕上げ、全体をナデ調整で整えている。口縁内部に指圧痕がみられる。アバタ状の器面。	泥質／石英	①にぶい橙色 ②にぶい橙色	Ⅱ地区 C-35 溝3
	45		鍋	b類ⅲ 把手⑤	口縁	－	口縁部は内湾し、口唇部に平坦面を持つ。口縁内部に屈曲がみられる。胴上部に突帯を鍔状に廻らせる。No43に類似する。	突帯を指圧成形し、横ナデ調整を行い、口縁部に指圧成形後全体をナデ調整で仕上げている。	泥砂／滑石粒子・石英・白色粒子	①赤褐色 ②にぶい橙色	Ⅱ地区 C-36 溝3
第53図・図版35	46		鍋	b類ⅱ	口縁	－	口縁部は若干内湾し、口唇部に平坦面を持つ。	指圧成形後、口縁部外面を丁寧にナデ、全面に横ナデ調整をし仕上げている。	泥砂質／白色粒子	①暗褐色 ②赤褐色	Ⅱ地区 C-36 溝3
	47		鍋	b類ⅰ	口縁	－	口縁部は内湾し、口唇部は丸みを帯びる。	内外面にナデ調整。アバタ状の器面。	泥砂質／白色粒子	①にぶい橙色 ②黒褐色	Ⅱ地区 C-35 溝3
	48		鍋	b類ⅰ	口縁～底部	口径 15.7 器高 7.5	口縁部は内湾し、口唇部は丸みを帯びる。器厚は薄手である。	内外面を指圧成形し、ナデ調整で仕上げている。アバタ状の器面。	泥質／白色粒子	①黄褐色 ②黒褐色	Ⅱ地区 C-44 10層
	49		鍋	b類ⅱ	口縁～胴部	口径 21.6	口縁部は内湾し、口唇部に平坦面を持つ。	内面に刷毛目状の調整。内外面をナデ調整した後口唇部にナデ調整を行っている。	泥砂質／白色粒子	①暗褐色 ②にぶい橙色	Ⅱ地区 C-35 溝3
	50		鍋	b類ⅱ	口縁	－	口縁部は内湾し、口唇部に平坦面を持つ。	内外面にナデ調整。アバタ状の器形。	泥質／白色粒子	①肌色 ②にぶい橙色	Ⅱ地区 C-44 15層
	51		鍋	c類	口縁	口径 16.1	口縁部はかなり内湾する。口唇部に平坦面を持つ。胴部がかなり張る器形と思われる。器厚は薄手である。	内外面にナデ調整。外面は磨耗しており一部口縁に指圧痕がみられる。アバタ状。	泥質／白色粒子	①肌色 ②にぶい橙色	Ⅱ地区 C-35 18層
	52		鉢	a類	口縁	口径 20.8	口縁部は外反する。口唇部に平坦面を持つ。	頸部に指圧痕がみられる。口唇部にナデ調整。内外面にナデ調整。	泥砂質／白色粒子	①橙色 ②橙色	Ⅱ地区 C-37 溝3
	53		浅鉢	－	口縁	－	口縁部は緩やかに開くように外反する。口唇部に若干窪みがみられる。	指圧成形後全面にナデ調整。アバタ状の器面。	泥質／白色粒子	①にぶい橙色 ②暗黄褐色	Ⅱ地区 C-35 21層直上
	54		壺	a類	口縁	口径 16.9	口縁部は「く」の字状に外反し、胴部がなだらかな器形。	頸部に指圧痕がみられる。口唇部にナデ調整。内外面にナデ調整。	泥質／白色粒子・黒色粒子	①橙色 ②橙色	Ⅱ地区 C-42 19層P163
	55		－	底部 a類	底部	底径 10.2	底部から胴部にかけて急な立ち上がりで、立ち上がり部分に稜をつくる。器厚は薄手である。	底面はアバタ状を呈す。外面立ち上がり部に箆調整。内面立ち上がり部にはナデ調整。	泥質／白色粒子	①黒褐色 ②黒褐色	Ⅱ地区 C-44 11層P94
	56		－	底部 a類	底部	－	底部から胴部にかけて急な立ち上がりで、立ち上がり部分に稜をつくる。外底面に窪みがみられる。立ち上がり部の器厚が薄手である。	底面はアバタ状を呈す。外面立ち上がり部に箆調整。内面立ち上がり部には指圧痕とナデ調整。	泥質／黒色粒子	①黒褐色 ②肌色	Ⅱ地区 C-42 3層
	57		－	底部 b類	底部	－	底部から胴部にかけて丸みを帯び立ち上がる器形。	内外面にナデ調整、アバタ状の器面。	泥質／黒色粒子	①にぶい橙色 ②暗黄褐色	Ⅱ地区 C-29 21層P233

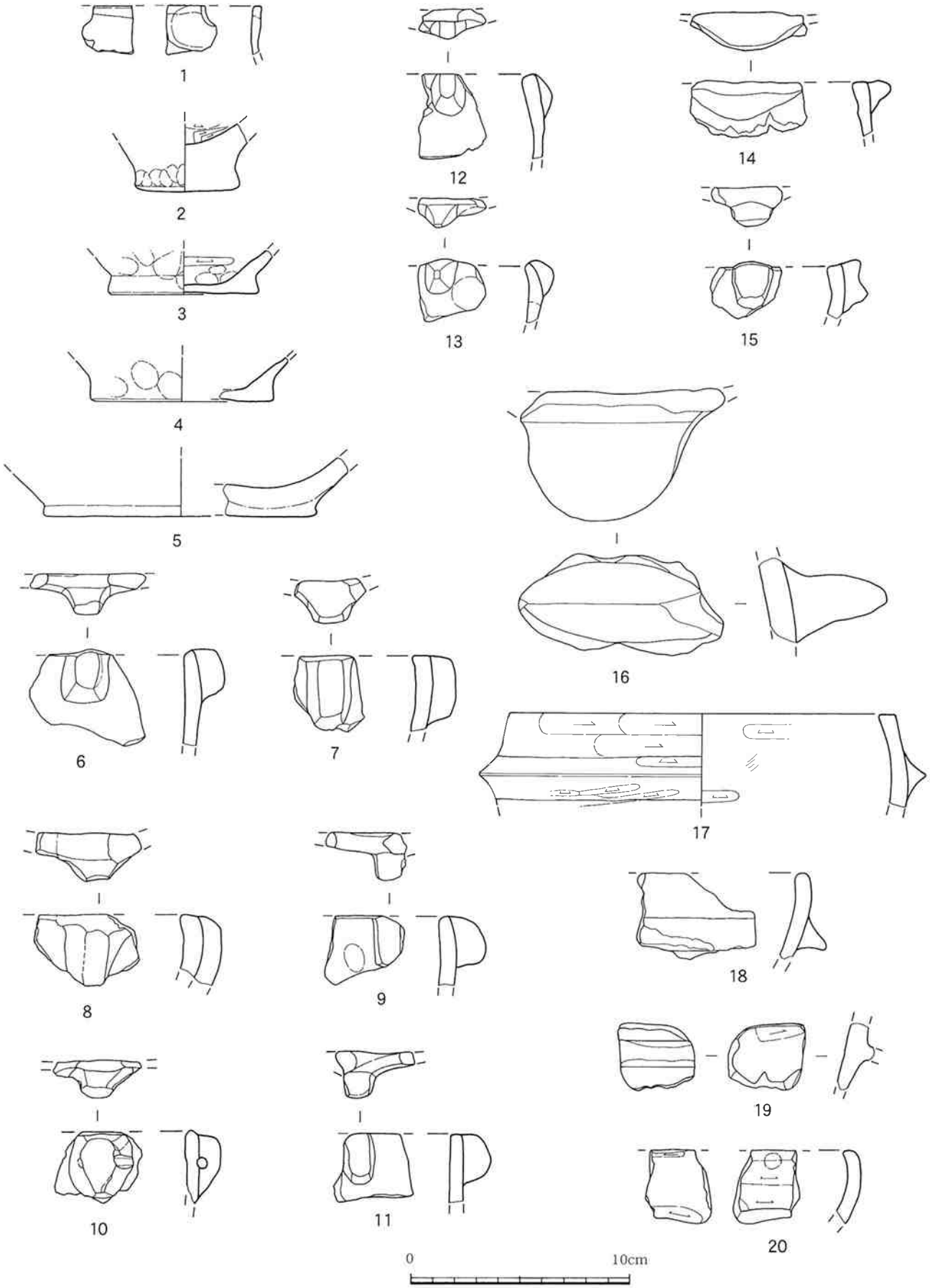
第17表　土器観察一覧ｄ

単位：ｃｍ

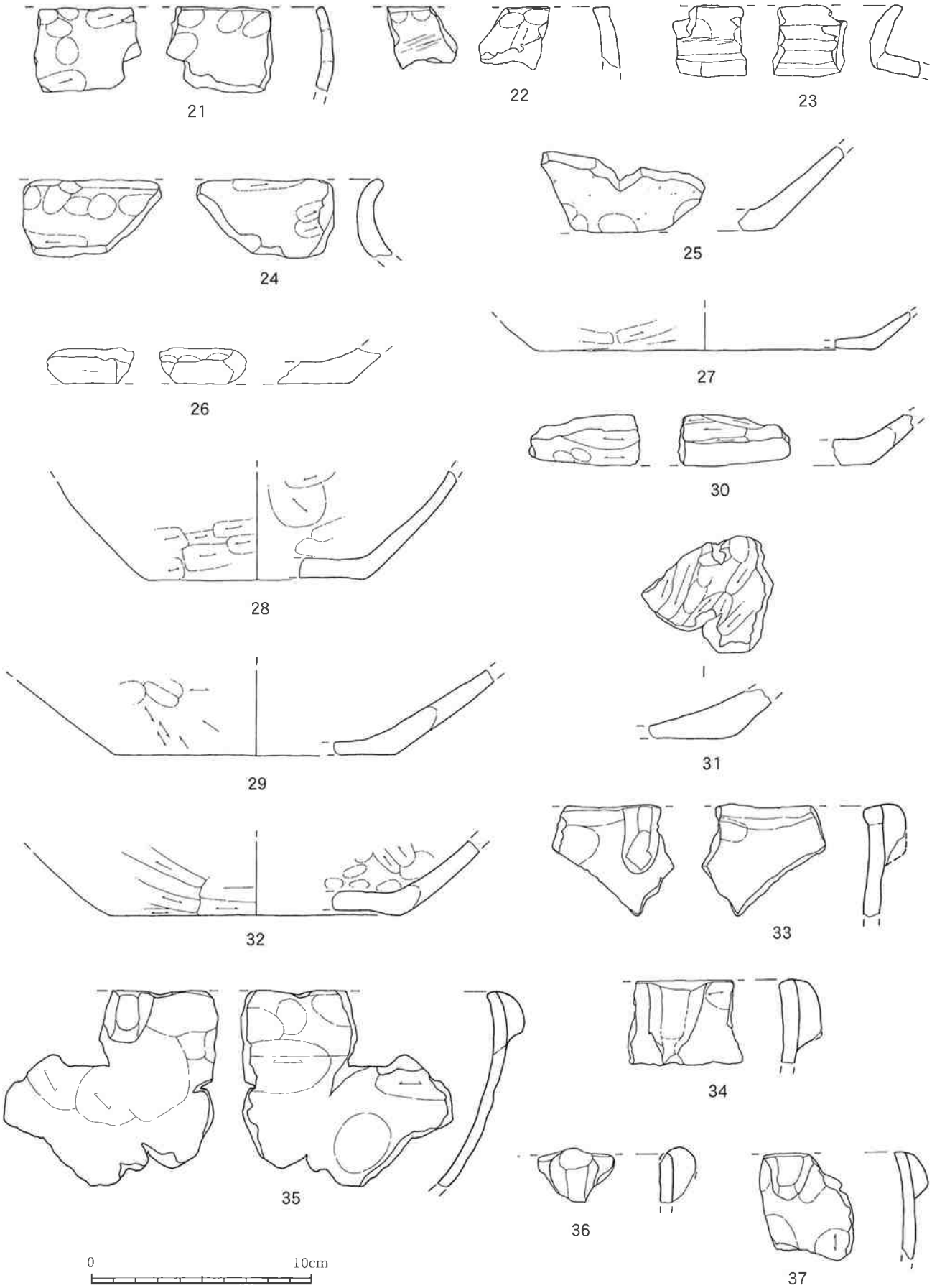
図番号		群	器種	分類	残存部位	推定口径 推定底径	形態の特徴	器面調整の状況	胎土混入物	色調 ①外面②内面	出土地点
第53図・図版35	58	第Ⅰ群グスク系土器	鍋	底部 ｂ類	底部	底径 6.9	石鍋模倣土器。底部から胴部にかけて丸みを帯び立ち上がる器形。	内外面にナデ調整。滑らかな器面。	滑石粒子が多量に混入。	①灰褐色 ②灰褐色	Ⅱ地区 C-35 溝3
	59		―	底部 ｂ類	底部	底径 8.0	底部から胴部にかけて丸みを帯び立ち上がる器形。	内面に刷毛目痕がみられる。外面はナデ調整。	泥砂質／白色粒子	①橙色 ②黒褐色	Ⅱ地区 C-37 21層直上
	60	第Ⅱ群	甕	底部 ａ類ⅰ	底部	底径 4.6	底部からの立ち上がりが緩やかで丸みを帯び、くびれ部が高い位置にある。器厚は厚い。	内面は調整は破損しており不明瞭。外面くびれ部に指圧痕。	泥質／黒色粒子	①黄褐色 ②黄褐色	Ⅲ地区 H-47 2層

第20表　土器出土状況（Ⅲ地区・地区不明）

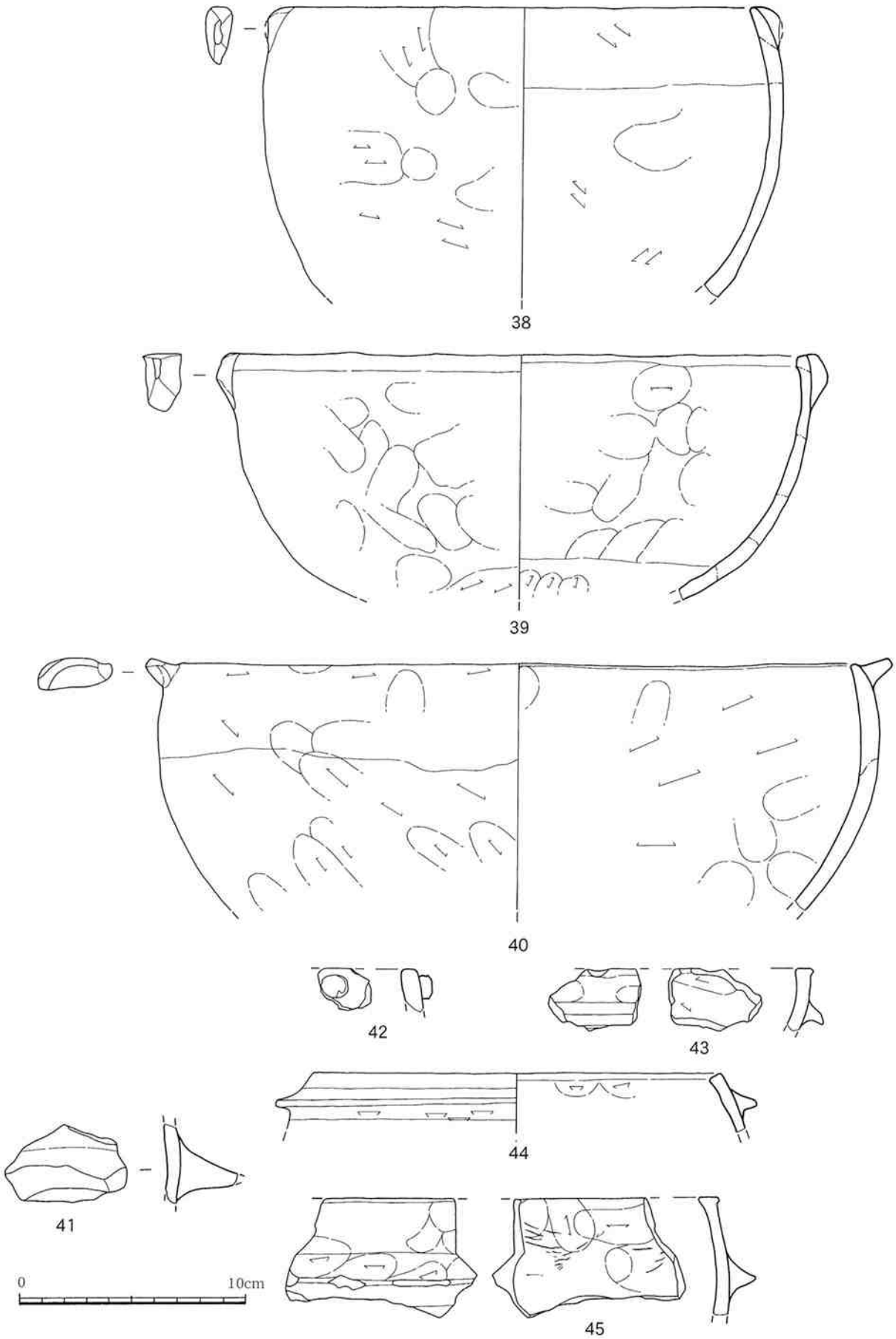
出土地＼土器分類			Ⅰ群（グスク土器）										Ⅱ群（後期土器）	合計
			鍋			滑石粒混入土器 鍋	壺		底部資料		器種不明		甕	
			口縁部 b類 ⅱ	口縁部 b類 ⅲ	把手・突起部 5類	胴部	口縁部 b類	口縁部 c類	底部 a類	底部 b類	口縁部	胴部	底部 a類 ⅰ	
Ⅲ地区	1層	H-45										3		3
		H-46					1		1			4		6
		I-45										1		1
		I-46	2	1								12		15
		J-46										2		2
		K-46									1	5		6
		L-47										3		3
		L-48										3		3
		M-46										3		3
		M-47										16		16
		M-48										4		4
		グリッド不明								1		2		3
	2層直上	H-46										3		3
	2層	H-45										2		2
		H-47										6	1	7
		J-48						1				1		2
		K-46										1		1
		L-37										1		1
		L-46			1							2		3
		L-47			1									1
		L-48										4		4
		M-46			1									1
	6層	グリッド不明										2		2
	溝1	H-45										5		5
		H-46										2		2
		H-47										2		2
	不明	H-47										1		1
		I-46				1								1
		M-46										1		1
地区・層序・グリッド不明												3		3
合　計			2	1	3	1	1	1	1	1	1	94	1	107



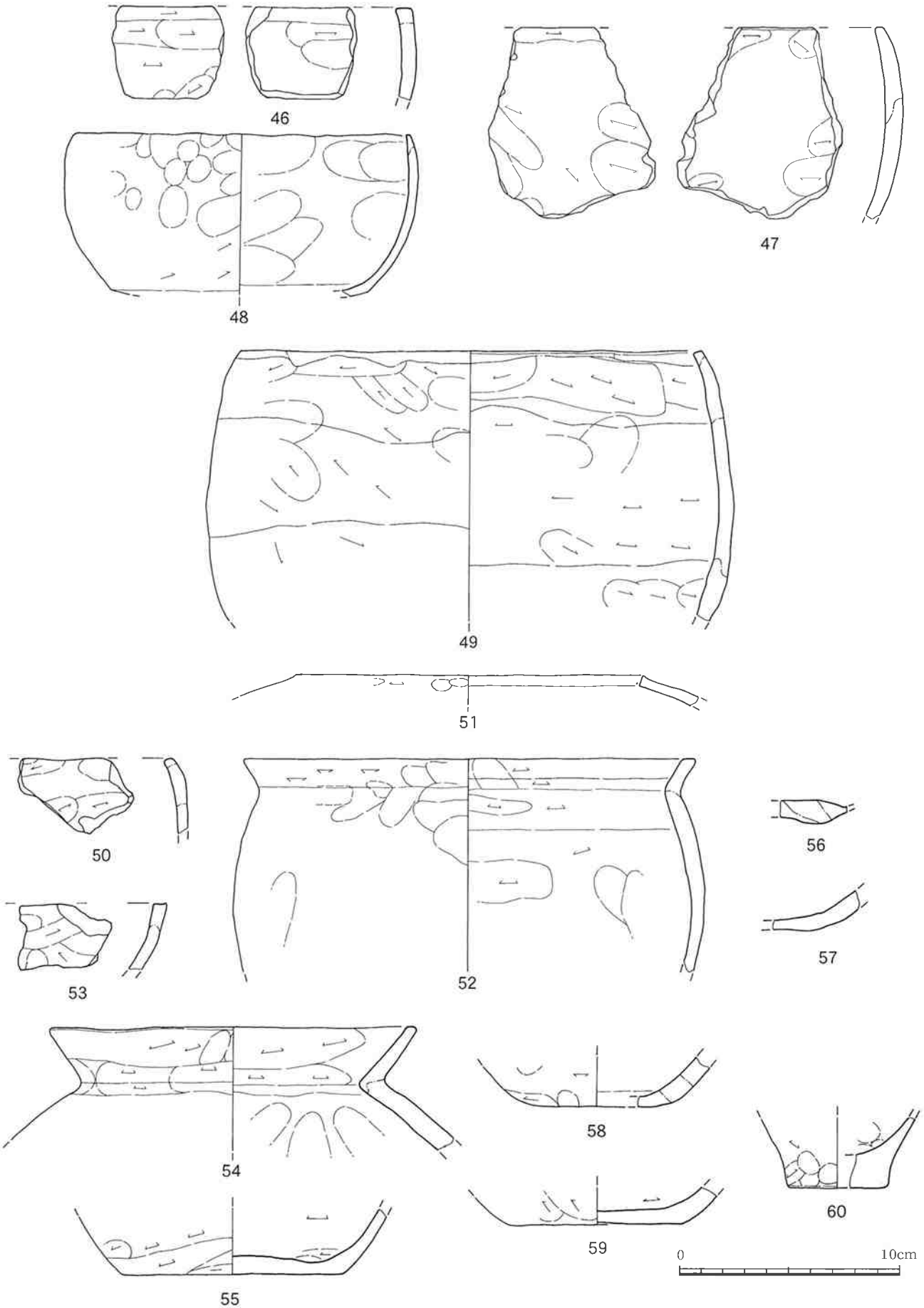
第50図　土器１　Ⅰ地区　鍋(６～20)、甕(２～５)　Ⅱ地区　壷(１)



第51図　土器２　Ⅰ地区　鍋(21・22)、壷(23・24)、底部資料(25～32)　**Ⅱ地区**　鍋(33～37)



第52図　土器３　Ⅱ地区　鍋



第53図　土器４　Ⅱ地区　鍋(46～51)、底部資料(55～59)、鉢(52)、浅鉢(53)、壷(54)　**Ⅲ地区**　甕(60)

第18表　土器出土状況（Ⅰ地区）a

出土地	土器分類	第Ⅰ群　グスク（系）土器																								第Ⅱ群（後期土器）		合　計
		鍋											滑石粒混入土器													甕		
		口縁部					把手・突起部						鍋			器種不明	浅鉢・皿形	底部資料					器種不明				
		a類	b類			c類	1類	2類	3類	4類		5類	口縁部	胴部	底部	底部	口縁部	口縁部			底部			口縁部	胴部	底部		
			i	ii	iii					i	ii		b類		b類			a類	b類	c類	a類	b類	不明			a類		
													i													i	ii	
1層	C−5																								9			9
	C−6													1											1			2
	C−7																								4			4
	C−8																					1						1
	C−9																								1			1
	C−10	1										1		1											14			17
	C−11																							1				1
	C−13																								8			8
	C−14								1														1		12			14
	C−15		2							1				1											8			12
	C−16																				1				3			4
	C−17																								1			1
2層直上	C−11		1																				1		11			13
	C−12																								11			11
	C−13															1									3			4
	C−15								1																12			13
2層	C−5																								3			3
	C−6													1											9			10
	C−7			1									1								1	1	1		35			40
	C−8													3								1			31			35
	C−9		2																			1	1		52			56
	C−10																				1	2	1		72			76
	C−11											1													17			18
	C−12											1										1			20			22
	C−13		1	2					1					1						1	1	1			53			61
	C−15			1	1									2						1		2	1		45			53
	C−16													2						1		3			40			46
3層直上	C−9													2											10			12
	C−11		1																						9			10
	C−13																								3			3
	C−14			1								1													23			25
	C−15											1		3								1			32			37
3層	C−5																								6			6
	C−6																								4			4
	C−7																								23			23
	C−8		1																						19			20
	C−9													1	1					1					42			45
	C−10																					2			36			38
	C−11						1		1									1			1	2			74			80
	C−12		1	1					1			4						1			1	5	2		125		1	142
	C−13	2		2		1			1			2		1					2		1	4	1		87			104
	C−14		4	3	1			2		2		2		3					1	2	1	4		1	259			285
	C−15	2	3	5	5		5	1	1	1		3		7		1	1		3	2	6	10	5	6	389		1	457
	C−16		5				1							4			1			3	3	1	1	1	182			202
	C−17																								5			5
3層P1	C−10																							1	1			2
4層直上	C−17																								3			3

第18表　土器出土状況（Ⅰ地区）b

出土地 ＼ 土器分類		第Ⅰ群　グスク（系）土器																							第Ⅱ群（後期土器）		合　計
		鍋											滑石粒混入土器														
													鍋			器種不明	浅鉢・皿形	壺			底部資料			器種不明		甕		
		口縁部					把手・突起部						口縁部		底部			口縁部			底部					底部		
		a類	b類			c類	1類	2類	3類	4類		5類	b類	胴部	b類	底部	口縁部	a類	b類	c類	a類	b類	不明	口縁部	胴部	a類		
			i	ii	iii					i	ii		i													i	ii	
4層	C−17	1	3		1			1		1				1							1	3			80			92
	C−18	1								1											1	2			29			34
5層	C−9																								2			2
	C−16																								15			15
	C−17		1		1			1	1			1									1	1	3		37			47
	C−18																					1			4			5
6層	C−18													1								1	2		11		1	16
7層直上	C−6																					1			4			5
	C−7																								5			5
	C−8	1																							15			16
	C−9																						1		5			6
	C−10						1				1							1			1				54			58
	C−12																					1			6			7
7層	C−6																								1			1
	C−7																								2			2
	C−8																		1						8			9
	C−9																				1	1			9			11
	C−10																								2			2
	C−11																					1			30			31
	C−12						1	1				1													19			22
	C−13		1		3		1								1						1	2			49			58
	C−14																		1						6			7
8層直上	C−10																								9			9
	C−11		1											1						1					13			16
8層	C−5	1																							17			18
	C−6																								1			1
	C−7																								6			6
	C−8																								4			4
	C−10																								5			5
	C−11																								13			13
	C−12																								7			7
	C−13																								7			7
	C−14	1														1				1					9		1	13
	C−15																				1	1			1			3
8層Ｐ３	C−14																								3			3
9層直上	C−11																								3			3
9層	C−11	1																							7			8
	C−12																					1			2			3
	C−13																					1			3			4
	C−14																								1			1
１０層直上	C−7																					1			4			5
１０層	C−6																								14			14

第18表　土器出土状況（Ⅰ地区）c

出土地＼土器分類		第Ⅰ群　グスク（系）土器																								第Ⅱ群（後期土器）		合計
		鍋											番石粒混入土器													甕		
			口縁部				把手・突起部						鍋			器種不明	浅鉢・皿形	壺			底部資料			器種不明				
			b類							4類			口縁部		底部			口縁部			底部					底部		
		a類	i	ii	iii	c類	1類	2類	3類	i	ii	5類	b類	胴部	b類	底部	口縁部	a類	b類	c類	a類	b類	不明	口縁部	胴部	a類		
													i													i	ii	
11層	C−15													1											1		1	3
	C−16		1					1	2											1		1	3		3			3
	C−17																								40			49
	C−18																								10			10
11層P6	C−17																								1			1
11層P20	C−17																								1			1
11層P22	C−17																								1			1
11層P25	C−17																								1			1
11層P26	C−17																								4			4
11層P31	C−17																								1			1
11層P32	C−16																								2			2
11層P34	C−17																								1			1
11層P35	C−16																								1			1
11層P37	C−16																		1									1
11層P41	C−16																								1			1
11層P42	C−16																								1			1
11層P44	C−16																								1			1
12層	C−15																								4			4
	C−16																								10			10
	C−17											1													5			6
12層P14	C−17																								5			5
13層	C−11																								1			1
	C−12																								1	1		2
	C−13																								1			1
	C−14																						2		4			6
13層P55	C−12																								1			1
15層直上	C−9																								1			1
	C−15																								1			1
溝2	C−10																								3			3
	C−11																								1			1
層序不明	C−5																								2			2
	C−10								1																			1
	C−11																								2			2
	C−12																								2			2
	C−15																								3			3
	C−17																		1									1
	C−18																								4			4
	グリッド不明																				1				3			4
合計		11	28	16	12	1	10	7	11	6	1	19	1	37	2	3	2	3	10	14	25	61	26	10	2453	1	5	2775

注　「P」はピットの意。

第19表　土器出土状況（Ⅱ地区）a

出土地	土器分類	Ⅰ群　グスク（系）土器																										Ⅱ群（後期土器）	合　計
		鍋												滑石粒混入土器															
		鍋												鍋			器種不明	鉢	浅鉢・皿形	壺			底部資料			器種不明		甕	
		口縁部					把手・突起部							口縁部		底部		口縁部		口縁部			底部					底部	
		a類	b類			c類	1類	2類	3類	4類			5類	b類	胴部	b類	底部	a類	口縁部	a類	b類	c類	a類	b類	不明	口縁部	胴部	a類	
			i	ii	iii					i	ii	iii		i														ii	
1層	C−35											1											1						2
	C−41		1															1											2
2層	C−37		1																										1
	C−38		1														1												2
3層	C−40																						1						1
	C−42																						1						1
	C−43																							1					1
	C−44																						1						1
4層	C−27	1																							1				2
	C−31																							1		1			2
	C−32				1																		1		1				3
5層	C−28				2			2																1					5
	C−32																										1		1
	C−34																							1					1
6層	C−33																								1				1
	C−35																				1								1
7層直上	C−32																								1				1
	C−36	1																											1
7層	C−28		1		1																			1		1			4
	C−30												1																1
	C−31																							1					1
	C−32		1												1										1				3
	C−33																									1			1
7層P1	C−27			1																									1
7層P14	C−28																										1		1
8層	C−29			1																				1	1				3
9層	C−45																										3		3
10層	C−42																										1		1
	C−44		1																										1
14層P69	C−37																										1		1
15層	C−44		1												1														2
	C−45																										2		2
11層P94	C−44																						1						1
16層	C−40																										2		2
18層直上	C−35																										3		3
18層	C−35		1	1		1	1		1						1							1			1		19		27
	C−36						1	1																		1	14		17
	C−37										1																		1
	C−38																										12		12
18層P109	C−35																										1		1

第19表　土器出土状況（Ⅱ地区）b

出土地	土器分類	Ⅰ群　グスク（系）土器																										Ⅱ群（後期土器）	合計
		鍋												滑石粒混入土器															
														鍋			器種不明	鉢	浅鉢・皿形	壺			底部資料			器種不明		甕	
		口縁部					把手・突起部							口縁部		底部		口縁部		口縁部			底部					底部	
		a類	b類			c類	1類	2類	3類	4類			5類	b類	胴部	b類	底部	a類	口縁部	a類	b類	c類	a類	b類	不明	口縁部	胴部	a類	
			i	ii	iii					i	ii	iii		i														ii	
18層P110	C−35																										2		3
18層P117	C−35																										1		1
18層P119	C−35								1																		3		3
18層P125	C−35																												1
18層P139	C−36																										1		1
19層	C−35																										1		1
	C−42																			1			3						4
19層P163	C−42																			1									1
20層直上	C−28																										1		1
20層	C−28																										1		1
20層P196	C−28																										1		1
20層P198	C−28																										1		1
20層P200	C−28																										1		1
20層P201	C−28																										3		3
21層直上	C−28																										2		2
	C−29																							1					1
	C−30·31																										2		2
	C−34																										5		5
	C−35																		1			3							4
	C−36																										1		1
	C−37																							1		1			2
	C−40																										6		6
21層	グリッド不明																										3		3
21層P212	C−28																										2		2
21層P213	C−28																										2		2
21層P214	C−28																										1		1
21層P224	C−29														1														1
21層P233	C−29																							1		6			7
21層P238	C−29																										3		3
21層P240	C−29																										7		7
21層P241	C−29																										4		4
21層P245	C−29																										1		1
21層P250	C−29																										2		2
21層P268	C−29																										4		4
21層P269	C−29																										2		2
21層P271	C−29																										2		2
21層P272	C−30																										2		2
21層P281	C−30																										1		1
21層P282	C−30																										11		11
21層P284	C−30																										2		2

第19表　土器出土状況（Ⅱ地区）c

出土地	土器分類	Ⅰ群　グスク（系）土器												滑石粒混入土器														Ⅱ群（後期土器）	合計
		鍋												鍋			器種不明	鉢	浅鉢・皿形	壺			底部資料			器種不明		甕	
		口縁部					把手・突起部							口縁部	胴部	底部	底部	口縁部	口縁部	口縁部			底部			口縁部	胴部	底部	
		a類	b類			c類	1類	2類	3類	4類			5類	b類		b類		a類		a類	b類	c類	a類	b類	不明			a類	
			i	ii	iii					i	ii	iii		i														ii	
21層P285	C−30																										8		8
21層P287	C−30																										2		2
21層P293	C−30																									1	1		2
21層P302	C−30																										1		1
21層P311	C−30																										3		3
21層P321	C−30																										1		1
21層P328	C−30																										2		2
21層P336	C−30																										1		1
21層P338	C−30																										6		6
21層P342	C−30																										1		1
21層P353	C−30																										1		1
21層P356	C−30																										1		1
21層P367	C−31																										1		1
21層P377	C−31																										1		1
21層P385	C−31																										1		1
21層P391	C−31																										1		1
21層P418	C−31																						1						1
21層P479	C−34																										1		1
21層P480	C−34																										1		1
21層P490	C−34																										1		1
21層P515	C−38																										1		1
溝2−1	C−32・33			1	1			1						1	1							1		1	1		87		95
	C−33																							1			17		18
溝2−2	C−32・33						1																						1
溝2−4	C−32						1						1										1						3
溝3	C−32																										3		3
	C−34			1																				1			6		8
	C−35	3	6	4	1		4	1	1	1			3		2	2		1	3	1	1		2	2	1	2	156		197
	C−36			2			1						1			1									1	1	41		48
	C−37								1									1						1			22		25
	C−38																										2		2
	グリッド不明																										13		13
溝4	C−40																										2		2
層序不明	C−40・41														1														1
	グリッド不明																						1					1	2
合計		5	14	11	6	1	9	5	4	1	1	1	6	1	8	3	1	3	4	3	2	2	11	16	10	8	539	1	676

注　「P」はピットの意。

第９節　カムィヤキ（第54～56図）

類須恵器と思われる資料は、総数287点得られた。当遺跡出土資料は、概ね徳之島カムィヤキ窯の須恵器と考えられる。今回得られた資料は少数であるがそのうち２器種が確認できた。器種では壺形が多く、若干碗形が得られた。胎土・製作技法が他の資料と若干の相違点を持つ資料を池田榮史氏に観ていただいたところ、本土産須恵器に系統が求められる可能性をご教示賜った（14･19･33･44･45）。しかし、中世陶器で明確な類似資料が得られなかったため本節で取り扱った。以下、分類概念を明記し、個々の遺物については観察表に明記した（第24表）。

1. 壺

分類にあたり、口縁部と有文胴部・底部を細分し、部位ごとに報告したい。また口縁部の器厚に着目し、器厚が薄手のもの（Ⅰ類）と器厚が厚手のもの（Ⅱ類）の２種類に分類した。

口縁部形態　出土状況として、Ⅰ地区の第４層から口縁形態Ⅰ類が出土し、それよりも上層から２類が出土している。Ⅱ地区では第３検出面に伴う層からⅠ類が出土し、それより上層より２類が出土する。

Ⅰ類　口縁部が外反し器厚が薄手で、口縁部を強調する形態のもの。

a1　口縁部下半部を回転により下方へ引き下げ、角状突帯を付ける。口頸部は大きく外反し、口縁端部は丸みを帯びる。(30)

a2　口縁部下半部を回転により下方へ引き下げ、角状突帯を付ける。口頸部は大きく外反し、口縁端部は舌状に尖る。(31)

b　口縁部は若干外反し、断面観が三角形状を呈する。角状突帯の痕跡が消失し、内面に稜を呈する。（５・32）

c　口縁部は外反し、丸みを帯びる。角状突帯の痕跡が消失し、内面をめぐる凹面の幅が狭くなる。(６)

Ⅱ類　口縁部が外反し、器厚が厚手で断面観が丸みを帯びるもの。

a1　口頸部は外反し、口唇部を若干凹ませるもの。(33)

a2　口頸部は外反し、口唇部は平坦面を持つもの。(７)

b　口頸部は外反し、口縁部は丸みを帯びる。(34)

肩　頸部から胴上部にかけて丸みを帯びる。その部分に施文される文様を２種に分類した。

Ⅰ類　波状沈線を数本廻らすもの。(８・９・36)

Ⅱ類　平行沈線で施文部位を３分割し、その間に波状沈線３本を施すもの。Ⅱ地区第８層から１点出土している。本資料は施文部位を３分割し、施文部位に波状沈線→空白→波状沈線の順に施文される。(37)

底部形態　立ち上がりが急なものと底部不明(29)のものが得られた。

Ⅰ類　底面から胴部への立ち上がりが急なもの。Ⅰ地区で10点、Ⅱ地区で6点出土している。

a　底部内面の立ち上がり部分に削りを廻すもの。(15・16・43)

b　底部内面に同心円タタキを施し、平行線文が重複するもの。徳之島カムィヤキ窯跡（伊仙町教育委員会2001）からも１点だけ報告されている。比較資料として、熊本県下り山窯跡の資料（熊本教育委員会1980）に外底面に同心円タタキを呈するものが報告されており、製作技法がそれに類似している。(14・45)

2. 碗

Ⅰ類　白磁の玉縁口縁碗の影響を受けたと思われるもの。Ⅰ地区第２検出面より上層から出土している。

a　逆「ハ」字状に開く器形。丁寧な作りの玉縁口縁をもつもの。(１)

b　逆「ハ」字状に開く器形。玉縁形状が崩れ、口唇部に平坦面を持つもの。(２)

器種不明胴部

本調査では、壺形が比較的多く出土している。そのため、ほぼ壺形の胴部と思われる。ここでは胴部の叩き痕・当て具痕に着目し分類を試みた。器厚に着目すると、Ⅰ～Ⅲ類（薄手）、Ⅳ類（厚手）となっている。

Ⅰ類　内面の当て具痕の上からナデや削り調整を行うもの。

a1　外面に削り・ナデ調整（内面に深く削りを入れる）(17・18)　　a2　外面に削り・ナデ調整(38)

b　外面に格子目文(19・20・39・40)　　c1　外面に綾杉文(21)　　c2　外面に平行線文(22)

Ⅱ類　内面の格子目状に当て具痕が残るもの。当て具痕の上からナデ調整などを加えるものもある

a 外面に削り・ナデ調整(23・41)　b1 外面に綾杉文(25・42)　b2 外面に平行線文(24・26)

Ⅲ類　内面に平行線状に当て具痕が残るもの。当て具痕の上からナデ調整などを加えるものもある。

a 外面に削り・ナデ調整(27)　b 外面に平行線文(28)

Ⅳ類　胴部から頸部にかけて刷毛状の工具を用い、横位にカキ目を施す灰白色の瓦質陶器。Ⅱ地区第3検出面より上層から出土しており、15世紀頃の本土産中世陶器の可能性も窺える。(44)

以上、類須恵器の分類概念を概観した。壺形の口縁部の出土点数が12点と極めて少数のため、口縁形態から明確な時間差についてみることは難しい。しかし、出土状況から壺形の口縁形態Ⅰ類（薄手）よりⅡ類（厚手）が新しい形態と捉えることが出来そうである。

第22表　カムィヤキ出土状況（Ⅱ地区）

出土地＼器種・分類		壺											器種不明										合計
		口縁部					首～肩	有文肩		無文肩	底部		胴部										
		Ⅰ類			Ⅱ類			Ⅰ類	Ⅱ類		Ⅰ類		Ⅰ類				Ⅱ類			Ⅲ類	Ⅳ類	不明	
		a1	a2	b	a1	b					a	b	a1	a2	b	c1	a	b1	b2	b			
1層	C－30													1									1
	C－32				1																		1
	C－34																1						1
	C－38																1						1
	C－39	1																					1
	C－43													1									1
2層直上	C－34				1																		1
3層	C－42													1									1
4層	C－28										1												1
	C－31															1							1
	C－32													1									1
5層	C－28					1								1									2
	C－29																				1		1
	C－31														1								1
6層	C－34						1							3									4
	C－35																				1		1
7層直上	C－27													1									1
	C－32																		1				1
7層	C－28		1																				1
7層P1	C－27													1									1
8層	C－30			1					1														2
	C－32																		1				1
	C－34													1									1
18層	C－33													1									1
20層直上	C－28							1															1
20層P178	C－27													1									1
20層P200	C－28													1									1
21層直上	C－34																				2		2
	C－40										1												1
	C－30・31																			1		1	2
21層P241	C－29												1				1						2
21層P287	C－30												1		1								2
21層P479	C－34																				1		1
21層P485	C－34																				1		1
溝2－1	C－32・33							1						2			1						4
溝2－2	C－32・33																	1					1
溝2－4	C－32													1									1
溝3	C－35				1		1			1			1	1							1		6
	C－36			1			1					1			1						1		5
客土	C－26																	1					1
	グリッド不明														1								1
層序不明	C－40																1						1
	C－41																1						1
層序・グリッド不明											1												1
合計		1	1	2	3	1	3	2	1	1	3	1	3	18	4	1	6	2	2	1	8	1	65

注　「P」はピットの意。

第23表　カムィヤキ出土状況（Ⅲ地区・地区不明）

出土地＼器種・分類			壺		器種不明			合計
			有文肩	底部	胴部			
			Ⅰ類	Ⅰ類	Ⅰ類		Ⅲ類	
				a	a1	a2	b	
Ⅲ地区	1層	J－48	1					1
		K－46	1					1
	2層	H－47		2				2
		L－46				1		1
	溝1	H－45				1		1
		H－46			1			1
	層序・グリッド不明					1		1
地区・グリッド・層序不明							1	1
合計			2	2	1	3	1	9

第21表　カムィヤキ出土状況（Ⅰ地区）

出土地	器種・分類	碗 口縁部 Ⅰ類 a	碗 口縁部 Ⅰ類 b	碗 底部	壺 口縁部 Ⅰ類 a1	壺 口縁部 Ⅰ類 b	壺 口縁部 Ⅰ類 c	壺 口縁部 Ⅱ類 a2	壺 首～肩	壺 有文肩 Ⅰ類	壺 無文肩	壺 把手	壺 底部 Ⅰ類 a	壺 底部 Ⅰ類 b	器種不明 胴部 Ⅰ類 a1	器種不明 胴部 Ⅰ類 a2	器種不明 胴部 Ⅰ類 b	器種不明 胴部 Ⅰ類 c1	器種不明 胴部 Ⅰ類 c2	器種不明 胴部 Ⅱ類 a	器種不明 胴部 Ⅱ類 b1	器種不明 胴部 Ⅱ類 b2	器種不明 胴部 Ⅲ類 a	器種不明 胴部 Ⅲ類 b	器種不明 胴部 Ⅳ類	器種不明 胴部 不明	器種不明 底部	器種不明 部位不明	合計
1層	C－7																		1										1
	C－9																			1									1
	C－15															1						1							2
	C－16															1													1
	C－17														1														1
2層直上	C－11														1	3													4
	C－12																						1						1
	C－13															1		1	1										3
	C－15																								1				1
	C－16																					1							1
2層	C－6																			2									2
	C－7						1			2			1							1	1								6
	C－8							1							1														2
	C－9														2							1							3
	C－10														2	1		1											4
	C－11														2	2			1			1							6
	C－12															1	2	1											4
	C－13															1													1
	C－15														1				1	1									3
	C－16															1													1
3層直上	C－9																		1			1							2
	C－11														1														1
	C－13																			1									1
	C－14														3	3						2		3					11
	C－15															2													2
3層	C－5															3	1			2			1						7
	C－7																										1		1
	C－8															1													1
	C－10															1					1								2
	C－11									1		1			1	4	3			1		2							13
	C－12												1		1	4	2	1				1	1						11
	C－13									1							1			1									3
	C－14												1		1	8	2				1								13
	C－15		1							3			1	1	2	6	1	1	1	1	2		1			1			22
	C－16				1				1				1		1	6			2	1		1	1				1		16
	C－17	1											1							1			1						4
4層	C－13											1																	1
	C－17					1				1	1					1					1								5
5層	C－16								1																				1
	C－17		1	1									1		1	4				2						1			11
7層直上	C－8														1														1
	C－10														1	1													2
7層	C－8			1																									1
	C－11														1														1
	C－12															2													2
	C－13												1			1					1								3
8層直上	C－10														1														1
8層	C－6									1										1	1								3
	C－8																2												2
	C－11															1								1					2
	C－14															1													1
9層	C－5													1			2												3
10層	C－6															1								1					2
	C－7															1													1
11層	C－15															1													1
	C－16																											1	1
12層	C－16														1														1
13層	C－13																1												1
	C－14																				1								1
13層P48	C－11								1											1									2
溝2	C－10																						1	1					2
層序不明	C－14															1													1
	C－17															1													1
グリッド・層序不明																1			1										2
合　計		1	2	2	1	1	1	1	3	9	1	2	8	2	26	67	17	5	9	17	9	11	7	6	1	2	2	1	214

注　「P」はピットの意。

第24表　カムィヤキ観察一覧a

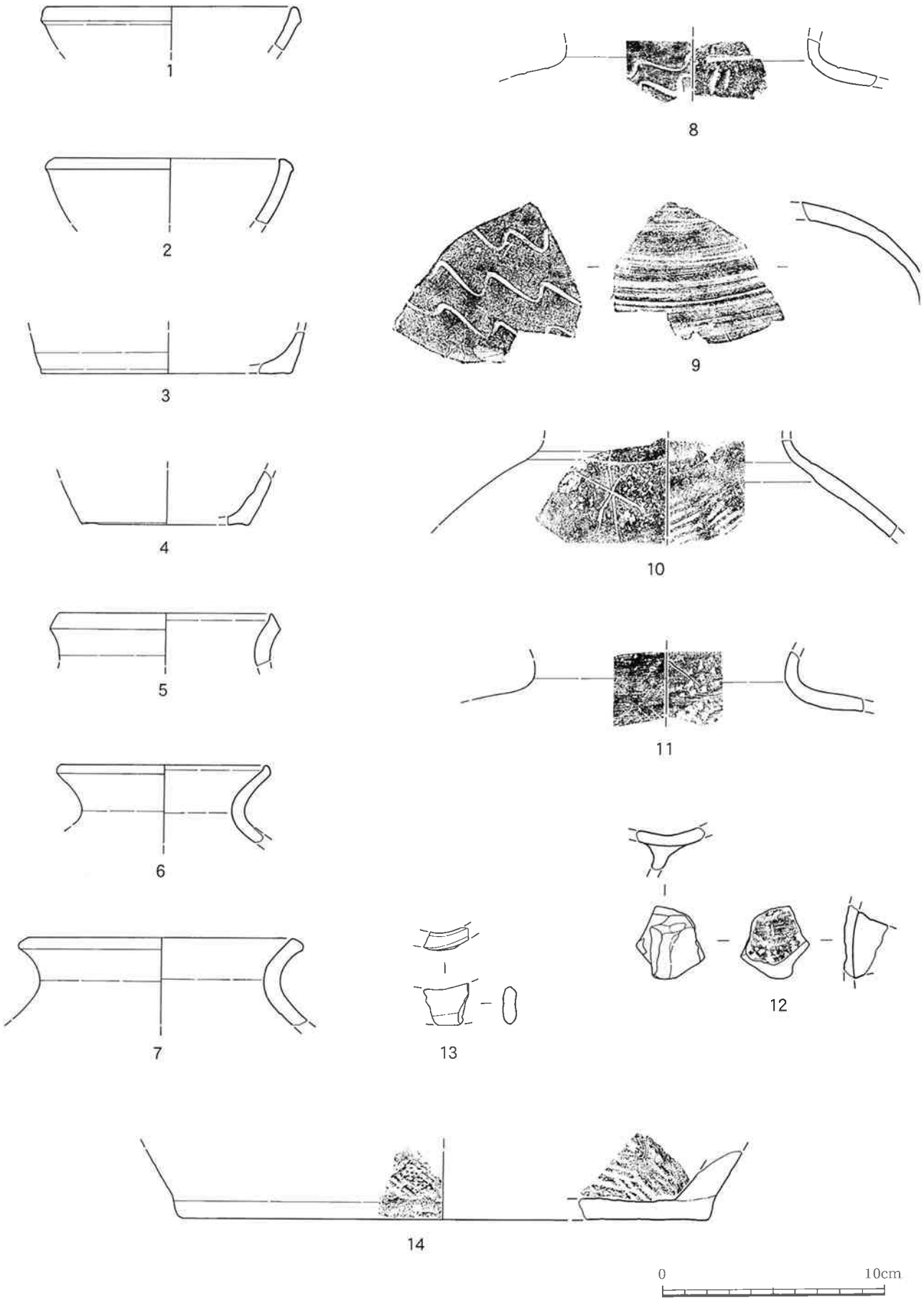
単位：cm

図番号		器種	分類	残存部位	口径底径	外面	内面	焼成	器面色調			観察事項	出土地点層／遺構
						叩き等	当て具等		外面	中	内面		
第54図・図版36	1	碗	Ⅰ類a	口縁	11.5	ヘラ削り	ヘラ削り	還元焼成	青灰	茶	青灰	外反する器形で、玉縁口縁を持つ。	Ⅰ地区 C-17 3層
	2	碗	Ⅰ類b	口縁	11.4	ヘラ削り後ナデ調整	ヘラ削り後ナデ調整	還元焼成	暗青灰	茶	暗青灰	外反する器形で、厚みのある玉縁口縁を持つ。	Ⅰ地区 C-17 5層
	3	碗	－	底部	11.6	ヘラ削り	ヘラ削り	還元焼成	黒灰	黒灰	黒灰	底部はベタ底で、外底面に若干の凹みがみられる。	Ⅰ地区 C-8 7層
	4	碗	－	底部	7.6	ヘラ削り後ナデ調整	ヘラ削り後	還元焼成	青灰	茶	青灰	底部はベタ底で、外底面に若干の凹みがみられる。	Ⅰ地区 C-13 3層
	5	壷	Ⅰ類b	口縁	10.6	ヘラ削り後ナデ調整	ヘラ削り後ナデ調整	焼成不良	灰	灰	灰	口縁部は外反し、口縁部内面に稜を呈する。	Ⅰ地区 C-17 4層
	6	壷	Ⅰ類c	口縁	9.8	ヘラ削り後ナデ調整	ヘラ削り後ナデ調整	還元焼成	青灰	茶	青灰	口縁部は外反し、口縁端部は丸みを呈し、口縁部内面に稜を呈する。	Ⅰ地区 C-7 2層
	7	壺	Ⅱ類a2	口縁	13.0	ナデ調整	ナデ調整	焼成不良	灰	灰	灰	口縁部は外反し、口唇部に平坦面を持つ。	Ⅰ地区 C-10 1層
	8	壺	有文Ⅰ類	肩	－	ナデ調整	ナデ調整	焼成不良	茶	茶	茶	頚部下に波状沈線がを施文。胴部が張る器形。	Ⅰ地区 C-13 3層
	9	壺	有文Ⅰ類	肩	－	叩き締め後ナデ調整	ヘラ削り	焼成不良	茶	茶	茶	頚部下に波状沈線が等間隔で施文される。胴部が張る器形。	Ⅰ地区 C-15 3層
	10	壺	有文	肩	－	格子目文の叩き後ナデ調整	平行線文の当て具痕ナデ調整	焼成不良	茶	茶	茶	外面に沈線でヘラ記号と思われるものが施される。	Ⅰ地区 C-11 13層P48
	11	壺	－	肩	－	ナデ調整	格子目文の当て具痕ナデ調整	焼成不良	灰	灰	灰	胴部が張る器形。	Ⅰ地区 C-16 5層
	12	壺	－	把手	－	ナデ調整	格子目文の当て具痕ナデ調整	還元焼成	黒灰	茶	黒灰	胴部に把手が貼付される。	Ⅰ地区 C-11 3層
	13	壺	－	把手	－	ナデ調整	ナデ調整	焼成不良	灰	灰	灰	把手のみの小破片。	Ⅰ地区 C-13 7層
	14	壺	Ⅰ類b	底部	24.1	格子目文の叩き後ナデ調整	ナデ調整	焼成不良	灰	灰	灰	底部内面に同心円タタキが施される。胎土が硬質で本土産須恵器に類似する。	Ⅰ地区 C-15 3層
第55図・図版37	15	壷	Ⅰ類a	底部	14	ヘラ削り後ナデ調整	ナデ調整	焼成不良	灰	灰	灰	底面からの立ち上がりが急なもの。底面の器厚が薄手である。	Ⅰ地区 C-7 2層
	16	壷	Ⅰ類a	底部	12.4	ナデ調整	ヘラ削り	還元焼成	青灰	茶	青灰	底面からの立ち上がりが急なもの。底面の器厚が薄手である。	Ⅰ地区 C-17 3層
	17	－	胴部Ⅰ類a1	胴部	－	ナデ調整	ヘラ削り	還元焼成	青灰	茶	青灰	口縁部から胴部がなだらかな器形。	Ⅰ地区 C-9 2層
	18	－	胴部Ⅰ類a1	胴部	－	ナデ調整	ヘラ削り	還元焼成	青灰	茶	青灰	胴下部の資料と思われる。	Ⅰ地区 C-15 2層
	19	－	胴部Ⅰ類b	胴部	－	格子目文の叩き	ナデ調整	焼成不良	灰	灰	灰	胎土が須恵質で調整痕（叩き痕など）などが本土産須恵器に類似する。	Ⅰ地区 C-15 3層
	20	－	胴部Ⅰ類b	胴部	－	格子目文の叩き	ナデ調整	焼成不良	茶	茶	茶	焼成が悪く、もろい。器厚は薄手である。	Ⅰ地区 C-8 8層
	21	－	胴部Ⅰ類c1	胴部	－	綾杉文の叩き	ヘラ削り	還元焼成	青灰	茶	青灰	胴下部の資料と思われる。	Ⅰ地区 C-12 3層
	22	－	胴部Ⅰ類c2	胴部	－	平行線文の叩き	ヘラ削り	還元焼成	青灰	茶	青灰	胴上部の資料と思われる。	Ⅰ地区 C-15 3層
	23	－	胴部Ⅱ類a	胴部	－	ナデ調整	格子目文の当て具痕	還元焼成	青灰	茶	青灰	胴上部の資料と思われる。	Ⅰ地区 C-5 3層

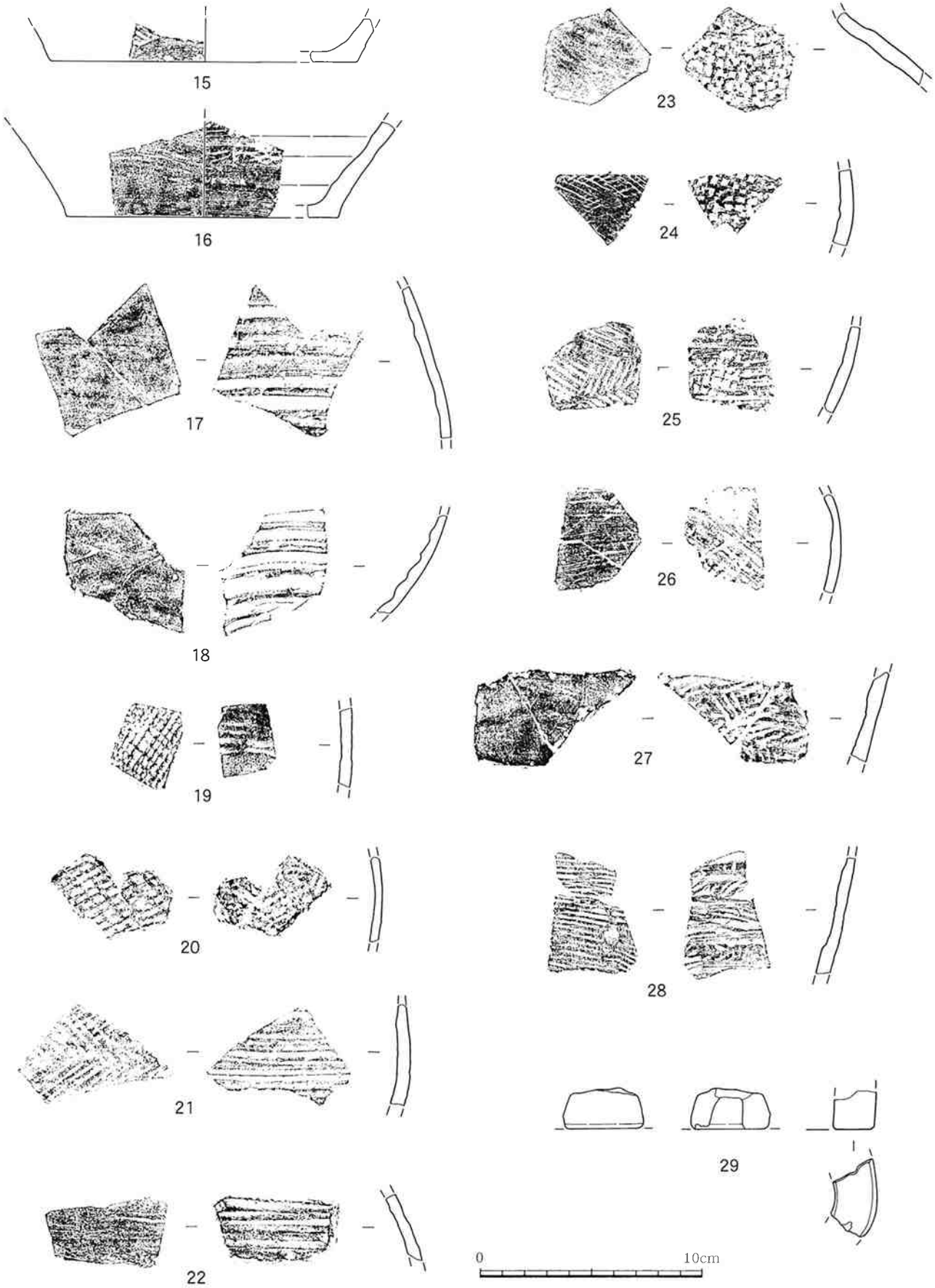
第24表　カムィヤキ観察一覧ｂ

単位：cm

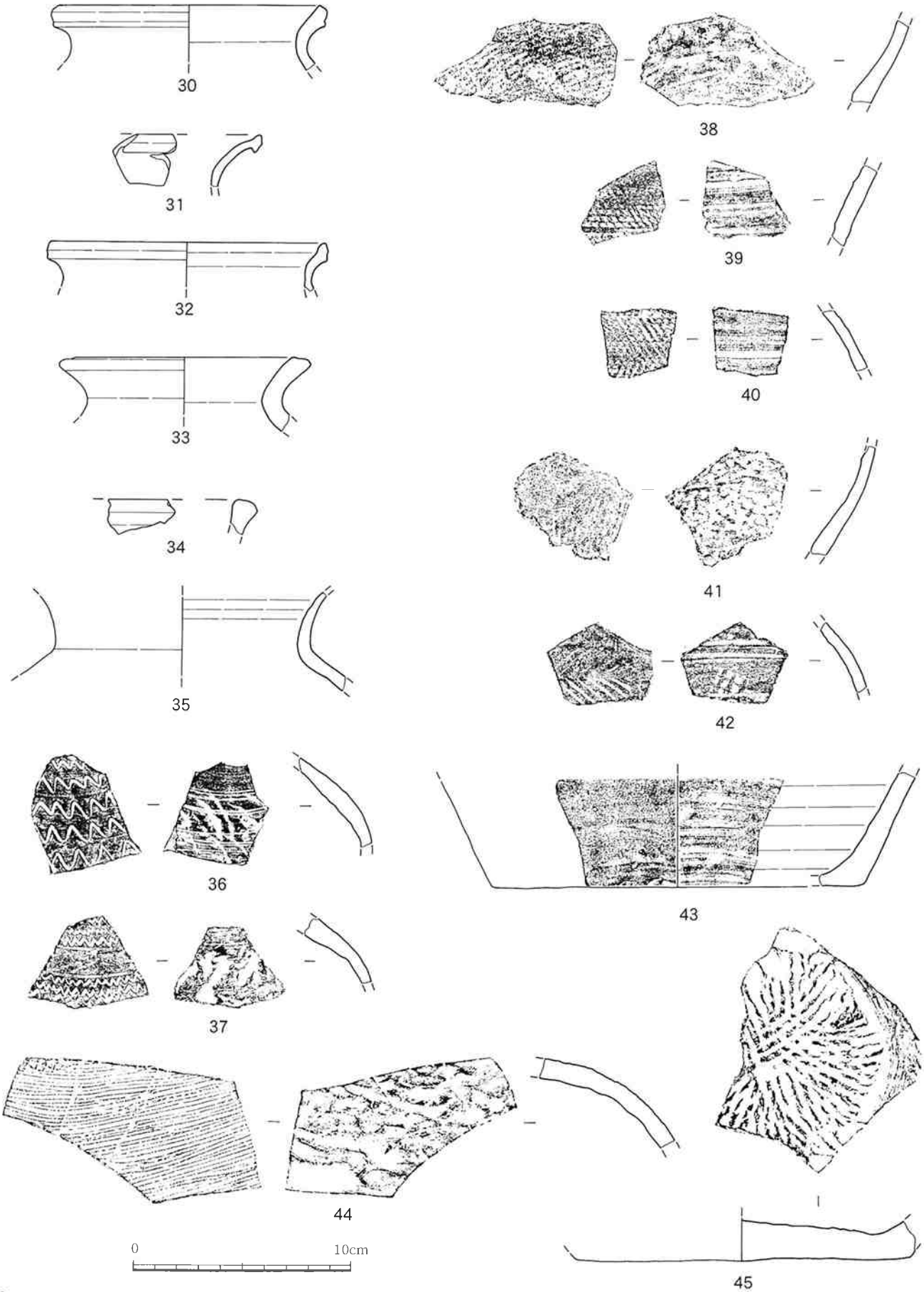
図番号		器種	分類	残存部位	口径底径	外面 叩き等	内面 当て具等	焼成	器面色調 外面	器面色調 中	器面色調 内面	観察事項	出土地点 層／遺構
第55図・図版37	24	－	胴部 Ⅱ類b2	胴部	－	平行線文の叩き 後ナデ調整	格子目文の当て具痕	還元焼成	青灰	茶	青灰	胴上部の資料と思われる。	Ⅰ地区 C-9 2層
	25	－	胴部 Ⅱ類b1	胴部	－	綾杉文の叩き	格子目文の当て具痕 ナデ調整	還元焼成	黒灰	茶	黒灰	胴下部の資料と思われる。	Ⅰ地区 C-15 3層
	26	－	胴部 Ⅱ類b2	胴部	－	平行線文の叩き 後ナデ調整	格子目文の当て具痕 ナデ調整	焼成不良	灰	茶	灰	胴下部の資料と思われる。	Ⅰ地区 C-16 3層
	27	－	胴部 Ⅲ類a	胴部	－	ナデ調整	平行線文の当て具痕 ナデ調整	焼成不良	灰	灰	灰	胴下部の資料と思われる。	Ⅰ地区 C-12 3層
	28	－	胴部 Ⅲ類b	胴部	－	平行線文の叩き	平行線文の当て具痕 ナデ調整	還元焼成	青灰	青灰	青灰	胴下部の資料と思われる。	不明
	29	－	－	底部?	－	ナデ調整	ナデ調整	還元焼成	青灰	茶	青灰	部位不明。平坦面を持つもので底部の可能性もある。	Ⅰ地区 C-16 11層
第56図・図版38	30	壺	Ⅰ類a1	口縁	12.8	ヘラ削り後 ナデ調整	ヘラ削り後 ナデ調整	還元焼成	青灰	茶	青灰	口縁部が外反する器形。口縁部の断面観が三角形状を呈する。	Ⅱ地区 C-39 1層
	31	壺	Ⅰ類a2	口縁	－	ヘラ削り後 ナデ調整	ヘラ削り後 ナデ調整	還元焼成	青灰	茶	青灰	口縁部が外反する器形。口縁部の断面観が三角形状を呈する。	Ⅱ地区 C-28 7層
	32	壺	Ⅰ類b	口縁	13	ヘラ削り後 ナデ調整	ヘラ削り後 ナデ調整	還元焼成	青灰	茶	青灰	口縁部が外反する器形。口縁部の断面観が三角形状を呈する。口縁内部に稜を呈する。	Ⅱ地区 C-36 溝3
	33	壺	Ⅱ類a1	口縁	11.6	ヘラ削り後 ナデ調整	ヘラ削り後 ナデ調整	焼成不良	灰	灰	灰	口縁部が外反する器形。胎土が須恵質で形態から本土産須恵器に類似する。	Ⅱ地区 C-35 溝3
	34	壺	Ⅱ類b	口縁	－	ヘラ削り後 ナデ調整	ヘラ削り後 ナデ調整	還元焼成	青灰	茶	青灰	口縁部が丸みを帯び、外反する器形。	Ⅱ地区 C-28 5層
	35	壺	－	首～肩	－	ヘラ削り後 ナデ調整	ヘラ削り後 ナデ調整	還元焼成	青灰	茶	青灰	長頸壺。胴部が張る器形。	Ⅱ地区 C-35 溝3
	36	壺	有文 Ⅰ類	肩	－	ナデ調整	ヘラ削り	還元焼成	黒灰	茶	青灰	胴上部に５条の波状沈線が等間隔で施文される。胴部が張る器形。	Ⅱ地区 C-28 20層直上
	37	壺	有文 Ⅱ類	肩	－	ナデ調整	ヘラ削り	焼成不良	灰	灰	灰	胴上部に横位に平行沈線で区画し、区画内に波状沈線を施す。	Ⅱ地区 C-30 8層
	38	－	胴部 Ⅰ類a2	胴部	－	ナデ調整	ヘラ削り	還元焼成	灰	茶	灰	外面に格子文叩き後丁寧なナデ調整で格子文がほとんど消されている。	Ⅱ地区 C-33 18層
	39	－	胴部 Ⅰ類b	胴部	－	格子目文の叩き	ヘラ削り	還元焼成	灰	茶	灰	胴下部の資料と思われる。	Ⅱ地区 C-31 5層
	40	－	胴部 Ⅰ類b	胴部	－	格子目文の叩き	ヘラ削り	還元焼成	灰	茶	灰	胴上部の資料と思われる。	Ⅱ地区 C-36
	41	－	胴部 Ⅱ類a	胴部	－	ナデ調整	格子目文の当て具痕	焼成不良	灰	灰	灰	胴下部の資料と思われる。	Ⅱ地区 C-40 溝3
	42	－	胴部 Ⅱ類b1	胴部	－	綾杉文の叩き後 ナデ調整	格子目文の当て具痕 ヘラ削り	還元焼成	青灰	茶	青灰	胴上部の資料と思われる。	Ⅱ地区 C-32・33 溝2-2
	43	壺	Ⅰ類a	底部	17.2	ナデ調整	ヘラ削り	還元焼成	黒灰	茶	黒灰	底面からの立ち上がりが急なもの。底面の器厚が薄手である。	Ⅱ地区 C-40 21層直上
	44	壺	胴部 Ⅳ類	肩	－	横位に刷毛目が施される。	ナデ調整	焼成不良	灰	灰	灰	頸部から胴部にかけて刷毛目状の工具によりカキ目が施される。胎土や刷毛目の施し方から本土産須恵器に類似する。	Ⅱ地区 C-34 21層直上
	45	壺	Ⅰ類b	底部	15.4	ナデ調整	ナデ調整	焼成不良	灰	橙色	灰	内底面に同心円タタキが施される。本土産須恵器に類似する。	Ⅱ地区 C-36 溝3



第54図　カムィヤキ１　Ⅰ地区　碗（１～４）、壷（５～14）



第55図　カムィヤキ２　Ⅰ地区　壷(15・16)、器種不明(17～27・29)　地区不明(28)



第56図　カムィヤキ３　Ⅱ地区　壷(30～37・43～45)、器種不明(38～42)

第10節　石器・石製品（第57・58図）

今回のⅠ～Ⅲ地区全体の発掘調査で得られた石器・石材及び石製品は総数22点を数える（第25～27表）。Ⅰ～Ⅲ地区で石器15点、石製品と思われるものが４点得られている。本報告書では、石器・石製品と石材に分け、前者を第55・56図に示した。以下、器種ごとに記述する。なお、個々の遺物については観察表にまとめた（第28表）。

石器

石器は、Ⅰ～Ⅲ地区から15点出土した。そのうち、器種の特定ができたものが石斧１点・敲打具類２点・砥石１点である。その他、加工・使用痕が不明瞭なものや破損が著しいため器種の特定が難しいものが11点出土した。特徴的なものを第55・56図に５点示した。

１．石斧（１）

石斧はⅢ地区第１層１点出土した。第55図１は緑色片岩製の磨製石斧で刃縁は円刃を呈し、断面観は両凸刃である。

２．敲打具類（２～３）

出土点数は少なく、２点出土した。敲打・摩滅の痕跡が認められるものである。

第55図２は、磨面と推定される平坦面を表裏に持つものである。また、側面中央部に凹みがみられる。Ⅱ地区の第１検出面に伴う層から出土している。

第55図３は破損部分が大きく、下部に敲打痕がみられる。側面に２と同様、凹みがみられる。Ⅱ地区第１検出面から出土している。

３．砥石（４）

Ⅰ地区より１点出土している。形態的に小型で定型化された砥石である。今帰仁城跡（今帰仁村教育委員会1983）、銘苅原遺跡（那覇市教育委員会1997）などに報告がみられる。

第56図４は、上端部が欠損している。平面観は長方形を呈し、研磨は全面に施され両側面に小孔が穿たれ貫通している。これまでの報告から上面にも小孔が穿たれていたと思われる。Ⅰ地区第３検出面から出土している。

石器不明

小破片のため器種の特定が難しいものである。Ⅰ地区とⅡ地区から11点出土している。そのうち１点を図示した。これらの資料は、磨面を持つものである。

第56図５は、石器として製作されたものであるが、用途不明なものである。丁寧な研磨が一部施されている。Ⅱ地区第２層から出土している。

石製品

石製品と思われるものがⅡ地区で４点出土している。有孔を呈するものと用途不明のものが得られている。第56図６と８は客土から出土しているが特徴があったため、記載した。個々の特徴について明記する。

第56図６は、有孔石製品と思われるものである。残存状況から平面形は長方形状を呈していたと思われる。砂岩製で中央部に直径約2.9cmの有孔を持つもの。Ⅱ地区の客土から出土している。

第56図７は、有孔石製品と思われるものである。平面形は逆三角形状と呈しており、中央上部に直径約0.3cmの小孔が２つみられる。石灰岩製である。Ⅱ地区第２層から出土している。

第56図８は、把手状の突起部を持つもの。用途は不明。グスク土器（第Ⅰ群土器）鍋形把手状突起のような作りである。縦長の長方形状の突起部を持つ。突起部以外は器面が雑である。Ⅱ地区の客土から出土している。

第56図９は、球状の形態を呈しており、研磨痕がみられる。用途は不明。Ⅱ地区第９層からの出土である。

石材

加工痕や使用痕は認められないが、石質観察等により遺跡外より持ち込まれたと思われるものを「石材」として取り扱った。Ⅰ地区とⅡ地区から３点得られた。石器を含めてみると石材では、緑色片岩が若干多く、花崗岩・砂岩・安山岩などが出土している。

以下、分類概念と個々の遺物の特徴について概観した。石器・石製品ともに出土点数が少ないため、地区ごとの検出面の時期差については検証できなかった。Ⅰ地区第３検出面より小形の砥石が出土しており、類似する資料が出土する遺跡の年代観を見ると概ねグスク時代に対応すると思われる。

第25表　石器・石製品出土状況（Ⅰ地区）

出土地＼分類		石器		石材	合計
		砥石	不明		
3層	C－13		1		1
	C－15		1		1
11層	C－17			1	1
13層直上	C－13	1			1
合　計		1	2	1	4

第26表　石器・石製品出土状況（Ⅱ地区）

出土地＼分類		石器		石製品	石材	合計
		敲打具類	不明			
1層	C－40		1			1
2層	C－38		1	1		2
4層	C－30		1			1
5層	C－32	1				1
6層	C－33		1			1
7層直上	C－30	1				1
7層	C－31		1			1
9層	C－45		1			1
21層P321	C－30				1	1
21層P374	C－31		1			1
溝2－1	C－32		1			1
溝3	C－35				1	1
客土	C－26			2		2
	グリッド不明		1	1		2
合　計		2	9	4	2	17

注　「P」はピットの意。

第27表　石器・石製品出土一覧（Ⅲ地区）

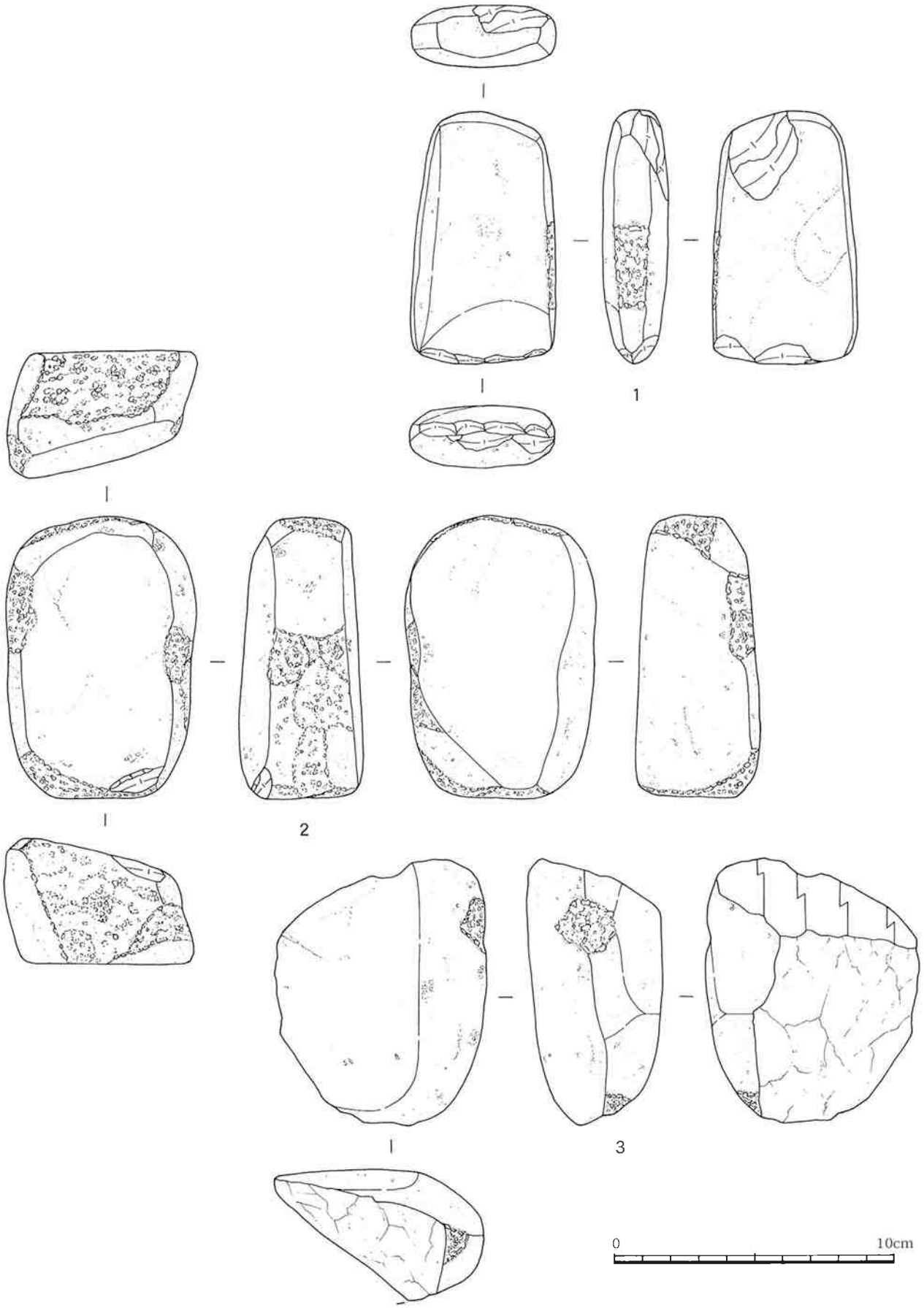
種類	器種	出土地	点数
石器	石斧	1層・M－47	1

第28表　石器・石製品観察一覧

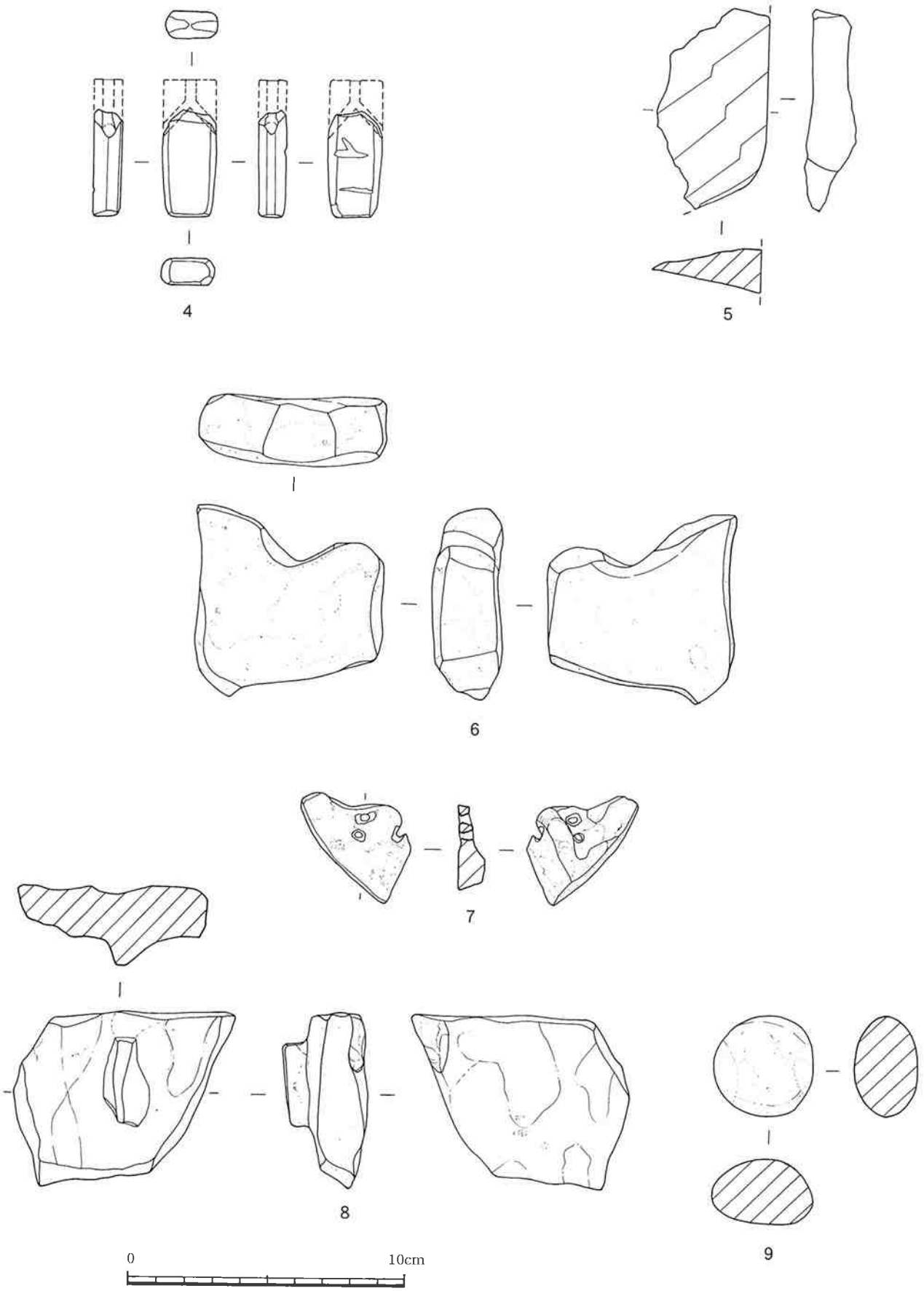
単位：cm

図番号		種類	分類	法量 長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量g	石材	観察事項	出土地点 層／遺構
第57図・図版39	1	石器	石斧	9.2	5.3	2.4	213.9	緑色片岩	平面形がバチ形を呈する両刃の磨製石斧である。石斧を敲打具類に転用していると思われる。刃部に敲打による潰れがみられ、裏面の上部が一部破損してる。全面に研磨がみられる。	Ⅲ地区 M-46 1層
	2		敲打具	10.3	6.8	4.4	524.6	砂岩	平面形が隅丸長方形状を呈し、断面形をみると下端が厚くなっている。上下端に敲打痕がみられ、表裏面には磨面が認められる。側面中央部に窪みがみられる。	Ⅱ地区 C-32 5層
	3		敲打具	【9.7】	【7.6】	4.9	357.6	花崗岩（花崗斑岩）	平面形が隅丸長方形状を呈していたと考えられる。左側面と裏面・上下端部が破損している。下端部に若干敲打痕がみられる。右側面中央部に窪みがみられる。	Ⅱ地区 C-30 7層直上
第58図・図版40	4	石器	砥石	【3.9】	【1.9】	1	14.8	粘板岩	平面形は長方形を呈する。両側面に径0.6mmの小孔が穿たれ、貫通している。上部にも小孔があったと思われるが、破損している。裏面にも二カ所破損している。表裏面を平らに、両側面は丸みを持たせ研磨されている。	Ⅰ地区 C-13 13層直上
	5		不明	【7.4】	【4.0】	【1.8】	54.1	緑色片岩	全体の平面形は不明であるが、長方形状を呈していると思われる。右側面と下部に研磨痕がみられる。器種は不明である。	Ⅱ地区 C-38 2層
	6	石製品	有孔	【7】	6.8	2.5	156.2	砂岩	残存の平面形は台形を呈し、中央に約直径2.6cmの有孔がみられる。成形し、全体を研磨したと思われるが磨耗しており不明瞭である。	Ⅱ地区 C-26 客土
	7		有孔	4	4	1	12.8	石灰岩	平面形が逆三角形状を呈し、特に両側面と表面を成形した痕跡がある。裏面は雑な作りで研磨痕はみられない。直径0.3cmの小孔が中央部と上部に1つずつあり、右上部に破損した小孔がみられる。	Ⅱ地区 C-38 2層
	8		不明	6.4	7.9	2.9	132.2	石灰岩	全体の平面形は不明である。把手状の突起部がみられる。ノミ状の工具で成形されたと思われる。把手状の突起以外は作りが雑である。	Ⅱ地区 C-26 客土
	9		不明	3.7	3.6	2.4	41.7	石英	球状を呈しており、全面を研磨していると思われる。かすかだが、平らな面が二カ所みられる。	Ⅱ地区 C-45 9層

注　【　】内の数値は残存する計測値。



第57図　石器１　Ⅱ地区　敲打具類（２・３）　Ⅲ地区　石斧（１）



第58図　石器２　Ⅱ地区　砥石（４）、器種不明（５）　石製品　Ⅱ地区（６～９）

第11節　滑石製品・転用品（第59図）

今回の調査では滑石23点が出土しているが、約半分（11点）が２cm四方未満の小破片である。本報告では、滑石製鍋の形状を留める資料やその転用品とみられる資料など、特徴的なものを図示した。

１は口縁部に断面方形瘤状把手をもつ内傾器形の石鍋である。外器面・内器面ともに縦位に削り痕、横位に研磨痕が見られる。推算口径40cm 。しかし、破損部に丁寧な研磨が見られることから、あるいは二次転用を意識した加工の途中であった可能性も考えられる。C-13グリッド、第13層直上より出土。

２～５は滑石製鍋の形状を留めないことから、石鍋破片の二次転用品と類推される資料である。

２は残存形状から底部の立ち上がり付近を使って、二次転用を意識した加工の途中であったと考えられる資料である。中心部分に穿孔を施そうとした痕跡が見られ、外面は丁寧な研磨が見られる。C-16グリッド、第11層より出土。

３は全面を丁寧に研磨され、上端部分に穿孔の痕が見られるもので用途は不明。C-12グリッド、ピット46より出土。

４は断面長方形瘤状把手をもつ石鍋の口縁部分を加工した製品である。内面は丁寧に研磨され、石鍋の体部の曲面をそのまま利用し、把手を中心に左右に穿孔が見られる。用途としては垂飾品の蓋然性が高いと思われる。C-11グリット第13層より出土。

５はいわゆる「バレン状製品」と呼ばれているものである。平面形は略楕円形で、表面に把手を付し、その断面に孔径５㎜の穿孔を有する。表裏面ともに丁寧に研磨が施されている。検出時、当製品の裏面に多量の煤が付着しており、今回AMS法による分析を行った。その結果、900±40BPと11世紀中頃から12世紀後半とでた。C-13グリッド第13層直上より出土。

類似例として、県内では伊良波東遺跡（豊見城村教育委員会、1987）、大里エーヤマ遺跡（沖縄市教育委員会、1982）、銘苅原遺跡（那覇市教育委員会、1997）、伊佐前原第一遺跡（沖縄県立埋蔵文化財センター、2001）の出土資料などが知られている。

以上、滑石製品・転用品の観察とその出土状況を概観した。その結果、形状の分かる滑石製品は、ほとんどの製品に穿孔がみられ、転用品として使用したことが窺える。出土状況からみると、Ⅰ地区では第２検出面から上層は２cm四方未満の小破片で様相は窺えない。第２検出面より下層は、上で述べたように比較的形状の分かる物が出土しており、他の遺物と示し合わせてみると、第３検出面は古手の様相を示していると考えられる。Ⅱ地区は、第１・３検出面からそれぞれ１点づつ出土しているが、形状の分からない破片であり、他の遺物と示し合わせても時期が合わず、滑石製品から時期を考察することは出来なかった。

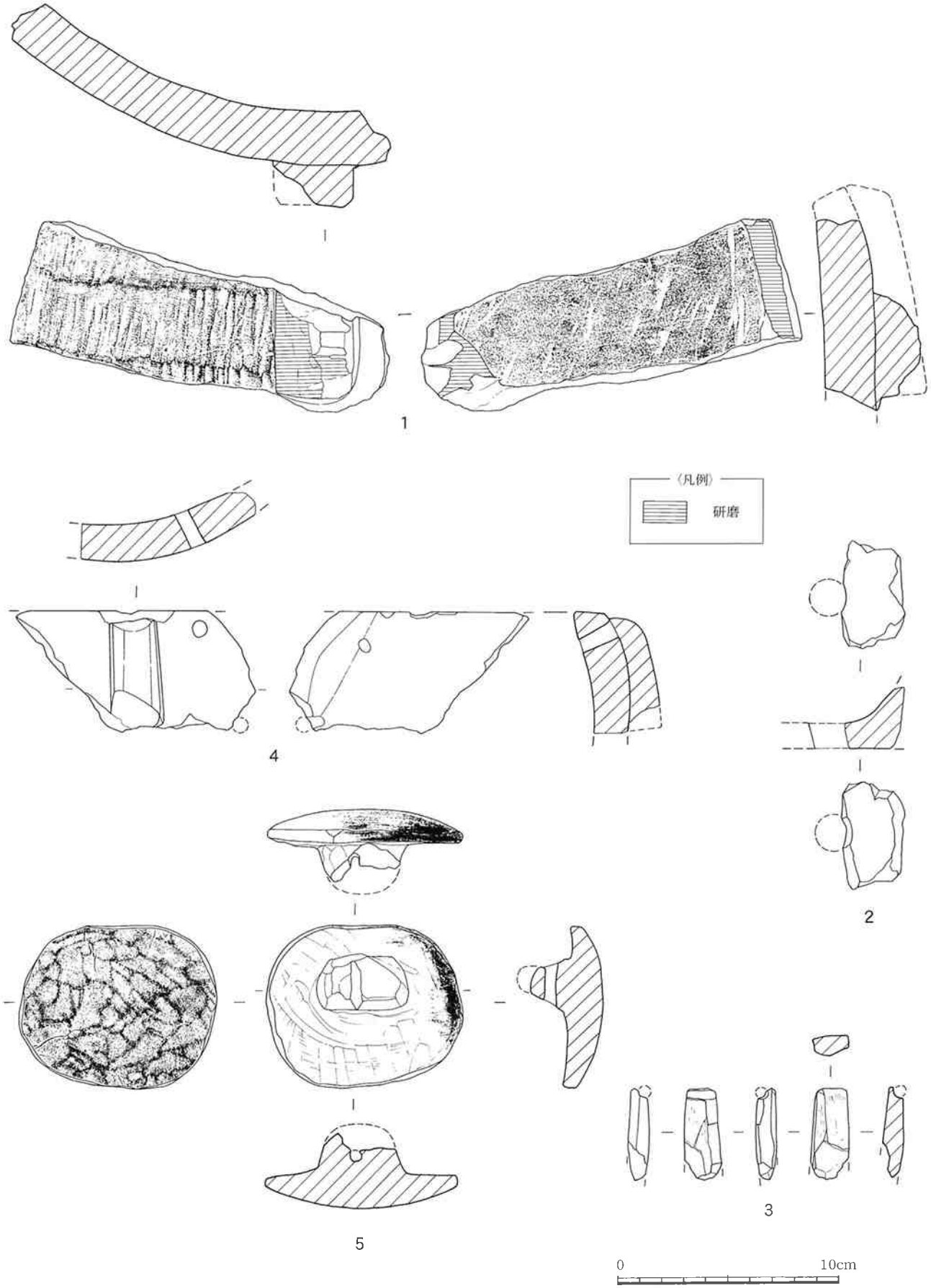
第29表　滑石製品出土状況（Ⅰ地区）

分類＼出土地		2層		3層直上	3層		4層	8層	10層	11層		13層直上	13層	13層Pit45	13層Pit46	不明	合計
		C-11	C-16	C-14	C-10	C-16	C-17	C-5	C-9	C-16	C-17	C-13	C-11	C-11	C-11		
滑石製品	鍋		1	1				1		1	1	1				1	7
	転用品				1							1	1		1	1	5
滑石		1		1		1	1		2					1		1	8
合計		1	1	2	1	1	1	1	2	1	1	2	1	1	1	3	20

第30表　滑石製品出土状況（Ⅱ地区）

分類＼出土地		7層直上	21層Pit224	溝3	不明	合計
		C-31	C-29	C-36		
滑石製品	鍋				1	1
	転用品				1	1
滑石		1	1	1	1	4
合計		1	1	1	3	6

※遺物洗浄の際、１を水につけると多量の油分が水面にひろがった。今回、分析を行うことができなかったが、何か用途などの関係が分析できた可能性があると感じた。



第59図　滑石製品　Ⅰ地区(1)　転用品　Ⅰ地区(2～5)

第12節　玉（第60図）

今回の調査で出土した玉の総数は、15点であり、その内８点を図化した。

本遺跡から出土する玉は、その形態によって管玉(１点)と丸玉(14点)に分けられ、丸玉が大部分を占める。丸玉は、その材質によってガラス製(６点)、陶製(２点)、貝製(５点)、石製(１点)、に分けられ、ガラス製が多く出土する。ガラス製の丸玉は、細いガラス紐をコイル状に成形するもの(３)、ガラス紐を心棒に巻き付け、研磨を施して仕上げたもの(２)がある。

出土状況としては、Ⅱ地区からのみ出土している。Ⅱ地区第1検出面を示す5層よりガラス製丸玉が1点出土している。またⅡ地区第３検出面を示す７・８層からは９点出土しており、特にＣ－29・８層からは５点が出土している。この第３検出面からは、ガラス製(４点)、陶製(２点)、貝製(２点)、石製(１点)と各材質の丸玉が出土している。

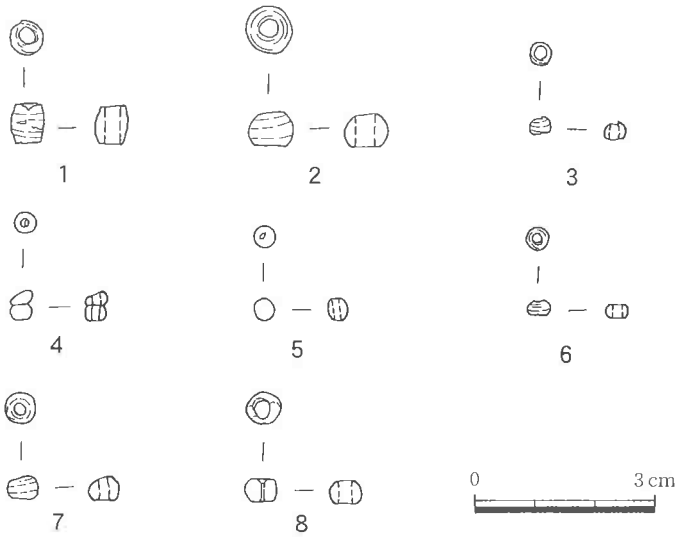
第31表　玉出土状況（Ⅱ地区）

玉種・材質 ＼ 出土地			5層	7層		7層		8層	21層					合計
						Pit11	Pit30		Pit209	Pit213	Pit240	Pit376	Pit377	
			C-28	C-28	C-30	C-28	C-29	C-29	C-28	C-28	C-29	C-31	C-31	
管玉	ガラス製	完形			1									1
丸玉	ガラス製	完形	1	1		1		1					1	5
	貝製	完形						2	1	1	1	1		6
	陶製	完形					1	1						2
	石製	完形						1						1
合　計			1	1	1	1	1	5	1	1	1	1	1	15

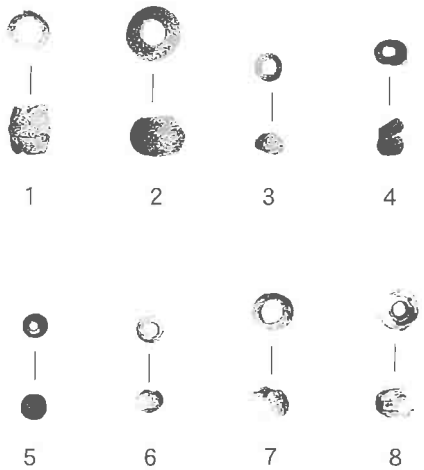
第32表　玉観察一覧

単位：mm

図番号		種類	材質	残存状況	最大径	孔径	高さ	観察事項	出土地点
第60図・図版42	1	管玉	ガラス	完形	5.4	2.8	6.4	表面は、風化しており、粉をふいたような状態である。色調は、青色を呈す。	Ⅱ地区 C-30 7層
	2	丸玉	ガラス	完形	7.5	3.3	5.4	玉の一端（下部）は研磨が施され水平であるが、他端(上部)は研磨が施されず斜位である。表面には、螺旋状の筋が明瞭に残る。色調は、半透明の緑色を呈す。	Ⅱ地区 C-28 7層Pit 1
	3	丸玉	ガラス	完形	3.8	1.0	2.3	0.5mmほどの細いガラス紐をコイル状に5条巻きつけており、その紐痕が明瞭に残る、色調は白色を呈す。	Ⅱ地区 C-28 7層
	4	丸玉	ガラス	完形	3.3	0.7	4.7	2つの玉が引っ付いた状態で出土しており、それぞれの孔の中心はずれている。色調は暗赤褐色を呈す。	Ⅱ地区 C-29 8層
	5	丸玉	陶製	完形	3.4	0.9	3.3	球形で、色調は赤色を呈す。	Ⅱ地区 C-29 7層Pit30
	6	丸玉	貝	完形	3.7	1.5	2.1	臼形の形態を呈し、表面には螺旋状の筋が明瞭に残り、自然面をよく残す。色調は白色を呈す。	Ⅱ地区 C-29 8層
	7	丸玉	貝	完形	5.3	3.0	3.5	臼形の形態を呈しているが、６の貝製丸玉とは大きさが異なる。表面は螺旋状の筋を明瞭に残す。色調は白色。	Ⅱ地区 C-31 21層Pit13
	8	丸玉	石	完形	5.3	1.9	3.5	臼形の形態を呈す。玉の上部と下部にV字上の抉りを施し溝を形成する。紐掛けの用途が推察される。表面は比較的丁寧に研磨が施されている。色調は白色を呈す。	Ⅱ地区 C-29 8層



第60図　玉　Ⅱ地区（１～８）



図版42　玉

第13節　銭貨（第61図）

銭貨は、総数28点が出土しており、内14点を図化した。

銭文が判別できたのは14種21点で、他7点は錆化が著しく、銭文が判別できなかったため不明資料とした。銭種は、景徳元寶(初鋳1004年)をはじめとして、最も新しいもので寛永通寶(初鋳1697年)が出土する。時代別にみると、北宋代15点、南宋代2点、明代3点、江戸時代1点と北宋代が大部分を占める。出土状況としては、Ⅰ地区1点、Ⅱ地区25点、Ⅲ地区1点、出土地不明1点とⅡ地区から最も多く出土している。Ⅰ地区第1検出面の包含層を示す３層からは熙寧元寶(初鋳1068年)が1点のみ出土している。Ⅱ地区第1検出面の包含層を示す5層からは、４点出土しており、銭貨の示す初鋳年代の時代幅として明確なものは景徳元寶(初鋳1004年)と洪武通寶(初鋳1368年)のみである。また、Ⅱ地区第３検出面の包含層を示す第７・８・14層からは16点出土しており、特にC－32・７層において13点が一括出土している点は特筆すべきである。その一括資料示す初銭年代の時間幅としては、天禧通寶(初鋳1017年)から永楽通寶(初鋳1408年)である。

出土銭貨に認められる加工として最も多かったのが、銭貨の背の谷と輪・郭を水平に研磨し、滑面を有する薄肉の銭貨が４点出土している(４・５・７・９)。また、１点のみではあるが、輪の上部に穿孔を施した銭貨が出土しており、紐などを通して使用したことが推察される(８)。尚、銭文・銭種の同定は、Ｘ線透過撮影により行った。

第33表　銭貨出土一覧（Ⅰ地区）

種類	完／破	出土地		個数
熙寧元寶	完形	３層	C－１３	1

第35表　銭貨出土一覧（Ⅲ地区・地区不明）

地区	種類	完／破	出土地		個数
Ⅲ	寛永通寶	完形	溝２	K－４６	1
不明	不明	破片	層序不明	ｸﾞﾘｯﾄﾞ不明	1

第34表　銭貨出土状況（Ⅱ地区）

土出地＼種類		景徳元寶	天禧通寶	天聖元寶	皇宋通寶	熙寧元寶	元豊通寶		元祐通寶		紹聖元寶	大観通寶	建炎通寶	景定元寶	洪武通寶	永楽通寶	不明	合計
		完	完	完	完	完	完	破	完	破	完	完	完	破	完	完	破	
1層	C－40									1								1
5層	C－27	1																1
	C－29																1	1
	C－30																1	1
	C－32														1			1
7層	C－28																1	1
	C－31																1	1
	C－32		1	1	2	1	1		1		2	1	1		1	1		13
8層	C－29								1									1
14層	C－37													1			1	
20層	C－28																1	1
21層	C－34																1	1
23層	C－27							1										1
合　計		1	1	1	2	1	1	1	2	1	2	1	1	1	2	1	6	25

第36表　銭貨観察一覧ａ

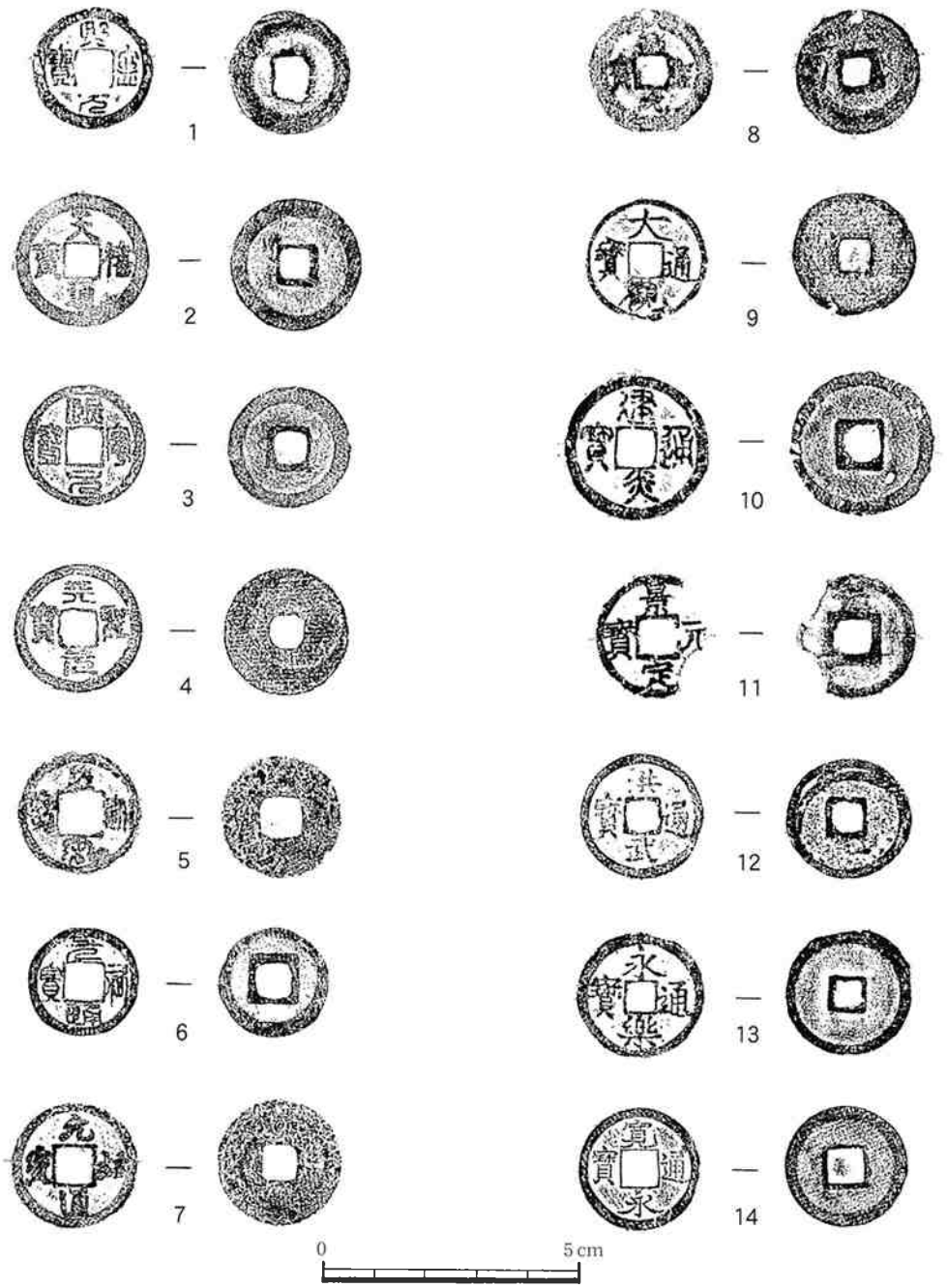
単位：mm/g

図番号		銭種	残存状況	背文	時代初鋳年代	書体	外縁外径外縁内径	外縁厚内縁厚	孔径縦/横	残存重量	観察事項	出土地点
第61図・図版43	1	熙寧元寶	完形	無文	北宗1068年	篆書	24.0 17.6	1.4 0.3	7.1/6.6	3.0	背の輪の一部が肥厚しており、穿の下部も僅かに破損し、「元」の一部が潰れる。また、全体的に若干湾曲する。	Ⅰ地区 C－13 3層
	2	天禧通寶	完形	無文	北宗1017年	真書	26.0 19.2	1.2 0.2	5.8/5.8	4.7	3の「熙寧元寶」と重なり引っ付いた状態で出土した。背の郭の部分が不定形である。	Ⅱ地区 C－32 7層
	3	熙寧元寶	完形	無文	北宗1068年	篆書	23.4 18.1	1.4 0.4	6.5/6.3	3.8	2の「天禧通寶」と重なり引っ付いた状態で出土した。背には、何らかの加工痕と思われる条痕が残る。	Ⅱ地区 C－32 7層
	4	天聖元寶	完形	無文	北宗1023年	篆書	25.1 18.7	1.1 0.3	6.5/6.6	3.3	郭の部分が不定形である。また、背は研磨が施され、谷部との高低差が水平にされ、滑面を有する。	Ⅱ地区 C－32 7層
	5	皇宗通寶	完形	無文	北宗1038年	篆書	23.7 18.4	1.1 0.4	8.0/7.9	2.5	外輪は破損を受けている。また、面の谷と輪・郭との高低差が比較的低い。背は、4と同様の研磨が施されているが、滑面を有する部分とざらつきののこる部分がある。	Ⅱ地区 C－32 7層
	6	元祐通寶	完形	無文	北宗1086年	篆書	21.8 16.3	1.1 0.2	6.9/6.8	2.4	外輪は不定形な円であり、背の輪径も一定でなく、長い部分と短い部分がある。	Ⅱ地区 C－29 8層
	7	元祐通寶	完形	無文	北宗1086年	行書	24.6 18.8	1.1 0.2	6.7/6.7	3.3	面は、谷と輪・郭の高低差が比較的低い。また、背は研磨が施され、滑面を有する。6の「元祐通寶」とは大きさが異なる。	Ⅱ地区 C－32 7層
	8	紹聖元寶	完形	無文	北宗1094年	行書	24.3 15.9	1.4 0.2	5.2/5.4	3.4	輪径が大きく、その上部には１孔穿たれている。また、銭文は不明瞭である。	Ⅱ地区 C－32 7層

第36表　銭貨観察一覧ｂ

単位：mm/g

図番号		銭種	残存状況	背文	時代 初鋳年代	書体	外縁外径 外縁内径	外縁厚 内縁厚	孔径 縦/横	残存重量	観察事項	出土地点
第61図・図版43	9	大観通寶	完形	無文	北宗 1107年	真書	23.6 20.2	1.1 0.2	6.2/6.2	3.2	背は、研磨が施され滑面を有し、谷と輪・郭は水平である。また、全体的に湾曲する。	Ⅱ地区 C－32 7層
	10	建炎通寶	完形	無文	南宋 1127年	篆書	24.3 19.6	1.1 0.2	6.5/7.2	2.0	輪の左部には、湯口の痕が見られる。また、銭貨の右部は背側に若干湾曲している。	Ⅱ地区 C－32 7層
	11	景定元寶	破損	「元」	南宋 1260年	真書	24.5 19.1	1.2 0.3	6.5/7.3	2.0	右部を破損している。背文の「元」の字は、不明瞭である。	Ⅱ地区 C－32 14層
	12	洪武通寶	完形	無文	明 1368年	真書	24.4 17.8	1.2 0.3	5.7/5.9	3.1	背には、他の銭貨の輪と思われる痕が明瞭に残っている。	Ⅱ地区 C－32 7層
	13	永楽通寶	完形	無文	明 1408年	真書	24.4 19.0	1.1 0.4	5.1/5.4	3.4	面の谷は、比較的ざらつきが残っており、粗雑である。また、面背とも輪の径が不定形である。	Ⅱ地区 C－32 7層
	14	寛永通寶	完形	無文	江戸 1697年	真書	23.7 18.1	0.8 0.3	6.9/7.2	2.2	新寛永通寶に分類されるものである。「寶」の字の17画目の左下がりの払いの最後を左上がりにはねる。	Ⅲ地区 K－46 溝2



第61図　銭貨　Ⅰ地区（1）　Ⅱ地区（2～13）　Ⅲ地区（14）

第14節　鉄製品（第62図）

本遺跡からは、刀子７点、鏃４点、釘９点、銛２点、用途不明４点の計26点の鉄製品が出土している。しかし錆化が著しく、本来の形態を推測するのは困難であり、比較的残りの良い10点を図化した。

刀子は、身の部分の破損品のみである。全体的な形状から刃部の薄い細身の刀子(1・2)と、刃部に厚みをもち、背がやや外反すると思われる刀子(3)が認められる。１の背は直線をなすと思われ、刃先は緩やかに曲線を描いており、細身の逆三角形の刃部を呈する。残存長38.3㎜、残存高24.2㎜、重量12.4g。Ⅱ地区・Ｃ－28・7層・ピット18より出土。２も、背が直線をなすと思われ、刃は緩やかに曲線を描いている。残存長55.2㎜、残存高22.6㎜、重量17.4g、幅については、断面から計測することができなかった。Ⅱ地区・Ｃ－31・21層・ピット95より出土。３は、身の中央部分の破損品である。背は、やや外反し、刃部は逆三角形を呈する。残存長40.7㎜、残存高32.3㎜、重量18.0ｇ。Ⅱ地区・Ｃ－29・4層より出土。

鏃は、2点とも完形に近い製品である。４の鏃身は、基部より一端細まり、矢頭に向けて幅が広くなっており、平面形は葉状を呈する。茎は先端部に向けて細くなる。横断面は、錆のために形状をうかがいしれない。残存長97.5㎜(鏃身61.0㎜・茎36.5㎜)、重量25.0ｇ。Ⅱ地区・Ｃ－31・７層より出土。５は、錆のため明確な形状は伺いしれないが、鏃身の破損品で茎部は残っていないと思われ、平面形は菱形を呈する。残存長43.9㎜、重量6.9ｇ。Ⅱ地区・Ｃ－31・21層・ピット412より出土。

６の釘は、角釘と言われるもので、頭部が逆L字状を呈する。先端部を破損しているため、本来の長さは不明である。残存長12.5㎜、重量34.0ｇ。出土地点は不明である。

７の銛は、銛頭の片側に1つの逆刺を有しており、与那良遺跡出土の鉄製銛と類似すると思われる。残存長30.0㎜、重量4.1g。Ⅱ地区・Ｃ－32・7層より出土。

８・９・10はその用途が推察出来なかったため不明資料とした。8は先端部を破損する。頭部の形態は丸みを帯びており、断面形は長方形をなすと思われる。残存長25.9㎜、重量2.8ｇ。Ⅱ地区・Ｃ－30・7層より出土。９は、やや丸みをおびた立方体の頭部をもち、段をなして、断面が円形の棒状形態をなす。残存長18.1㎜、重量7.0ｇ。Ⅱ地区・Ｃ－35・18層直上より出土。10は、板状の製品であり、若干湾曲している。縦25.1㎜、横64.5㎜、厚さは2.0㎜である。Ⅲ地区・Ｋ－45・溝2より出土。

出土状況としては、Ⅱ地区第3検出面の包含層より、刀子(1)、鏃(4)、銛(7)、用途不明(8)が出土する。

第37表　鉄製品出土一覧（Ⅰ地区）

種類	出土地		個数
釘	C-15	3層	2

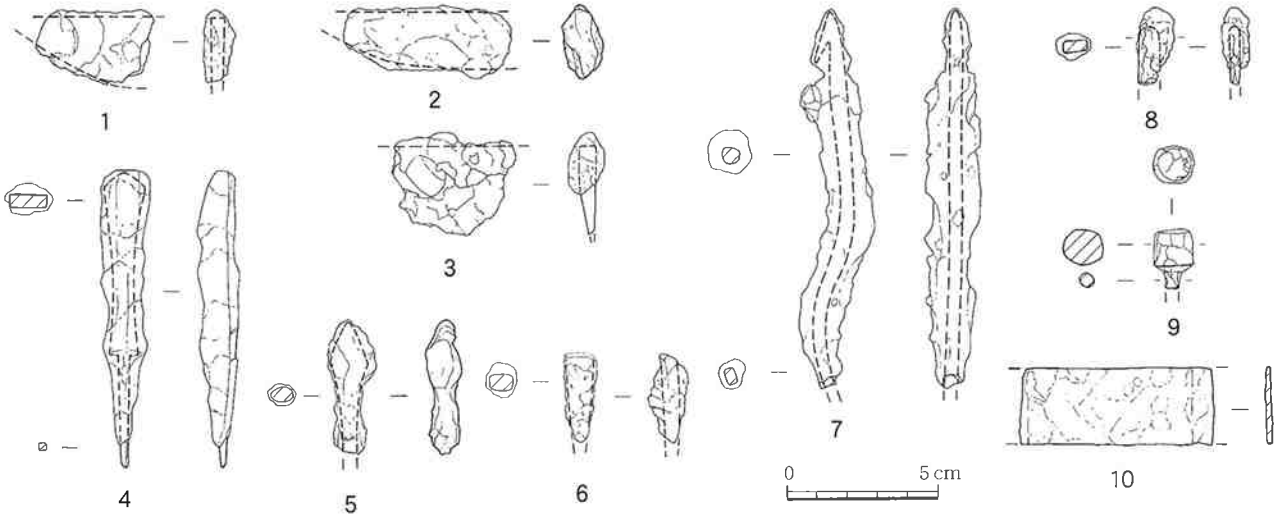
第39表　鉄製品出土一覧（Ⅲ地区）

種類	出土地		個数
釘	ｸﾞﾘｯﾄﾞ不明	1層	1
用途不明	溝2	K-46	1

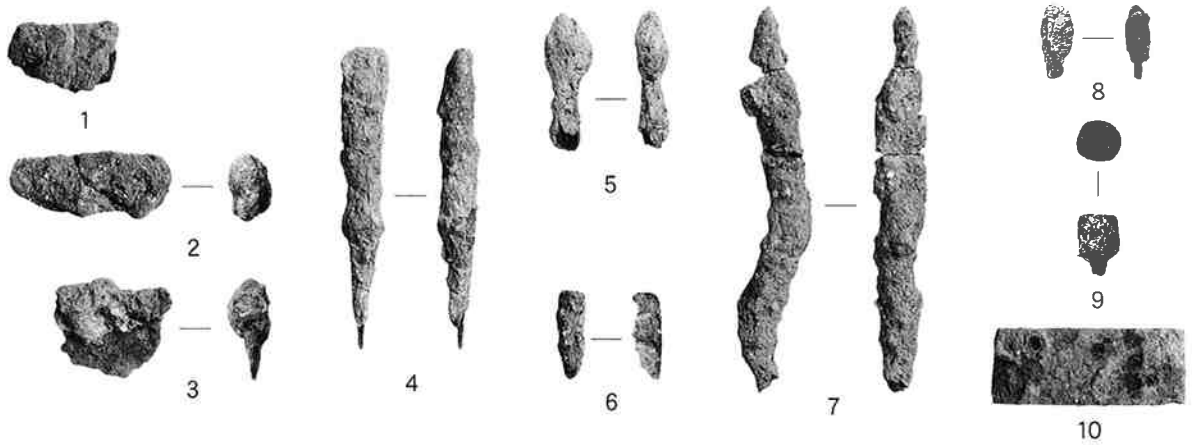
第38表　鉄製品出土状況（Ⅱ地区）

出土地 / 種類	1層	1層	3層			4層	5層	7層				18層直上	21層P233	21層P338	21層P412	不明	合計
	C-38	C-42	C-42	C-44	ｸﾞﾘｯﾄﾞ不明	C-29	C-30	C-28	C-30	C-31	C-32	C-35	C-29	C-30	C-31		
鏃										2			1		1		4
銛											2						2
刀子		1				1		1	1		1			1	1		7
釘	1	1	1	1			1									1	6
用途不明					1				1			1					3
合計	1	2	1	1	1	1	1	1	2	2	3	1	1	1	2	1	22

注　「P」はピットの意。



第62図　鉄製品　Ⅰ地区　刀子(1～3)、鏃(4・5)、銛(7)、不明(9)　**Ⅲ地区**　不明(10)　**地区不明**　釘(6)

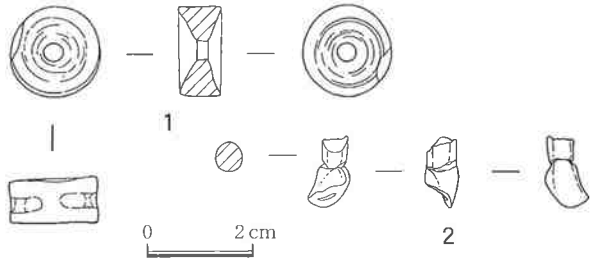


図版44　鉄製品

第15節　骨製品（第63図）

本遺跡から出土した骨製品は２点である。

１は、エイの脊椎骨を利用した製品である。中央の窪み部分は穿孔されており、側面には３つに区切られた溝が１本廻らされている。外径16.86㎜、内径3.15㎜、残存高8.63㎜、重量1.4ｇであり、Ⅱ地区・C－29グリッド・21層・ピット22より出土する。２は、ウシの切歯を利用した製品である。エナメル質と歯根上部を破損している。歯冠部と歯根部の境(歯冠基部)の両側に、V字状の抉りを施しており、紐掛けの用途が推察される。残存高13.15㎜、重量0.5ｇであり、Ⅱ地区からの出土であるが、グリッド・層序は不明である。



第63図　骨製品

図版45　骨製品

第16節 貝類

第40表　貝類出土状況(巻貝) a

番号	綱名	科名	貝種名	生息地	Ⅰ地区 1層			Ⅰ地区 2層直上			Ⅰ地区 2層			Ⅰ地区 3層直上			Ⅰ地区 3層			Ⅰ地区 4層			Ⅰ地区 5層			Ⅰ地区 7層直上			Ⅰ地区 7層			Ⅰ地区 8層直上			Ⅰ地区 8層			Ⅰ地区 9層直上			Ⅰ地区 10層直上			Ⅰ地区 10層			Ⅰ地区 13層			Ⅰ地区 15層直上			Ⅰ地区 溝2			Ⅰ地区 不明			Ⅱ地区 1層			Ⅱ地区 2層直上			Ⅱ地区 2層			Ⅱ地区 3層			Ⅱ地区 6層			Ⅱ地区 7層直上		
					完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	殻頂	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片
1		ニシキウズガイ科	ニシキウズ	Ⅰ・2・a									1					1	3																																							1			1								1	5						3
2			ムラサキウズ	Ⅰ・3・a									1						2												1						1																																							
3			ギンタカハマ	Ⅰ・4・a																																																																								
4			サラサバテイ	Ⅰ・4・a								1	1			1		6	6								1			2							2					1	1						1											1	2							2	1	6					5	
5			オキナワイシダタミ	Ⅱ・1・b																																																							1																	
6		サザエ科	ヤコウガイ	Ⅰ・4・a									2						3									1			2						1						1																		2															
7			ヤコウガイの蓋	Ⅰ・4・a															1																		1																																							
8			チョウセンサザエ	Ⅰ・3・a							1	2	2				1	2	3							1			1	2			1	1	1	2	4																						1	3	7		1		1	1			2	2		1	2		1	1
9			チョウセンサザエの蓋	Ⅰ・3・a							2		3				7		4										5		2				1	2														1									5	1	1	1			2	1	2	5			9					
10			コシタカサザエ	Ⅰ・2・a																																																																								
11			カンギク	Ⅱ・1・b								1					3	1												1	1					1	2					1																	4	3	1								1		1	3		2	1	1
12			オオウラウズガイ	Ⅰ・2・a									1															1			1						1																							1						1										
13		アマオブネガイ科	イシダタミアマオブネ	Ⅰ・0・a																																																																								
14			マルアマオブネ	Ⅱ・1・b													1	1																																																										
15		ヤマタニシ科	オキナワヤマタニシ	Ⅴ・8							1				1		1													1	1				1																																									
16		タニシ科	マルタニシ	Ⅳ・5・c																																																																								
17		トウガタカワニナ科	トウガタカワニナ	Ⅳ・5																																1																																								
18			ヌノメカワニナ	Ⅳ・c								1																	10	2	5					1	2				2																	1																		
19		カワニナ科	カワニナ	Ⅳ・5,6	1						5	3	10				1	4	13							1	2	4	4	2	38				1	2	18				2								13						1				1		1											1	1		1	1
20			カワニナ科不明																												2																																													
21		オニノツノガイ科	オニノツノガイ	Ⅰ・2・c								4	19				1	8	11								3	4	4	5	7			4		3	1				1														4					2	6					1	5		1	8		3	10		7	3
22			カヤノミカニモリ	Ⅰ・0													1																																																											
23			クワノミカニモリ	Ⅰ・1・a							3	1	1					1	1									1								1					1																				1											1	8	1	1	3
24		ゴマフニナ科	ゴマフニナ	Ⅰ・1																																																																						1		
25		ウミニナ科	リュウキュウウミニナ	Ⅱ・1									1					1	2											1																																								2		1				
26		フトヘナタリ科	イトカケヘナタリ										1																																																															
27		ソデボラ科	オハグロガイ	Ⅱ・2・c														1																																											1								1				1			1
28			ネジマガキ	Ⅰ・2・c		1						4						6	1						1		1	1		6	3		2		1	2						3	2						1								1			2												3	1		3	
29			マガキガイ	Ⅰ・2・c		10	2				10	163	36		3	1	16	273	60					2		2	62	12	19	209	31		34	6	28	178	32			1	11	23	3		2			8	4		5			8	2	2	7		2	79	7		3	5		21	5	3	75	3	3	75	7	20	44	1
30			イボソデガイ	Ⅰ・2・c																																	1						1																																	
31			クモガイ	Ⅰ・2・c		1						2	11					1	12								2	5		5	4		1			1	7						2								1						1			3	4						1			10		2	10		10	25
32			ソデボラ科不明										1																																																															
33		タカラガイ科	ヤクシマダカラ	Ⅰ・2・a																																																																								
34			ホシダカラ	Ⅰ・2・c								1																									1																																							
35			ヒメホシダカラ	Ⅰ・2・a																																1																																								
36			ホシキヌタ	Ⅰ・2・a															1																																																									
37			ハナビラダカラ	Ⅰ・1・a			1						2					3	3											1	1					1																	1								1						1	1		1		2	2			
38			キイロダカラ	Ⅰ・1・a														1																																																										
39			ハナマルユキ	Ⅰ・3・a	1							1					1	5	1							1	1		1							3					1																			2										2		1	3			
40	腹足綱		タカラガイ科不明																1			1						2																																	1						1			2			3		1	
41		タマガイ科	トミガイ	Ⅰ・2・c																																																																								
42			タマガイ科不明									1																																																																
43		オキニシ科	オキニシ	Ⅰ・3・a			1				1						1	1	1																	1																									1						2				1	1		1		3
44		フジツガイ科	ミツカドボラ	Ⅰ・2・a															2															1	1																										2									1					1	3
45		アッキガイ科	ガンゼキボラ	Ⅰ・4・a						1	1	1	2				1	1							1		36	1						1							1																																			
46			ウネレイシダマシ	Ⅰ・1・b																																																																							1	
47			ムラサキイガレイシ	Ⅰ・3・a									1																																															1																
48			アカイガレイシ	Ⅰ・3・a																						1			1																																							3		1						
49			シラクモガイ	Ⅰ・3・a							1																								1																									1										1						
50			ツノテツレイシ	Ⅰ・1・a																						1									1						1																																			
51			ツノレイシ	Ⅰ・3・a								1																																																																
52			アッキガイ科不明																																																																								2	
53		オニコブシガイ科	コオニコブシ	Ⅰ・3・a	1						1	4				1	7	7	5							1			3		3		1		1		1				1		1											*					2	3	1					1	1	3	5	3	2	6	2	2	1	1
54		エゾバイ科	シマベッコウバイ	Ⅱ・1・c																																																																							1	
55		イトマキボラ科	イトマキボラ	Ⅰ・2・a							1		1						2														1				1						1																		3									1		1	1			
56			チトセボラ	Ⅰ・2・c																																																						1																		
57			イトマキボラ科の一種									1																																																																
58		フデガイ科	チョウセンフデガイ	Ⅰ・2・c															1												1																																													
59		イモガイ科	アンボンクロザメ	Ⅰ・2・c																																																																								1
60			クロフモドキ	Ⅰ・2・c									1						2												2					1																														1										1
61			クロザメモドキ	Ⅰ・2・c																									1																																															1
62			マダライモ	Ⅰ・1・a															1																																																									
63			コマダライモ	Ⅰ・2													1																																										1																	
64			サヤガタイモ	Ⅰ・1・a																							1		1																																2															
65			ジュズカケサヤガタイモ	Ⅰ・1・a															1																																																									
66			ゴマフイモ	Ⅰ・2・c																																																																							1	
67			アカシマミナシ																																	1																																								
68			サラサミナシモドキ	Ⅰ・2・a																																1																																								
69			ヤキイモ	Ⅰ・2・c																									1						1																									1																
70			ヤナギシボリイモ	Ⅰ・2・a								1						2																																																							1			
71			イボカバイモ	Ⅰ・2・c																							1																																																	
72			イボシマイモ	Ⅰ・2・a			1					1					1	1											1	1					1																								1							1						1				
73			イモガイ科の一種																																																																								1	1
74			イモガイ科不明			1	1					8	6					8	12								5	1		2	3	1		2	1	2	3				1														2		2			3	6		2			2	4					3	12		2	8
75		ナツメガイ科	ナツメガイ	Ⅰ・2・c																	1																																																							
76		モノアラガイ科	タイワンモノアラガイ									1																		1																																														
77		ナンバンマイマイ科	シュリマイマイ	Ⅴ・8	1								3																																																															
78		オナジマイマイ科	パンダナマイマイ	Ⅴ・8			1											1									1		1						1	4																1																								
79			オキナワウスカワマイマイ	Ⅴ・9			1						1			1																				3	2											1	4																											
80		巻貝不明					1						4						4															1			3																																				3			
合計					4	13	9	0	0	1	27	203	112	0	4	4	44	336	159	0	1	1	0	2	2	8	116	33	53	241	108	1	40	16	41	212	84	0	0	1	22	28	12	0	2	0	0	9	23	1	6	1	1	8	9	2	11	3	18	106	51	1	6	5	3	30	22	17	87	48	16	105	67	27	84	58

注　完形と殻頂を合計し個体数とした。但し，破片でのみ出土した貝種については，最少個体数「1」とした。番号は図版と一致。

第40表　貝類出土状況(巻貝) b

番号	綱名	科名	貝種名	生息地	Ⅱ 地 区																																						Ⅲ 地 区															出土地不明			合計			個体数
					7層			8層			9層			12層			16層			18層直上			18層			21層直上			21層Pit505			溝2-1			溝2-4			溝3			客土			不明			1層			3層			4層			溝1			溝2									
					完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	
1	腹足綱	ニシキウズガイ科	ニシキウズ	Ⅰ·2·a			1																									1																																1	2	15	3
2			ムラサキウズ	Ⅰ·3·a																																																											1	0	0	6	1
3			ギンタカハマ	Ⅰ·4·a			1																																																		1								0	1	1	1
4			サラサバテイ	Ⅰ·4·a		2						1																					5	5											3	4			1									1							2	29	31	31
5			オキナワイシダタミ	Ⅱ·1·b																																																												1	0	0	1
6		サザエ科	ヤコウガイ	Ⅰ·4·a																																									1																		0	0	13	1
7			ヤコウガイの蓋	Ⅰ·4·a																													1																														0	1	2	1
8			チョウセンサザエ	Ⅰ·3·a		1									1											1							3	1											5	3			1	1															9	28	27	37
9			チョウセンサザエの蓋	Ⅰ·3·a			1							1									1						1			2	1					1						4		2																	1		48	6	15	54
10			コシタカサザエ	Ⅰ·2·a																																																			1								0	1	0	1
11			カンギク	Ⅱ·1·b		3																																							1			1								2									12	18	5	30
12			オオウラウズガイ	Ⅰ·2·a																																																											0	2	4	2
13		アマオブネガイ科	イシダダタミアマオブネ	Ⅰ·0·a																																																		1									1	0	0	1
14			マルアマオブネ	Ⅱ·1·b																																																											1	1	0	2
15		ヤマタニシ科	オキナワヤマタニシ	Ⅴ·8																																								1																			3	3	1	6
16		タニシ科	マルタニシ	Ⅳ·5·c																																																						1			1		0	2	0	2
17		トウガタカワニナ科	トウガタカワニナ	Ⅳ·5																																			1				1																				1	2	0	3
18			ヌノメカワニナ	Ⅳ·c																			1																						1															1			14	4	9	18
19		カワニナ科	カワニナ	Ⅳ·5.6																			1																																								17	15	100	32
20			カワニナ科不明																																																													0	0	2	1
21		オニノツノガイ科	オニノツノガイ	Ⅰ·2·c			1						1											1	1									3						1			1		2	3																		1	6	40	94	46
22			カヤノミカニモリ	Ⅰ·0																																																													1	0	0	1
23			クワノミカニモリ	Ⅰ·1·a		1																																		1						1														1	1				5	7	18	12
24		ゴマフニナ科	ゴマフニナ	Ⅰ·1																																						1																					1	0	1	1
25		ウミニナ科	リュウキュウウミニナ	Ⅱ·1																																									1											1								0	4	6	4
26		フトヘナタリ科	イトカケヘナタリ																																																														0	0	1	1
27		ソデボラ科	オハグロガイ	Ⅱ·2·c		1																			1																			1																			0	4	4	4
28			ネジマガキ	Ⅰ·2·c			1						1						1																						1	1			1																	1		2	37	13	39
29			マガキガイ	Ⅰ·2·c	2	5	12					15	2		5	1					1		1	8	2		4			3		1	27	11			1		9	1	1	2		1	72			3						1		1	2	1		2			5	2	123	1449	250	1572
30			イボソデガイ	Ⅰ·2·c																																																													0	0	2	1
31			クモガイ	Ⅰ·2·c			4															2		1	1								2	8									1			6															1				0	33	114	33
32			ソデボラ科不明																																																														0	0	1	1
33		タカラガイ科	ヤクシマダカラ	Ⅰ·2·a			1																																																									0	0	1	1
34			ホシダカラ	Ⅰ·2·c																																																													0	1	1	1
35			ヒメホシダカラ	Ⅰ·2·a																																																													0	1	0	1
36			ホシキヌタ	Ⅰ·2·a																																																													0	0	1	1
37			ハナビラダカラ	Ⅰ·1·a																																				1					1																				3	8	12	11
38			キイロダカラ	Ⅰ·1·a																																																													0	1	0	1
39			ハナマルユキ	Ⅰ·3·a		1																																								1	1			1															5	15	8	20
40			タカラガイ科不明																																												1													1						1	0	1	14	1
41		タマガイ科	トミガイ	Ⅰ·2·c																																									2																				0	2	0	2
42			タマガイ科不明																																																														0	1	0	1
43		オキニシ科	オキニシ	Ⅰ·3·a																																																											4	3	8	7
44		フジツガイ科	ミツカドボラ	Ⅰ·2·a						1															1																					1																			1	1	12	2
45		アッキガイ科	ガンゼキボラ	Ⅰ·4·a																																						1																					3	38	7	41
46			ウネレイシダマシ	Ⅰ·1·b																																																												0	1	0	1
47			ムラサキイガレイシ	Ⅰ·3·a																																																												0	1	1	1
48			アカイガレイシ	Ⅰ·3·a																1					1																			1																			6	2	1	8
49			シラクモガイ	Ⅰ·3·a									1																																																		2	1	2	3
50			ツノテツレイシ	Ⅰ·1·a																																																													3	0	0	3
51			ツノレイシ	Ⅰ·3·a																																																													0	1	0	1
52			アッキガイ科不明																																																														0	2	0	2
53		オニコブシガイ科	コオニコブシ	Ⅰ·3·a	1	2						1																						1				1						1	5	6																			27	36	26	63
54		エゾバイ科	シマベッコウバイ	Ⅱ·1·c			1																																																										0	1	1	1
55		イトマキボラ科	イトマキボラ	Ⅰ·2·a																				1																						2																			1	3	12	4
56			チトセボラ	Ⅰ·2·c																																																													0	0	1	1
57			イトマキボラ科の一種																																																														0	1	0	1
58		フデガイ科	チョウセンフデガイ	Ⅰ·2·c																																																												0	0	2	1
59		イモガイ科	アンボンクロザメ	Ⅰ·2·c																													1														1																		0	1	2	1
60			クロフモドキ	Ⅰ·2·c																																																													0	2	6	2
61			クロザメモドキ	Ⅰ·2·c																																									1																				2	0	1	2
62			マダライモ	Ⅰ·1·a																																																												1	0	0	2	1
63			コマダライモ	Ⅰ·2																																																													2	0	0	2
64			サヤガタイモ	Ⅰ·1·a		1																											1																																1	3	2	4
65			ジュズカケサヤガタイモ	Ⅰ·1·a																																																													0	0	1	1
66			ゴマフイモ	Ⅰ·2·c																																																													0	1	0	1
67			アカシマミナシ																																							1																							0	2	0	2
68			サラサミナシモドキ	Ⅰ·2·a																																																													0	1	0	1
69			ヤキイモ	Ⅰ·2·c		1	1																																																										2	2	1	4
70			ヤナギシボリイモ	Ⅰ·2·a																																																													0	3	1	3
71			イボカバイモ	Ⅰ·2·c																																																														0	1	0	1
72			イボシマイモ	Ⅰ·2·a		1	2																																																	1								4	7	3	11
73			イモガイ科の一種				1																																																									0	1	2	1
74			イモガイ科不明				1																	1									3	3			1								7	4			2												1				3	51	72	54
75		ナツメガイ科	ナツメガイ	Ⅰ·2·c																																																						1							0	1	1	1
76		モノアラガイ科	タイワンモノアラガイ																																																				1										1	2	0	3
77		ナンバンマイマイ科	シュリマイマイ	Ⅴ·8																																						3		3																	1					4	1	6	5
78		オナジマイマイ科	バンダナマイマイ	Ⅴ·8																																						1	1																1	1							3	8	3	11
79			オキナワウスカワマイマイ	Ⅴ·9																																														1																	0	4	10	4
80		巻貝不明					1																																										1													1						1	0	18	1
		合	計		3	19	29	0	0	1	0	17	5	1	6	1	0	0	1	0	2	2	4	12	6	2	4	0	1	3	0	4	44	32	0	0	2	2	10	3	7	5	7	8	103	38	1	4	6	1	0	0	0	1	0	5	7	6	0	5	3	1	8	6	326	1901	976	2239

第41表　貝類出土状況　（二枚貝）

番号	綱名	科名	貝種名	生息地	合計 完形L	合計 完形R	合計 殻頂L	合計 殻頂R	合計 破片	個体数
1	二枚貝綱	フネガイ科	エガイ	Ⅰ-1-a	0	1	1	1	3	2
2			ベニエガイ	Ⅰ-2-a	1	1	1	1	2	2
3			リュウキュウサルボウ	Ⅱ-2-c	14	21	9	9	109	30
4		ウグイスガイ科	ミドリアオリ	Ⅰ-1-a	3	1	6	5	3	9
5			ウグイスガイ科の一種		0	0	1	0	0	1
6		ウミギク科	メンガイ	Ⅰ-2-a	2	5	6	9	12	14
7		イタボガキ科	カキの一種		0	1	0	0	1	1
8		ツキガイ科	カブラツキガイ	Ⅱ-2-c	0	1	0	0	0	1
9		トマヤガイ科	クロフトマヤガイ	Ⅰ-2-a	0	1	0	0	0	1
10		キクザルガイ科	キクザルガイ		0	0	0	0	1	1
11			カネツケキクザル	Ⅰ-1-a	1	0	0	0	1	1
12			シロキクザル	Ⅰ-2-a	1	1	0	0	1	1
13		ザルガイ科	リュウキュウザル	Ⅱ-2-c	0	1	1	0	8	1
14			カワラガイ	Ⅱ-2-c	1	2	7	13	22	15
15		シャコガイ科	シャゴウガイ	Ⅰ-2-c	0	0	0	0	4	1
16			ヒメシャコガイ	Ⅰ-2-a	4	5	6	3	47	10
17			ヒレシャコガイ	Ⅰ-2-c	0	0	8	2	71	8
18			シラナミガイ	Ⅰ-2-a	1	2	0	0	1	2
19			シャコガイ科の一種		0	0	0	0	2	1
20			シャコガイ科不明		0	0	0	0	14	1
21		チドリマスオ科	イソハマグリ	Ⅰ-1-c	0	3	2	5	0	8
22		ニッコウガイ科	リュウキュウシラトリ	Ⅱ-1-c	0	1	4	4	11	5
23		シオサザナミ科	マスオガイ	Ⅱ-1-c	0	0	3	1	1	3
24			リュウキュウマスオ	Ⅱ-1-c	1	0	0	0	8	1
25		フナガタガイ科	フナガタガイ		0	0	1	0	0	1
26		シジミ科	シレナシジミ	Ⅲ-0-c	0	0	0	1	4	1
27		マルスダレガイ科	アラヌノメガイ	Ⅰ-2-c	2	2	0	2	35	4
28			ヌノメガイ	Ⅱ-1-c	8	15	38	31	178	46
29			アラスジケマンガイ	Ⅲ-1-c	8	10	18	23	17	33
30			ホソスジイナミガイ	Ⅱ-1-c	0	0	11	9	2	11
31			イオウハマグリ	Ⅱ-1-c	0	0	0	2	0	2
32			オイノカガミ	Ⅱ-1-c	0	0	3	3	0	3
33			スダレハマグリ	Ⅱ-1-c	0	0	2	1	1	2
34			ハマグリ	Ⅱ-1-c	0	0	0	0	1	1
35			マルスダレガイ科の一種		0	0	1	2	0	2
36		二枚貝不明			0	0	3	4	21	4
	合計				47	74	132	131	581	230

Ⅰ地区（1）

番号	貝種名	1層 完形L	1層 完形R	1層 殻頂L	1層 殻頂R	1層 破片	2層直上 完形L	2層直上 完形R	2層直上 殻頂L	2層直上 殻頂R	2層直上 破片	2層 完形L	2層 完形R	2層 殻頂L	2層 殻頂R	2層 破片	3層直上 完形L	3層直上 完形R	3層直上 殻頂L	3層直上 殻頂R	3層直上 破片	3層 完形L	3層 完形R	3層 殻頂L	3層 殻頂R	3層 破片
1	エガイ																						1			
2	ベニエガイ																									
3	リュウキュウサルボウ					2							1	1	1	6						5	1	1	2	11
4	ミドリアオリ																					1				
5	ウグイスガイ科の一種																									
6	メンガイ				1									1		1								1	1	2
7	カキの一種																	1								1
8	カブラツキガイ																									
9	クロフトマヤガイ																									
10	キクザルガイ																									
11	カネツケキクザル																									1
12	シロキクザル																									
13	リュウキュウザル					1																				
14	カワラガイ				1											1						1		1	3	5
15	シャゴウガイ																									1
16	ヒメシャコガイ													2		6						1	1			8
17	ヒレシャコガイ					1								1		9								3		8
18	シラナミガイ																					1	1			1
19	シャコガイ科の一種																									
20	シャコガイ科不明															1										3
21	イソハマグリ																									
22	リュウキュウシラトリ																									
23	マスオガイ																									
24	リュウキュウマスオ															2						1				2
25	フナガタガイ																									
26	シレナシジミ														1											1
27	アラヌノメガイ															1							1		1	12
28	ヌノメガイ					2							1	3	1	13			1			1		5	5	22
29	アラスジケマンガイ			1												1						2	1	2	3	
30	ホソスジイナミガイ									1														1		
31	イオウハマグリ																									
32	オイノカガミ				1																					
33	スダレハマグリ													1										1		1
34	ハマグリ					1																				
35	マルスダレガイ科の一種																									
36	二枚貝不明															2								1	1	
	合計	0	0	1	3	7	0	0	0	1	0	0	2	9	3	43	0	1	1	0	0	13	6	16	16	79

Ⅰ地区（2）

番号	貝種名	5層 完形L	5層 完形R	5層 殻頂L	5層 殻頂R	5層 破片	7層直上 完形L	7層直上 完形R	7層直上 殻頂L	7層直上 殻頂R	7層直上 破片	7層 完形L	7層 完形R	7層 殻頂L	7層 殻頂R	7層 破片	8層直上 完形L	8層直上 完形R	8層直上 殻頂L	8層直上 殻頂R	8層直上 破片
1	エガイ																				
2	ベニエガイ																				
3	リュウキュウサルボウ									1	5	5	5	2		15	2	3		2	4
4	ミドリアオリ																				
5	ウグイスガイ科の一種													1							
6	メンガイ									2	1					1					
7	カキの一種																				
8	カブラツキガイ																				
9	クロフトマヤガイ																				
10	キクザルガイ																				
11	カネツケキクザル																				
12	シロキクザル																				
13	リュウキュウザル										1										
14	カワラガイ								2	2				1	4	4			1		3
15	シャゴウガイ															2					
16	ヒメシャコガイ										2					1		1		1	3
17	ヒレシャコガイ										3			1		3					
18	シラナミガイ																				
19	シャコガイ科の一種																				
20	シャコガイ科不明										1					1					
21	イソハマグリ													2	2						
22	リュウキュウシラトリ																				
23	マスオガイ																				
24	リュウキュウマスオ															2					
25	フナガタガイ																				
26	シレナシジミ										1					1					1
27	アラヌノメガイ										2					2	1				11
28	ヌノメガイ			1					1	1	4	2	6	1	4	7			1	1	8
29	アラスジケマンガイ							1	1			4	1		1	3					
30	ホソスジイナミガイ															1					
31	イオウハマグリ																				
32	オイノカガミ														1						
33	スダレハマグリ									1											
34	ハマグリ																				
35	マルスダレガイ科の一種																				
36	二枚貝不明														2	4					
	合計	0	0	1	0	0	0	1	4	7	20	11	12	8	14	47	3	4	2	4	30

Ⅰ地区（3）

番号	貝種名	8層 完形L	8層 完形R	8層 殻頂L	8層 殻頂R	8層 破片	10層直上 完形L	10層直上 完形R	10層直上 殻頂L	10層直上 殻頂R	10層直上 破片	13層 完形L	13層 完形R	13層 殻頂L	13層 殻頂R	13層 破片	15層直上 完形L	15層直上 完形R	15層直上 殻頂L	15層直上 殻頂R	15層直上 破片	不明 完形L	不明 完形R	不明 殻頂L	不明 殻頂R	不明 破片
1	エガイ																									
2	ベニエガイ																									
3	リュウキュウサルボウ			1	1	4		1			3							1								1
4	ミドリアオリ																									
5	ウグイスガイ科の一種																									
6	メンガイ		1							1																
7	カキの一種																									
8	カブラツキガイ																									
9	クロフトマヤガイ																									
10	キクザルガイ																									
11	カネツケキクザル																									
12	シロキクザル																									
13	リュウキュウザル		1											1		1										
14	カワラガイ				2	4		1	1		1															
15	シャゴウガイ																									
16	ヒメシャコガイ	1	2			7					1															
17	ヒレシャコガイ					4					2															1
18	シラナミガイ																									
19	シャコガイ科の一種															1										
20	シャコガイ科不明					2										1										
21	イソハマグリ				1																					
22	リュウキュウシラトリ																									
23	マスオガイ																									
24	リュウキュウマスオ										1															
25	フナガタガイ																									
26	シレナシジミ																									
27	アラヌノメガイ					2																				
28	ヌノメガイ					11					2			1	1									1	2	
29	アラスジケマンガイ		1	2																						
30	ホソスジイナミガイ				2																					
31	イオウハマグリ				2																					
32	オイノカガミ			2																						
33	スダレハマグリ																									
34	ハマグリ																									
35	マルスダレガイ科の一種				1																					
36	二枚貝不明					1																		1		
	合計	1	5	5	9	35	0	2	1	1	10	0	0	2	1	3	0	1	0	0	0	0	0	2	2	2

Ⅱ地区（1）

番号	貝種名	1層 完形L	1層 完形R	1層 殻頂L	1層 殻頂R	1層 破片	2層 完形L	2層 完形R	2層 殻頂L	2層 殻頂R	2層 破片	3層 完形L	3層 完形R	3層 殻頂L	3層 殻頂R	3層 破片	6層 完形L	6層 完形R	6層 殻頂L	6層 殻頂R	6層 破片
1	エガイ														1				1		2
2	ベニエガイ				1																
3	リュウキュウサルボウ	1	2			5					2		1		1	10		1			19
4	ミドリアオリ	1			1														3	4	2
5	ウグイスガイ科の一種																				
6	メンガイ	1										1	1								1
7	カキの一種																				
8	カブラツキガイ																				
9	クロフトマヤガイ																	1			
10	キクザルガイ																				
11	カネツケキクザル																				
12	シロキクザル																	1			
13	リュウキュウザル															3					
14	カワラガイ		1			3										1					
15	シャゴウガイ																				
16	ヒメシャコガイ	1		1	1	4					1			1		4			1	1	2
17	ヒレシャコガイ					5					4					4					2
18	シラナミガイ																				
19	シャコガイ科の一種																				
20	シャコガイ科不明																				
21	イソハマグリ																				
22	リュウキュウシラトリ				1									1		1				1	2
23	マスオガイ								1					2	1	1					
24	リュウキュウマスオ					1															
25	フナガタガイ			1																	
26	シレナシジミ																				
27	アラヌノメガイ					2					1	1	1		1						
28	ヌノメガイ	1	2	7	3	31			1	2	5	2	1	2	2	6		1	2	1	15
29	アラスジケマンガイ	1		1	3	2				1			2	1	1	2	1			5	2
30	ホソスジイナミガイ			2	1									3						2	
31	イオウハマグリ																				
32	オイノカガミ				1																
33	スダレハマグリ																				
34	ハマグリ																				
35	マルスダレガイ科の一種													1							
36	二枚貝不明					7				1											3
	合計	6	5	12	12	60	0	0	2	4	13	4	6	11	7	32	1	4	7	14	50

Ⅱ地区（2）

番号	貝種名	7層直上 完形L	7層直上 完形R	7層直上 殻頂L	7層直上 殻頂R	7層直上 破片	7層 完形L	7層 完形R	7層 殻頂L	7層 殻頂R	7層 破片	8層 完形L	8層 完形R	8層 殻頂L	8層 殻頂R	8層 破片	9層 完形L	9層 完形R	9層 殻頂L	9層 殻頂R	9層 破片	12層直上 完形L	12層直上 完形R	12層直上 殻頂L	12層直上 殻頂R	12層直上 破片	12層 完形L	12層 完形R	12層 殻頂L	12層 殻頂R	12層 破片
1	エガイ										1																				
2	ベニエガイ	1	1	1		2																									
3	リュウキュウサルボウ	1	2								3																				1
4	ミドリアオリ	1	1	1		1			2																						
5	ウグイスガイ科の一種																														
6	メンガイ		2		1	1			2																						
7	カキの一種																														
8	カブラツキガイ																														
9	クロフトマヤガイ																														
10	キクザルガイ																														
11	カネツケキクザル																														
12	シロキクザル																														
13	リュウキュウザル																														
14	カワラガイ																														
15	シャゴウガイ																														
16	ヒメシャコガイ										1																				
17	ヒレシャコガイ					1					4																				1
18	シラナミガイ																														
19	シャコガイ科の一種																														
20	シャコガイ科不明																														
21	イソハマグリ																														
22	リュウキュウシラトリ			1		3									1																
23	マスオガイ																														
24	リュウキュウマスオ																														
25	フナガタガイ																														
26	シレナシジミ																														
27	アラヌノメガイ										1																				
28	ヌノメガイ	1	1	4	3	11		1			2																				
29	アラスジケマンガイ		1	4	3	3			1		1					1															
30	ホソスジイナミガイ								2																				1		
31	イオウハマグリ																														
32	オイノカガミ																														
33	スダレハマグリ																														
34	ハマグリ																														
35	マルスダレガイ科の一種																														
36	二枚貝不明																														
	合計	4	8	11	7	22	0	1	7	0	13	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2

Ⅱ地区（3）

番号	貝種名	16層 完形L	16層 完形R	16層 殻頂L	16層 殻頂R	16層 破片	18層 完形L	18層 完形R	18層 殻頂L	18層 殻頂R	18層 破片	19層直上 完形L	19層直上 完形R	19層直上 殻頂L	19層直上 殻頂R	19層直上 破片	19層 完形L	19層 完形R	19層 殻頂L	19層 殻頂R	19層 破片	21層直上 完形L	21層直上 完形R	21層直上 殻頂L	21層直上 殻頂R	21層直上 破片	21層Pit271 完形L	21層Pit271 完形R	21層Pit271 殻頂L	21層Pit271 殻頂R	21層Pit271 破片
1	エガイ																														
2	ベニエガイ																														
3	リュウキュウサルボウ							1			2															1					
4	ミドリアオリ																														
5	ウグイスガイ科の一種																														
6	メンガイ																									1					
7	カキの一種																														
8	カブラツキガイ																														
9	クロフトマヤガイ																														
10	キクザルガイ																														
11	カネツケキクザル																														
12	シロキクザル						1																								
13	リュウキュウザル																														
14	カワラガイ																														
15	シャゴウガイ																														
16	ヒメシャコガイ			1																						1					
17	ヒレシャコガイ										1																			1	
18	シラナミガイ																														
19	シャコガイ科の一種																				1										
20	シャコガイ科不明										1																				
21	イソハマグリ																														
22	リュウキュウシラトリ										1																				
23	マスオガイ																														
24	リュウキュウマスオ																														
25	フナガタガイ																														
26	シレナシジミ																														
27	アラヌノメガイ																														
28	ヌノメガイ										3					1									1	1					
29	アラスジケマンガイ							1	1																						
30	ホソスジイナミガイ								1																						
31	イオウハマグリ																														
32	オイノカガミ																														
33	スダレハマグリ																														
34	ハマグリ																														
35	マルスダレガイ科の一種																														
36	二枚貝不明																														
	合計	0	0	1	0	0	1	2	2	0	8	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1	4	0	0	0	1	0

Ⅱ地区（4）

番号	貝種名	溝2－1 完形L	溝2－1 完形R	溝2－1 殻頂L	溝2－1 殻頂R	溝2－1 破片	溝2－4 完形L	溝2－4 完形R	溝2－4 殻頂L	溝2－4 殻頂R	溝2－4 破片	溝3 完形L	溝3 完形R	溝3 殻頂L	溝3 殻頂R	溝3 破片	客土 完形L	客土 完形R	客土 殻頂L	客土 殻頂R	客土 破片	不明 完形L	不明 完形R	不明 殻頂L	不明 殻頂R	不明 破片
1	エガイ																									
2	ベニエガイ																									
3	リュウキュウサルボウ			1							1					1		1					1	2	1	12
4	ミドリアオリ																									
5	ウグイスガイ科の一種																									
6	メンガイ			1	1									1		1									2	2
7	カキの一種																									
8	カブラツキガイ																									
9	クロフトマヤガイ																									
10	キクザルガイ																									1
11	カネツケキクザル																					1				
12	シロキクザル																									1
13	リュウキュウザル																									
14	カワラガイ																									
15	シャゴウガイ					1																				
16	ヒメシャコガイ					1															1	1	1			3
17	ヒレシャコガイ			1	1	13										1			1		1			1		2
18	シラナミガイ		1																							
19	シャコガイ科の一種																									
20	シャコガイ科不明																									
21	イソハマグリ																									
22	リュウキュウシラトリ		1	1	1	4																				
23	マスオガイ																									
24	リュウキュウマスオ																									
25	フナガタガイ																									
26	シレナシジミ																									
27	アラヌノメガイ																									
28	ヌノメガイ					3										4			1				1	4	4	20
29	アラスジケマンガイ			1																			1	1	3	
30	ホソスジイナミガイ																							1		1
31	イオウハマグリ																									
32	オイノカガミ																							1		
33	スダレハマグリ																									
34	ハマグリ																									
35	マルスダレガイ科の一種																								1	
36	二枚貝不明																		1							
	合計	0	2	5	3	22	0	0	0	0	1	0	0	1	0	7	0	1	3	0	2	2	4	10	11	42

Ⅲ地区・出土地不明

番号	貝種名	Ⅲ 1層 完形L	Ⅲ 1層 完形R	Ⅲ 1層 殻頂L	Ⅲ 1層 殻頂R	Ⅲ 1層 破片	Ⅲ 4層 完形L	Ⅲ 4層 完形R	Ⅲ 4層 殻頂L	Ⅲ 4層 殻頂R	Ⅲ 4層 破片	Ⅲ 溝1 完形L	Ⅲ 溝1 完形R	Ⅲ 溝1 殻頂L	Ⅲ 溝1 殻頂R	Ⅲ 溝1 破片	Ⅲ 溝2 完形L	Ⅲ 溝2 完形R	Ⅲ 溝2 殻頂L	Ⅲ 溝2 殻頂R	Ⅲ 溝2 破片	出土地不明 完形L	出土地不明 完形R	出土地不明 殻頂L	出土地不明 殻頂R	出土地不明 破片
1	エガイ																									
2	ベニエガイ																									
3	リュウキュウサルボウ			1																	1					
4	ミドリアオリ																									
5	ウグイスガイ科の一種																									
6	メンガイ												1													1
7	カキの一種																									
8	カブラツキガイ		1																							
9	クロフトマヤガイ																									
10	キクザルガイ																									
11	カネツケキクザル																									
12	シロキクザル																									
13	リュウキュウザル					2																				
14	カワラガイ			1	1																					
15	シャゴウガイ																									
16	ヒメシャコガイ					1																				
17	ヒレシャコガイ																									1
18	シラナミガイ																									
19	シャコガイ科の一種																									
20	シャコガイ科不明					2																				2
21	イソハマグリ		2										1							2						
22	リュウキュウシラトリ																		1							
23	マスオガイ																									
24	リュウキュウマスオ																									
25	フナガタガイ																									
26	シレナシジミ																									
27	アラヌノメガイ																									1
28	ヌノメガイ					1										3						1	1	2		3
29	アラスジケマンガイ		1	1	1									1		1				1	1				1	
30	ホソスジイナミガイ				1										1					1						
31	イオウハマグリ																									
32	オイノカガミ																									
33	スダレハマグリ																									
34	ハマグリ																									
35	マルスダレガイ科の一種																									
36	二枚貝不明															3					1					
	合計	0	4	3	3	6	0	0	0	0	0	0	2	1	1	7	0	0	1	4	3	1	1	2	1	8

注　右殻、左殻のそれぞれの完形と殻頂を合計し多いほうを個体数とした。但し、破片でのみ出土した貝種については、最小個体数「1」とした。番号は図版と一致。

〈貝の生息地の分類〉

区分	分類
外洋～内湾	Ⅰ：外洋・サンゴ礁域
	Ⅱ：内湾・転石地域
	Ⅲ：河口干潟・マングローブ域
	Ⅳ：淡水域
	Ⅴ：陸域
水深	0：潮間帯上部（Ⅰではノッチ、Ⅲではマングローブ）
	1：潮間帯中・下部
	2：亜潮間帯上縁部（Ⅰではイノー）
	3：干潮（Ⅰにのみ適用）
	4：礁斜面およびその下部
	5：止水　6：流水
	7：林内　8：林内・林縁部　9：林縁部
底質	a：岩盤
	b：転石
	c：岩礫底、砂泥底、砂底

第17節　脊椎動物遺体

金子浩昌

1．はじめに

本資料は在沖米軍海兵隊基地キャンプ桑江北側返還に伴うジェット燃料用送油管（パイプライン）移設工事が後兼久原遺跡を通過するために行われた発掘調査である。調査は3m×160mの範囲でおこなわれ、12世紀～15世紀に形成された堆積層、柱穴群、畑跡、溝状遺構などが検出された。グスク期の集落と関わる遺跡と考えられている。

調査区別に検出された動物遺体についてのべておく。

(本文中の計測値単位は特に記されていない限りmmであらわす)

2．検出された脊椎動物遺体種名表

軟骨魚綱　Class Chondrichthyes
　サメ目　Order Lamniformes
　　メジロザメ科　Family Carcharhinidae
　　属・種不明　Gen. et sp. indet
硬骨魚綱　Class Osteichthyes
　スズキ目　Order Perciformes
　　フエフキダイ科　Family Lethrinidae
　　ヨコシマクロダイ　*Monotaxis grandculis*
　　ハマフエフキ　*Lethrinus nebulosus*
　　ブダイ科　Family Scaridae
　　ナンヨウブダイ　*Scarus gibbus*
　　ナガブダイ　*Scarus rubroviolaceus*
　　属・種不明　Gen. et sp. indet
　フグ目　Order Tetraodontiformes
　　フグ科　Family Tetraodoutidae
　　属・種不明　Gen. et sp. indet
　　ハリセンボン科　Family Diodontidae
　　属・種不明　Gen. et sp. indet
鳥綱　Class Aves
　キジ目　Order Galliformes
　　キジ科　Family Phasianidae
　　ニワトリ　*Gallus gallus var.domesticus*

哺乳綱　Class Mammalia
　齧歯目　Order Rodentia
　　ネズミ科　Order Rodentia
　　属・種不明　Gen.et sp.indet
　食肉目　Order Carnivora
　　イヌ科　Family Canidae
　　イヌ　*Canis familiaris*
　　ネコ科　Family Felidae
　　ネコ　*Felis catus*
　寄蹄目　Order Perissodactyla
　　ウマ科　Family Equidae
　　ウマ　*Equus caballus*
　偶蹄目　Order Artiodactyla
　　イノシシ科　Family Suidae
　　リュウキュウイノシシ
　　Sus leucomustax riukiuanus
　　ブタ　*Sus scrofa var.domesticus*
　　ウシ科　Family Bovidae
　　ウシ　*Bos taurus*
　　ヤギ　*Capura hirucus*

3．検出された脊椎動物

Ⅰ地区

全体でごく僅かな骨があったのみである。

魚類

ブダイ科

前上顎骨1。顎骨咬面全長25.0を計測、大形のブダイであったはずである。

ハリセンボン科

顎骨5点が出土している。口蓋部を残すのみの破片であるが、残された口蓋面の幅30.0前後であった。これも大きな顎骨になる。

フグ科

歯骨1点があったのみである。

哺乳類

ウマ
第４前臼歯を残す下顎骨片と中手骨片、中節骨片があった。
ブタ
遺骸の検出は少なかった。椎体片1、上腕骨、橈骨、脛骨、大腿骨片があった。骨端を割られ、解体した様子がみられた。
ウシ
遊離歯と四肢骨片と共にもっとも多くの遺骸を検出した。しかし各層で同部位が複数出土することはほとんどなかったので、全体的な個体数は特に多くはないと思われる。
完存していた基節骨、中節骨全長からすると、日本の在来和牛種といわれる中での中形の見島牛に一致するサイズであった。

Ⅱ地区
魚類
骨格は比較的多く検出されたが、標本としては保存状況はよくなく、また椎骨をまとまって検出しているが、種を特定できるものはなかった。椎骨からの同定の難しさはどこでも同じのようである。
ヨコシマクロダイ
前上顎骨1点があった。
ハマフエフキ
歯骨全長は50.0前後に達する。
ナンヨウブダイ
上咽頭骨は破片であるが、歯の部分の幅が7.0になるので、大形の咽頭骨になる。下咽頭骨も歯部幅が20.0に達する。
哺乳類
ネコ
破損した上腕骨1点があったのみである。
イヌ
犬歯と上腕骨各1点があったのみである。
ウマ
肩甲骨頸部幅52.0はトカラ馬、中足骨全長325.0はトカラ馬、脛骨遠位骨端幅78.8は中形の木曽馬のサイズである。脛骨は南島ではほとんど見ることのない出土例である。検出が客土中とあるので、さらに後世の混入物であるかも知れない。
ブタ
ウシに次ぐ検出であったが、破壊された標本が多く、形質について判明するところは少なかった。唯一形を保った脛骨についてみても、イノシシと比べて全体に大きくなっていることがわかる。他の四肢骨についても同様のことがいえる。
ウシ
ウシの遺骸の出土が多かった。ほぼ、全身の骨格が出土しており、食用のために搬入されたことが考えられる。角部分が無いのは、別に切断されているのであろう。最小個体数と考えられるのは、中手骨右5であった。肩甲骨2点があり、肩甲頚幅57.5、46.0である、脛骨の遠位骨端幅68.0を計測するが、日本の在来牛で見島牛として知られる中形の在来牛に匹敵する。中足骨近位骨端例では骨端幅68.0があり、やや大きいので雄の可能性もある。遺跡出土のウシとしてはやや大きいサイズの個体を含む。雌雄の個体、成、若、幼体があったが、偏りを認めるほどの標本数はない。
ヤギ
上顎臼歯1点

Ⅲ地区
ウシ

寛骨臼部1
動物遺体の全体の出土量は少なかった。

4．総　括

広い面積と種々の遺構が検出された調査区であったが、動物遺体の出土は特に多いものではなかった。これはここでの生活期間の長さに関わることかもしれない。これについては堆積層全体の規模からの検討も必要になるのではなかろうか。動物遺体の基本的な種類については知ることができた。

Ⅰ地区

魚類；魚骨の検出は特に少なく、ブダイ類とハリセンボン、フグ類に限られたことは、堆積層の形成がやや古い段階にあったかも知れない。時期的に新しくなると、ハマフエフキなどがより一般的であるからである。大形のフグ類の出土例は稀である。少ない魚骨中に含まれていたこと自体もめずらしい。ハリセンボンに特に意識のあったことも推測される。

獣類；ウマ、ブタ、ウシの検出があったが、ブタがもっとも多く、ほぼこの時期の獣骨の在り方に一致する。ウシがもっとも多くなったのは、中手骨、中足骨が検出されて骨の数が増えたからであるが、この部分は肉を採るというよりも、骨髄の利用の方が主ではなかったと思われる。ウシでは基節、中節骨までが出土し、指部までも利用されていた。ウシは上顎、下顎の臼歯があり、頭部も運ばれてきている。当然ここから可食部分が利用されたはずである。

Ⅱ地区

この地区の動物遺体の出土は、Ⅰ地区に比べてはるかに多かった。

魚類；ヨコシマクロダイ、ハマフエフキ、ブダイ類各種、ハリセンボン類があり、この他にも種名が確定できない魚種があった。この時期のもっとも一般的な種である。また標本が少ないので、主体種を確認できなかったが、ブダイ類がより多く利用されていることは推測できる。

獣類；やや多くの獣骨を出土しており、種類もネコ、イヌ、ウマ、ブタ、ウシ、ヤギがあり、北地区に比べて多かったが、ネコ、イヌ、ヤギは各数点で、ブタ、ウシが多く、特にウシがもっとも多く出土していることは特徴的で、一般にはブタの多いグスク期の遺跡の動物遺体とは異なっている。グスク期のなかでも時期的に新しくなることも考えられる。

ブタはウシに次ぐ数が出土していた。現生のリュウキュウイノシシと比べて大きく、大陸からの搬入された飼育種であることは明らかである。

ヤギの遺骸が臼歯1点のみであり、しかも1層の検出という。ヤギを食べる風の一般化しない以前なのであろう。

Ⅲ地区

動物遺体全体の出土量は少なかった。

〈文献〉

西中川　駿　『古代遺跡出土骨からみたわが国の牛、馬の起源、系統に関する研究－とくに日本在来種との比較－』　昭和63年度文部省科学研究所　1989

第42表　魚骨出土一覧（Ⅰ地区）

種目			部位	右/左	地区		個数
スズキ目	ブダイ科	ブダイ科の一種	前上顎骨	右	3層	C－14	1
フグ目	フグ科	フグ科の一種	歯骨	右	13層	C－10	1
	ハリセンボン科	ハリセンボン科の一種	歯		2層	C－10	(2)
					3層	C－12	(1)
					7層	C－12	(1)
					8層	C－13	(1)
種目不明			第2腎鰭棘	－	14層Pit65	C－10	1

注（ ）：破片

第43表　ウマ出土一覧（Ⅰ地区）

部位		右/左	出土地		個数
下顎骨	P_4	左	2層	C－6	1
中手骨		不明	7層	C－13	1
中節骨		不明	4層	C－17	1

第44表　ブタ出土一覧（Ⅰ地区）

部位		右/左	出土地		個数
椎体		－	不明	不明	1
上腕骨	遠位部	右	3層	C－12	1
	遠位骨端のみ	左	3層	C－13	1
橈骨	近位部	右	3層	C－12	1
脛骨	近位骨端のみ	右	5層	C－17	1
	破片	左	7層直上	C－10	(1)
大腿骨	遠位端	左	7層	C－13	(1)

注（ ）：破片

第45表　ウシ歯出土一覧（Ⅰ地区）

部位		右/左	出土地		個数
上顎骨	P^2	右	3層	C－12	1
	P^3	右	3層	C－13	1
	M^1	右	3層	C－13	1
	M^2	右	3層	C－15	2
				C－16	1
	M^3	左	3層	C－14	1
			1層	C－10	1
下顎骨	P_3	左	3層	C－13	1
	M_1	左	3層	C－10	1
	M_2	右	3層	C－16	1
	M_3	右	3層直上	C－9	1
		左	2層	C－10	1
不明			2層	C－9	(1)
				C－13	(1)
				C－16	(5)
			3層	C－11	(2)
				C－12	(2)
				C－13	(1)
				C－14	(1)
				C－15	(3)
			11層	C－17	(1)
			客土	C－26	(1)

注（ ）：破片

第46表　ウシ出土一覧（Ⅰ地区）

部位		右/左	出土地		個数
上腕骨		右	客土	不明	(1)
手根骨	尺側	右	7層直上	C－10	1
第4手根骨		右	溝2	C－10	1
中手・中足骨		不明	3層	C－14	(1)
				C－15	(1)
大腿骨	骨頭のみ	不明	4層	C－17	1
脛骨	骨体	左	4層	C－17	1
	遠位部	右	3層	C－13	1
中足骨		右	2層	C－11	(1)
			3層	C－15	(1)
基節骨		左	溝2	C－10	1
中節骨		右	3層	C－13	1
			8層直上	C－10	1
		左	8層直上	C－11	1

注（ ）：破片

第47表　メジロザメ出土一覧（Ⅱ地区）

部位	出土地		個数
脊椎骨	21層Pit311	C－30	1

第48表　魚骨出土一覧（Ⅱ地区）

種目			部位	右/左	出土地		個数
スズキ目	フエフキダイ科	ヨコシマクロダイ	前上顎骨	右	21層Pit233	C－29	1
		ハマフエフキ	歯骨	左	21層Pit240	C－29	1
				右	層序不明	C－29	1
			角骨	左	21層Pit240	C－29	1
	ブダイ科	ナンヨウブダイ	上咽頭骨	右	21層Pit240	C－29	1
		ナガブダイ	上咽頭骨	左	21層Pit240	C－29	1
			下咽頭骨	－	21層Pit271	C－29	1
		ブダイ科の一種	前上顎骨	右	8層	C－30	1
				右	21層Pit271	C－29	1
			歯骨	右	21層Pit367	C－31	1
			後頭部	－	溝3	C－35	1
フグ目	ハリセンボン科	ハリセンボン科の一種	歯	不明	1層	C－38	(1)
					層序不明	ｸﾞﾘｯﾄﾞ不明	(1)
			上顎骨	－	18層	C－30	1
				－	18層Pit110	C－35	1
種目不明			方骨	－	21層Pit271	C－29	1
			脊椎骨	－	8層	C－28	1
				－	8層	C－29	1
				－	8層	C－30	1
				－	21層直上	C－29	4
				－	21層Pit3	C－31	1
				－	21層Pit233	C－29	10
				－	21層Pit240	C－29	1
				－	21層Pit271	C－29	3
				－	21層Pit281	C－30	1
				－	21層Pit306	C－30	1
				－	21層Pit353	C－30	1
				－	21層Pit420	C－31	1
				－	溝3	C－35	1
				－	層序不明	C－29	1
			尾椎	－	21層Pit271	C－29	1

注（ ）：破片

第49表　トリ出土一覧（Ⅱ地区）

部位		右/左	出土地		個数
脛骨	近位部	左	10層	C−42	1
	骨体	左	10層	C−42	1

第50表　ネズミ出土一覧（Ⅱ地区）

部位		右/左	出土地		個数
上腕骨	遠位部	右	21層Pit233	C−29	1
大腿骨	近位部	左	21層Pit233	C−29	1

第54表　ブタ出土一覧（Ⅱ地区）

部位		右/左	出土地		個数
頭蓋骨		−	7層直上	C−30	(2)
下顎骨		左	層序不明	ｸﾞﾘｯﾄ不明	(1)
椎体	椎体	−	溝2-1	C−32・33	1
	胸椎	−	溝2-1	C−32・33	1
	棘突起	−	6層	C−33	1
肋骨		左	18層Pit125	C−35	1
			溝3	C−35	1
		不明	18層Pit125	C−35	(1)
			層序不明	C−29	(1)
肩甲骨	近位部〜遠位部	左	溝3	C−34	1
	骨体	左	溝3	C−35	1
	近位部	右	3層	C−44	1
上腕骨	骨体	左	1層	C−37	1
			2層	C−38	1
			3層	C−44	1
橈骨	近位端	左	3層	C−43	1
	近位部〜骨体	左	3層	C−42	1
寛骨	腸骨部	右	溝2-2	ｸﾞﾘｯﾄ不明	1
大腿骨	遠位端	−	溝2-1	C−32・33	(1)
脛骨	近位骨端はずれ〜遠位部	左	18層	C−36・37	1
	骨体	右	3層	C−44	1
	遠位部	右	3層	C−42・43	1
踵骨		左	6層	C−33	1
基節骨		右	18層	C−36	1

注　（　）：破片

第53表　ウマ出土一覧（Ⅱ地区）

単位：mm

部位		右/左	計測部位	計測値	出土地		個数
上顎骨	$I^{1,2,3}$ $I^{1,2}$	右 左	−	−	溝2-1	C−32・33	1
	P^2	右	全歯高	42.9	5層	C−32	1
	P^3			±61.7	3層	C−40	1
	P^4?			57.8	溝2-1	C−32・33	1
	M^2?			±64.1	溝2-1	C−32・33	1
	M^3			59.0	溝2-1	C−32・33	1
	I^2	左	−	−	6層	C−34	1
	$P^{3 or 4}$		−	−	7層直上	C−32	1
	$P^{3 or 4}$		全歯高	57.9	12層	C−39	1
	M^1			54.1	7層直上	C−32	1
	M^2			64.7	7層直上	C−32	1
	M^3			±51.0	溝2-1	C−32・33	1
	M^3			±54.1	溝2-1	C−32・33	①
肩甲骨	近位部〜遠位部	右	SLE	55.6	7層直上	C−32	1
脛骨	近位部〜遠位部	右	Bd	78.8	客土	グリット不明	1
中足骨	完存	左	GL	231	溝2-1	C−32・33	1
			Bp	38.7			
			Bd	38.8			

注　○：キズあり

第51表　イヌ出土一覧（Ⅱ地区）

部位			出土地		個数
上顎骨	犬歯	右	溝2-1	C−32・33	1
上腕骨	近位部〜遠位端	左	溝3	C−36	1

第52表　ネコ出土一覧（Ⅱ地区）

部位		右/左	出土地		個数
上腕骨	骨体	右	1層	C−43	1

第55表　ヤギ出土一覧（Ⅱ地区）

部位		右/左	出土地		数量
上顎骨	P^2	左	1層	C−43	1

第56表　イノシシ出土一覧（Ⅱ地区）

部位		右/左	出土地		個数
上腕骨	骨体	左	2層	C−38	1
寛骨	坐骨部	右	2層	C−38	1

第57表　イノシシ・ブタ出土一覧（Ⅱ地区）

部位		右/左	出土地		個数
肩甲骨	近位端	右	溝3	C−35	1

第60表　ウシ・ウマ出土一覧（Ⅱ地区）

部位	右/左	出土地		個数
椎体	−	3層	C−44	2
	−	21層Pit271	C−29	1
	−	溝2-1	C−32・33	1
肋骨	不明	6層	C−33	(1)
	不明	7層	C−32	(1)

注　（　）：破片

第58表　ウシ歯出土一覧（Ⅱ地区）

部位		右/左	出土地		個数
上顎骨	$P^{2,3,4}$ $M^{1,2,3}$	右	溝3	C−35	1
	P^2		溝2-1	C−32・33	1
	P^3		溝2-2	ｸﾞﾘｯﾄ不明	1
	P^4		5層	C−31	1
	M^1		5層	C−31	1
			溝2-1	C−32・33	1
	dm^3	左	5層	C−32	1
	M^1	左	7層直上	C−31	1
		左	7層	C−32	1
	M^2	左	7層直上	C−31	1
	M^3	左	溝2-1	C−32・33	1
下顎骨	P_2	右	6層	C−33	1
	M_2	右	溝3Pit146	C−37	1
	M_2	左	溝2-1	C−32・33	1
不明			1層	C−33	(1)
			7層	C−32	(1)
			21層直上	C−35	(1)
			溝2-1	C−32・33	(1)

注　（　）：破片

第59表　ウシ出土状況（Ⅱ地区）

部位 ＼ 出土地				1層		2層	3層			5層	7層直上	7層	10層	18層	18層 P112	21層直上			21層 P271	P302	P321	溝2・1	溝2-2	溝3			層序不明		合計
				C-34	C-42	C-44	C-38	C-42	C-44	C-45	C-32	C-32	C-32	C-45	C-35	C-35	C-34	C-39	C-40	C-29	C-30	C-30	C-32・33	ｸﾞﾘｯﾄ不明	C-35	C-36	C-37	C-29	C-36	
頭骨	側頭骨		左					1																			1			2
	側頭骨	鼓室部	右																								1			1
			左						1																		1			2
	頬骨側頭突起		右																							1				1
			左																						1					1
	後頭顆		右																								1			1
			左																								1			1
下顎骨	切歯骨		左	1																										1
	関節突起		左																			1								1
	破片		右																					(①)						1
椎体	頸椎		－																				1							1
	胸椎		－																				1		1					2
	椎体		－																	①		1								2
	椎体	椎窩	－																				1							1
	横突起		－																	1								1		2
	仙骨		－																					2						2
肋骨			右								1												1							2
			左																										①	1
			不明									(1)							(1)	(1)				(1)				(2)		6
肩甲骨	骨体～近位端		右																				①							1
	骨体～近位部		右																					1						1
	近位端		右									1																		1
			左																						1					1
	近位部		右						[(1)]																					1
			左			(1)																								1
	破片		不明						(1)			(1)																		2
上腕骨	近位部～遠位部		右											1																1
	骨体～遠位部		右						[1]																					1
	遠位部		右																									(1)		1
	破片		不明																									(1)		1
橈骨	近位部		右												(1)															1
	骨体		右						[1]																					1
尺骨	近位部～骨体		左																					1						1
手根骨	第2・3		左				1																							1
寛骨	腸骨部		右																				①							1
	恥骨部		左																									1		1
	破片		右																					(1)						1
大腿骨	近位部		左		①																									1
	遠位骨端はずれ		左																				[1]							1
	骨体		右														(1)													1
	破片		左						(1)											(1)										2
膝蓋骨			右																				1							1
脛骨	近位端		右				1																							1
	近位部		左				1																							1
	近位骨端はずれ		右																				1							1
	骨体		右																						1					1
	遠位端		右				1																							1
	遠位部		左																			1								1
	破片		左													(①)									1					2
踵骨			右																					1						1
			左						1																					1
中手骨			右			①				(1)		①			1									①						5
			左					2																						2
中手・中足骨			不明			1																								1
中足骨			不明																			(1)1								2
基節骨			右						1																					1
中節骨			左						1																					1
種子骨			－										1																	1
合　計				1	1	3	1	6	9	1	1	4	1	1	1	1	1	1	1	3	1	1	4	10	9	5	5	6	1	79

注（ ）：破片。○：キズあり。［ ］：幼。「P」はピットの意。

第61表　ニワトリ出土一覧（Ⅲ地区）

部位		右/左	出土地	個数
脛骨	遠位部	右	1層	ｸﾞﾘｯﾄ不明	1

第62表　ウマ出土一覧（Ⅲ地区）

部位		右/左	出土地	個数
上顎骨	$P^{3 or 4}$	右	1層	ｸﾞﾘｯﾄ不明	1

第63表　イノシシ出土一覧（Ⅲ地区）

部位		右/左	出土地	個数
脛骨	近位部	右	1層	L－48	1

第64表　ウシ出土一覧（Ⅲ地区）

部位		右/左	出土地		個数
上顎骨	P^4	左	1層	L－48	1
下顎骨	M_2	左	1層	ｸﾞﾘｯﾄ不明	1
肋骨		不明	不明	L－46	(1)
肩甲骨		不明	2層	ｸﾞﾘｯﾄ不明	(1)
寛骨	臼部	左	1層	H－46	(1)
				M－46	1
脛骨	骨体	右	1層	J－47	(1)

注（ ）：破片

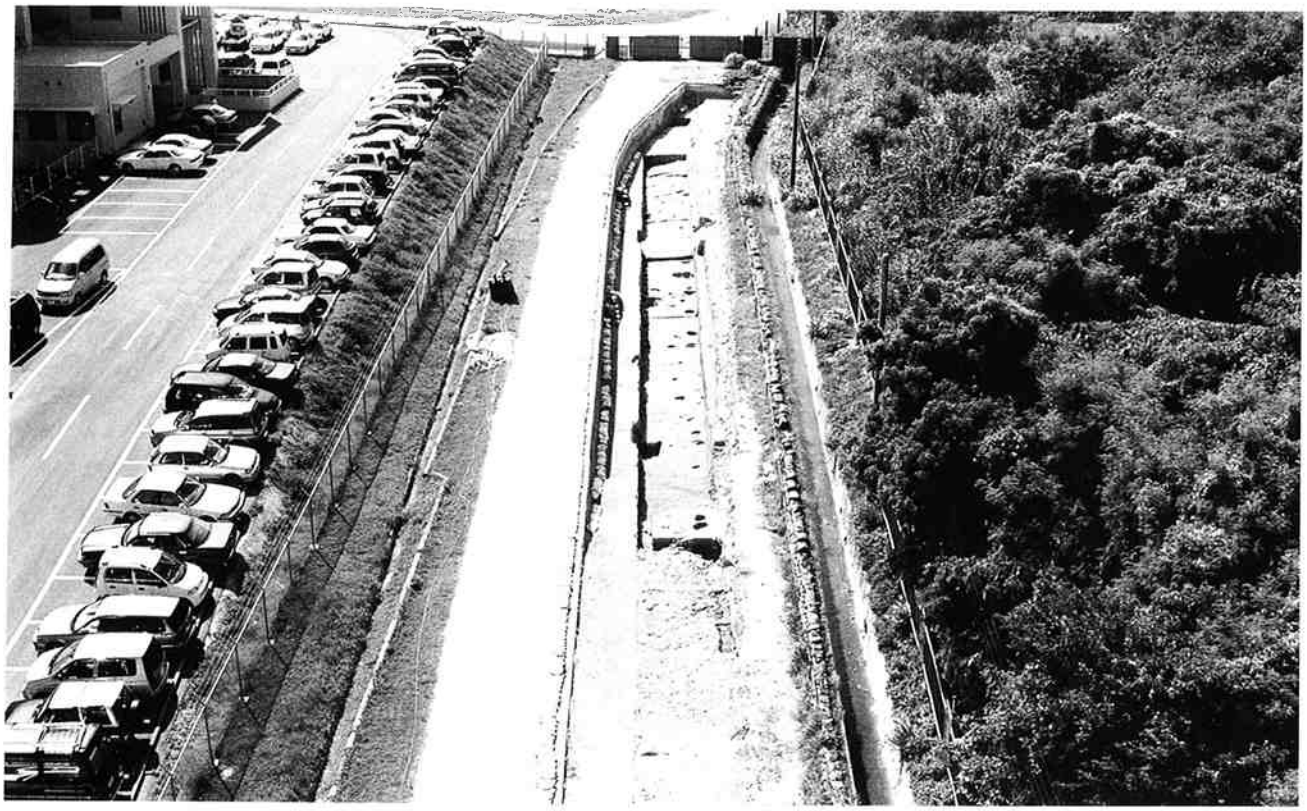
第65表　ウシ計測一覧（Ⅱ地区）

単位：mm

部位		右/左	出土地		計測部位	計測値
脛骨	近位端	右	3層	C－42	BP	106.64
	遠位端	右	3層	C－42	Bd	67.63
中手骨		右	溝3	C－35	BP	*64.00

注　*：キズあり

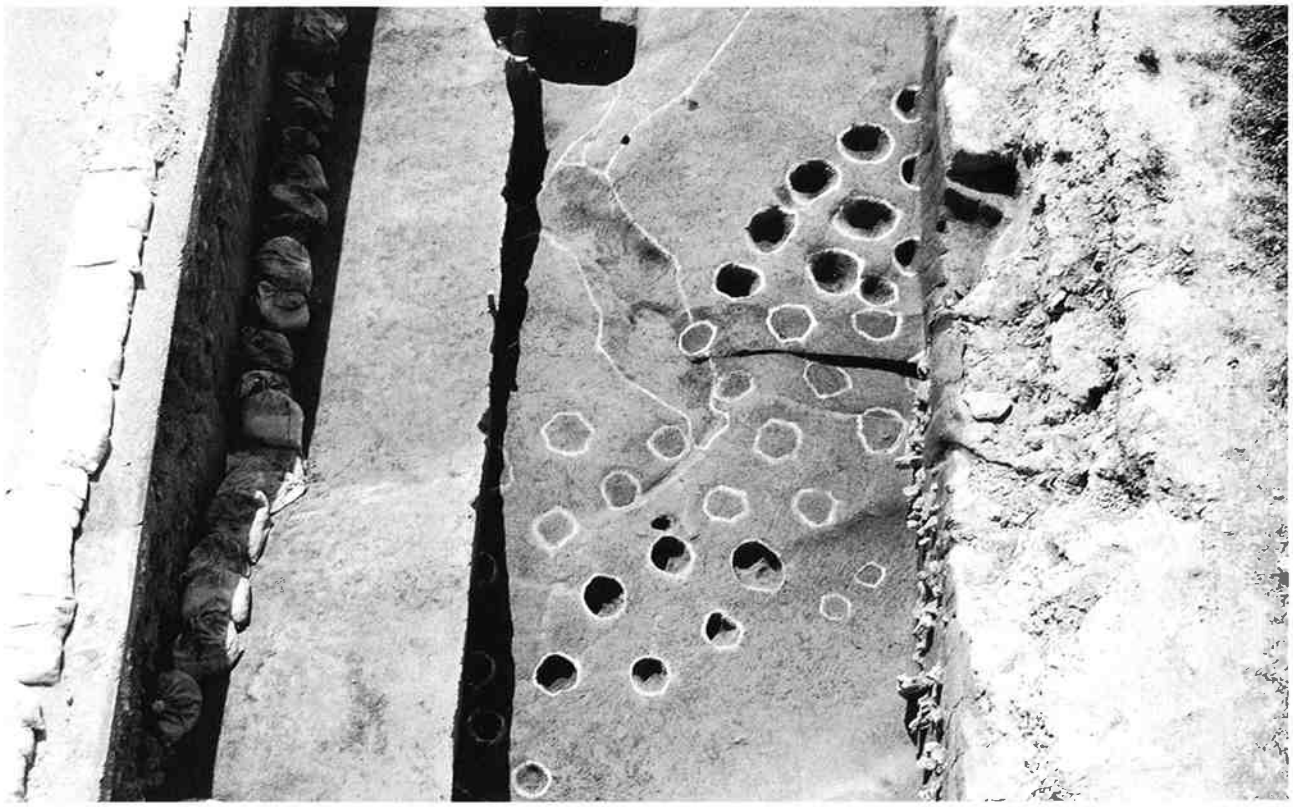
図　　版



Ⅰ地区遠景

作業風景

図版１　調査状況１



Ⅰ地区　第２検出面　列状ピット群・溝３検出状況

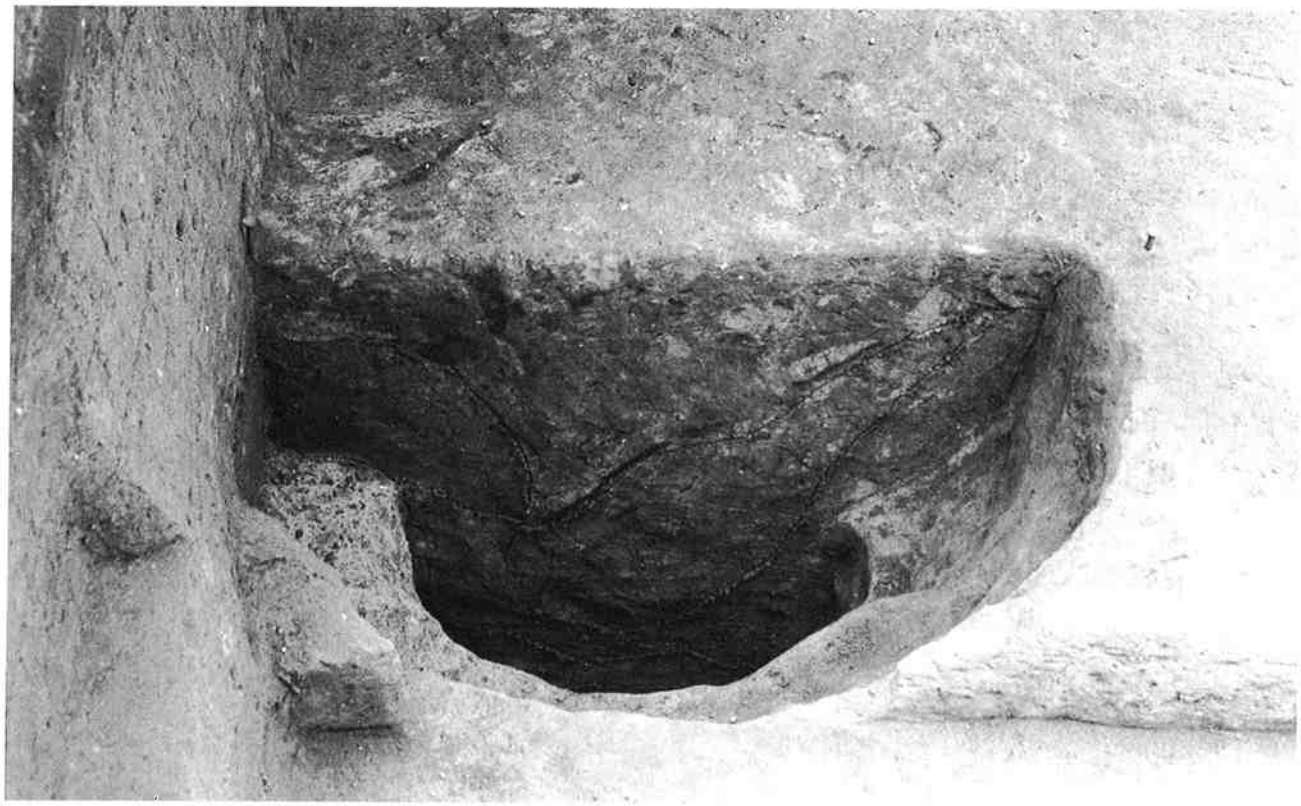
Ⅰ地区　第３検出面　ピット53断面

図版２　調査状況２

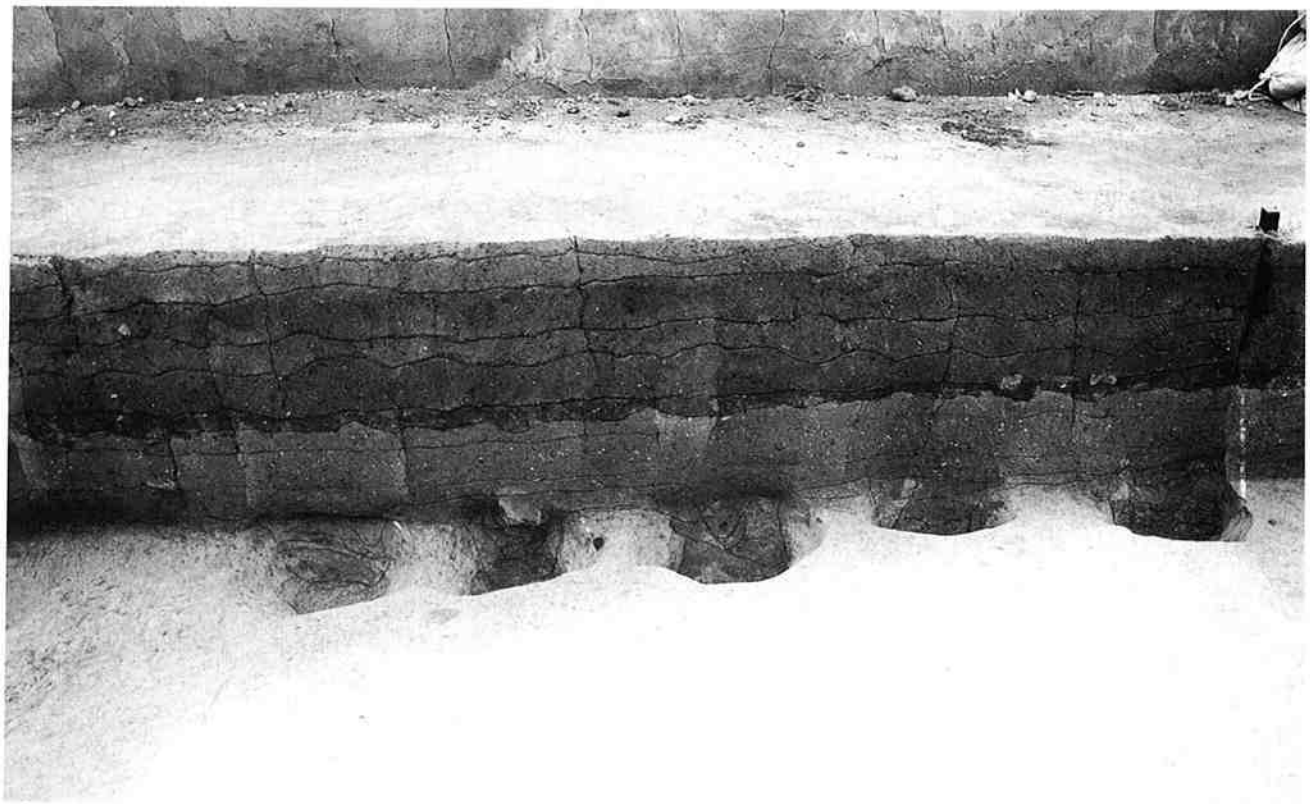
Ⅰ地区　第３検出面　ピット47断面

Ⅰ地区　第３検出面　土坑平面検出状況

図版３　調査状況３

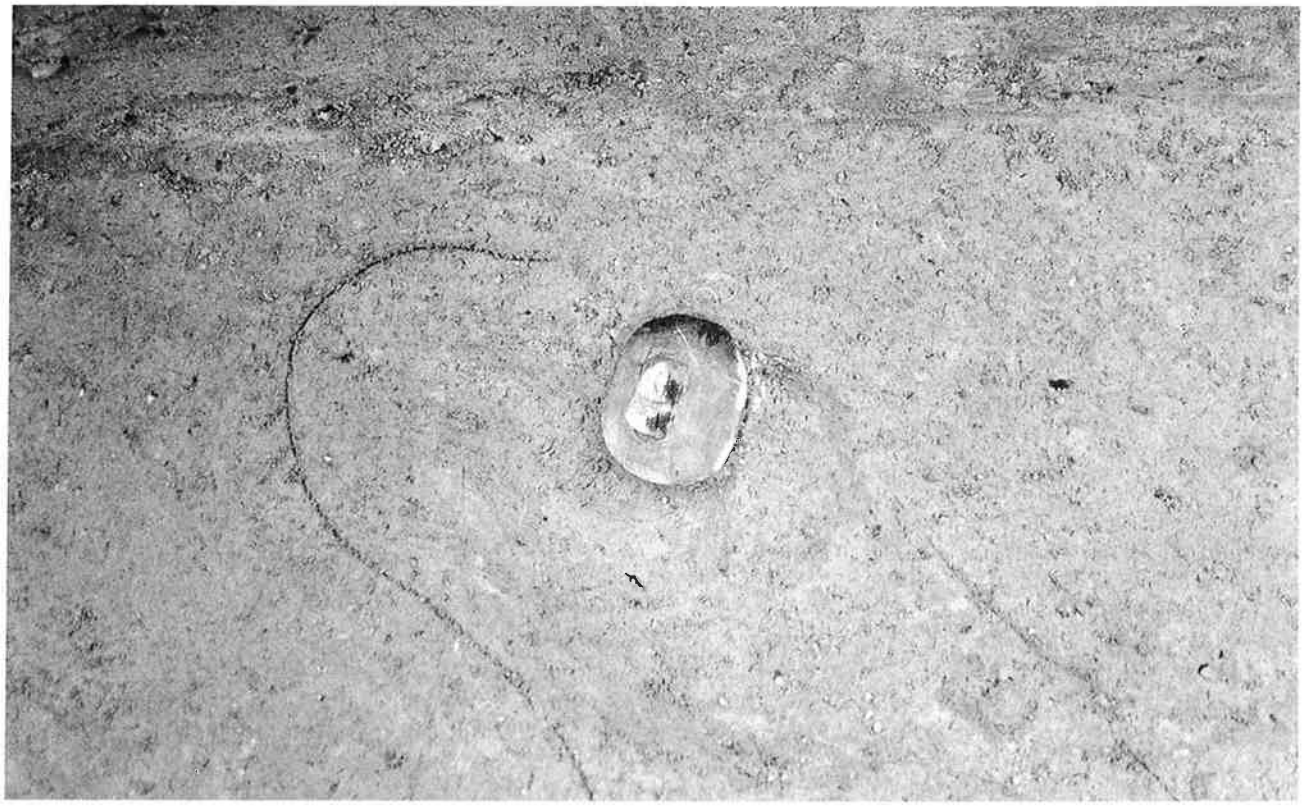


Ⅰ地区　第３検出面　土坑断面

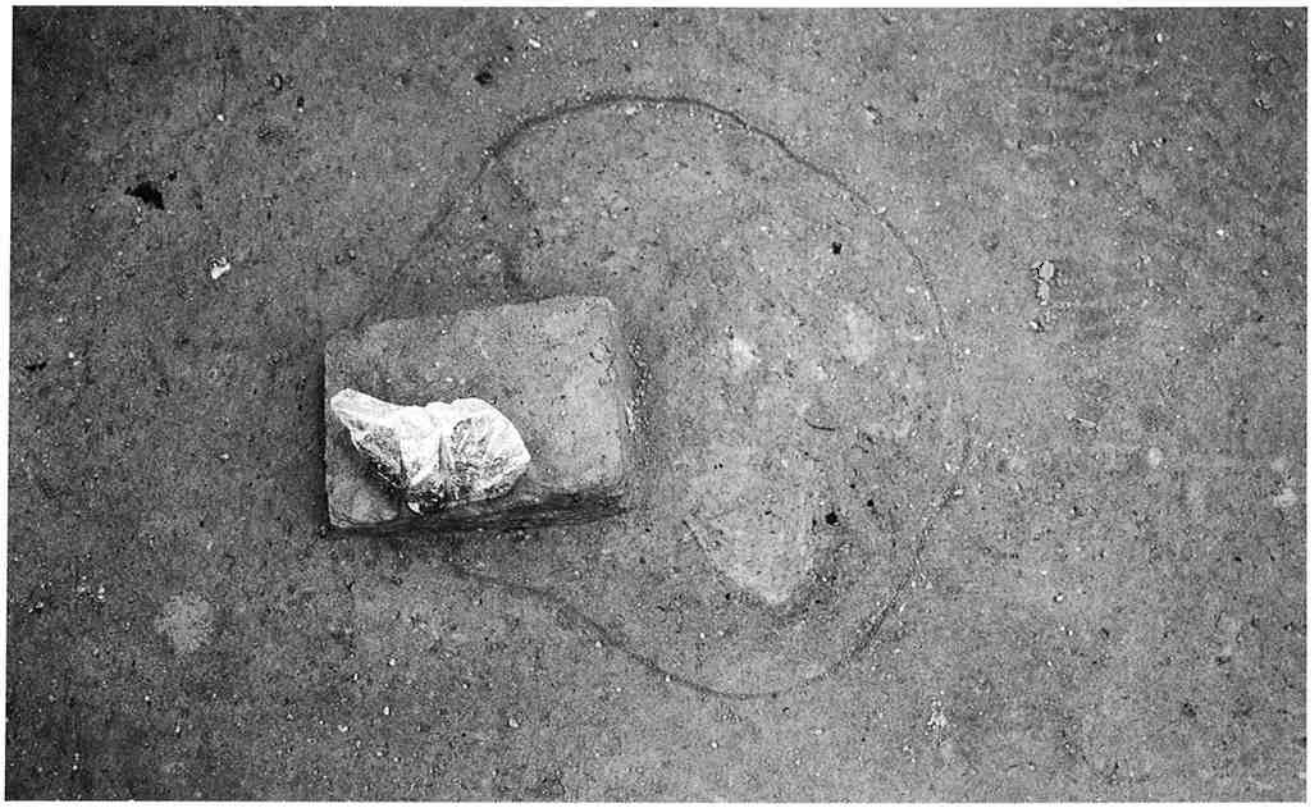


Ⅰ地区　C－10グリッド西側セクション

図版４　調査状況４



Ⅰ地区　第３検出面　滑石製品出土状況１



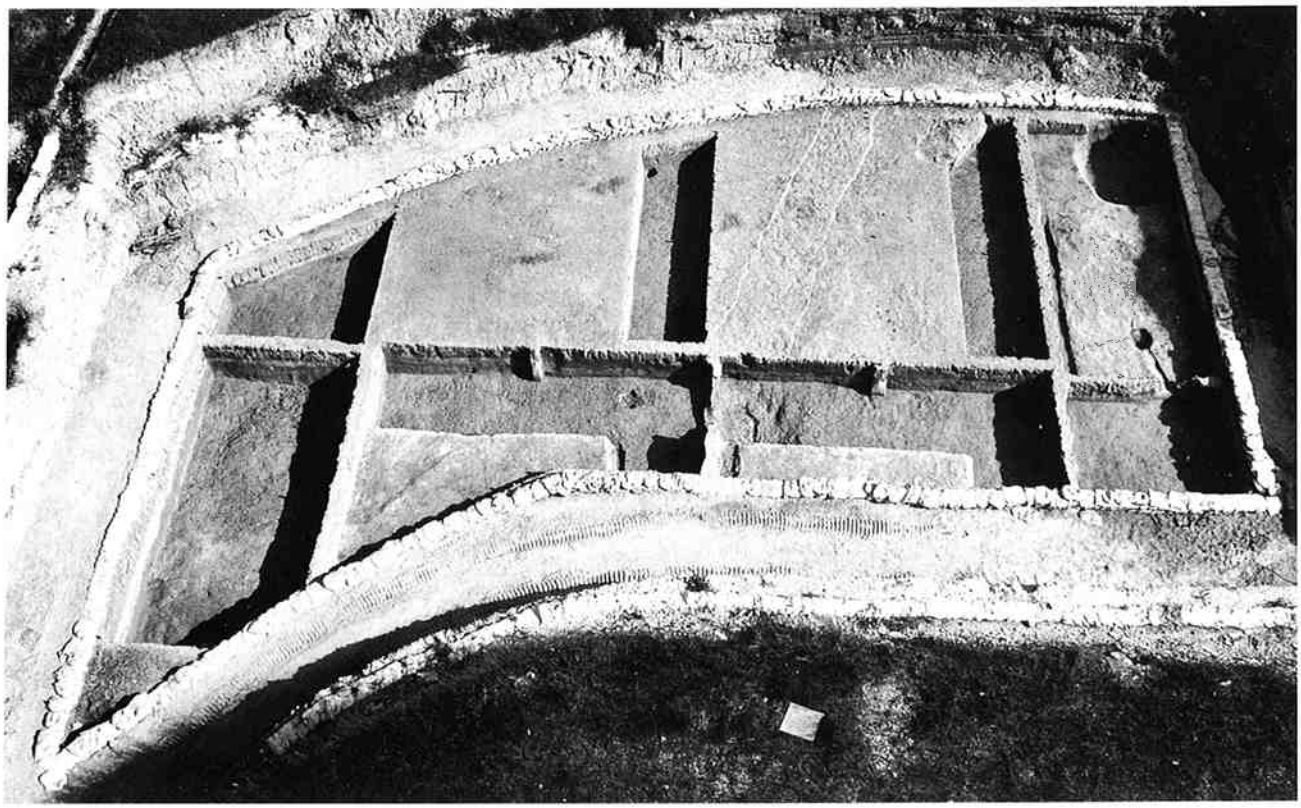
Ⅰ地区　第３検出面　滑石製品出土状況２

図版５　**調査状況５**

Ⅰ地区　くびれ平底土器底部出土状況

Ⅰ地区　下層確認状況

図版６　調査状況６



Ⅲ地区　遠景

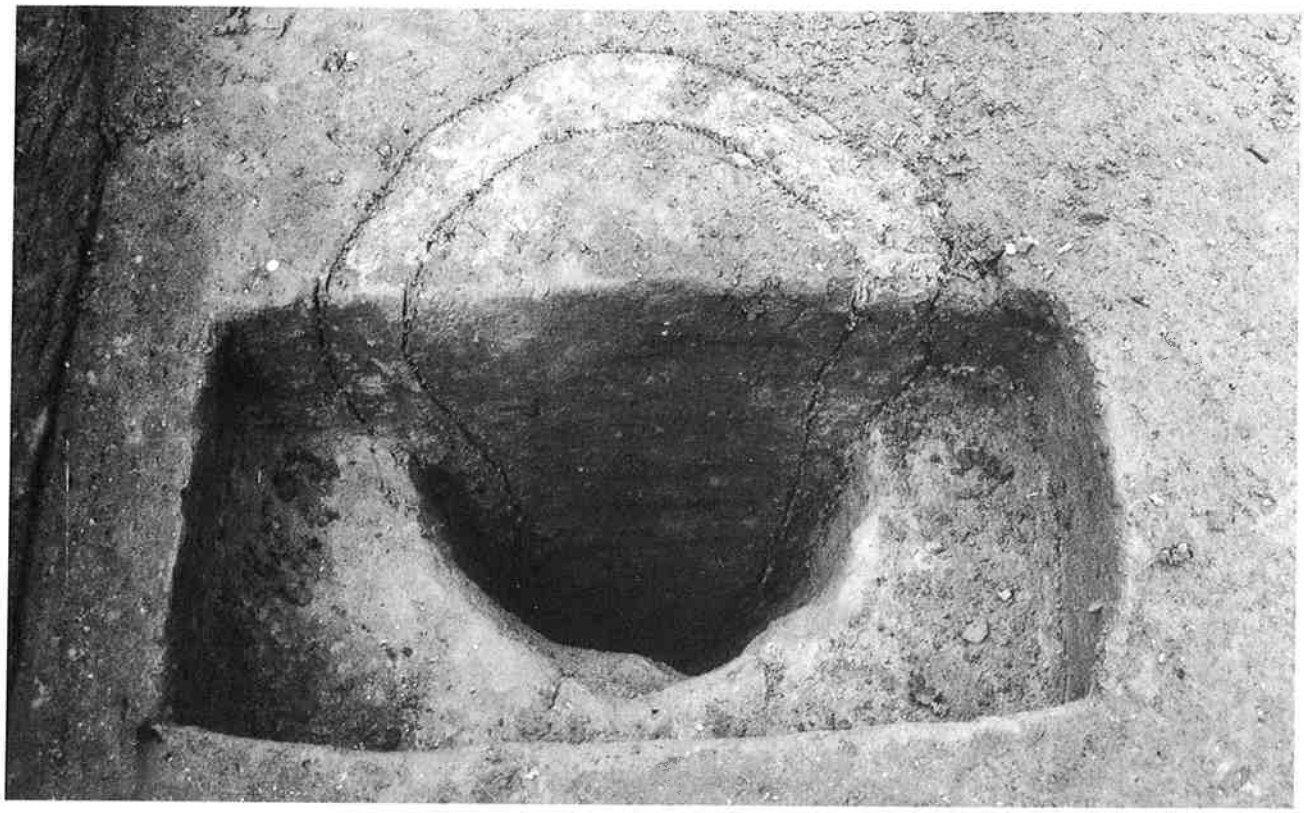
調査区（Ⅱ・Ⅲ地区）遠景

図版７　調査状況７

Ⅱ地区　第１検出面　ピット検出状況１

Ⅱ地区　第１検出面　ピット検出状況２

図版８　調査状況８



Ⅱ地区　第１検出面　ピット41断面

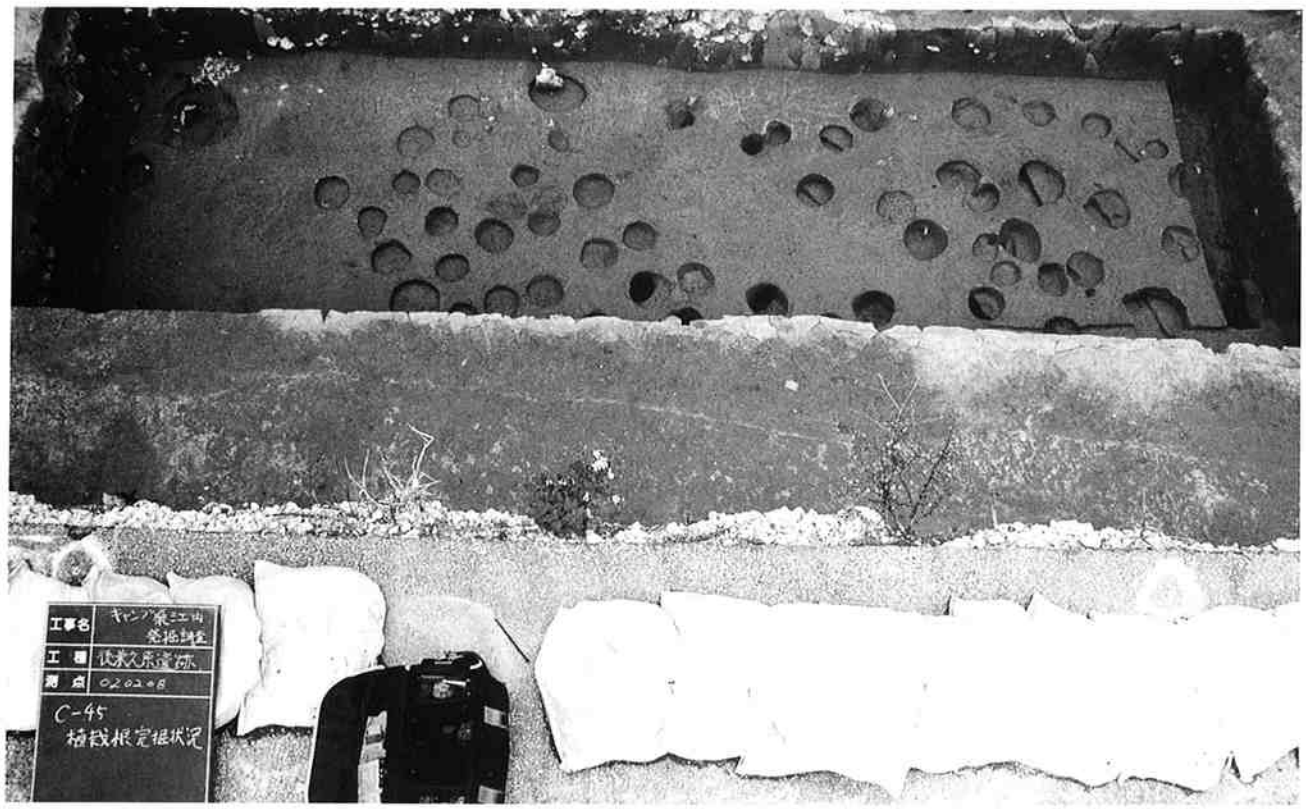
Ⅱ地区　第７層（包含層）古銭一括出土状況

図版９　調査状況９

Ⅱ地区　土坑（溝２－２）断面

Ⅱ地区　第２検出面　検出前

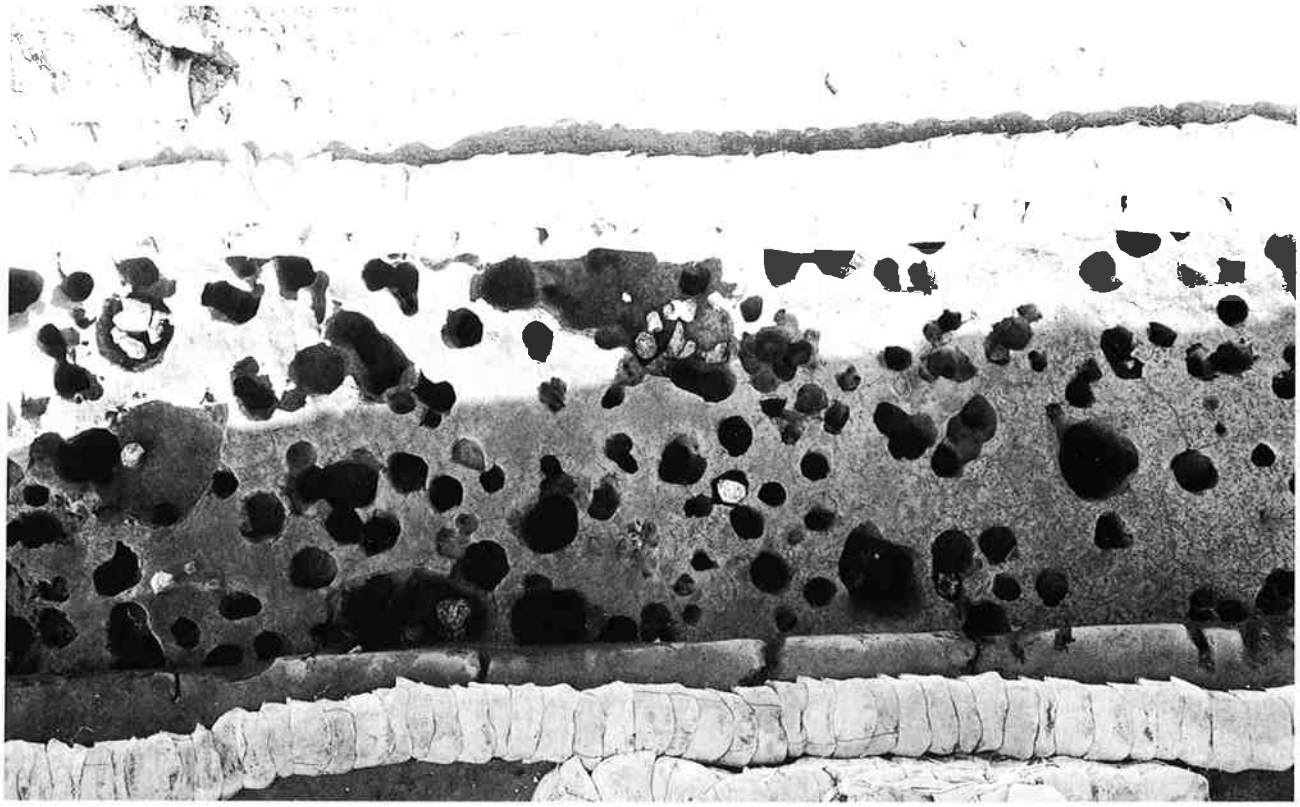
図版10　調査状況10



Ⅱ地区　第２検出面　列状ピット群検出状況

Ⅱ地区　第２検出面　炉跡完掘状況

図版11　調査状況11

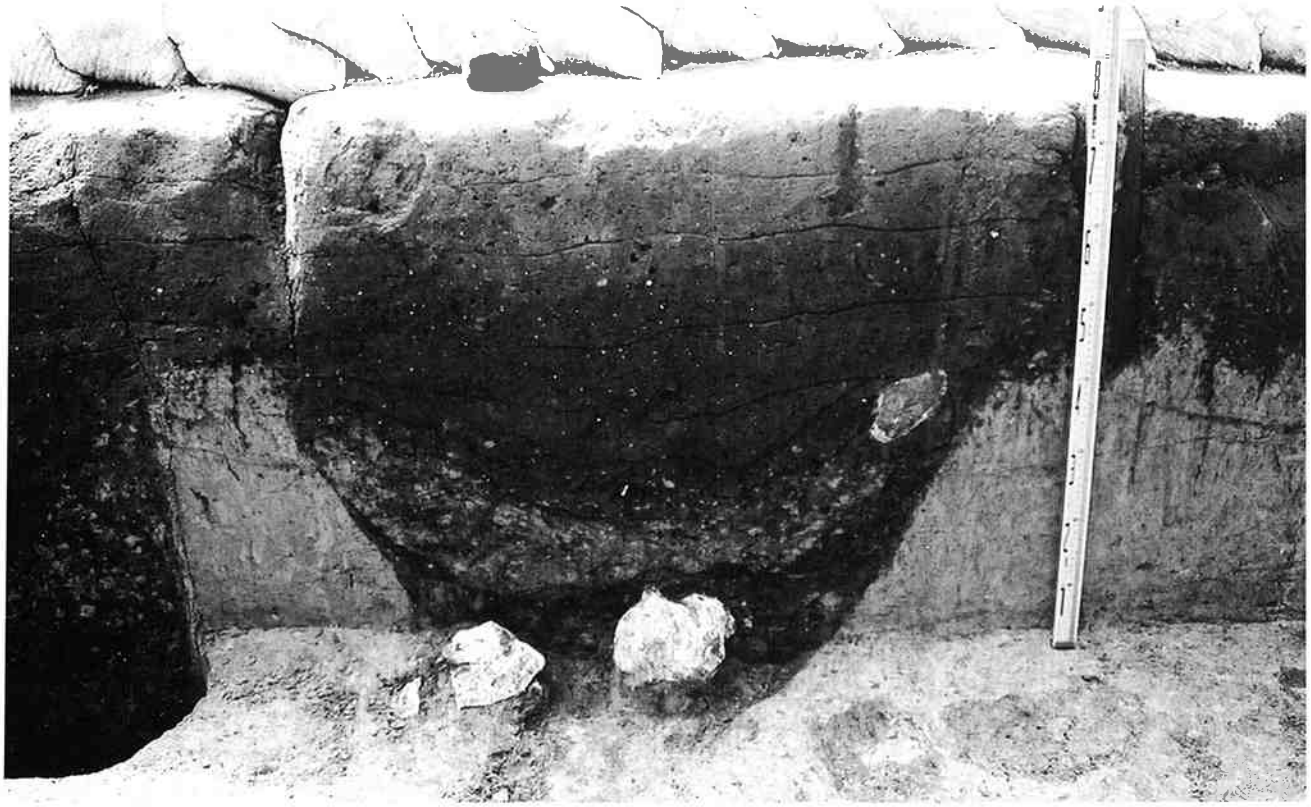


Ⅱ地区　第３検出面　ピット群検出状況

Ⅱ地区　第３検出面　ピット376完掘状況（石が入っている様子）

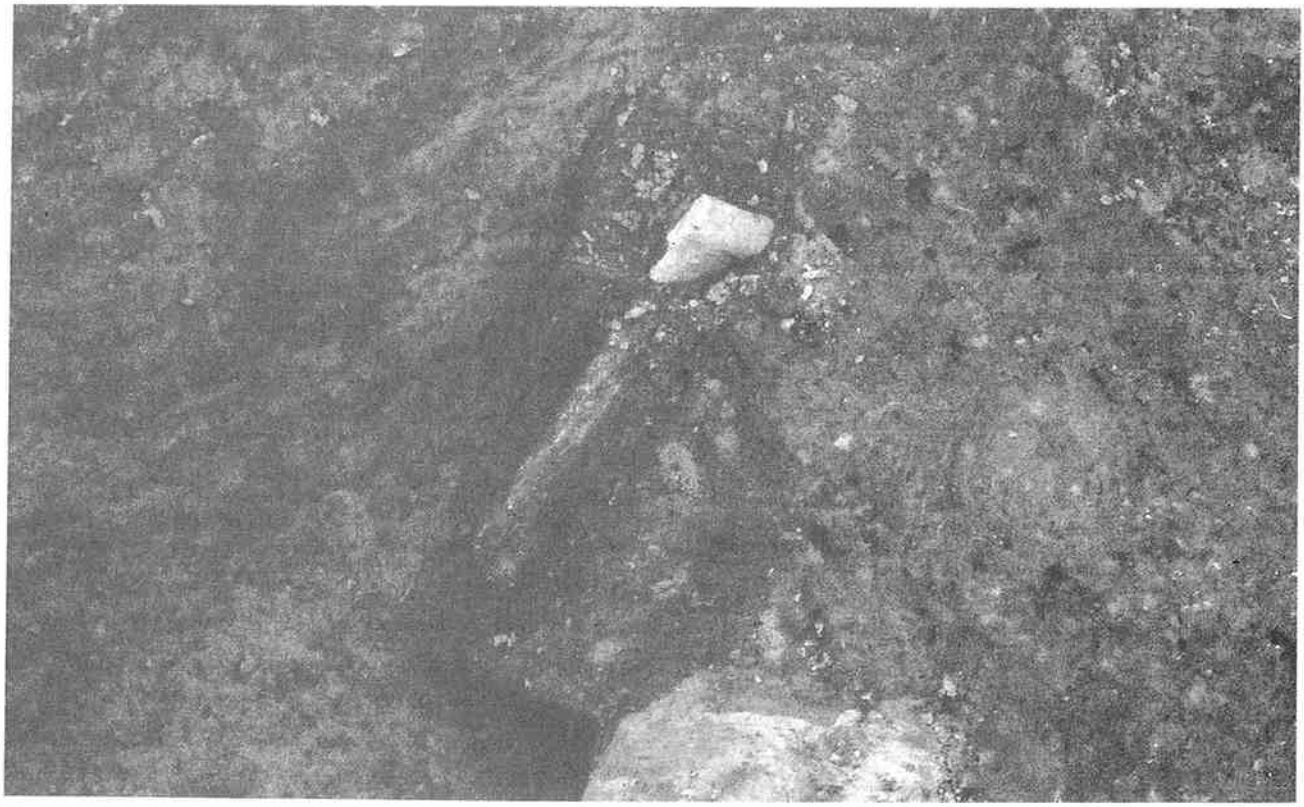
図版12　調査状況12

Ⅱ地区　C-30・31西側セクション

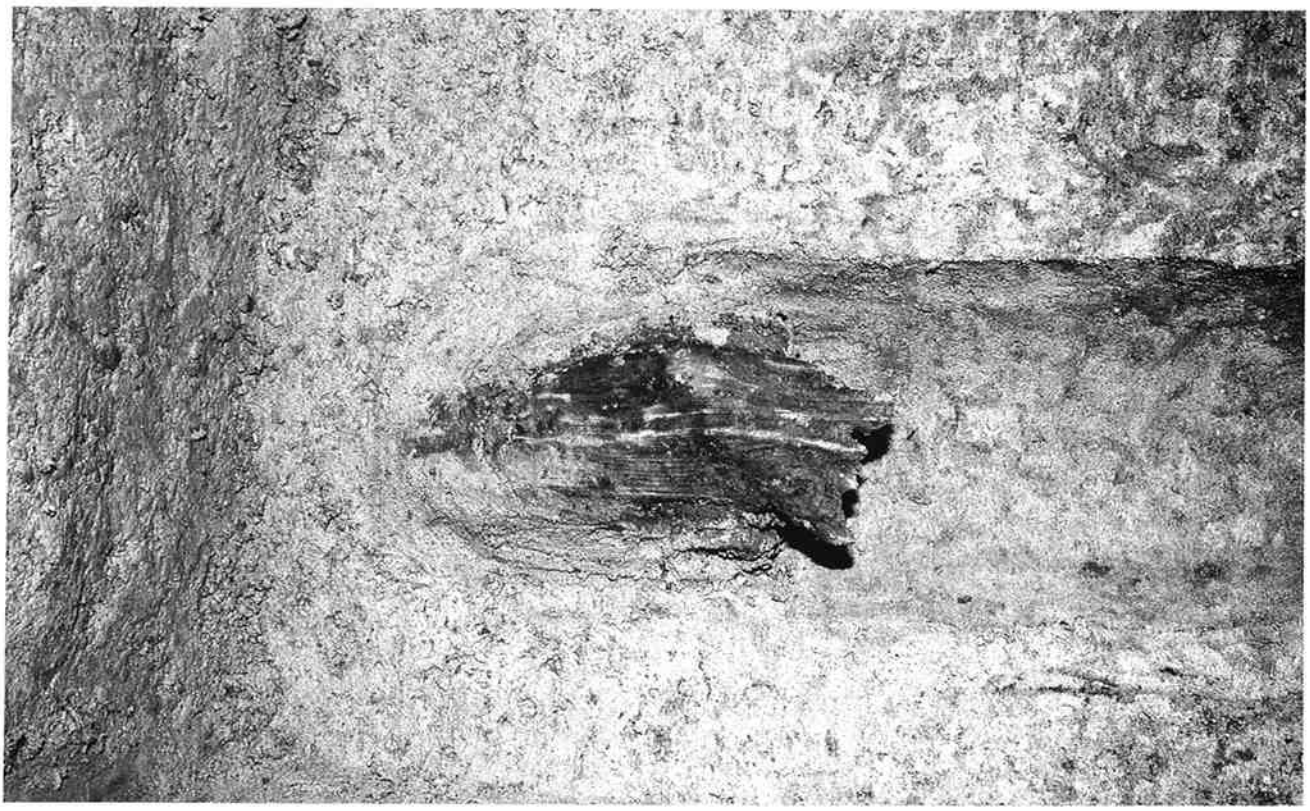


Ⅱ地区　第３検出面　ピット338断面

図版13　調査状況13



Ⅱ地区　第３検出面　白磁玉縁碗口縁部出土状況



Ⅱ地区　第３検出面　ピット149断面（木が残っている様子）

図版14　調査状況14

Ⅱ地区　溝３　遺物出土状況

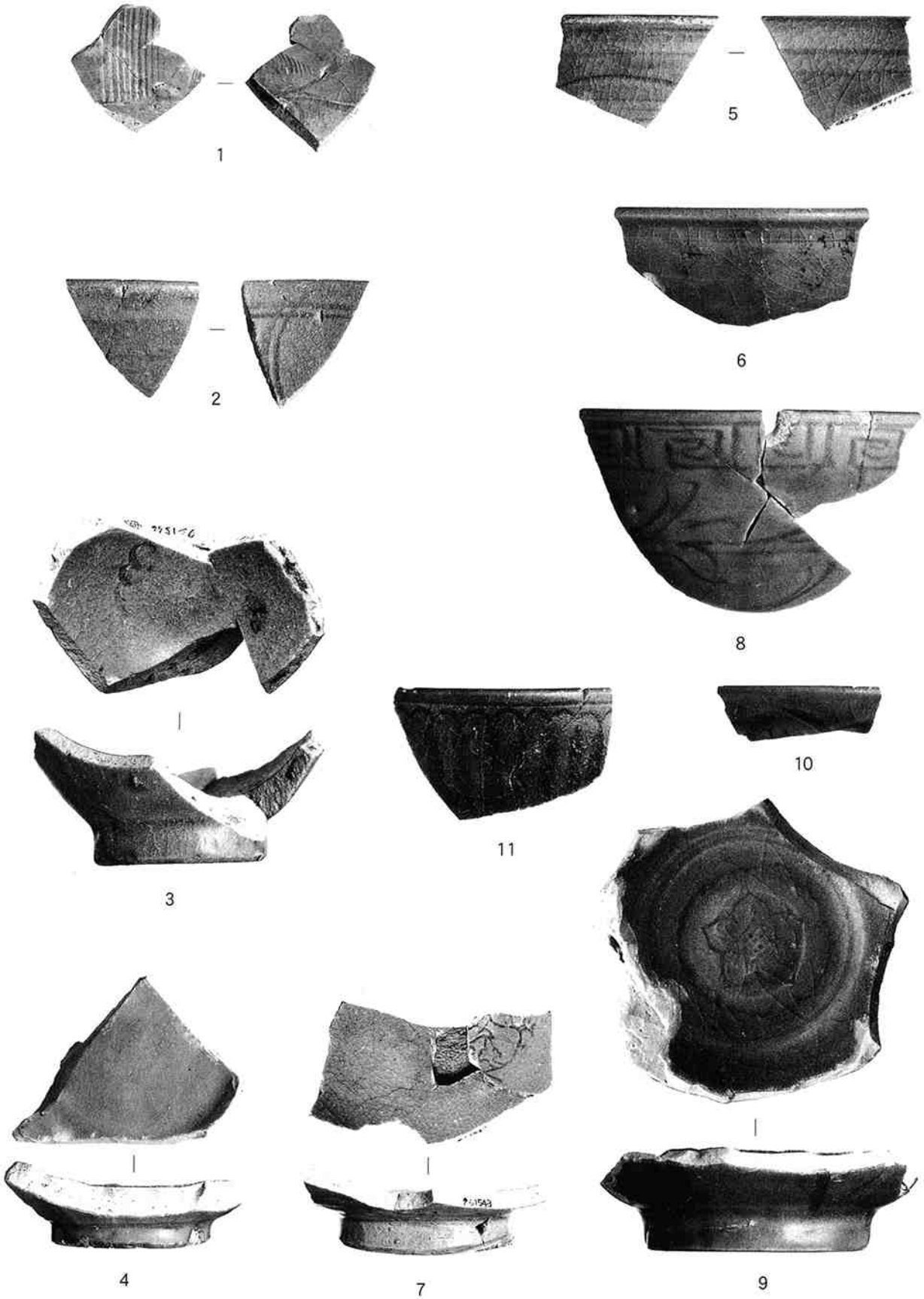
Ⅱ地区　溝３　人骨出土状況

図版15　調査状況15

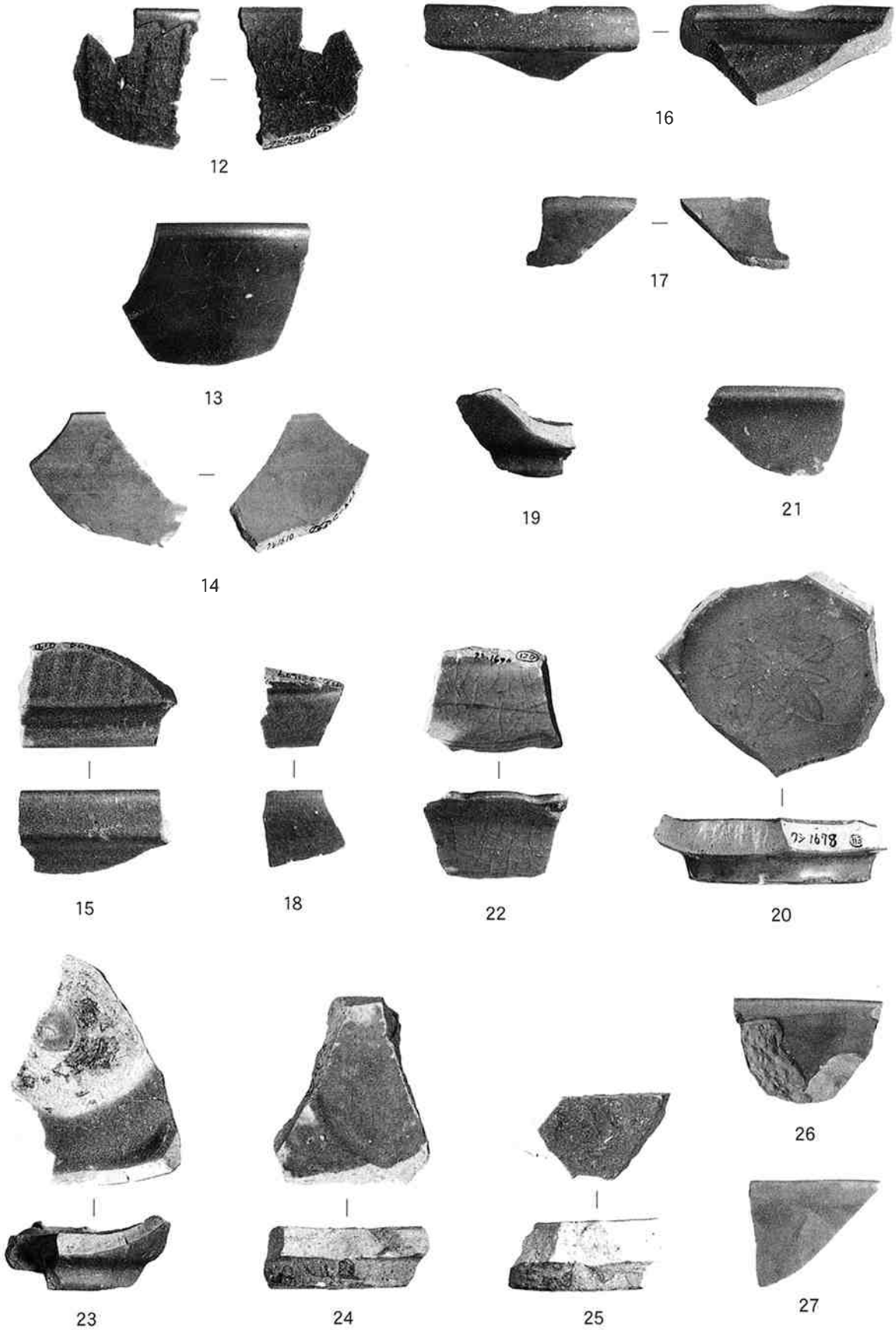
Ⅱ地区　C－45南側セクション

Ⅱ地区　下層確認状況

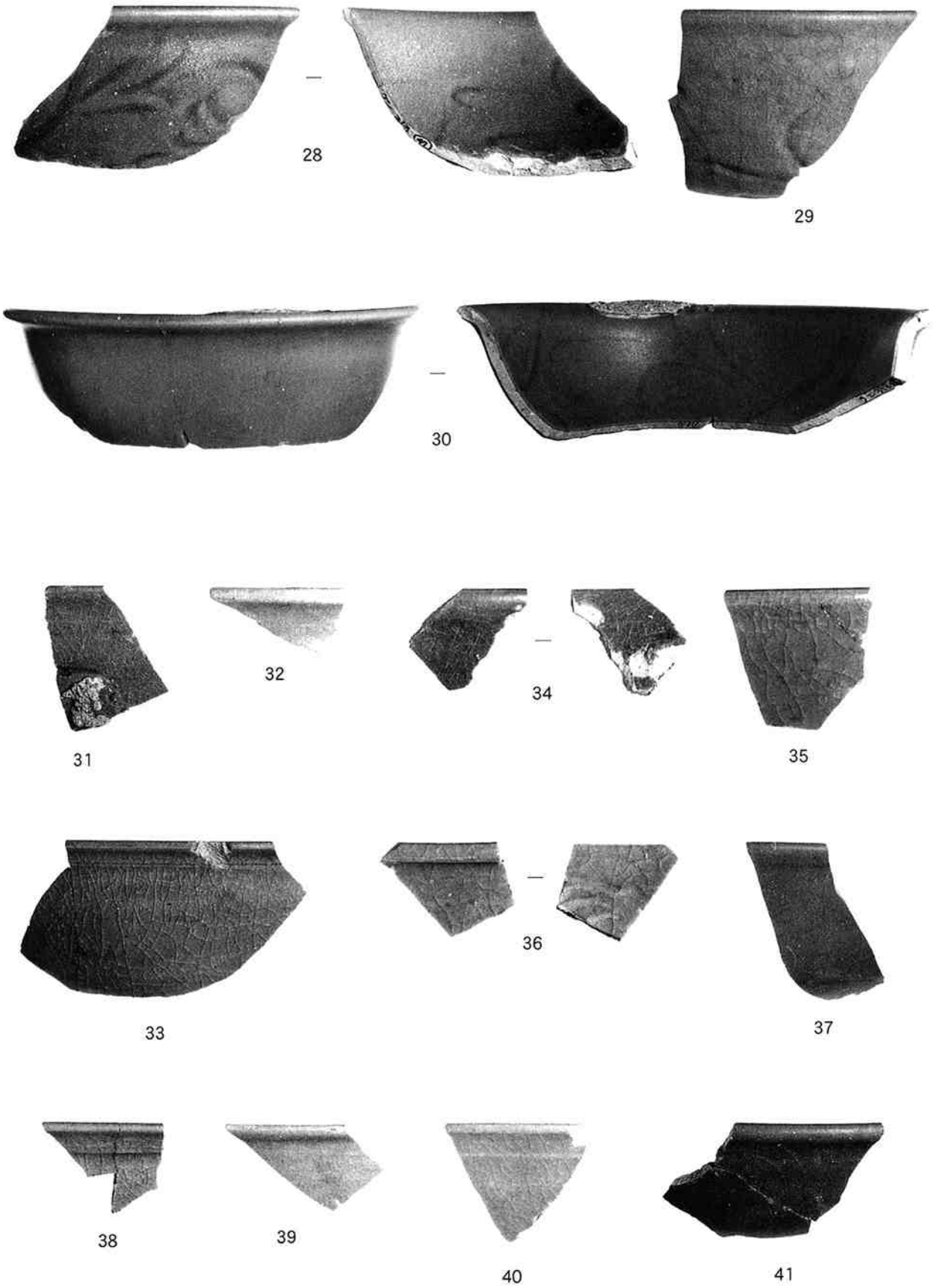
図版16　調査状況16



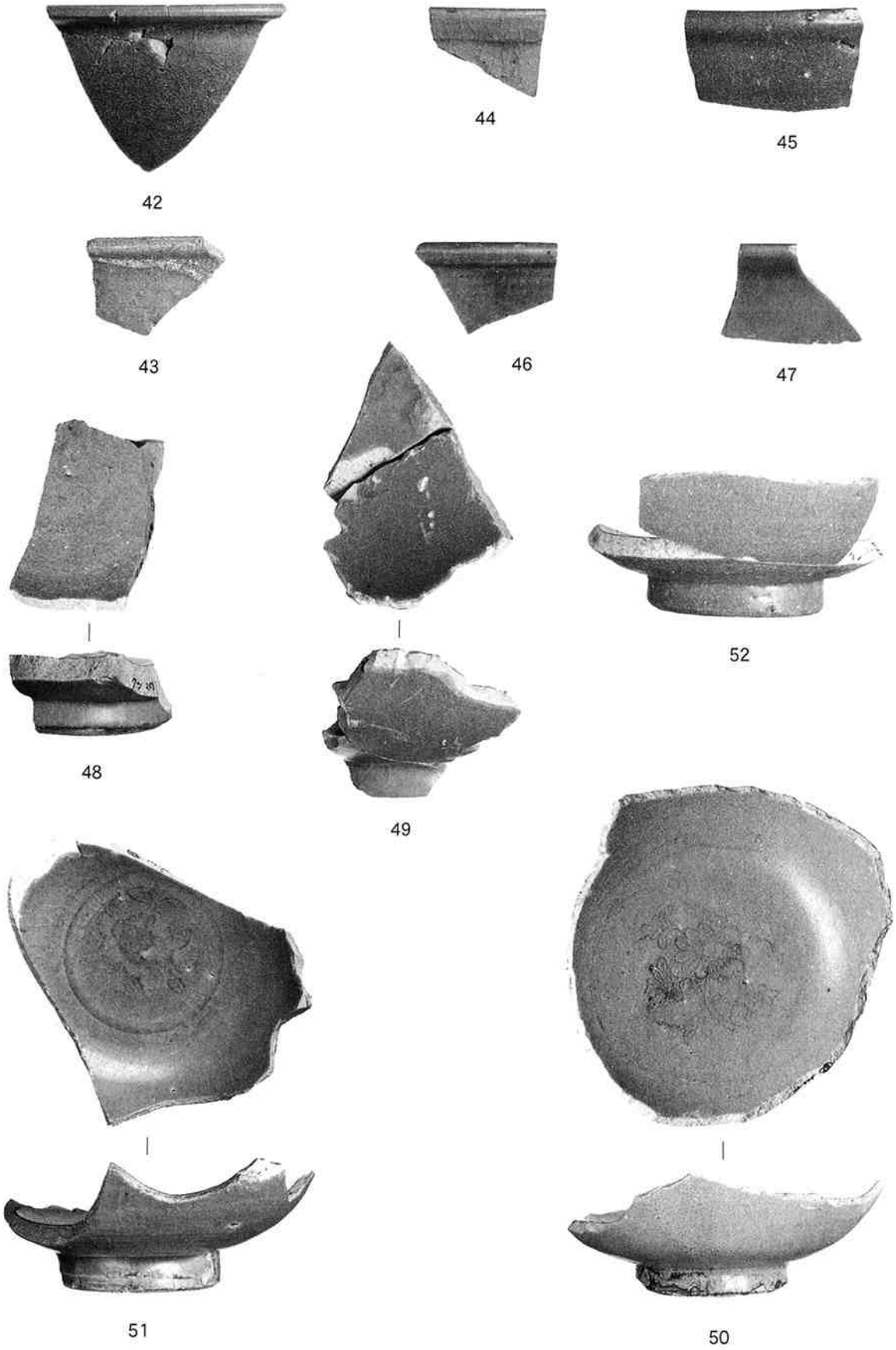
図版17　青磁１



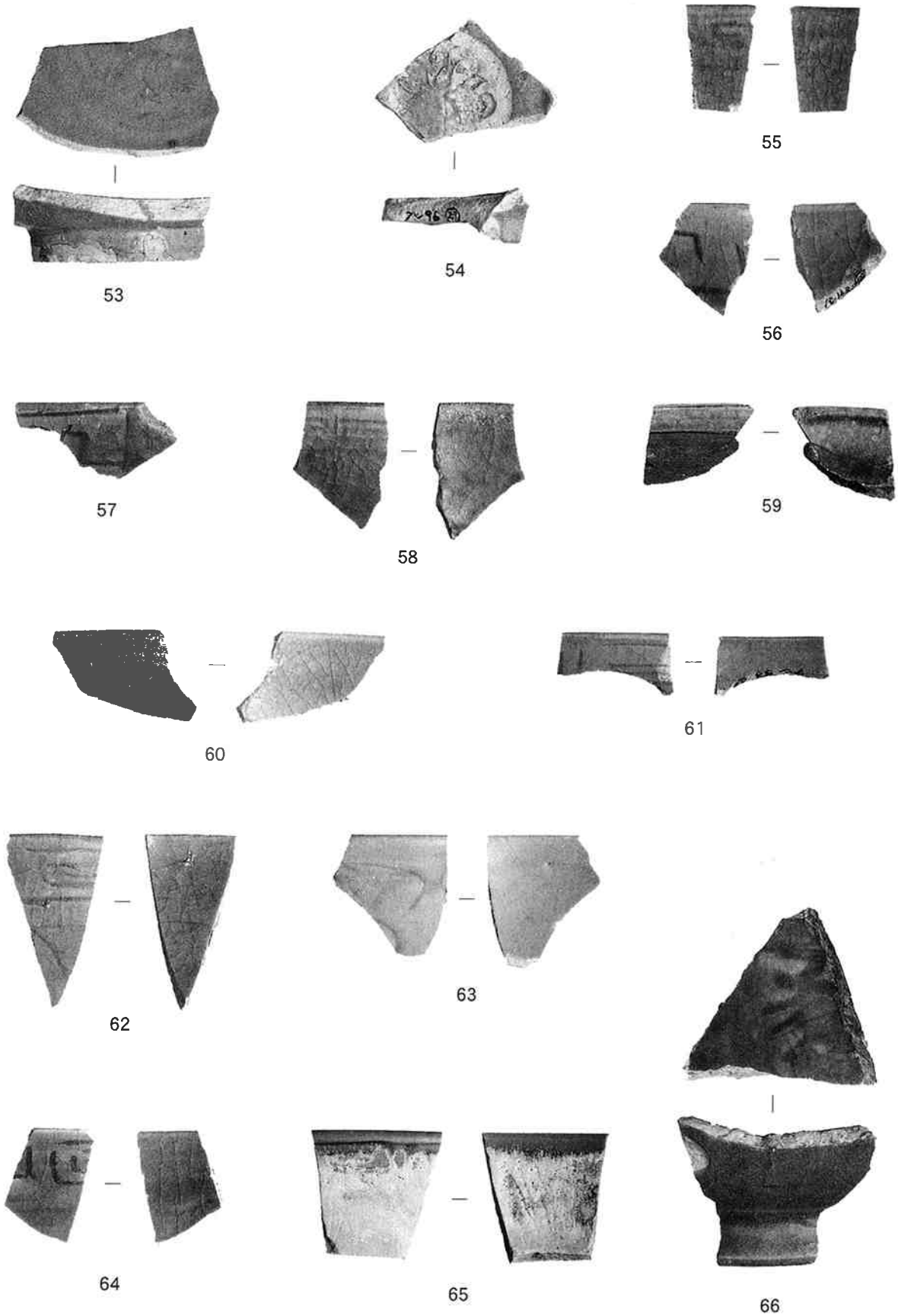
図版18　青磁２



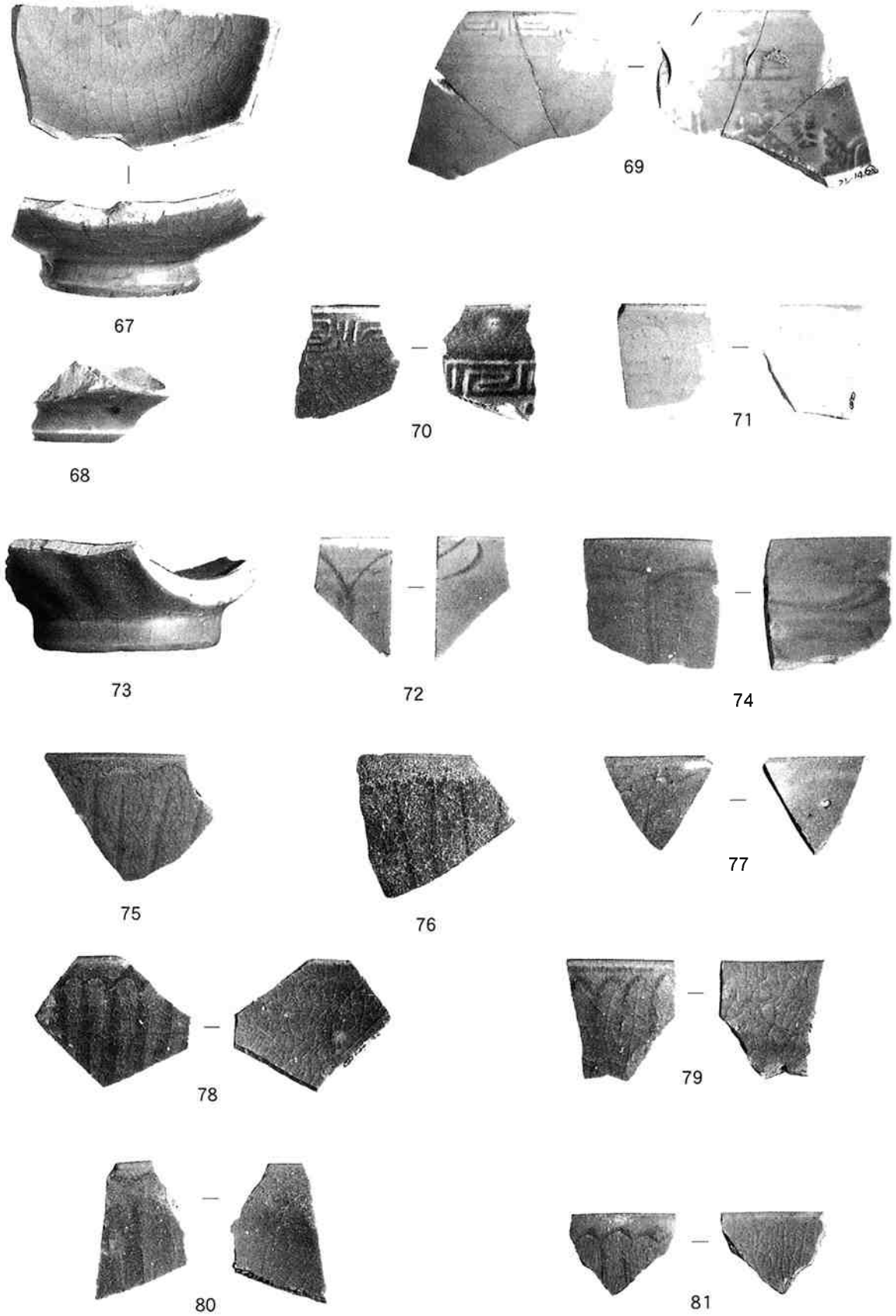
図版19　青磁３



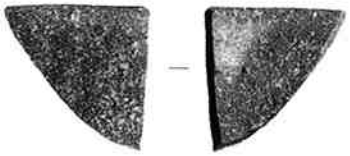
図版20　青磁４



図版21　青磁５



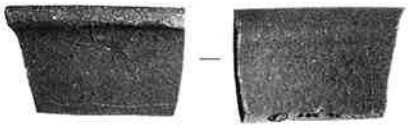
図版22　青磁６



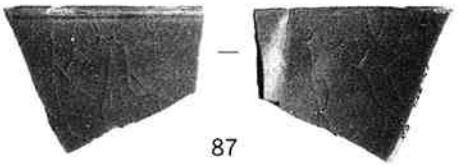
82

85

83

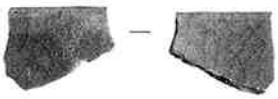


86



87

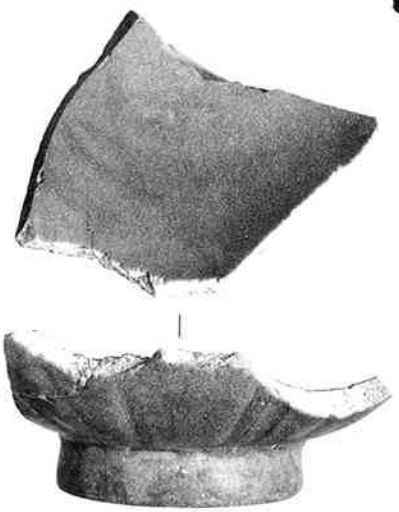
84



88

91

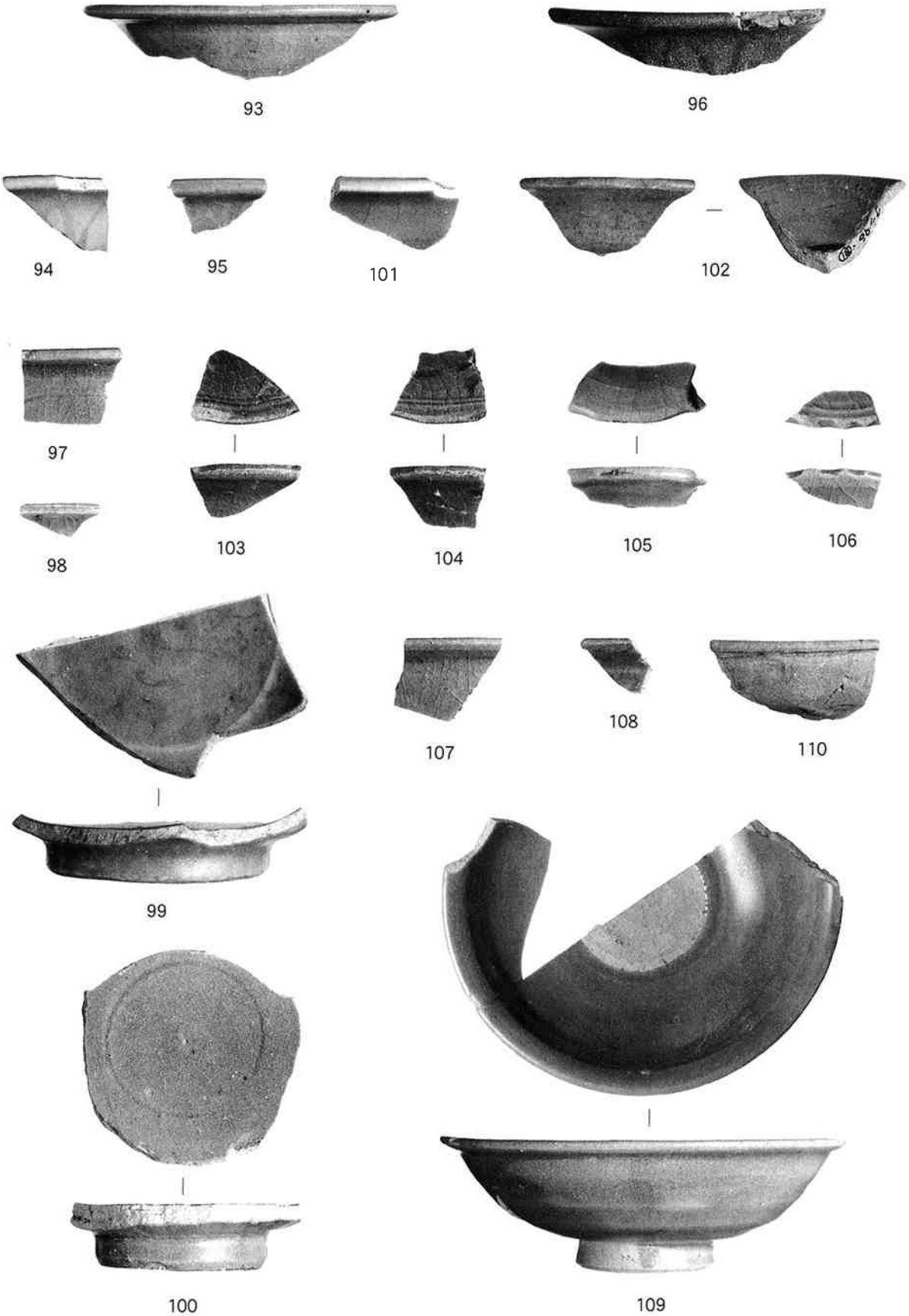
90



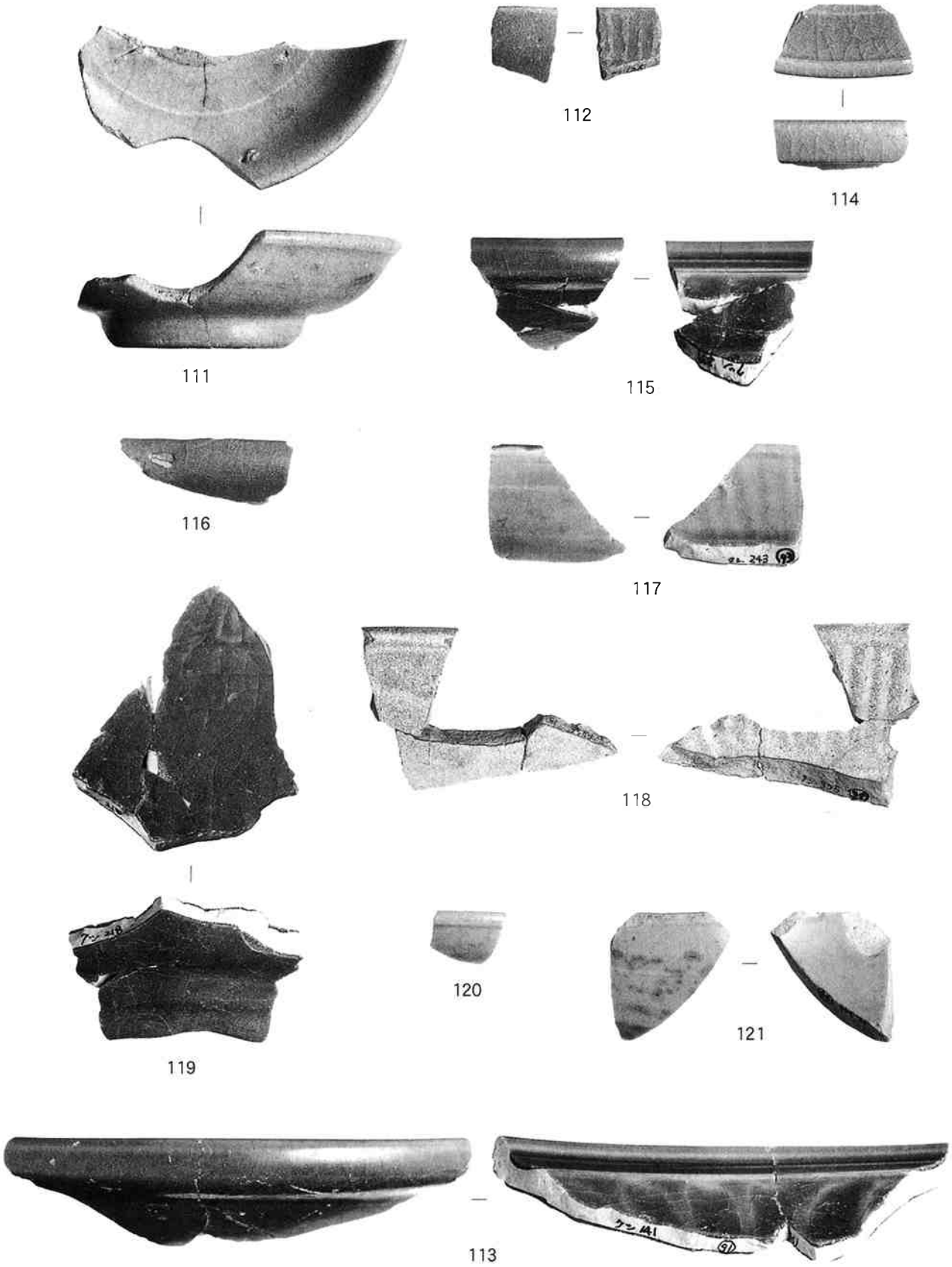
89

92

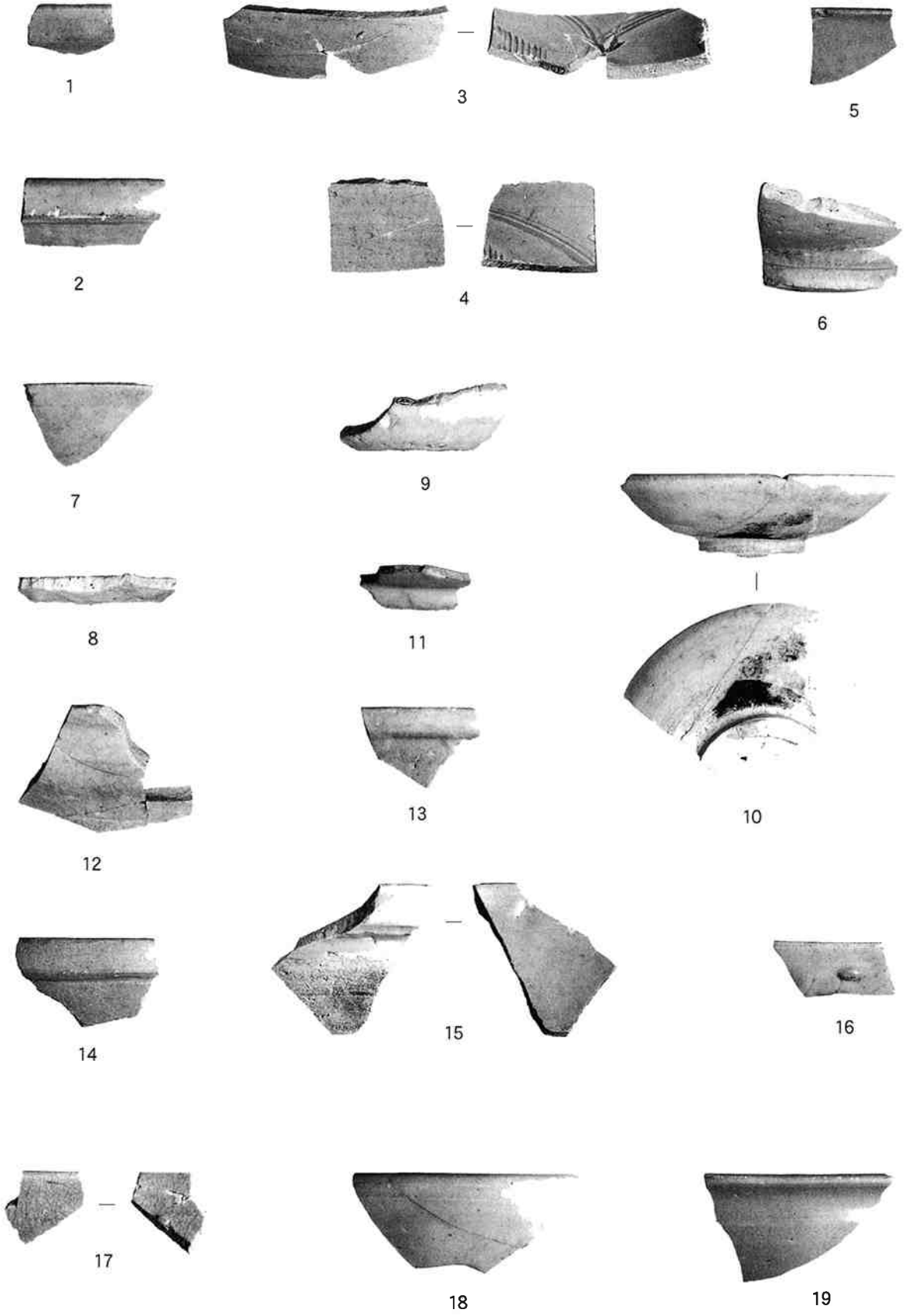
図版23　青磁７



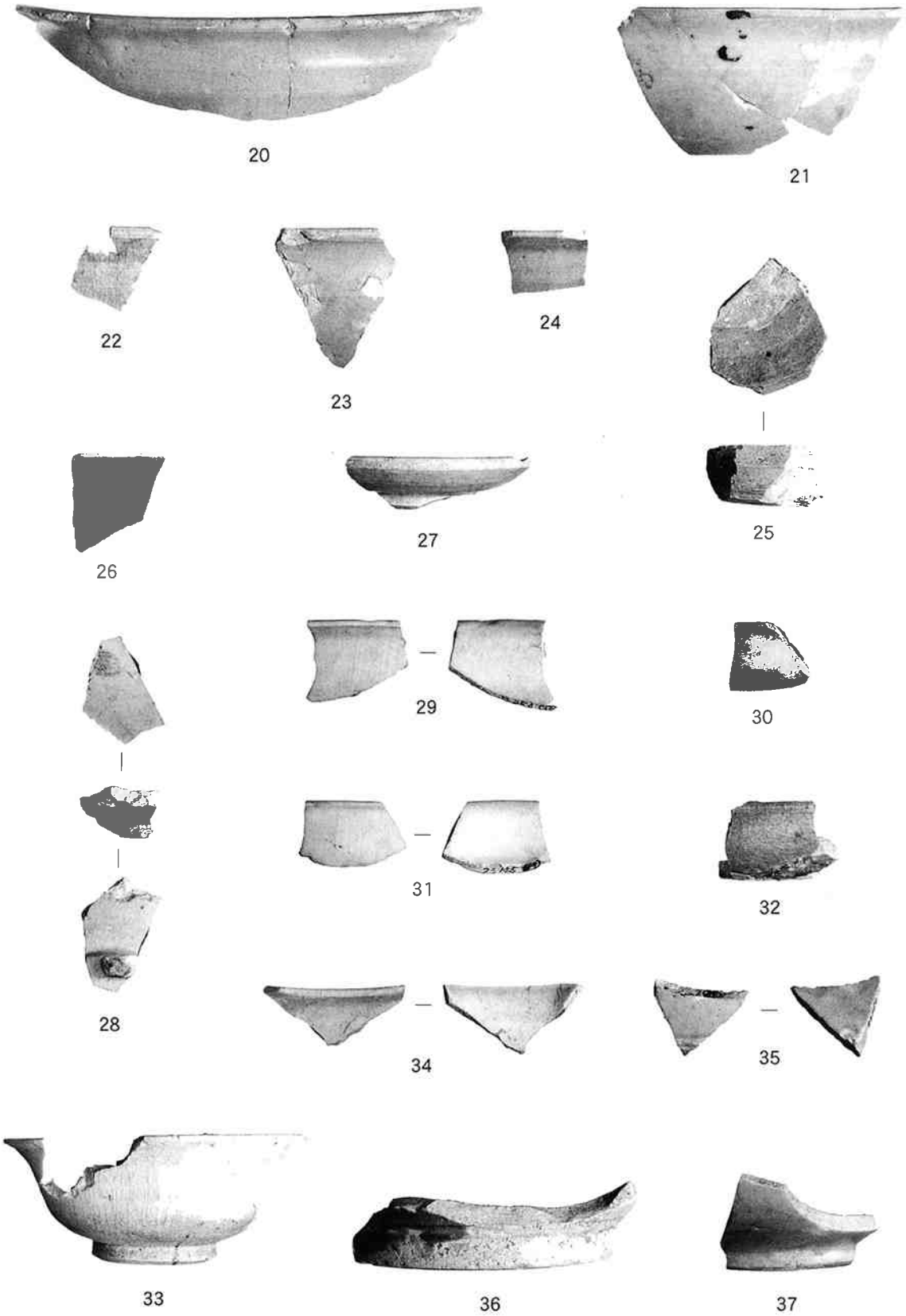
図版24　青磁８



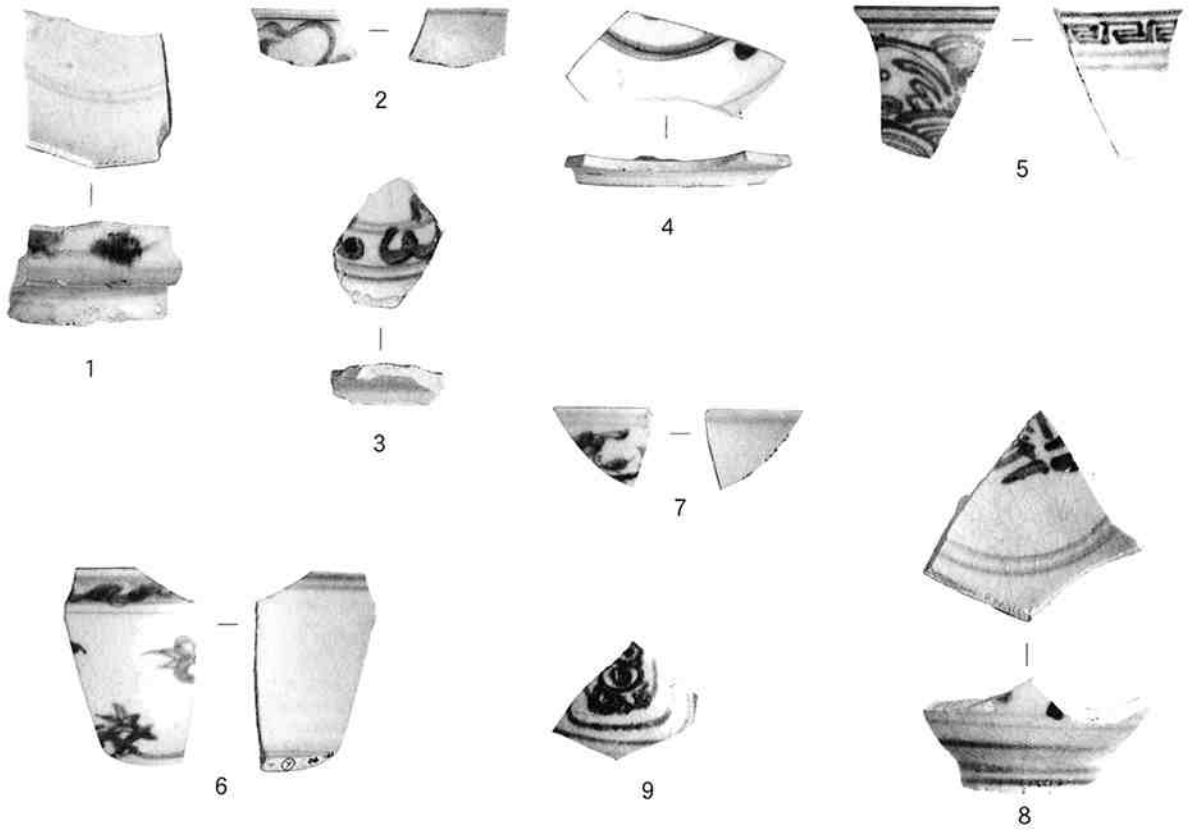
図版25　青磁９

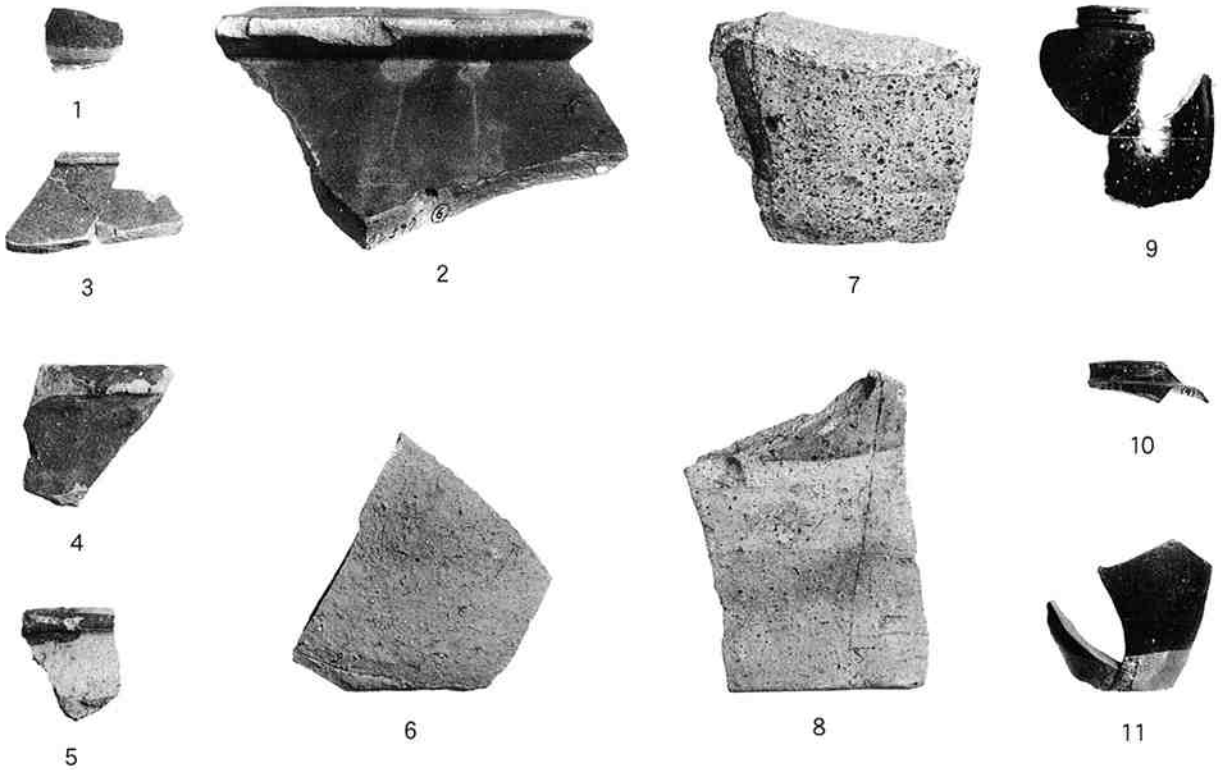


図版26　白磁 1

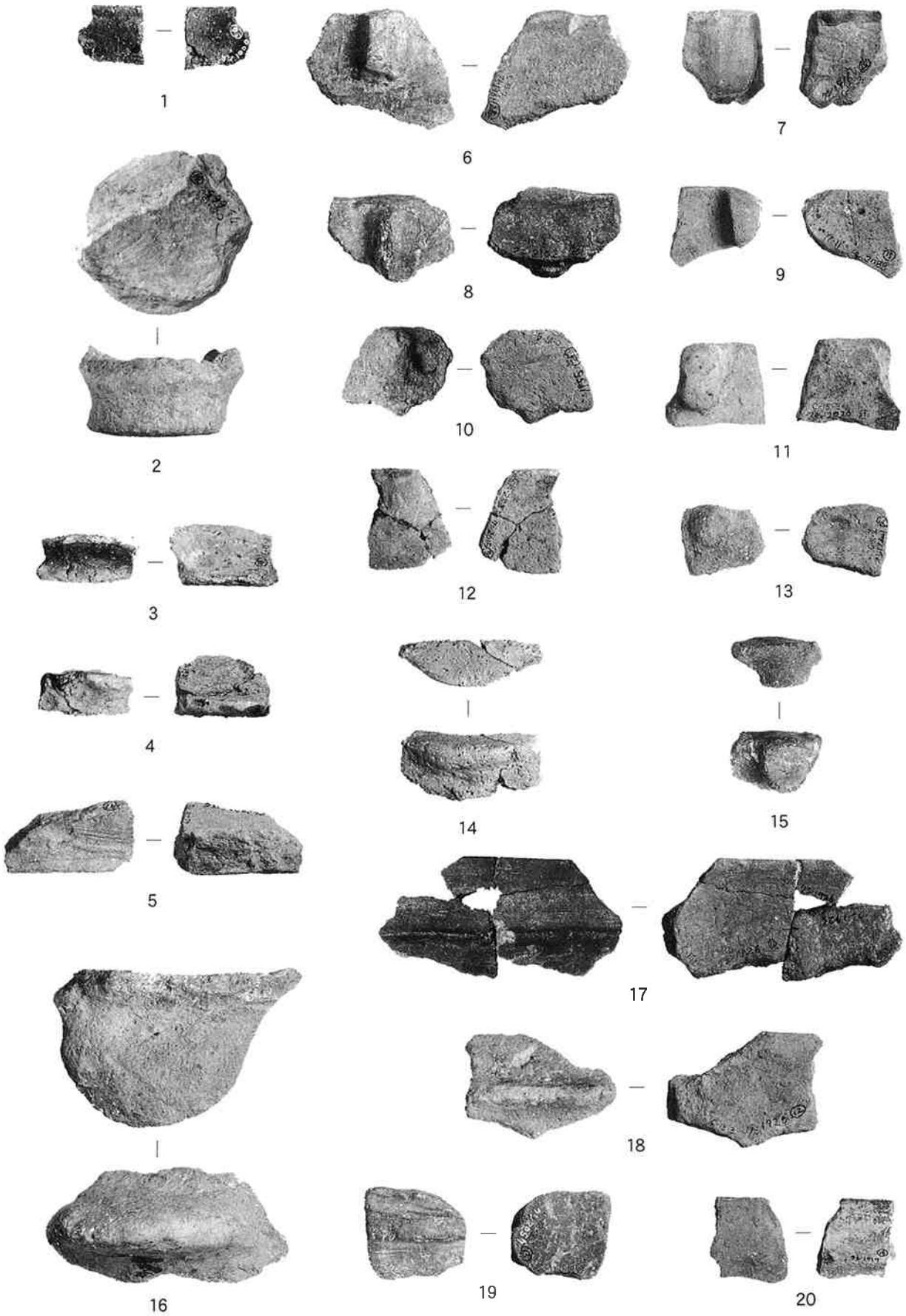


図版27　白磁２

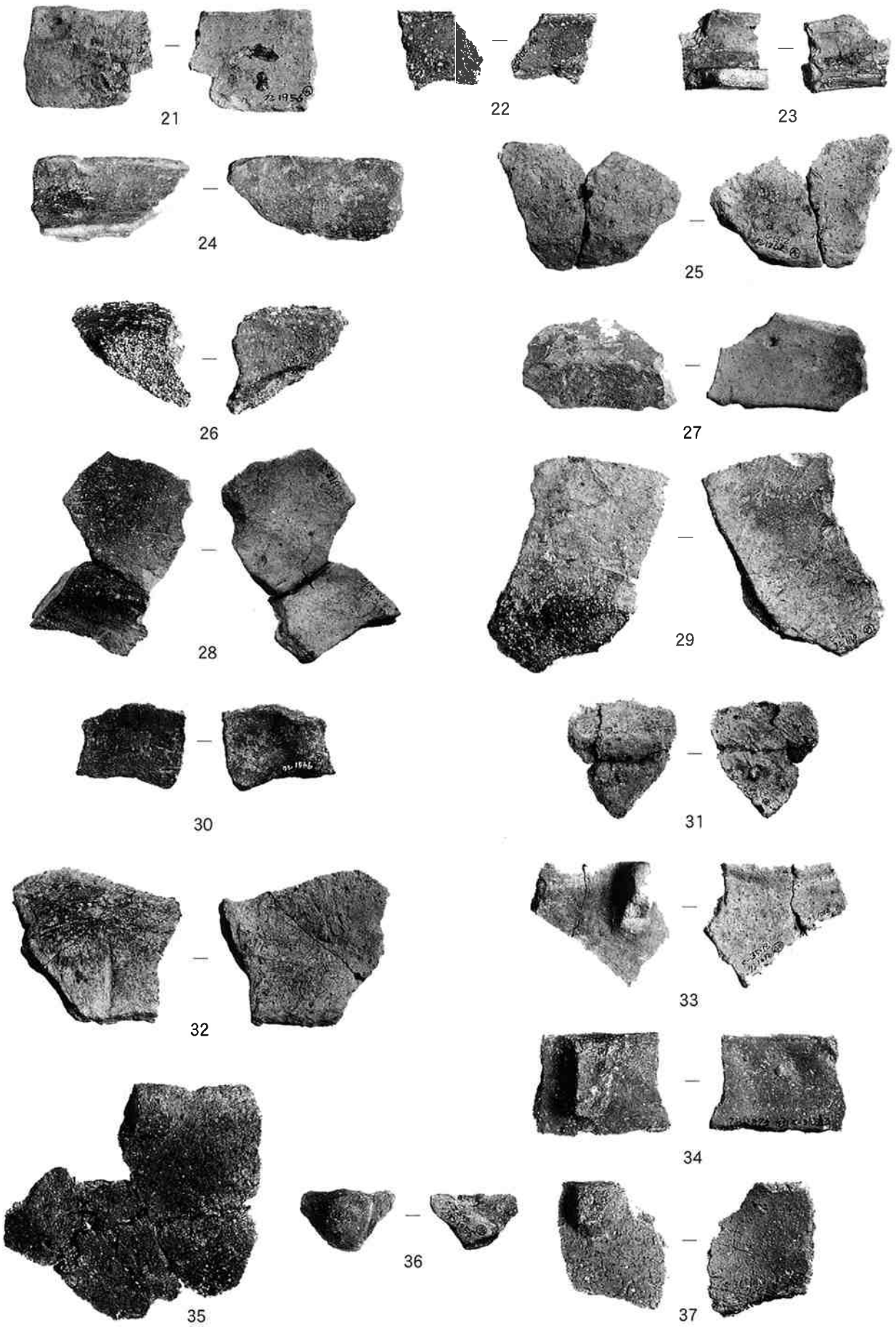




図版28　上：染付　下：褐釉陶器



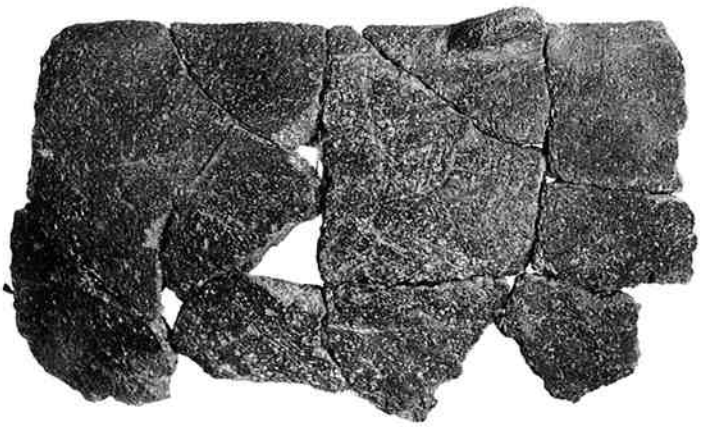
図版32　土器 1



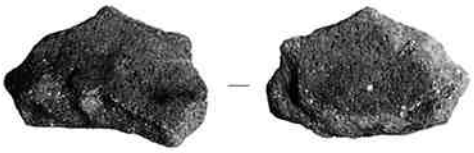
図版33　土器２

38

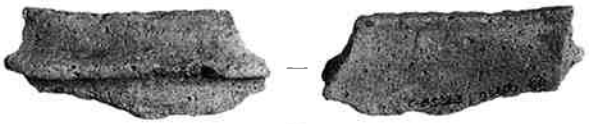
39



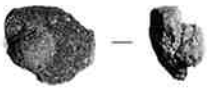
40



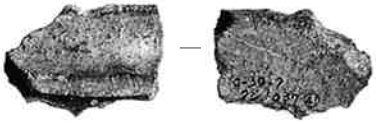
41



44



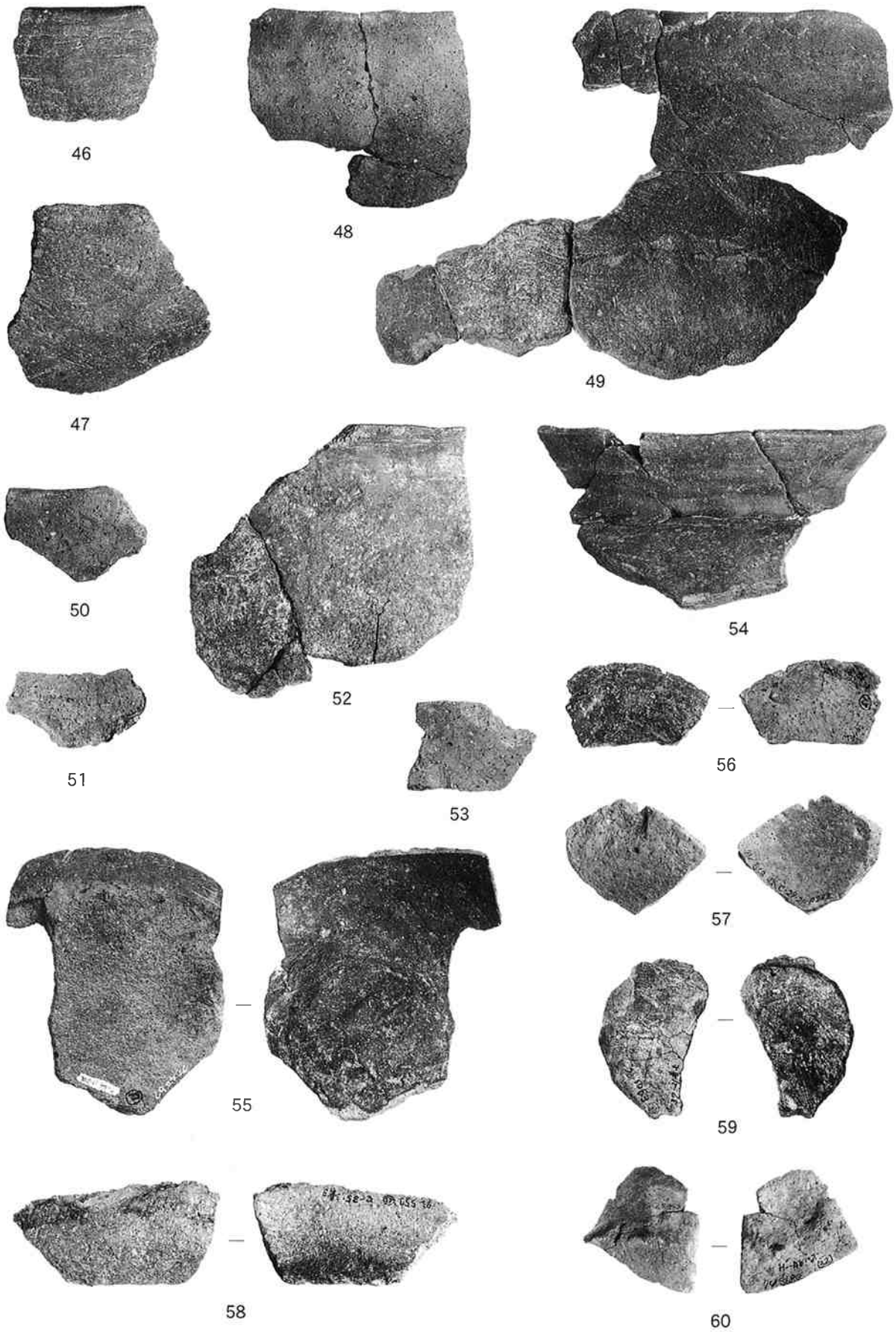
42



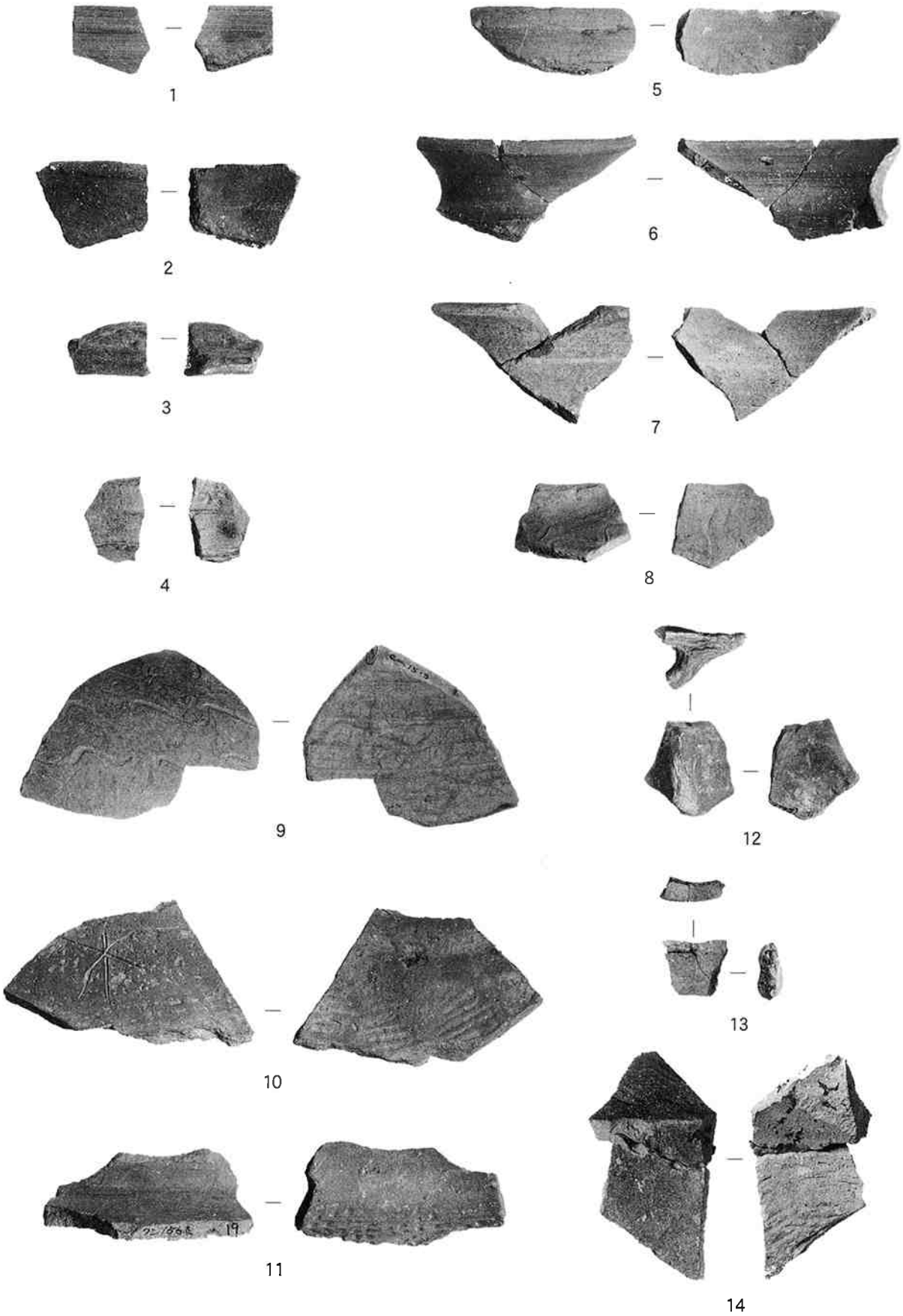
43

45

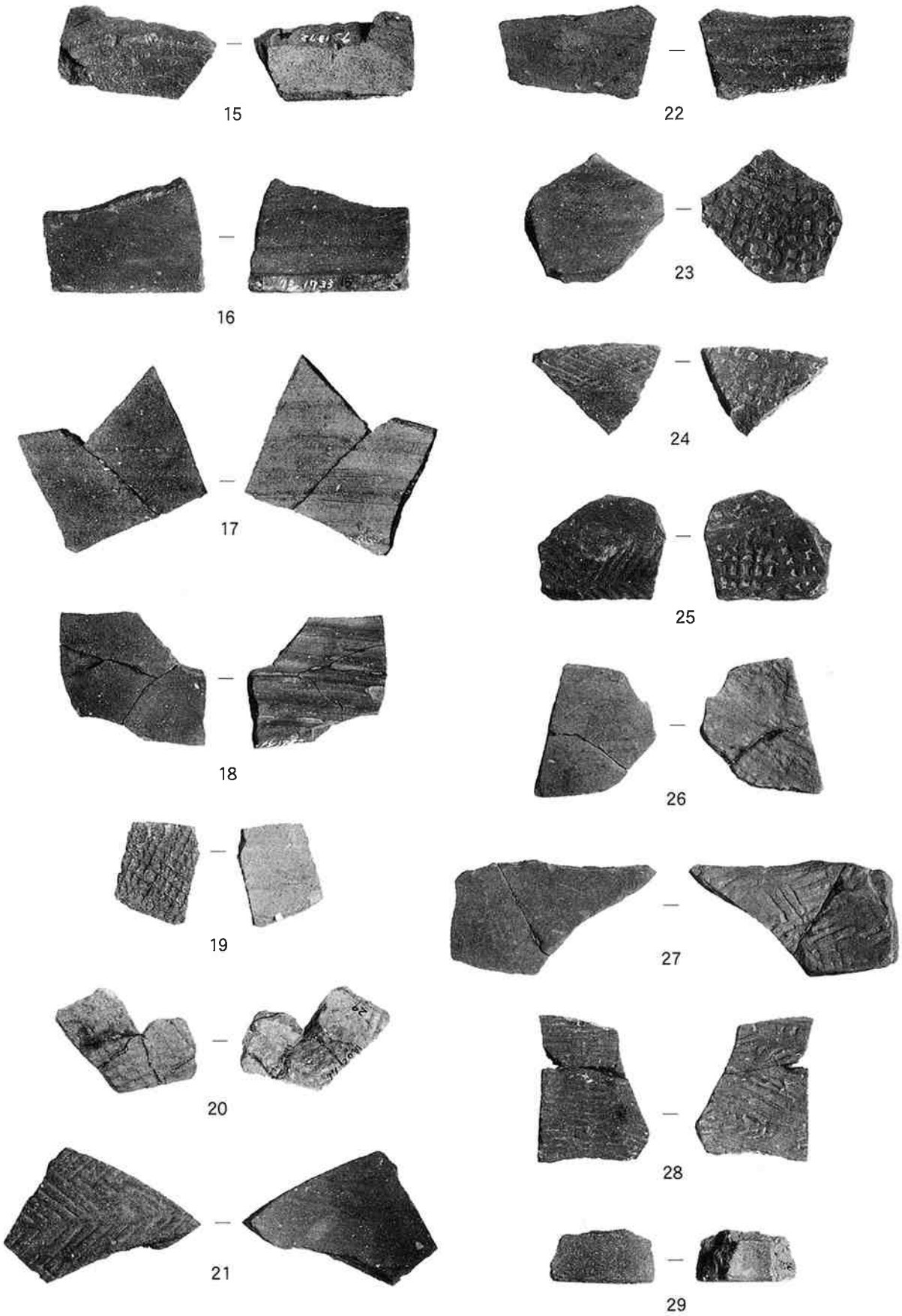
図版34　土器３



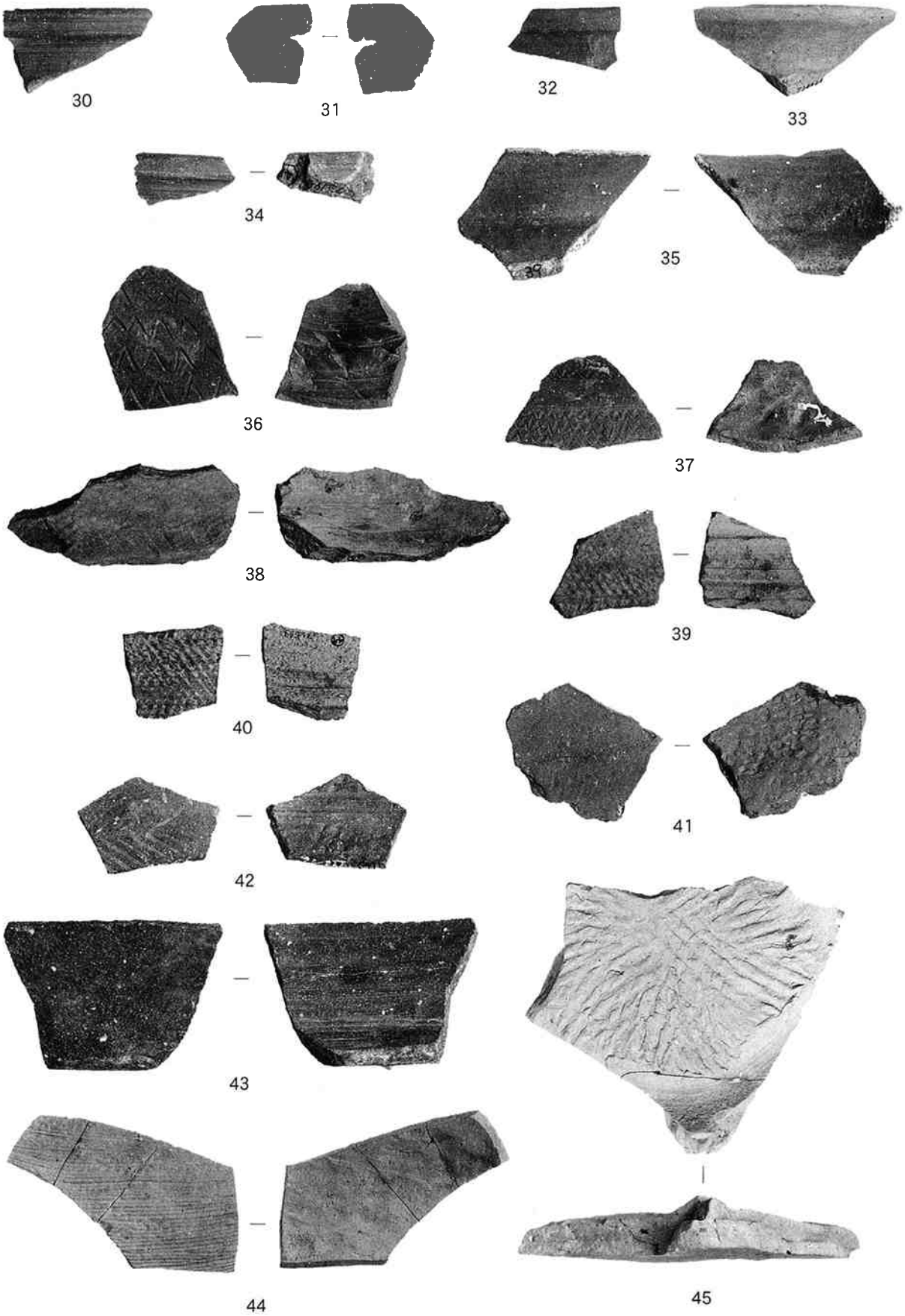
図版35　土器４



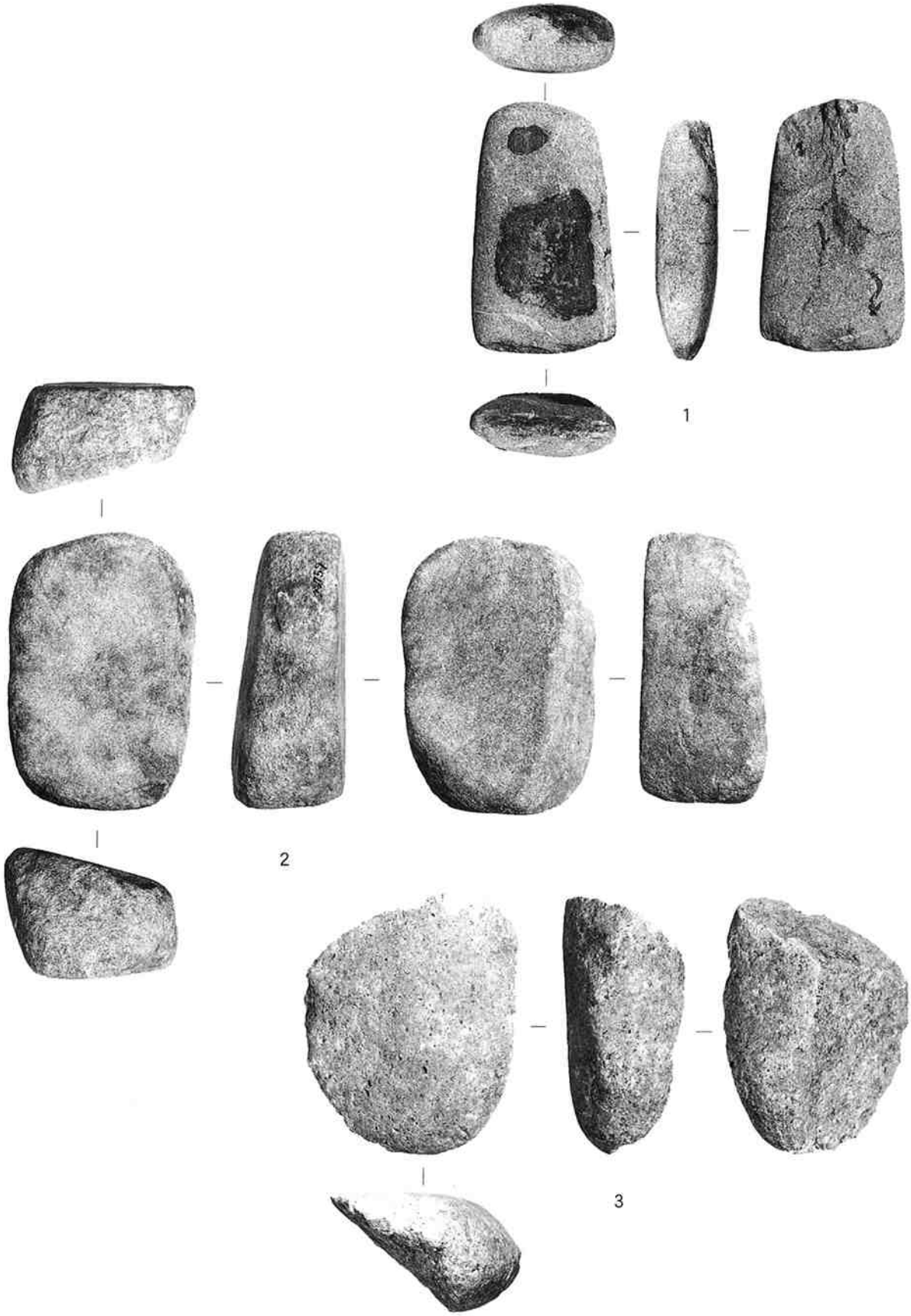
図版36　カムィヤキ１



図版37　カムィヤキ２



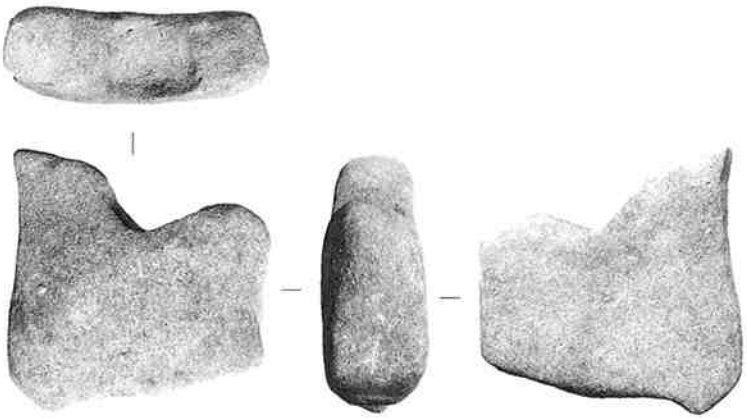
図版38　カムィヤキ３



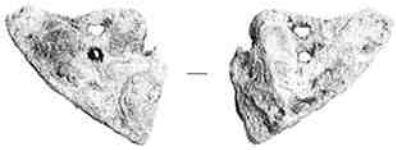
図版39　石器 1

4

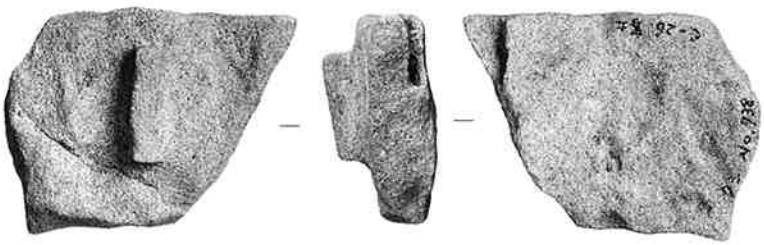
5



6



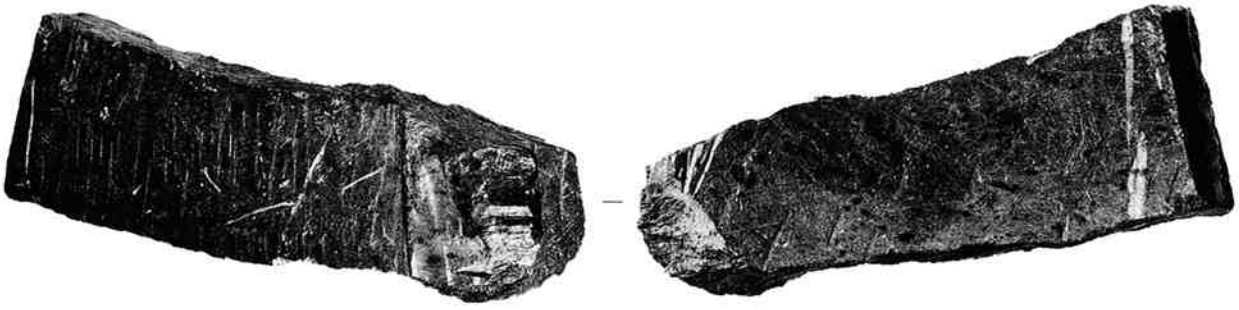
7



8

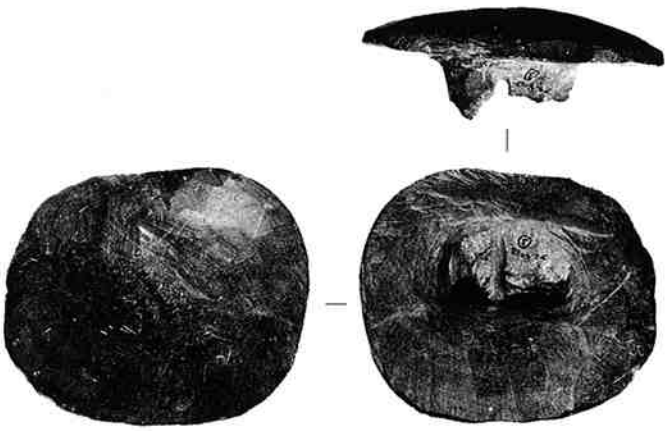
9

図版40　石器・石製品



1

2

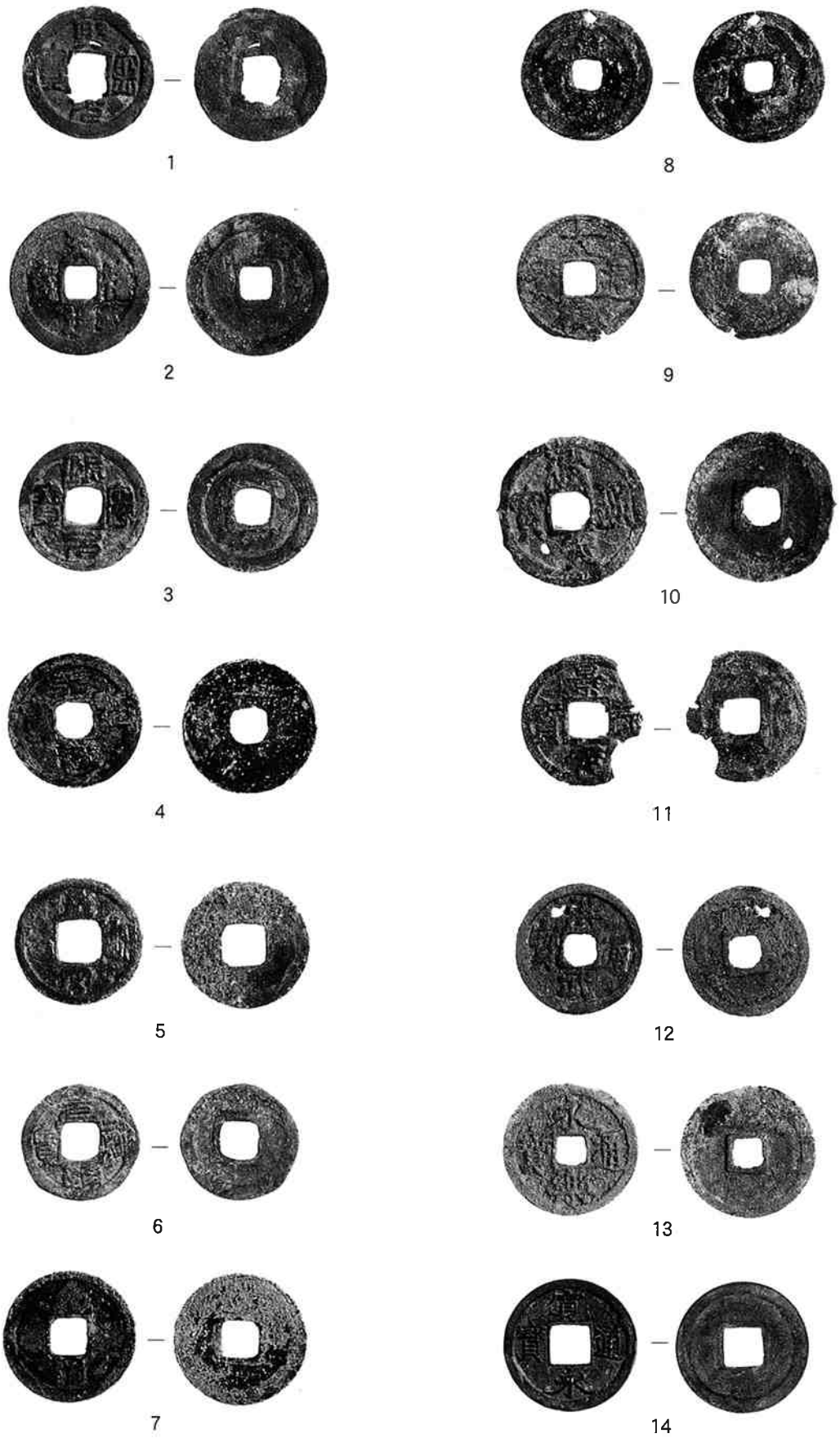


3

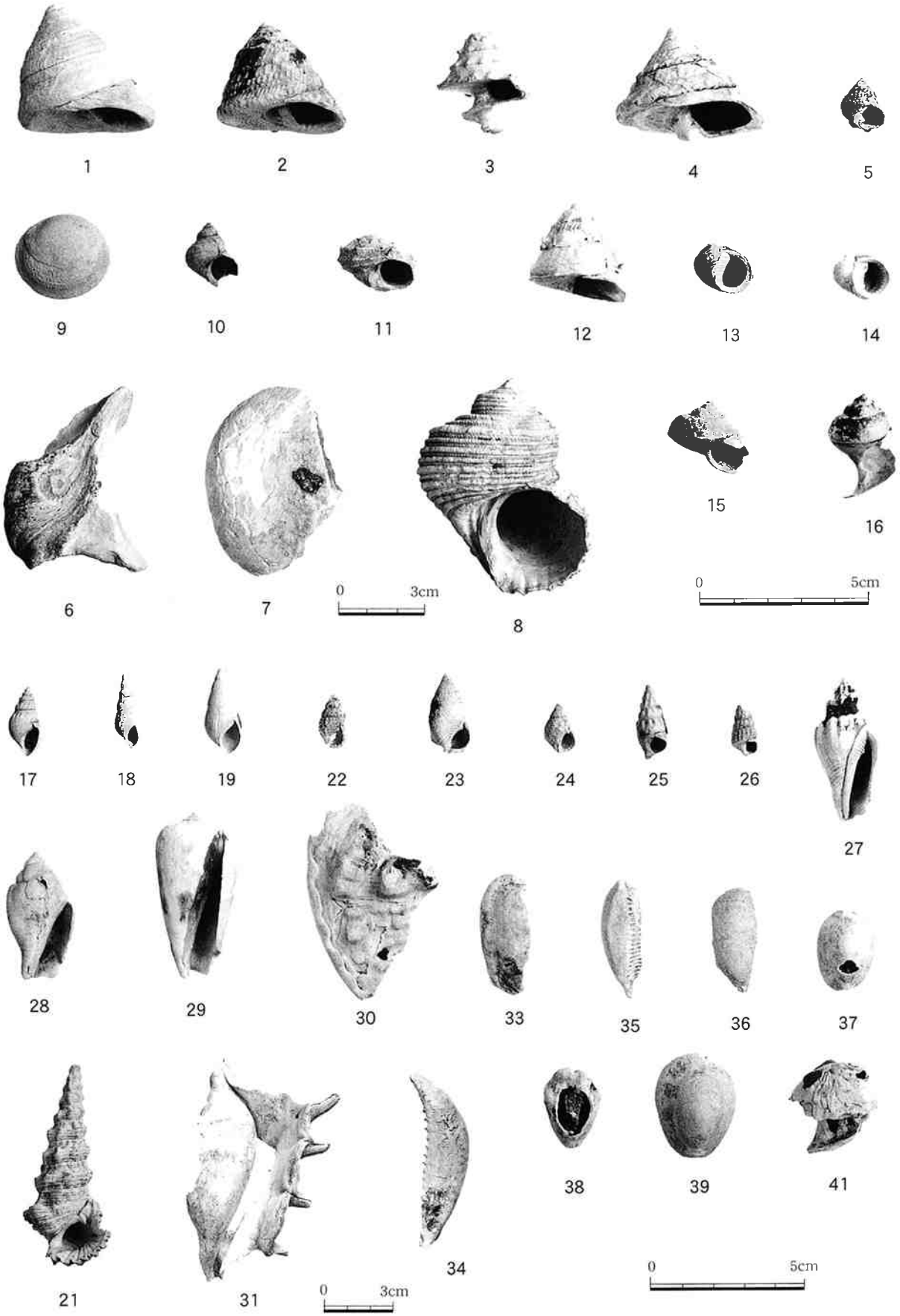
4

5

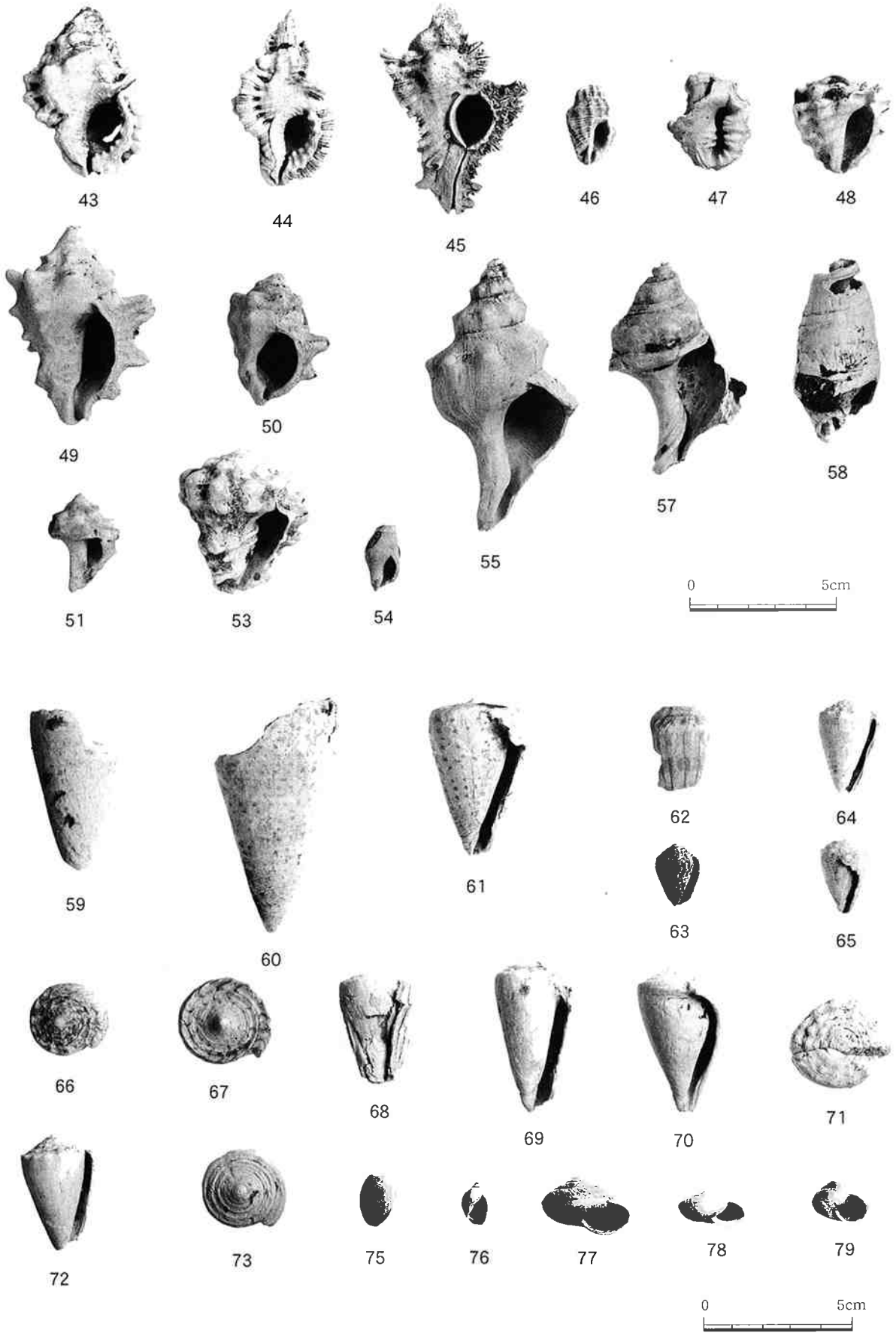
図版41　滑石製品・転用品



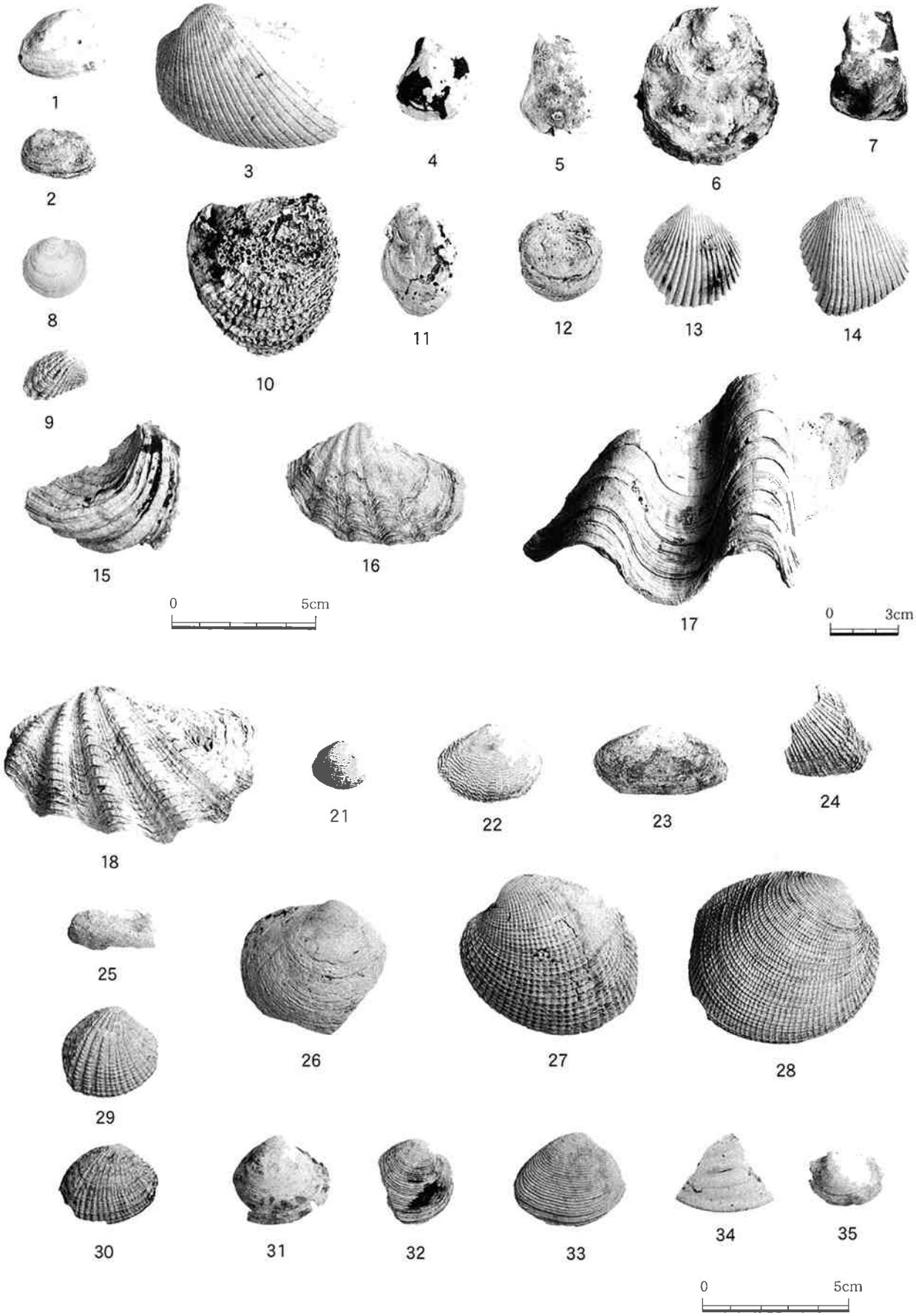
図版43　銭貨



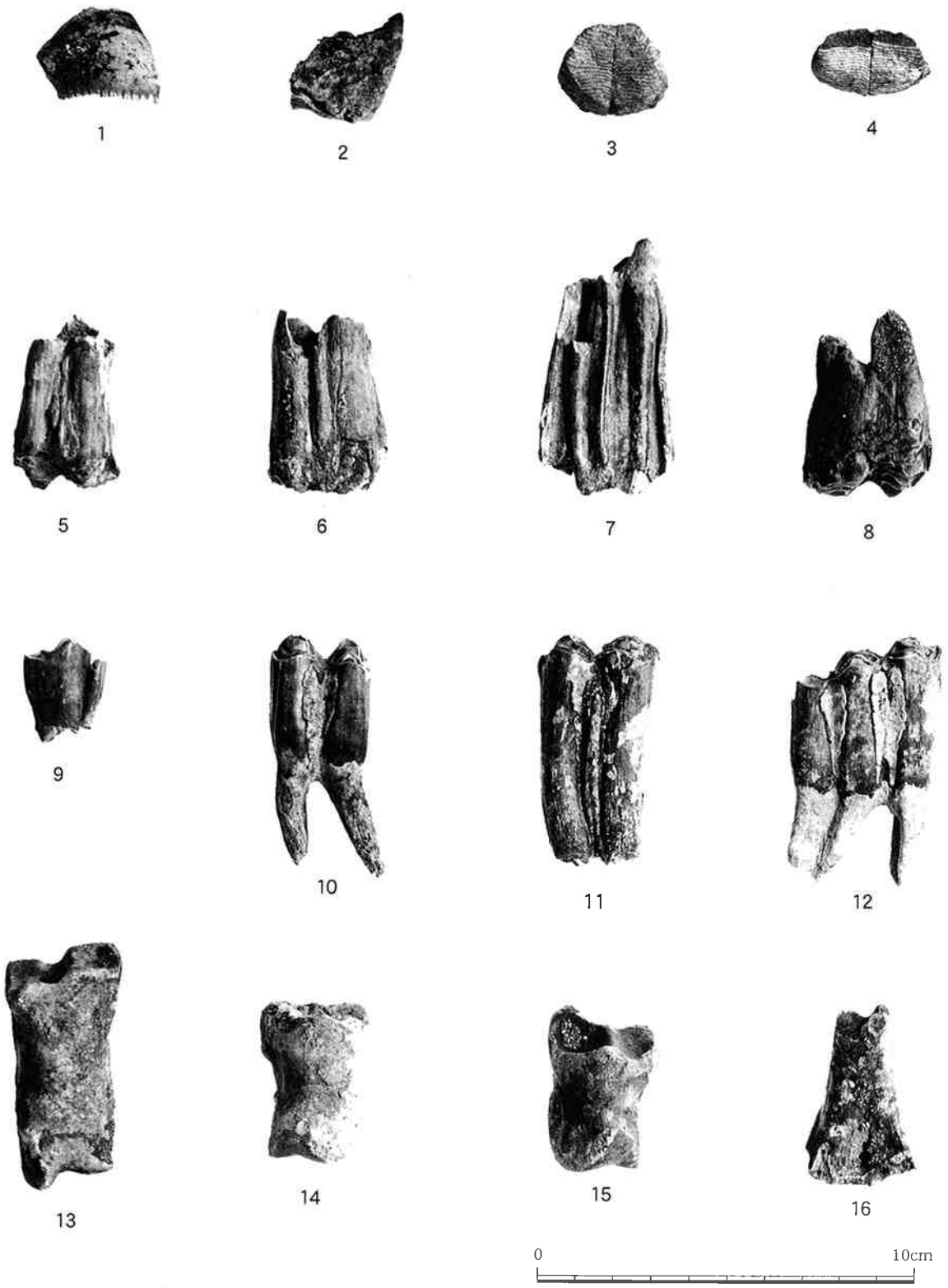
図版46　貝類１　巻貝（番号は表と一致）



図版47　貝類２　巻貝（番号は表と一致）



図版48　貝類３　二枚貝（番号は表と一致）



図版49　脊椎動物遺体１（Ⅰ地区）

1．ブダイ科の一種　右　前上顎骨　2．フグ科の一種 右　3．ハリセンボン科の一種 歯破片　4．ハリセンボン科の一種 歯破片
5．ウシ　右　上顎骨　M^1　6．ウシ　右　上顎骨　M^2　7．ウシ　右　上顎骨　M^2　8．ウシ　左　上顎骨　M^3
9．ウシ　左　下顎骨　P_3　10．ウシ　左　下顎骨　M_1　11．ウシ　右　下顎骨　M_2　12．ウシ　右　下顎骨　M_3
13．ウシ　左　基節骨　14．ウシ　左　中節骨　15．ウシ　右　中節骨　16．ブタ　右　上腕骨　遠位部

図版50　脊椎動物遺体２（Ⅱ地区）

1.メジロザメ　脊椎骨　2.フエフキダイ科　ヨコシマクロダイ　右　前上顎骨　3.フエフキダイ科　ハマフエフキ　右　歯骨
4.ブダイ科　ナガブダイ　左　上咽頭骨　5.ブダイ科　ナガブダイ　下咽頭骨　6.ブダイ科　後頭部　7.イヌ　右　上顎骨　犬歯
8.ネコ　右　上腕骨　骨体　9.ブタ　左　上腕骨　骨体　10.ブタ　左　橈骨　近位端　11.ブタ　左　橈骨　近位部～骨体
12.ブタ　右　寛骨　腸骨部　13.ブタ　左　脛骨　近位骨端はずれ～遠位部　14.ブタ　左　踵骨

図版51　脊椎動物遺体（Ⅱ地区）

1. ウマ　上顎骨右　$I^{1,2,3}$、左　$I^{1,2}$、2. ウマ　右　上顎骨　P^2　3. ウマ　右　上顎骨　P^3
4. ウマ　右　上顎骨　P^4？　5. ウマ　右　上顎骨　M^2？　6. ウマ　左　上顎骨　P^{3or4}
7. ウマ　左　上顎骨　M^1　8. ウマ　左　上顎骨　M^2　9. ウマ　右　肩甲骨　近位部～遠位部　キズあり
10. ウマ　右　脛骨　近位部～遠位端　11. ウマ　左　中足骨　完存

図版52　脊椎動物遺体３（Ⅱ地区）

1.ウシ　右　上顎骨　P^{234} M^{123}　2.ウシ　右　肩甲骨　近位端～骨体　キズあり　3.ウシ　左　肩甲骨　近位端
4.ウシ　右　上腕骨　近位部～遠位部　5.ウシ　右　上腕骨　遠位部　幼　6.ウシ　右　橈骨　骨体　幼
7.ウシ　左　尺骨　近位部～骨体　8.ウシ　右　寛骨　腸骨部　キズあり　9.ウシ　左　大腿骨　近位部　キズあり

図版53　脊椎動物遺体５（Ⅱ地区－１～８、Ⅲ地区－９・10）

1.ウシ　右　脛骨　近位端　2.ウシ　右　脛骨　近位骨端はずれ　3.ウシ　右　脛骨　遠位端
4.ウシ　左　踵骨　5.ウシ　右　中手骨　近位端　キズあり
6.ウシ　右　中手骨　近位部～遠位部　キズあり　7.ウシ　右　基節骨
8.ウシ　左　中節部　9.ウシ　左　寛骨　白部　10.ウシ　右　脛骨　骨体破片

第５章　人　骨

第１節　はじめに

２００１年１月から２００２年２月に行われた沖縄県立埋蔵文化財センターによる後兼久原遺跡の発掘調査において人骨片が出土した。人骨はⅡ地区の川跡と考えられている溝３から散乱した状態で検出されており詳細は不明であるが、遺物などの出土状態からグスク時代の人骨と考えられている。鑑定の結果は少なくとも２体分の人骨が含まれていると推定された。以下に鑑定の概要を報告する。

第２節　人骨の所見

本遺跡から出土した人骨片の一覧を第66表に示す。

第66表　後兼久原遺跡出土人骨

部位	検出区	所見	備考
頭蓋骨			
右頭頂骨	C-35	成人男性	
左頭頂骨	C-35	小児	
右側頭骨	C-35	小児	
右上顎中切歯	C-35	成年	
左上顎第１小臼歯	C-35	成年	
右下顎第２乳臼歯			
上肢骨			
左鎖骨片		小児？	
右上腕骨	C-35	成人男性	
骨盤			
右寛骨片		成人	
右寛骨片		成人	
下肢骨			
左大腿骨近位部片	C-32	小児	後面に横に走る傷痕が見られる。
左大腿骨片	C-32	小児	
大腿骨片	C-33	成人男性	
左腓骨片	C-35	小児	
その他骨小片あり			

人骨は川跡とみられる溝から散乱した状態で出土しているため、同一個体かどうかを判断することは困難である。しかし、成人と思われる人骨片で確実に複数個体分と確認できるものがないことから、成人の個体は１体と考えて良いように思われる。未成人骨も複数体分が確認できた部位はなく、いずれも小児程度のサイズだったことから、小児１体と考えて良いと思われる。また、検出された歯については、成人の歯の咬耗度は弱く、２０歳代～３０歳代程度の個体のものと推定されるが、これは上記成人骨のものと考えて矛盾するものではない。第２乳臼歯についても小児のものと考えることが可能である。

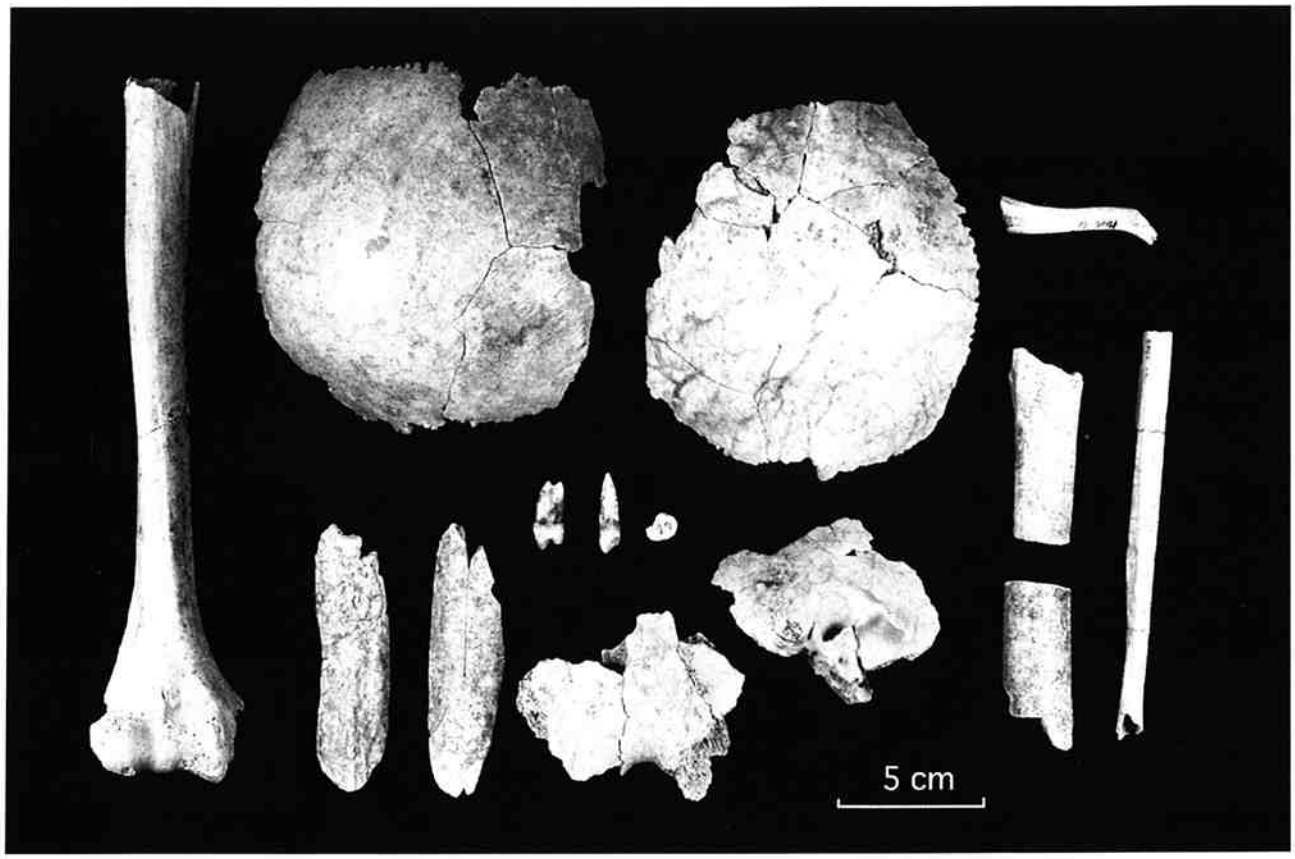
以上の結果を総合すると、今回検出された人骨片には少なくとも２体分が含まれており、その内訳は頭蓋骨、歯牙片、四肢骨片の形質的特徴から、成年（２０歳代～３０歳代）の男性が１体と小児１体と推定される。尚、骨頭部を破損しているのであくまでも大雑把な推定値に過ぎないが、上腕骨のおよその長さから推定される身長は１５７～１５８ｃｍ程度である。

特記事項：

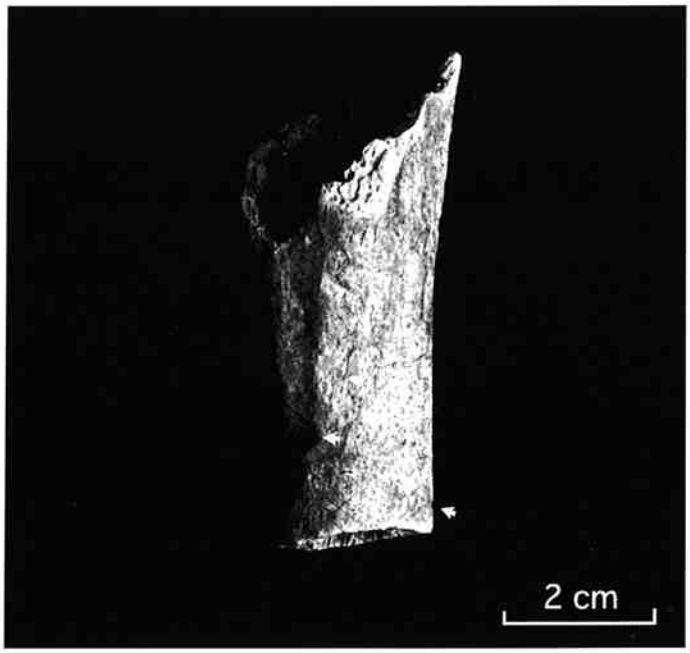
小児のものと推定される左大腿骨近位部後面数カ所に刃物によると思われる傷痕が認められる。位置的には大殿筋や腸腰筋など、骨盤と大腿をつなぐ筋の停止部位に近いが、出土状況の詳細も不明であるため、今回は記載のみに留めておきたい。

謝辞

人骨調査の機会を与えていただいた沖縄県立埋蔵文化財センターの皆さまに感謝致します。



後兼久原遺跡出土の人骨



大腿骨近位部後面に見られる傷痕（矢印）

図版54　人骨

第Ⅵ章　結語

本調査は、送油管（パイプ・ライン）建設事業に伴う緊急発掘調査で、2001年１月から2002年２月までの述べ13ヶ月を費やしての調査であった。

後兼久原遺跡は丘陵から丘陵岸下をおりた平地に形成されたグスク時代の集落跡で、本調査は丘陵岸下部分と北谷町教育委員会が過去における試掘調査によって確定していた後兼久原遺跡の範囲の南東側の平地部分を調査した。調査区は、約160mの直線部を地山が検出された中央部を境にⅠ・Ⅱ地区に分け、送油管（パイプ・ライン）のコーナー部をⅢ地区とした。調査では、Ⅰ・Ⅱ地区からは堀立柱建物跡と考えられるピット群や植栽痕と考えられる列状ピット群、炉跡などの遺構が検出され、それに伴ってグスク時代相当の青磁・白磁・類須恵器・グスク土器・滑石製品などの遺物が出土した。

これまでに、後兼久原遺跡の1/4にあたる西側部分は北谷町教育委員会によって発掘調査が行われている（北谷町教育委員会・1997）。北谷町教育委員会の調査では、12世紀から15世紀のグスク時代の平地住居・高床式倉庫などの集落跡、炉・砂鉄貯蔵穴の鍛冶関連遺構や、埋葬遺構などが検出されている。

北谷町教育委員会により過去に行われた調査と、今回の当埋蔵文化財センターの調査によって、本遺跡の約1/3は、ほぼ発掘調査が完了したものと判断される。今回の調査により、調査区の中央に検出している地山、岩盤の周辺にグスク時代の遺構群が集中して検出され、検出面によってはそこから離れた場所にも遺構が確認でき、遺跡の拡張する様相や、範囲の確認がなされたといえる。

本遺跡の調査成果については、前章までに遺構・遺物について詳細と若干の考察を述べたが、本章では、今回の調査成果を今一度整理し、本遺跡の考察を行いたい。

検出面は、Ⅰ地区で３つ、Ⅱ地区で３つの合計６つの検出面が確認できた。Ⅲ地区では遺構は確認されず、遺跡はⅢ地区まで展開していなかったことが判明した。検出面別の遺構は、Ⅰ地区では、第１検出面（第３ｂ層上面）で土坑、第２検出面（第７・９・11・12層上面）で土坑・溝状遺構・ピット・植栽痕と思われる列状ピット群、第３検出面（第13・14・１５層上面）で土坑・堀立柱建物跡の柱穴と思われるピット群が検出された。Ⅱ地区では、第１検出面（第７・23層上面）で堀立柱建物跡の柱穴と思われるピット群・土坑、第２検出面（第9･10・11・14・15層上面）では植栽痕と考えられる列状ピット群・４本柱掘立柱建物跡・炉跡、第３検出面（18～21・溝3上面検出遺構）では土坑・堀立柱建物跡の柱穴と思われるピット群が確認できた。

遺構の位置をみると、Ⅰ地区では、Ｃ－10グリッドより北西側にはほとんど遺構がなく、わずかに第２検出面の土坑がＣ－７グリッドで確認されたのみで、主にＣ－11グリッドからＣ－18グリッドで集中して検出した。Ⅱ地区は、第１検出面は地山周辺のＣ－27～32グリッドのみで堀立柱建物跡の柱穴と思われるピット群が確認された。第２検出面はＣ－37～45グリッドで検出し、Ｃ－42グリッドで炉跡、Ｃ－44グリッドで４本柱掘立柱建物跡と２つの住居遺構が確認され、またＣ－44・45グリッドでは植栽痕と思われる列状ピット群が確認された。これは本調査の南西側の端で検出された遺構であり、後兼久原遺跡の範囲の端にもあたることから、集落の拡張を示している可能性もある。第３検出面は約300基のピット群を検出し、特に地山周辺であるＣ－27～32グリッドで密集して検出され、切りあいが見られるピットも多いことから、幾度かの建て替えや別の建物跡が重なったものと思われ、当時の遺跡の中心、或いはその近辺ではないかと考えられる。

遺物はグスク土器、中国産陶磁器、類須恵器、滑石製品、古銭などのグスク時代相当の遺物が出土している。以下、Ⅰ地区、Ⅱ地区と検出面ごとに整理し若干の考察を行いたい。

Ⅰ地区の第１検出面は青磁、白磁、染付・類須恵器、鍋・壺・鉢・浅鉢形土器等がそれぞれ多様なバリエーションを含んで出土しており、グスク時代の遺物が新旧混在した状況で出土している。これは東側にある丘陵からの攪乱をうけた流れ込みの堆積層の可能性が高い。第１検出面はおおよそ15世紀頃の時期だと考えられる。

第２検出面は青磁がほとんど出土せず、白磁、類須恵器、鍋・壺形土器などが出土しており、第１検出面よりは古手の様相を示していることから、おおよそ13～14世紀頃の時期の遺構面だと考えられる。

第３検出面では、陶磁器は白磁が数点出土したのみで、全体としては類須恵器、滑石製品が主体を占めていた。特に今回の調査で出土した滑石製品で、垂飾品、バレン状製品など比較的良好な状態で残っている物

は全て第３検出面から出土しており、そのほとんどが二次転用品を意識した穿孔が設けられていた。また、バレン状製品には裏面に多量の煤が付着しており、その煤を放射性炭素年代測定に出した結果、補正年代900±40ＢＰの年代で出ている。しかし、約１世紀の開きが生じるが、第３検出面は白磁のタイプや類須恵器などから、おおよそ12世紀中頃から13世紀頃の時期と思われる。

Ⅱ地区は３つの検出面を確認することが出来たが、検出面別に遺物を見ても差異がなかった。第３検出面で白磁玉縁碗が２点出土しているが、その時期の遺物はほとんどなく、青磁蓮弁文・細蓮弁文・雷文・無文外反碗、口折れ・直口皿、白磁ビロースク碗、染付、褐釉陶器茶壷等が出土している。そして、第３検出面の包含層の１つである第７層は、撹乱をうけていない純粋な堆積層であり、その中から銭貨が13点まとまった状態で出土している。古いものは北宗時代の『天禧通宝』（1017年）から、新しいものは明代の『永楽通宝』（1408年）が入っており、当時の貨幣経済を理解するうえの、貴重な資料の一つであると思われる。これらの遺物の出土状況から、Ⅱ地区は全体的には15世紀頃の時期だと思われる。また第３検出面より下から、調査区より北東側にある丘陵から流れていたであろうと思われる川跡（溝３）が検出し、その中からは陶磁器が殆ど出土せず、グスク土器、類須恵器、人骨等のグスク時代の中でも古手の様相をしている遺物が出土した。

検出面、遺物からすると、新石器時代後期の層はなかったので、グスク時代初期の12世紀中頃から類須恵器、滑石製品等の遺物を伴って、掘立柱建物の平地住居が立ち並んだ集落が始まり（Ⅰ地区第３検出面）、13～14世紀頃には植栽痕と考えられる列状ピット群の検出から集落の構成要素が確立した（Ⅰ地区第２検出面）。そして15世紀頃には、青磁・白磁・染付等の中国産陶磁器を中心に遺物のバリエーション、量が増え、炉跡や植栽痕と考えられる列状ピット群が調査区の南東側に検出することから、集落の範囲が拡大し盛行期を迎えたであろうと思われる。また、丘陵側からの流れ込みの層で形成しているⅠ地区第１検出面では、グスク時代の新旧混在した状況で遺物が出土しており、Ⅱ地区の第３検出面よりも時期が古いと思われる溝３も丘陵側からの川跡であり、その中からは陶磁器が殆ど出土せず、グスク土器や類須恵器、人骨等が出土してグスク時代の中でも古手の様相を示している。このことから、遺跡全体の時期をとうして、本調査区の直線部分を境に北谷町教育委員会が調査した南西側だけでなく、北東の丘陵側にも集落は展開していたであろうと思われる。

今回の調査により、これらの成果を得ることが出来た。しかし、遺構が検出されたⅠ・Ⅱ地区は、Ⅰ地区が３m×56m、Ⅱ地区は2.5m×72mとトレンチ掘りのように幅の狭い発掘調査区ということで、掘立柱建物跡のプランや、堀立柱建物跡（平地住居）と４本柱掘立柱建物跡（高倉）のセット関係、居住地、耕作地、葬地等の集落構造の構成要素の把握が充分に検討できなかった。本遺跡の今後の発掘調査に期待したい。

最後に、本遺跡の発掘調査、ならびに報告書作成に関わった関係者の方々に、深く感謝の意を表したい。

＜引用・参考文献＞

沖縄県立埋蔵文化財センター　2001年『伊佐前原第一遺跡　－宜野湾北中城線（伊佐～普天間）道路改築事業に伴う緊急発掘調査報告－』

沖縄県立埋蔵文化財センター　2002年『円覚寺　－遺構確認調査報告書－』

沖縄県立埋蔵文化財センター　2003年『首里城跡　－右掖門及び周辺地区発掘調査報告書－』

沖縄市教育委員会　1982年『沖縄市の埋蔵文化財』

勝連町教育委員会　1990年『勝連城跡―北貝塚・二の郭および三の郭の遺構調査－(1)』

岸本竹美　2003年「グスク時代及び近世出土の玉製品に関する考察」　『沖縄埋文研究1』　沖縄県立埋蔵文化財センター

木戸雅寿　1993年「石鍋の生産と流通について」　『中近世土器の基礎的研究』Ⅸ

金城匠子　1999年「グスク（系）土器の研究」　『琉球大学考古学研究集録創刊号』　琉球大学法文学部考古学研究室

北谷町教育委員会　1997年『後兼久原遺跡展』

豊見城村教育委員会　1987年『伊良波東遺跡　－伊良波小・中学校建設工事に伴う緊急発掘調査報告－』

永井久美男　2002年『新版　中世出土銭の分類図版』

名護市史編纂委員会　1997年「宇茂佐古島遺跡」　『名護市氏史　資料編・４　考古資料集』

那覇市教育委員会　1997年『識名シーマ御御嶽遺跡　－真地配水池建設事業に伴う緊急調発掘査報告－』

那覇市教育委員会　1997年『銘苅原遺跡（那覇新都心土地区画整理事業に伴う緊急発掘調査報告書Ⅳ)』

与那良遺跡調査団　1982年『沖縄・西表島　与那良遺跡発掘調査概報』

読谷村教育委員会　1990年『吹出原遺跡』

読谷村教育委員会　2001年『沖縄県読谷村字楚辺タシーモー北方遺跡』

新里　亮人　2003年「琉球列島における窯業生産の成立と展開」　『考古学研究第49集第４号』

鹿児島県大島郡伊仙町教育委員会　2001年『カムイヤキ古窯跡群Ⅲ　平成８年度～平成11年度重要遺跡確認緊急調査』

熊本県教育委員会　1980年『生産遺跡基本調査報告書Ⅱ－須恵器窯跡・瓦窯跡・陶磁器窯跡』

今帰仁村教育委員会　1983年『今帰仁城跡発掘調査報告Ⅰ　－本文編－』

沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書　第22集

後 兼 久 原 遺 跡

－米軍送油管移設に係る緊急発掘調査報告書－

発　行　年　　2004年（平成16）３月26日
発行・編集　　沖縄県立埋蔵文化財センター
〒903-0125 沖縄県中頭郡西原町字上原193番地の７
TEL　098-835-8751・8752
印　　刷　　グローバル企画印刷株式会社
〒901-1111 沖縄県島尻郡南風原町字兼城577番地
TEL　098-889-3222・3223

沖縄県立埋蔵文化財センター　2004 Printed in Japan
許可なく本書の無断複製、転載、複写を禁ずる。